
バカとテストと召喚獣 5帝の学園生活

蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣 5帝の学園生活

【Nコード】

N9112M

【作者名】

蒼

【あらすじ】

ここ文月学園では、化学とオカルトが混じった『試験召喚獣』を使った試召戦争が行われていた。振り分け試験の日にゲーセンにいったFクラスになってしまった五人の物語…停滞更新中です。第3巻突入！！

プロローグ：一度のミスが命取り（前書き）

以下の問いに答えなさい

『調理の為に火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理をはじめると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を一つ挙げなさい』

姫路瑞希の答え

『問題点……マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応する為危険であるという点。』

合金の例……ジエラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っ掛け問題なのですが、姫路さんは引っかかりませんでした

小田高名の答え

『合金の例……鉄』

が、見事に引っかった人がいましたね。

村野風子の答え

『問題点……調理人の腕がボンクラすぎる事』

合金の例……オリハルゴン』

教師のコメント

そこは問題点じゃない上にドラ エの超合金が出てくるとは。さすがにその答えは一人で済み

村野草子の答え

『問題点……調理人の腕がボンクラすぎる事』

合金の例……オリハルゴン』

教師のコメント

ませんでした。やはり双子ですね、一字一句間違えずに解答するのは。

プロローグ：一度のミスが命取り

朝。本来なら面倒な通学路だが、今だけはそうは感じない。食事をした後、日課である筋トレを済ませて

「行って来ます」

何故なら、私こと、関戸劉（せきとりゆう）の通う文月学園でのクラス分けが発表される。だからこそだ…こんなに朝早く出たりして、4人の友人と一緒に歩く事になるのは。

「おはよう。関戸と小田。そして村野姉妹…藤川はどうでもいいが」
校門に着いたところで学校三大珍名物の鉄人が話してきやがった。
（後はババア長と…常夏コンビ）

「よっ。鉄人」

「おはようございます。人外の化物」

「おはよっ！鉄人」

「御機嫌よう。鉄人」

「私は無視の方針ですか？…これだから鉄人は鉄人なんです！」

全員面白いような反応をした。特に舞と高名は

「一度に4人から鉄人と呼ばれるのは初めてだ。他には坂本しか言わんからな。小田の言い方も初めてだが…今日がクラス発表なのは知ってるな。」

『はい。とつとどだしやがれ(なさい)』

「こういう時はしつかりと返事が出来るんだな」
当たり前だ。よく訓練されているだろう！

『もちろんです。封筒を出して下さい！さあ早く』

私たちはクラス決定の紙にしか用がない。

「お前らを見ると『ひよつとすると、こいつらは天才なのか？』と思わせられたが…今回の件で確信が取れた」

『そうだろ(でしょう)』

「話していてムカつく奴等だ。おまえらは」
生徒に向かつて奴等とはなんだ？奴等とは？そう良い終わると、鉄人は私たちに封筒を渡した。

「だがな…5人揃って危険な事に手を出した事に変わりはない！」
まさか…私らをAクラスにさせる高名のハッキングがばれたのか？

(ここ重要)

「全員Aクラスストップクラスの成績だが」

関戸 劉

小田 高名

村野 草子

村野 風子

藤川 舞

以上の者をFクラスとする。

「「「「最悪だ!!!」」」」

「振り分け試験に出ないのが悪い。なんでゲームセンターなんかに行くんだ。お前らはいろんな意味では天才だ」
あ、ハッキングばれてなかった。よかった。

ブログ：一度のミスが命取り（後書き）

更新は、一週間おきになります。学生のために連続投稿は辛い……

第1問：俺たちとバカとFクラス

「Fクラスか：何で私たちが」

「黙りなさい劉。テストに出ない僕たちが悪いし」
確かにそうだが：何か納得いかない！

「見てみて！Aクラス、すごい綺麗だよ！いいな」

Aクラスは高級ホテル並みの設備だからなくそれにしても、こここの安い学費でよくここまでの設備が出来るな…

子供みたいにはしゃぐ草子さん。そこがまたかわいい。

外見は黄緑のロングで最後に少し巻いているところがかわいいポイントである。

風子さんも同じだが…

「私がいれば、たとえFクラスでも豪華になりますよ」

少々高飛車で自己中が入る愚姉になってしまった。

この人は村野風子。草子さん：草子の姉だが：どこで学び方を間違えたのか？こんな愚か者になっていた

「私の薬漬けにされる実験台モルモット：協力してくれるかしら？」
ここにも壊れた人が約一名。

藤川舞。基本的に非合法の薬まで、この人経由なら手に入る。『ドラッグストア ポイズン』のオーナーである。

黒い髪を肩あたりまでなびかせて、いかにも日本人らしい姿の舞が話している。

「もうすぐFクラスにつきますよ」

『なんて教室だ!』
余りの酷さに、声がハモッてしまった!しかしこの教室……

卓袱台

座布団(綿なし)

割れた窓ガラス

「想像より酷いな……」

Aクラスを見たあとだから、とんでもなく酷く思える。

「よっ、雄二」

「劉?それに高名…村野姉妹まで?...藤川はどうでも良いけど、どうしたんだ?おまえらならAクラス確定だろ?」

こいつは中学時代に、俺と一緒に悪さをやっていた坂本雄二だ。第一印象の感想は『ワイルドな野生児』がお似合いのバカだ。

「おはようございます。元!神童さん」

高名はよっぼど人を逆なでするのが好きなようだ。

「だってねえ…風子ちゃん」

「目の前にゲーセンがあったら、行くに決まっているじゃないですか」

こいつらもこいつらで大変だな。このクラスの代表がかわいそうに

思えてきた。

「何で…何で私だけ無視され続けるのですか？」

それは、返事をするとなフェスト ムもびっくりの速さで薬を飲ませるからだ。

「あゝそれと、俺が代表だからなんかあったら俺に話してくれ」
雄二…いまほど、おまえを哀れだと思ったことは無いぞ。

「貴様になんか話す価値もない」

「ゴリラ相手には日本語が通じませんからね」

「人間とごりら？ハーフなの！？」

「さあ、私の靴を磨きなさい！」

「これは…面白い実験台ですね」

私ら全員の罵倒にも雄二は耐えた……偉いぞ

第1問：俺たちとバカとFクラス（後書き）

問 以下の意味を持つことわざを答えなさい

- 『(1) 得意なことでも失敗してしまうこと』
- 『(2) 悪いことがあった上にさらに悪いことが起きる喩え』

関戸劉の答え

- 『(1) 高名もハツキングを失敗する』 P S ・猿も木から落ちる
- 小田高名の答え
- 『(1) 舞さんも薬の調合に失敗する』 P S ・河童の川流れ

教師のコメント

なぜ追記に答えがあるのかは分かりませんが正解です。回答面に書いたことも決して不正解とはいえませんが。

村野草子の答え

- 『(2) 泣きつ面に鉄人』 その他：踏んだり蹴ったり
- 村野風子の答え
- 『(2) 泣きつ面に鉄人』 その他：踏んだり蹴ったり

教師のコメント

そろそろカンニングを疑いたいところですね。しかもまた欄外のほうが正解ですし…

それと村野姉妹、西村先生が指導室で（ダッ！）…どこへ行くのですか？

藤川舞の答え

- 『(1) 殺人鬼も警察につかまる』

『(2)補習室で鉄拳指導』

教師のコメント

後で指導しますので(ダッ!!)…逃げ足が速いですね。

第2問：偶然ってあるものだな（前書き）

端折りすぎた

第2問：偶然ってあるものだな

いると、学校で知らないものはいないバカがやってきた

「すみません、ちょっとおくれちゃいましたっ」

「早く座れこのウジ虫野郎」

見事に雄二と声がハモる。やはり悪乗りは言いに越したことは無い。

「なんで雄二が教壇に立っているのさ？」

「先生が遅れてるらしいから、代わりに教壇に上がってみた。何せ俺がここの最高成績保持者……つまり、代表なんぞな」

「あれ？君誰？」

やはり俺たちのことはしらねえか。こっちは嫌と言うほど悪い例として聞かされてきましたし。

「我：私は関戸劉。以後宜しく」

正直、どうでもいいように説明する。どうせ自己紹介は後でするんですし

「よろしく…劉でいいかな？僕は」

「学校。いや、世界を代表するバカだ」

雄二がとても分かりやすい説明をしてくれた。助かるな。

「えーと、ちょっと通してもらえますかね？」

明久の突っ込みがくる前に、知らない初老くらいの人の声が聞こえたから、大方先生だろうと思っ

「あ、すみません」

営業用スマイルを残して座った。

「えーおはようございます。二年F組担任の福原慎です。よろしく
お願いします」

そういつて黒板に名前を書こうとしたが、チョークが無いらしく諦めた。待て！チョークが無いのに、どうやって番書するんだ？勉強
すらさせてもらえないのか？

「皆さん全員に卓袱台と座布団は支給されていますか？不備があれば
申し出てください」

大有りだ。

「せんせい、座布団に綿が入っていません」

「諦めて我慢してください」

なんて差だ。Aクラスは何でも用意してくれるはずだぞ？

自己紹介に入り次々と紹介が始まる。

「木下秀吉じゃ。演劇部に所属してある」

秀吉か。小学校は同じだったんだけどな…こっちの都合で中学は別だからな〜久しぶりに合ったが、変わっていない。女に見えてきそうだ。

「小田 高名（おだたかな）です。間違っても『こうめい』ではありませんので…趣味は、ハッキングとデータ改ざんです…みなさん、顔が引きつっていますよ？」

そりゃそうだ。お前とは中学からの付き合いだが、最初の一月はひいていましたし。しかもまたそれを言うか！先生の前で！

「得意科目は古典と情報です。宜しく願います」

「えー、小田君。後で職員室にくるようにならなう。2年生初日でこれか。大丈夫なのか？」

「……………土屋康太」

ムツッリーニだ。彼はこのあだ名を知っているのは数人だがな〜奴には脅迫ねたをもらってますし。

でも、あいつは保健体育以外はあの明久以下ですからね。

「こんにちは！村野 草子（むらのそうこ）です。ただの人間には興味はありません。遊び好きな人はぜひ話し掛けてください！…好きなものはゲーム全般と劉です！宜しくっ」

「少し落ち着こうか草子。クラスの大半がカッターを俺に向けてくる」

Fクラスにしてはこの行動力は使えます。

『あのひととなら鉄人も敵に回せる』

『劉？誰だかしらねえが殺すクロスKOROSU』

クラスがいろんな意味で活気付いている。それと殺すと連呼している奴は…藤堂だったか？あとで覚えておいてください。

「ZZZ…」

疲れたのか、私は寝ていたらしい。風子の紹介のときに、また私にカッターを向けられたらしいが…風子が盾になったらしく穩便に済んだ。島田？だったか…私でも知らない奴がいるとは…いつの間に吉井の番だった

「え〜っと、吉井明久です。気軽に『ダーリン』って呼んでくださいね」

『ダアアーリーーン!!』

男らしい野太い声の大合唱が、Fクラスの教室に響き渡った。少しうるさく感じたくらいで済んだ。

「ふわあ〜よく寝た……………え？姫路？」

目がさめた私が見たのは、Aクラス確定頭脳の持ち主である姫路瑞希さんだ。

「どうしてFクラスに？テストでも受けられなかったのか？」

「は、はい……………熱を出してしまって…よろしく願います。関戸君」

この話を聞いていたクラスメートは

「そういえば、俺も熱（の問題）が出たせいでFクラスに」

「ああ、化学だろ？ あれは難しかったな」

「俺は弟が事故に遭ったと聞いて、実力を出し切れなくて」

「黙れ1人っ子」

「前の番、彼女が寝かせてくれなくて」

「今年一番の大嘘をありがとう」

ばかげた言い訳をしていた。お前らは実力でこのFクラスにはいったんだ。

「関戸劉で。趣味は拷問から始まり尋問にゆすり。恐喝もできます
：趣味はF a eのプレイと人間を狂わせることです。あ、睡眠も
その一つです。宜しく願います」

「おまえはサラリと良くそんなことがいえるな！」
雄二がなんか言ってたが：分からないが、俺は寝ていた。

side out

「藤川 舞（ふじかわまい）です。薬学に関心を持つ方は、語り合
いましょう」

「興味がありマース!!!」
なんて欲望に忠実なのかしら：私は実験台が増えるのは助かります

がね。

side in

…二度寝か。まあいい、雄二に状況を聞くか。

「雄二、今までの状況を教えてくれ（試召戦争を申し込むぞ）」

「特に何も無かったぞ（Dクラスに攻める。いよな？）」

「そうか…で、これからどうする（分かった。俺はどうする？）」

「試召戦争を申し込む！お前は主力として働いてもらうからな（お前たちは点数補給だ。今、点数が無いだろ？）」

さすがは代表…分かっているな。また、アイコンタクトも役立つ。

第2問：偶然ってあるものだな（後書き）

問 以下の問に答えなさい。

『ベンゼンの化学式を書きなさい』

藤川舞・姫路瑞希の答え

『 C_6H_6 』

教師のコメント

簡単でしたね。

関戸劉の答え

『泣きつ面に遠坂』

そのテストは前に終わりましたし、遠坂とは誰ですか？

村野草子の答え

『便善』

村野風子の答え

『便善』

教師のコメント

時々あなた方が、学年トップクラスではないものだと疑いたいもの
です。

それと化学をなめているようですね。職員室でカンニング疑惑とい
つしよに話してもらいます

1週間おきのはずなのに…

第3問：回復試験：面倒くさい（前書き）

問 以下の問に答えなさい

『人が生きていく上で必要となる五大栄養素を全て答えなさい』

関戸劉の答え

『？炭水化物？ミネラル？ビタミン？資質？タンパク質』

教師のコメント

正解です。関戸君には理科関係は問題なさそうですね。

小田高名の答え

『？パソコン？盗聴器？カメラ？マイク？ダガ ナイフ』

藤川舞の答え

『？麻薬？恋？友人？金？黒くて鉄を出すもの』

教師のコメント

後で職員室にくるように。しかし藤川さんの？と？は良いことです。

村野草子の答え

『？友人？劉くん？風子？タンパク質ミネラルビタミン脂質炭水化物？ゲーム』

村野風子の答え

『？友人？劉さん？草子？タンパク質ミネラルビタミン脂質炭水化物？未来』

教師のコメント

少し泣きましたが、？にまとめて答えを出すのはやめてください。

第3問：回復試験：面倒くさい

「よし。俺が勝てる要素を説明してやる」

雄二が教壇の上でクラス全体に言い放った

「土屋康太。こいつはあの寡黙ムツリーニなる性識者だ。」

あいつ。さては姫路のスカートの中をのぞいていたな？

『あのムツリーニだと？』

『だが：あの跡を隠す様：ムツリーのなにふさわしい』

そうだろうな！多分このクラスの9割がお得意さまだしな…下心では俺や高名も負けないが！

「それに姫路もいる」

姫路は全体的に力のある生徒だ。この試召戦争では役立つだろう。

『姫路さん…結婚してください』

『姫路さんが入れば何もいらぬ』

さてと…私にはやる事が出来たな

「高名：あの顔コト。覚えてるか？」

「…OK。いつでも情報わたしますよ？」

あいつらの粛清をしとかないと、大変なことになる。

「それにあの『五帝』もいる」

『…五帝はAクラスじゃないのか？』

全員が疑問を言い放つ。五帝の名前は知れ渡っていても、顔は知らないだろう。

「後ろの席の関戸劉。小田高名。村野草子・風子。藤川舞がそうだ」

「雄二。歯を食いしばれ」

「そして死にましようか」

「「salale 000!」」

あ、禁書 録ネタ出た。

「最後に口をあけてください。新薬の実験台です」

「…こいつらは総合科目じゃあ姫路には…かなわならしいが、単科だけなら教師レベルだ」

『スゲー！』

『村野さん、一生ついていきます』

『関戸コロスコロス』

『藤川さん、暗殺用の薬を下さい』

最初の奴以外全員くたばれ。

「でもさ、何でFクラスなの？」

吉井が質問してきたが…面倒だから

『テストのときにゲーセンいってました』

一言で片付ける。

「いいか。俺たちにはAクラス並みの戦力が6人もいる！そいつらを中心にして戦えば勝ち目がある」

『そうだった！』

一応私たち全員乗っておく。

「俺たちの机は卓袱台？普通の机？違うだろ！俺たちの机は」

『システムデスクだ！』

もつとも…デスクもほししところだったから、ついていきますか。

「大まかな作戦だが…最初に来た先生により、姫路とお前ら5人の1人にその科目を。ほかの4人は総合科目の試験を受けてもらう」

「わ、わかりましたっ」

『だが断る』

私たちは声を合わせて言い放つ。そもそも私らは、総合は多分Aクラス以下だからだ。単科が先生レベルだが…。

「頼む。お前らの戦力を知りたい、『5帝』の力。それが必要だ」

『……霧島（翔子）に電話するか』

「強要して済まなかった。だが、一斉に電話しても多分1人しか通じないぞ。だから許してくれ」

流星は雄二だ。物分かりが早い。

「あの作戦には欠点があるが…お前らが守りに徹して、私たちがAクラスに紛れて倒すのもありだぞ。私たちはFクラスでは無いと認識されているし」

私の言葉に高名が付け足す。

「さらに言いますと、僕達は…5人で一組とされています。不本意ながら劉と同じですよ！1人のクラスがばれた時点で僕たち5人のクラスがばれますから、今回は点数の補給に努めます」

少し黙ってる。イカレPCが

「そうですね！これからの作戦を成功させる為に…わた

」

「僕たちは隠れんぼだよ！」

本当に私達がAクラスに行けたのが心配になって来た。隣で風子さんがいじけているし。

「確かにそうだな。一理ある…お前ら全員。総合科目の回復試験だ。それと過去の最高点を教えてください」

『だが断る』

「それもダメなのか？」

しょうがないだろ。昨日MU ENでJOJOだったんだから。

第3問：回復試験：面倒くさい（後書き）

過去最高点数一覧表

劉 現国67 古典7 数学71 物理987 化学821 日本史1 世界史1 英語W221 保体23 総合?????
理科系主力

草子 現国574 古典581 数学684 物理694 化学23 日本史590 世界史681 英語W686 保体631 総合?????
半チート

^{孔明}高名 現国68 古典821 数学2 物理100 化学81 日本史79 世界史87 英語W10 保体18 総合?????
（参考：技術4385「ハッキングをしたらこうなっていた。」）
技術は、一定条件下で使用可能。

風子 現国29 古典508 数学773 物理102 化学243 日本史618 世界史49 英語W58 保体209 総合?????

文系か理系。どっちだよ

舞 現国316 古典15 数学2 物理3 化学127 日本史167 世界史52 英語W721 保体942

注：ドラック>エロ：保体の点数関係

総合?????

薬学王

主人公たちの点数が高いのは勘弁を。

腕輪の能力は使用次第、追加していきます。

次回！Dクラスの試験召喚戦争のはずが…間違っってCクラスに！？

第4問：原作と違いすぎだろ！（前書き）

問題

『第二次世界大戦中にアメリカ力率いる連合軍と戦った枢軸国を3つ答えなさい』

姫路瑞希・村野草子の答え

『ドイツ 日本 イタリア』

教師のコメント

正解です。他にはハンガリー、ルーマニア、タイ等の国々があります。

追記ですがついに風子さんと答えが別れ

関戸劉の答え

『徳川 織田 伊達』

教師のコメント

これは全て日本の大名ですし、すでに死んでいます。

小田高名の答え

『インテル マイクロソフト アップル NEC』

教師のコメント

あとで職員室へくるように。それ以前に回答数が違う時点で気づきなさい

村野風子の答え

『ドイツ 日本 イタリア』 草子と答えが違っと思って思ったわね！

教師のコメント

そう思っていました。すみません…しかし、カンニングじゃないのですか？

吉井明久の答え

『東京 ベルリン ローマ』

教師のコメント

首都を答えてくれただけで、先生はうれしいです。

第4問：原作と違いすぎだろ！

side 舞

「吉井君…Dクラスに宣戦布告に行つて下さい」

いま、この場には坂本君、吉井君、私事藤川がいます。

「断る。試召戦争の使者つて、大方ヒドイ目に会つんでしょ？」

吉井君の言い分にも一理あります。

確かにヒドイ目に会いますが…

「吉井君…貴方が行かないと、劉君を殺し」

「好きにどうぞ」

可哀相に、あの吉井君にも身代わり（その他利用者…高名）にされるなんて…どんだけアホなんですか。

「でも、貴方が任務を果たせばモテ「行って来ます」るかも…行きましたか。やっぱり恋に弱い……瑞希が喜びますね」

「さて藤川。その紙はなんだ」

ここで坂本君が私の持っている紙に気がつく

え？これを知らないんですか？私は普段より優しく

「これは坂本君と翔子の婚姻届です」

『諦める』という冷たい視線を送りながら言い放った。

「後生だ！頼むから返してくれ！」

「これ、コピーですよ？」

聞いた瞬間の坂本君を、見て笑いそうでした。青ざめた顔は初めて見ますよ。

雄二の婚姻届奪取 失敗

side劉

私は、舞が雄二と話していたところを見つけて、予防薬あの薬を貰おうと近付くと

「騙されたあ！」

明久が帰って来た。

「本当に死ぬ所だったよ！」

「予想通りだな」

「考えない貴方がいけませんからね。私達に非はありませんし、坂本君はゴリラですから」

うん。言葉に毒のある言い方、やっと舞の調子が戻ったか。

「さて藤川！お前はそんなやぶ…ゴパッ」

いきなり雄二の悲鳴がFクラスに響きあった。いい悲鳴だと思ったのは私くらいだろう。

「この薬は、一時的の洗脳効果があります。もちろんそのときの記憶は消えるようにしてありますが…個人差があるんですよ。鉄人並になりますと聞きませんし」

と、舞が薬について説明をしていると

「疲れたよ！何で僕がCクラスなんかに行かなきゃいけなかったの？言えやコラ！」

これ以上言つと雄二の体が持たないから、首をたたいて気絶させた…は？

「明久…なんでCクラスにいったんだ？」

「え？Cクラスにいくんじゃないの？あの小山さんがいるところに…」

「吉井君…やってくれましたね。私達はDクラスに宣戦布告するはずでしたよ？」

「え〜！…！それじゃあ、Cクラスと戦うの？」

「仕方ない。俺と舞で断りを入れてくるから待っている」

本音はあのヒステリックを罵倒するためだがな。

「ありがとう！劉と…」

「舞でいいです。吉井君」

「わかったよ、舞」

そういい残して、死体^{雄一}と明久を残してCクラスへ行った。

Cクラスにて side劉

「邪魔するぞ」

「な、何よあんたは！」

早速黄色い声で歓迎か。

あいつはCクラス代表の小山だ。まあ、私には関係がないがバレー部のホープらしいけど…意味がわからん奴だし、カンニング王の根元の彼女だしどこまでヒステリックなんだ。

「こんにちは、とんでもなくバカのFクラスからきました藤川です」

「同じくFクラスの関戸劉だ。ゴキブリ^{根本}の彼女さん」

「劉君。本音と建前が逆です」

あ、つつい本音が出てしまった。

「なによ？Fクラスの分際で、恭二をゴキブリ扱い？ふざけないで！」

「うるさいぞ猫じゃらし。こっちの話を黙って聞け」

猫じゃらして単語が出たから言ってみたが…案外お似合いだな。

「何で猫じゃらしなのよ！？」

「猫^{根本}の近くにいますからな。あいつも近寄ってくるし」

「だから劉君。本音と建前が逆ですから…」

おっと、また本音が出てしまった。

「そんな言葉を聞いて黙っていられないわ！明日の試召戦争、楽しみにしてなさい！」

「黙れ猫じゃらし。明日は…私が直々に叩き潰してやる…あ、それと」

「なによ！まだ用があるの？」

「ほら、舞」

「はい…猫じゃらしさん。明日は本来ならDクラスとの対戦予定でしたが…Dクラス代表が『Cクラスは俺たちより弱いと思う』とか言っていましたし…あ、自白剤使いましたよ」

そのまま刑務所に入る勢いで喋らないでくれ。頼むから！

「じゃあな猫じゃらし。明日が楽しみだぜ！」

俺と舞は教室を出たが…『舞特製やせ薬』と書いたなぞの袋を舞が置いていったのが気になった。

『明日の準備をするわよ！特に関戸劉をつぶしにかかりなさい！』

「ごちゃごちゃうるさい猫じゃらしだ。鈴でもつけてやがれ」

「あの薬…男子が飲むと狂って女子が飲むと、例外なく劉君が好きになります」

ちよっとまで。最後の方が気になる！

「雄二、明久から聞いたか？」

「ああ、とんでもないことになっています。Cクラス相手とは…作戦を出してください、藤川様」

自白材？が聞いているようだ。少々態度に問題はありますがこれは使える。

「好きにしる。俺たち五人は回復試験を受けてくるからな」

「わかりコペツ！」

あ、また倒れた。

「大丈夫です。薬の副作用です…これなら検査入院で明日の試召戦争に間に合いますから」

そうか。良かった良かった

入院？

第4問：原作と違いすぎだろ！（後書き）

最後は5巻のネタを少々…もう原作を逸脱していますが、どうぞ宜しくお願いします。

1000PV達成！

第5問：Cクラス戦・前編（前書き）

更新が、来週の月曜再開となります。

第5問：Cクラス戦・前編

「戦線を拡大させるでないぞ！」

「こつちの方が数は上だ！複数でかかれれば勝てる！」

秋久と秀吉が前線の指揮官か。まずは満足だ。次は

「おい布施。Fクラスの関戸劉がCクラスのここにいる。野口…黒崎に勝負するから許可を出せ」

「まったく関戸君は…承認します！」

これで召喚可能だ。あの二人…名前忘れた！だが、俺が倒さないと後々面倒になる。俺と舞いがいのA集団は、補給を済ませていない。ここで一発かましとく為に…

「サモン試験召喚」「」

俺たちの下に幾何学模様が現れて、2頭身くらいの召喚獣が現れた。

『化学 黒崎トオル&野口一心』

Cクラス 162点&157点』

「よく俺たちに挑んだなあ！」

「勝てると思つてんのか？」

「声紋から情報分析…完了。…まあ何だ？鎮魂歌を奏でてやるから」

俺の召喚獣は青いマントを覆つて…ハルバートをもっていたが？やっぱり召喚実習に出ておけば良かったな。まったく分からん。遅れて私の点数が表示された。

『Fクラス 関戸劉』

「何いつ!」

驚くのも無理ない。これは教師ぐらいの点数だし……

「大・旋・風」

召喚獣の操作になれる為に遊んでいたら、相手の召喚獣が消えていた……藤堂を巻き添えにして

「鎮魂歌、あなたらが死んでも、かわりがいるもの」

「ヴァカよ!」

「戦死者は補習!」

「い、いやだ!鬼の補習なんて!」

「何を言っている?趣味は勉強。尊敬する人は二宮金次郎という、理想的な生徒にしてやる!」

「はなせ!まだ死にたくない!」

「助けてくれ!俺も死にたくない!」

少し可哀相になって来たが

「関戸!後で殺して殺る!」

こいつの一言で台無しだ!

落ち着け…殺が二回も出ているぞ。

戦況は変わらないか…

アホンダラ高名と村野姉妹。姫路は回復試験で今回の参加は無さそうだしな

腕輪はあの猫じゃらしに使うか。実験も兼ねて。

「劉君!鉄人の補習を受ける前に逃げますよ」(過去32回講習)

「そうだな、指導を受ける前に逃げるぞ!」(週一で指導)

あの人外からだだと逃げるに逃げれない。ムツツリー二と高名がいれば話が別だが…

『？関戸君がいるわ』

『彼をCクラスへ拉致するわよ！男子はその周りだけを倒して！』

これは：舞の薬の効果か？なんだかCクラスの女子がとんでもなく我：私に執着しているんだが？

「あ、配分間違えましたね」

舞の一言で台無しの上に、

『皆のもの！この試召戦争が終わり次第、即刻異端審問会を開く！』

『異端者・関戸を生かして外に出すな！』

Fクラスの男子約40人を敵に回した上、

『？あの女を最優先で殺りなさい』

『関戸君を保護するのよ！』

舞はCクラスの女子を敵に回した。

いま、ここにいるのは布施と大島と木内か…

「舞！大島のところだ！」

「おい関戸。今お前が名前を呼び捨てて呼んだ気がするんだがな」
気のせいだ。

「大島先生、Fクラス。藤川舞がCクラスの女子集団五人に保健体育勝負を申し込みます」

「俺は見学だ。さっさとしろ」

「承認だ」

これ以上いると、鉄人に連行されそうだから屋上へ逃げた。もちろん舞にも連絡してから…

「関戸君を渡しなさい！」

「あなたには不釣合いよ！」

どんだけ舞の薬に効果があるんだよ！これからの学園生活が失われるぞ…

『試験召喚！』

舞の服装は白衣に注射。うん、予想通りのフォルムだ。

『保健体育 Cクラス女子五人組

平均182点』

この点を見て、安心したから俺は屋上へ逃げた。

『Fクラス 藤川舞

保健体育 781点』

「なんでFクラスにこんな点数の奴入るの！」

「関戸君……」

さて、須川の放送が入るな。

『連絡です。物理の木村先生。木村先生。新校舎屋上へお越しください』

これで準備は磐石だ。待っている……猫小山有香じゃらし

第5問：Cクラス戦・前編（後書き）

問 以下の問題に答えなさい

『唯一の常温で液体になる金属を答えなさい』

関戸劉・姫路瑞希の答え

『水銀（Hg）』 理科関係ばっかじゃねーか！

教師のコメント

正解です。関戸君は理科関係しか出来ないのだからねーように。しかし化学式までご丁寧。

小田高名の答え

『はぐれメル』

村野草子の答え

『トベーン』

教師のコメント

草子さんは、化学以外は出来るので化学を中心に勉強しましょう。お2人とも指導室へきてください。

吉井明久・土屋康太の答え

『溶けた銀』

教師のコメント

あなた達も指導室へ。

第6問：Cクラス戦・中編！（前書き）

こんにちは。更新再開します…

試しに改行を試してみました。感想をおまちです！

第6問：Cクラス戦・中編！

side Komei

「…どうなっているんですか!？」

僕達が回復試験を受けている間に、吉井。島田さん。須川と…坂本しかいなくなっている!

「…坂本代表。どうなっているのかしら？」

風子さんが、いつになく真面目な顔で坂本に質問してきた。

「敵の策にはまった。Cクラスまで追い込んだのは良かったんだが…そこで多対一を強要されて。ほとんどが補習室行きだ」

「何てことを…!劉は!?あのクソはどこにいるんですか?」

「分からない。ただ、補習室には行っていないことしか知らない」

「劉さんと舞ちゃんと一緒にいそうだからだいじょうぶだよ!」

確かにそうですね。あの2人なら今ここで本当の戦争があっても脱出できますし。

「須川、劉の言ってた作戦があっただんですよね。何ですか?」

「それは…木村先生を呼んでほしいとだけしか聞いていない」

それなら、劉の考えることは一つ。まったく…私には手加減すると
言うのに。何でこんな事をするんでしょうかね?

「坂本、吉井。ウチにはさっぱり分からないんだけど？」

「まあ、今から説明します。それと吉井…指揮官の役割を果たせていない。…といたいんですがね。よく代表を守ってくれました！…これからは」

「私が、みんなを守る」

いきなり発言した草子さん。しかし

「やめなさい！草子！あなたは駄目！駄目なの！」

風子さんが止める。理由はあるんですけど、今は言えない。

「でもね、私はこのクラスが好きになっちゃった だから…」

「みんなの笑顔を壊す…あの愚者に鉄槌を与える」

「風子さん！」

「分かっているわ！」

そう言っつて風子さんは、舞特製の薬を飲ませました。だんだん落ちて着いてきたのが分かります。

「やめてよ！なんであいつらのせいで、みんなが痛い目に会わなきゃ…いけない…の」

そう言い残して、草子さんはその場に力なく倒れた。

「…どついつことだ？」

今、この状況を理解していない坂本が事情説明を求めてきました。

「高名さん、説明してあげて」

風子さんが言う。しかし

「駄目です。あのことを忘れたんですか？…それに」

空気の読めないCクラス方がお見えになりました。

「仕方ありません、皆さん！一時Fクラスへ！吉井と島田さん。須

川は回復試験を…殿は、僕が請け負いますから」

「？駄目です！草子を置いたら私もきます！あなたは総合じゃあDクラス並なのですよ？」

必死に食い下がる風子さん。ごめん…

「え？」

僕は睡眠薬を、風子さんの口へ入れた。

「私も…役に…」

風子さん、僕はやらなきゃいけないことがある！それは

「劉がくる前に、Cクラス代表を孤立させなきゃいけないんです。」

それがあのクソ…劉の作戦です」

「…分かった。お前の提案に乗る。しかし、姫路を送るうか？まだ回復試験中だから今すぐにも」

「坂本…このままじゃあ僕たちは負ける。それに姫路さんには次の試合でやってもらいたい仕事がある。…わかっただら行ってくれ。幸いあの実験も成功したから、問題ない」

「すまない、坂本。俺は…もうすぐ」

「分かった…無茶するな！」

「見ツケタ…オダコウメイ。クロス」

「関戸君を渡しなさい！」

「焼殺溺死惨殺必殺…」

全員舞の薬を飲みましたか、しかし

「行くぞCクラス…点数の貯蔵は十分か？」

「 Cクラス20人 VS 小田高名 Fクラス
総合科目平均1201点 VS 987点」

「第一の腕輪…インフインティリバース情報処理！」

「ナゼ…腕輪ヲ」

理性があつたんですか。いい実験台がいたと報告しておきますか。

『 Cクラス20人 VS 小田高名 Fクラス
総合科目平均1201点 VS 3924点 情報 』

『なんで？ここは総合科目のフィールドよ？それに、腕輪が二つ？』

「そりゃあそうでしょうねえ。ぼくの情報科目は相手が十人以上の時のみに発動しますから」

第一の腕輪は、僕の点数を情報に書き換えることだ。さっき言ったように制約もあるけどね。それと第二の腕輪はFateから

「来い、ライダー！」

その瞬間、僕の腕輪から天馬と手綱が現れた

『全員逃げて！これじゃあ全員勝ち目がない』

『我ハタタカウダケニココニキタ！』

避けないのは助かります。何せ操作が難しいですから！

「……………ヘルレフオーン 騎英の手綱！」

そのとき、全員の召喚獣が消えました…僕のも。

これが技術のリスク。腕輪を使うと十分間、召喚が出来なくなる。それと僕の意識が飛ぶのを前提に…

「とつとつ、決めて来い！バカリゆ…う…。」

そのとき、僕は意識を手放した。

劉と最後まで…仲良く出来ないかな…？。

あいつら、高校には手を出さないって言ったはずなのに。

卒業してから、そこに行く約束だった…

暗い意識の中、高名は涙を流していた。

僕は、Aクラスとの試召戦争が終わり次第…アメリカに行く。

第6問：Cクラス戦・中編！（後書き）

問 以下の問に答えなさい

『OSとはなにか答えなさい』

小田高名の答え

『OSとはオペレーティングシステムの一つで大きく分けるとマックとウィンドウズで大きな違いがある。ウィンドウズでは大体は同じOSを使ったりするが、マックはそのパソコンのOSはそれぞれ作成している……分かれたくない』

教師のコメント

涙の痕ですかね？ここしか読み取れませんが、十分に正解です。

小田君…

関戸劉・藤川舞の答え

『小田高名』

教師のコメント

人はOSじゃありません

なんでこんなシリアスになってるんだらう…次回は、キャラ紹介です。

感想おまちです！（大事なことなので二回言いました）

キャラ紹介：主要5人 10/10更新！

関戸劉：せきどりゅう（仮CV・保志総一郎）

一人称：俺。

必殺料理人により、ひとつに戻る。

「俺は俺だ！」

外見：蒼髪藍眼の眼鏡野郎。中肉中背の一般人

「実際に、眼鏡が似合わないって言ってたが：俺は似合うと思ってるんだが？」

特技：睡眠。

「イスか枕があれば、普通に寝れる。授業中？基本は起きている…けど、夢の中でなあ！」

基本、劉視点以外は殆ど寝ている。

狂化

人間の理性を壊し、本能のままに動く様にさせる。これを覚えた影響で、劉にもいろんな人格が出来た。

基本、全てをコントロールしているが：言動や一人称に出て来る事もある。自分にもかけられるが、下のようになる。

「殺殺殺殺…皆殺しサイコオオオオオオ！」

食事はほとんどメロンパン。某炎髪灼眼とは関係が無い。

「良いか？メロンパンの根源は『カリカリ』と『モフモフ』だ！外のクッキー生地はやわらかいと駄目。硬すぎても、パンとのマッチングが合わない。そしてパンの本体はふんわりと焼き上げて作り出す！本来ならありえない中での最高のパンだ！」

「花開き、鳥が囁き、風が舞い、月が満ちた時……」

「理想郷で、奈落におちろ！（エゴクラツシュ！）」

「我：私はお前の幸せが大嫌いだ」

（脱走か？俺に任せろ）

小田高名（おだたかな）^{孔明}：（仮CV・神谷浩史）

外見：体格は一般的だが、外見はIT社長みたいな金髪と外人を装わせるが、ハーフでもない。

「僕は人間だ！日本人だ！」

一人称：僕

「万死に値する！」

はいはいティエア。ティエア

特技：ハッキング

「制御完了。システム・防衛ともに掌握完了です」

大体の所なら可能。文月学園も例外では無い。

食事はカレーパンばかり。そこでもほかのところでも（名前とか）劉とは犬猿の仲。

「カレーパンは夢が詰まった食べ物です！外側は少しサクサクした程度がベストで、内側はふんわりと…そして中身も普通のカレーとは違ったアレンジを施した最高のカレーパン！具材は、にんじんに始まりじゃが芋。たまねぎです。あえて肉を入れずに完成させたこのパン。某代行者や分校の教師にも教授してもらいたいです！」

「セキュリティ解析《コードno.211104》…完了」

「僕は劉の幸せが大嫌いです。くたばりなさい」

「これは別れではありません。新たな出合いの始まりです」

（脱走ルート確保。行きますか！）

村野草子（むらのそうこ）：（仮CV・松岡由貴）

一人称：私！

「やつほー！」

外見：黄緑のロングに最後をカールで巻いた状態で学校にくる

「姉さんと同じなんだ！良いでしょ？」

趣味

ゲーム

「ゲームではフリーダムよ！性能なんて関係ない。自分の自由に生きるわ！」

基本、勉強は主要キャラには負けない。少し台詞も移る

「あなたはいま、私という地上で最強の決闘者を敵にした事を後悔するがいい！」

福原先生なにやってんすか？

草子は劉が影響で前話の様な強気な性格が残ってしまった。

じっさいは、劉が頼まれて草子に『狂化』を使ったのだ。そのときの影響で少々強気になることがある。

また、劉により封印を受けているから『狂化』をつかってても理性が飛ばない。

「何で遊ぶ？」

「あはっ、楽しいな〜」

「貴方がた…何様ですか？消しますよ？私の好きな人たちに、手は出させません！」

（脱走？うん…ゲームなの？するよ！）

村野 風子 （むらのふうこ）：（仮CV・田中敦子）

一人称：私^{わたくし}

「私は古代の王ギル メッシュの子孫でしてよー！」
絶対にならない。

外見：草子と同じだが、ブレザーを着ないで召喚獣と同じようなパーカーを羽織ってくる。

違う点は目の色。風子は緑で草子は黄色…どちらもカラーコンタクトだが

「目の色の違いですの？関係ありませんわ。私は黄色。草子は緑。二人が混じって、初めて黄緑になるのです」

特技

カリスマ

他人を省みないやり方により、雄二以上の統率力を持つ。

Fクラスだからこそ発揮できるスキル

「そこのおろかなものよ！私のため、Fクラスの為に働きなさい！」

???

作中で明かされてから公開。

「西村：鉄人：西鉄：村人：鉄っちゃん：もうMrインクレディブルでいいですわ！」

ゲイト・オブ・バヒロン
「王の財産！」

「さあ愚民の皆さん！私のために働きなさい！」

「こんな姉でゴメンツ！」 草子

(脱走…私を逃がすために行動しなさい！)

藤川 舞：ふじかわまい (仮CV・雪野五月)

一人称：私わたし

「私の処方箋は108式あります」

外見

黒い…霧島さんぐらいの黒髪に、大体は白衣を着ている。
舞曰く、「いろいろ物が入りますから」「らしい

「白衣は学校でも着ています。師匠マイスターもそうですよ?」

特技；薬作成

大体の毒薬なら、解毒薬も作れる。
マッドサイエンティストの性だろうか、いつも危うい薬を作る。

「このくすりは、地獄を見れます」

「文月の白い薬学者…藤川舞、まいます!」

「今です!ムツツリ商会に天誅を」

「薬に溺れて…全てを失え (ロスト・マップ)」

(脱走ならこの薬を…鉄っちゃんでも、1分は稼げますから)

キャラ紹介：主要5人 10/10更新！（後書き）

特別編

アンケートにお答えください。

あなたが今一番ほしいものは何ですか？？

関戸劉の答え

『チャカとアルター能力』

小田高名の答え

『カネ金かね¥\$』

村野草子の答え

『ゲームと劉くん』

村野風子の答え

『名誉・民・奴隷・金・金ぴかの宝具！』

藤川舞の答え

『薬学室』

福原先生のコメント

ふうん。なるほどなあ。

主催者権限により、貴様らを補習室送り（ダッ！）…ちょっと悪乗りしただけですのに…

第7問：Cクラス戦・決着！（前書き）

今回は問題…お休みです

第7問：Cクラス戦・決着！

Side RYU

「……という訳だ、二人とも頼んだ」

「突っ込みたいところが沢山あるのですが……」

「……………任せろ」

仕方が無い……今は作戦の話をしていたんだからな！盗聴されていたらどうする！

「舞と康太は鉄人を呼んで俺が小山……猫じゃらしの所に行く」と伏兵が出て来る。我……私が引き受けるから、その間に」

「……………なんで伏兵が出ると分かる」

康太が質問して来た。

「それについては大丈夫です。昨日に劉君と一緒に挑発にいつて来たのは」

「……………劉をボコボコに倒すよう仕向ける為？」

「そうだ。それと……二人はCクラスにばれるなよ？ばれたら敗戦ロード一直線だからな」

「……………了解」

「わかったわ、劉君」

さあ、一丁殺りますか！

もうすぐ下校時刻だから、急いでケリをつけないとな！しかし、渡り廊下で見たのは…結構な数の死体（仮）が

「やっぱり、両方とも結構補習室行きだな。……孔明？」

俺はみた、高名の倒れている姿を、おいおい。ここまでやれとはいってないぞ？（ピロピロ！ピロピロ！）
だれだよ…こんな時にメールなんて

f r o m 高名

本文：早く勝て、僕は平気だ…負けたらクロス。

「は…ハッハッハッ！あいつはどこまで用意周到何だよ？」
全く…無茶すぎだ。俺に言えっつての、この馬鹿が。」

今、足が勝手に動きCクラスの前にいる。

バンツ

「よう、良く逃げなかったな小や…猫じゃらし」

「何よ！私が逃げるとでも？それと名前を言い直す必要がある？」

うん、いつ聞いても五月蠅い声だ。

「そろそろ…終わりにしよう」

私がそういうと、木村先生が来て試験召喚を承認した。これで物理のフィールドが出来る。

「Fクラスの関戸劉！Cクラス代表の馬鹿に勝負を」

『馬鹿はお前だ！Cクラスの小山以外で受けます！試験召喚！』サモン

くそっ！やっぱり伏兵か…作戦は、あと1分待たなきゃいけない。仕方ない、小…

「代表自ら来ないのか？臆病なクラスだな」

キーンツとか言ってやがる！やっぱりあの根本の彼女だな…

「俺…私を倒して士気を下げるつもりでも、もう下がる兵もいないわな！試験召喚」サモン

足元に幾何学模様が展開されて召喚獣が出て来た……あれ？さっきと武器が違うぞ？暗殺用の小道具だ。ワイヤーを持っている。

『物理 Cクラス8人 VS 関戸劉 Fクラス
合計 1068点 VS 741点』

5…4…3…2

「さあ来い、高名の弔いといこうか！」

1…

「殺っちゃいなさい！」

0!!

「小山…失敗だったな！近衛部隊全員を俺に向けたのは」

「何？後からなんて、奇襲も来れないわよ」

そう、お前の後は…窓。だが

ガラガラッ

「失礼します」

「!?!」

「前からも出来るだろ？全員俺と勝負しているんだから」

こいつら…舞と康太を残したのは

『私が全員引き受ける。その間に小山を、消せ』

そう、俺が挑発した事によってあいつは…俺をどう倒すかで一杯だった。

だから俺に全兵力を持って来るのは分かった。

さらに木村先生を呼んだ事で、俺の得意科目だとばれている。

だからこそ油断せずに来たのは良かったが

「……………Fクラス土屋康太」

「西村先生。同じくFクラスの藤川舞が」

『Cクラス代表の小山に保険体育勝負を申し込みます』

あの時一緒にいた舞を忘れる程、我にのみ矛先を向けたからだ！
これで、回避は出来ない？さあどうする！

「！護衛部隊、早く私を守り」

「護衛？もう全員戦死したぞ？」

試しにワイヤーを全員の首、腰に巻いて見事に三等分した死体の召喚獣が完成です。

チェックメイト

王手だ… 小山友香

□ Cクラス 小山友香 VS 土屋康太&藤川舞 Fクラス
保険体育 181点 VS 421点 & 863点
↳

勝負は一瞬でかたがついた。

《《Cクラス代表 小山友香戦死!》》

第7問：Cクラス戦・決着！（後書き）

感想エ…

Cクラス戦終わりました。

いきなりの逸脱でビックリな人もいますが…

次回は明後日です。

小山には…まだ使いたいで舞の自白剤でも飲ませようかな？

第8問：敗戦国は終わりも同然（前書き）

問 アンケートに答えてください

『新しい教室を作るとして、何を作ったらいいと思いますか？』

藤川舞の答え

『薬学室。これは化学や生物の授業の一環で薬を作成して実験投与しいたりすればいいと思います。また薬学部への進学率も増やせて学園側では利益でまくりなんじゃないですか？』

教師のコメント

いい案ですが、最後の言葉がきになります。

関戸劉の答え

『安眠室』

教師のコメント

あなたに何が

小田高名の答え

『劉専用の拷問室』

教師のコメント

関戸君に謝罪してきます

第8問：敗戦国は終わりも同然

「雄二、終わったぞ」

始業式から二日で試召戦争をするとは思わなかったがな。楽しませて貰った。

「助かった。あと戦後交渉は任せる。『設備を交換せず、Aクラスに「戦力が整った」』と言わせれば後は自由にしろ」

設備を交換せず、Aクラスにも宣戦布告じゃない…雄二、頭が切れるな。

上位クラスを使って脅す…これでAクラスと交渉すれば、こちらの話しが通りやすくなる。

「で？お前はなにすんだ」

「間違えて宣戦布告したバカの処刑」

確かにな。我…私も最初からCクラスは大変だし、何より沢山の生徒が補習室行つてたんだ。その首謀の倒さなきゃFFF団が何て言うか？判るよな。

「さあ、戦後対談と行くか。バカな小山友香さん」

「何で私が馬鹿なのよ！」

今、ここには私と舞がいる。その中のバカはこいつだ。

「だって、バカな私達に負けましたし」

「むしろ大バカだな」

「揃いも揃ってバカとは何よ！」

「うるさいです。…さて皆さん、本来なら私達の設備とあなたがたの設備を交換する所ですが…条件によっては、免除させて頂きます」
丁寧語なんていつ以来だ？判らないけど、

「本当か…」

「その話を聞かない手は無いな！」

「流石関戸君！私達の事を考えて」

最後の奴は黙っていてくれ。

「…条件って何？」

「条件は私達が指示した時にAクラスに『試召戦争の準備が出来ている』と言えば良い。宣戦布告はしないで欲しい…」

丁寧語つかれんだよ！舞が話せば良いのに！

「本当にそれだけ？」

少し敵意を緩めて話しかけてきた。まあお前の声には耳を傾ける気はないが。

「後は…お前が舞の薬の実験台になってくれればいい。それだけだ」

「藤川さんの薬??それってCクラスを変えたあの？受ける訳ないじゃない！」

そうだ。男子を狂化させたりする薬だ

(舞。こいつらは薬が切れるのか?)

(はい、狂化は劉君のをベースに作成したので3日ぐらいで切れま
す。女子は…)

(舞。置いていった薬のワクチンは?早く!)

(そんなものありません。そして効力無限です。一年間楽しんでく
ださい)

私の一年が…最高の人生が。…トリップしてる場合じゃない!今は
小山と交渉中だった。

「いいや、お前に拒否権は無い。クラス設備をそのままにしてやる
とっているんだぞ?お前は自分一人のわがままでクラス全員を巻
き添えにするのか?」

やばいやばい、地が出て来た。まあ…これで小山は断れない。

「……分かった。この話を呑むわ」

流石代表、話が早い奴は利用価値がある

「劉君、心の中が丸見えです」

え。なんで読心術がつかえる?

「そこはいま関係ありません…。さあ、関戸ファンクラブの皆さん
また心読まれた!…って本当に関係ない!

「まて舞!いつの間に関戸ファンクラブ何てできた?」

そんなことをされても困る!

「あの薬をのんだ15人位です。まだ…」

まだの続きが気になる!

「皆さん、あの人にこれを飲ませてください!終わった後に関戸劉

写真集1をクラスに贈呈します」

うん。前提が間違ってるやがる……

『小山代表！すいません』

「私達……関戸君の為です」

『代表も私達と………』

全員精神科に行くことを薦める。

「あ……アンタ達、なにをキヤアア！」

何で薬を飲むだけで悲鳴が出るんだ？

「舞、何を飲ませた？」

「ここに残したあの薬と実験中の洗脳剤」

注：あの薬は、舞が以前Cクラスに置いていったあの薬……

「舞、今なら間に合うから警察に行こう」

「いいえ、学園長……クソババアからは許可済みです」

「学園全体が俺の敵か……コンチクショウ！」

……忘れてた。小山がどんな化学反応を起こすのかは楽しみだが、これ以上面倒事は御免だ！

「じゃあCクラス！あばよ！」

俺はクラスの窓を割って逃げたした。

「……劉君、後で覚えておいて下さい。それにここは3階です」

そのあと俺は気絶しているところを鉄人に見つかり、0泊1日の補習ツアーに出かけた。

第9問：関戸劉（前書き）

アンケートにご協力ください。

あなたの召喚獣について説明しなさい

関戸劉の回答

『毎回召喚するたびに武器が変わっていたが、実際は武器なんて使わないことに気が付いたのはBクラス戦のときだった。学園長…クソババアに言っただけで直してもらわないと』

教師のコメント

武器を使わない…とんでもなく弱く思えてきましたね。しかしこちらのミスもあったようなので、次の試召戦争には間に合わせます。そして学園長への礼儀をわきまえなさい。

72

小田高名の回答

『なぜ…ただのビジネススーツに鎖なんですか？明らかに僕とは違いますし、完全に作者が適当に考えたものですね？装備は文句は言えないですが、吉井たちと同じなのは気に』

教師のコメント

メタ発言は控えてください。

藤川舞の回答

『白衣に注射と私にぴったりの召喚獣でした。あの中には何の成分で出来ているのかと興味が湧いてきます！今後は私を観察処分者に指定されるように仕向けていっしょに薬を作成する手助けにさせます』

教師のコメント

貴女だけは絶対に観察処分者に任命させないように学園長に話しておきます。

村野草子の回答

『か…かわいすぎるっ！』

教師のコメント

メタ発言になりますが、Bクラス戦の終盤でお披露目らしいのでそれまで内密にさせて頂きます。

村野風子の回答

『さすが私の召喚獣。異次元の扉を開いて他人に戦わせるのは趣向が合いますわ。「慢心せずして何が王だ！」的な感じですね』

教師のコメント

……先生もF teは好きですが……

第9問：関戸劉

side ryu

疲れた：回復試験をした後でさらに試験なんて、おかしいだろ？

「死ぬ…」

昼。まだ4月だから寒い感じもすれば少し暖かくなってきた感じもする。俺たちは午前中にCクラスとの試召戦争を終えて昼寝をしようとしたところであったのだが

「よし！昼飯食いに行くぞ！今日はラーメンとカツ丼と炒飯とカレーにすっかな」

どうやったらこのゴリラみたいな思考をもてるのか聞きたいところだ。ゴリラなんだからバナナだけを食っていればいいというのはやめておこう。

「ん？吉井達は食堂に行くの？だったら一緒にいい？」

「ああ、島田か。別に構わないぞ」

「それじゃ、混ぜてもらおうね」

「……………（コクコク）」

ここに島田と康太。秀吉に明久と来たもんだ。そういつたら

「ゴミ劉。僕らも慣れる為に吉井たちと一緒に食べないか？」

「おいアホ高名。それはいい相談だがスタンガンを押し付けて言うことじゃないぞ？」

俺たちもFクラスに馴染んで来てしまったが、これはこれでいいものだ。

「劉さん、ご一緒させていただきます」

「劉くん、一緒にたべよっ！」

「劉君。ご飯は大人数の方が楽しいのですが、昨日瑞希がみんなの分を作ってきてくれるといったのにそのご好意を無視する気ですか？」

「そうだよ。みんな忘れたのか？今日は姫路が弁当を作ってくるって話だっただろ？」

今の今まで忘れていたがな

「は、はいっ。迷惑じゃなかったらどうぞっ」
迷惑だなんてとんでもない。

そもそも俺は速さを大事にするものだと思ってるなせならいろいろなことを早く終わらせればほかのことに時間を費やせるものだろう

「クーー」。早口は言いから！姫路さんの弁当なんて…マトモなご飯がいつ以来だと思ってるの？」

どうやら明久はよっほど飯を食いたいらしい。あいつの食生活を考えたらそんなもんだけどな。

「じゃあ、俺と高名は飲み物を買っていくから、先に屋上でもいてな。ここより屋上のほうが美味く感じるだろうし」

少々冷や汗をかきながら言い放った。だって姫路の料理は……

(高名…行くぞ。)

(何で僕が…はやく姫路さんの料理にあやかりたいんですけど？)

(その料理についてだ…命に関わるかもしれないからだ)

(…よっぽどのことですね。分かりました)

「じゃあ行って来ますので、お先にどうぞ」

「分かった。小田、先に喰ってるぞ」

雄二に確認をとったあとに俺たちは食堂近くの自販機に向かった。喰うの字が違うと思ったのは私と高名だけでした。

「で？姫路さんの料理がどうしました？」

自販機で飲み物を買っているところで高名に話し掛けられた。もつとも、呼んだのは私だが。

「一度、あいつの料理を食べたことがある。…たぶん生死に関わる薬物を無意識に入れている。俺の多重人格？って言ったほうがいいのか、それもあいつの影響だ。」

思い出しただけでも悪寒が走ってくる。俺が小4の頃

もともと姫路の母親と俺の母君は…飲み仲間で、あいつの家にも何度か行った事がある。そこで、母君たちが酔っている時に、姫路が焼いたクッキーを貰ったんだ。その中には…俺の推測でしかないが、水酸化カルシウムが出来ていた。俺が持っていた酸性の水溶液を飲んで中和させようとしたが…その結果、私には三人分の感情、言語をもってしまった」

「あほ劉。なんで酸性の水溶液なんて持っているんですか。」

口に出ていたのか？トップシークレットだったのに…

「もういいだろ？そろそろ行くぞ。このまま逃げたら後が怖い」

「…行きますか。最高の死地へ」

「… ……なんで姫路以外がしんでいるんだ（ですか）」

屋上に上がって見たのは、姫路以外の倒れたみんな。もちろん薬学に精通した舞も例外なく

ぜんいんがへんじのない ただのしかばねのようだ

「りゅ… 関戸君。皆さんおいしって食べてくれたんですよ？小田君もどうぞ」

もう…逃げる選択肢が消えた。それにみんなは絶対に姫路をきづつけないためについた嘘だな。

「もうデザートしかないですけど、たくさん食べてくださいね」

（…高名、俺が食うから食った振りをしてくれ）

（正気ですか？）

もちろんあのバイオ兵器を食べるのは正気の沙汰じゃない。アギ並みに大変なことだ。

（俺…我の人格が元に戻るかもしれない？といったら）

（僕も食べてみたいですけど、ここはおとなしく引き下がりましたよ
うか）

こういうときにアイコンタクトは役に立つ。そう思った

「じゃあ姫路、頂くぞ」

「は、ふぁい！どうぞー！」

少し赤面になりながらも噛んでしまっていた姫路。

「劉…死ね！」

「いただきひでぶ！」

食った瞬間に意識がとんだ。

……………ここは、俺はどこにいる

「やっと目がさめましたか」

「おそいぞ愚民。我を待たせるな」

この声は俺の人格？それならば…

「理解いただけましたか？」

「それならば話は早い。我はもう疲れた、後はこいつに聞いてくれ」
そう言い、我口調の俺が1人消え去った。

「さて…私が生まれたのは姫路さんの料理を食べて、一時期に狂化が暴走して生まれたのです。こうしてまた、料理を食べたことで現れたわけです」

「…事の顛末は分かった。それでどうするんだ？」

「もちろん、貴方が元でしたから、貴方に人格を返し…私達は出てこないようにさせて頂きます」

「それでいいのか？お前は俺で、おれはお前だぞ？」

「だからこそです。これ以上私達がいると、いずれ人間として壊れてしまいますから。おとなしく下がらせて貰いましょう」

また…俺がもう一人消えた。残ったのは俺だけだが…

「眠い…はっ！」

意識が戻ったら、空が見えた。

「あの…関戸君。どうでしたか？」

…今の状況から、俺の中での時間はまったく進んでいなかったのか…

「…塩酸が入っている食べ物を美味しいとはいえない。料理をこの中で誰かに教えてもらえ」

「だ…駄目でしたか、…なら関戸君！私に料理を教えてください！」

「劉シネ劉クロス劉自殺シロリ（ry）」

空耳が聞こえたが、姫路には…

「別にいいぞ？ただし、一切の手抜きは無しだ。やるからには徹底

的に教えてやる」

「はい！ありがとうございます！」

俺は…これでいいのか？お前ら…だけどまずは

「全員得物の点検をしてください！即刻殺陣武道会をはじめますよ

」！

『はい！』

このRGC（Ryu Guard Club）から逃げる算段を確認すると、高名以外の死体？処理が最優先事項だった。

第9問：関戸劉（後書き）

駄文です。

劉の人間設定間違えたか？『狂化』も関係しているんですけど、やっぱり納得のいかない文章になってしまいました。

祝！5000PVと10000ユニーク達成！

第10問：敵は味方にもいる（前書き）

問 以下の問題を答えなさい

『貴方が感動した言葉を答えなさい』

関戸劉の答え

『意地があんだよ！男の子にはあ！！』

教師のコメント

先生はスクライド大好きです。君島くん…

姫路瑞希の答え

『好きな人の為なら頑張れる』

教師のコメント

先生はこのコメントに感動しまし

小田高名・藤川舞・土屋康太の答え

『欲望に忠実に生きる』

『実験台に限りは無い』

『……性欲を持って余す』

教師のコメント

……

第10問：敵は味方にもいる

「みんな、これからBクラス戦の説明をする」

壇上で雄二が何かを話しているような顔だった。9割寝ている俺には関係グフツ！

「…なんで寝ている俺にチヨークが飛んで来る？」

「劉と姫路。村野姉には前線の部隊長をつとめてもらう」

勝手に決めやがって。後で覚えているゴリラが！

「が、がんばりますっ！」

「さあ愚民共、私を守りなさい！」

『ウオオオオ！』

これだけで殺る気が出るのは人間としても凄い。特に風子さんなのでな

「…俺から言ってもテンション下がるから一言……」

こじこじで一呼吸置いて軽い声で、しかしはっきりとして

「…Bクラス代表の根本には彼女がいる」

『殺せえ！！！！奴を生きてこの学園から出すな！！』

本当に凄い統率力だよ…ええ本当に、悪い方に。

「劉、妖怪学園長から通達。『お前さんの召喚獣に不具合が生じていた、スマナイ。仕様を元に戻しておいた』…これじゃあ操作が違ってくる！あの学園長！」

「落ち着け、あのババア妖怪の事だ。後で利用する」

謝罪されても許せないことがあるのさ！今後はそれをユスリの種に…ふふふふ。

「作戦を説明します。皆さん来てください」

高名が俺らとFクラス首脳陣

(明久バカ、秀吉、雄二ゴリラ、康太ムッシュリーニ、島田、姫路)

に雄二から頼まれた作戦を説明するそうだ。

「今日のミッションは『陽動』です。まずは風子さんと劉。姫路さんにBクラスの先鋒を相手してもらいます。出来れば腕輪を…劉はいいです。お二方には使ってもらいたい。雄二を含めた私達…先鋒以外は二手に分かれて本陣死守と屋上で待機します。坂本は屋上。吉井は」

今回は陽動か。確かに今の俺たちの士気はMAXといってもいい。それは大事に使わなければいけないし…屋上？なんでそんなところで待機するんだ？

ロープで潜入？それも無い。

Fクラスの売りは行動力だが、さすがにそれはできない。

「それと劉。Cクラス代表にこれを渡してください」

「あのヒステリックヤローにか？Cクラスに入ったら出てこれそうにないから却下」

もちろん俺はそんなことで簡単には、納得できない

「RGCのことをFFF団に伝えるぞ？」

「この命に代えても、それを渡しに行こう。安心したまえ」
友人の頼みを見捨てるわけには行かないからな。

「じゃあ…作戦終了は五時だ。いいですね」

『了解！』

こうして12時00分。Fバカ集団クラス対B代表が卑怯者クラスの火蓋が切って落とされた

第11問：村野風子（前書き）

問 以下の問題に答えなさい。

以下の（ ）に入る三つの粒子の名前を書きなさい。
物質 II 多数の粒子（ ）によって構成される。

関戸劉・姫路瑞希の答え

『原子・分子・イオン』

教師のコメント

あなたがたには簡単すぎましたね。

村野草子・風子の答え

『人生・恋愛・友情』

教師のコメント

不正解ですが、この回答には軽しくコメントが出来ません。

小田高名の答え

『OS・CPU・メモリ』

土屋康太の答え

『盗撮・ピッキング・盗聴』

教師のコメント

西村先生の下へ行くように。

第11問：村野風子

side r y u

試験召喚戦争は始まった。俺と姫路、風子さんは前線指揮の為に前にいる。

相手はBクラスだから油断は出来ない。何せ最高ランクの一つ下だからだ。

…ババアに言われた召喚獣を試すのにはもってこいの場所だ！

担当教師は、長谷川先生・木村先生だからだ。Bクラスはそれぞれに2人ずつ、後衛に5人ほどいる…

「姫路と風子さんは長谷川先生の所に、俺は木村先生のところに行く」

「了解です！」

「分かったけど…ちょっといい？」

少々黒い意味の笑顔でこっちに話し掛けてくる。

「べつに…アレを倒してしまっても良いのでしょうか？」

「…ああ、腕輪を使って構わない。やっっちゃってくれ！風子さん」
F a t e…久しぶりにやろうかな？

「それと風子と呼んでください。私も劉と呼びますので…あと、腕輪を使ってもいいのですか？」

「それぐらいなら構わないが…きたぞ！」

「村野さん、来てください」

姫路に呼ばれてあいつ等がいった。さて…死合おうか！

「木村先生！Bクラス大西がFクラス、関戸に勝負を挑みます！」
「同じく金崎も申し込みます！」

相手は：女子2人か。なめられたものだな、俺も

「 ついて来れるか」

『サモン試験召喚』

足元に出来た魔方陣から、俺の召喚獣が出てきたが……

「「素手？」」

「カズヤカズマ？」

相手の女子2人はキョトンと、俺はあのシエルブリットを思い出す
感じた。だとすれば……

「あいつ素手よ！雑魚だわ」

「一気に片付けるわよ！」

『Bクラス 大西和美&金崎貴子 VS 関戸劉 Fクラス
物理 174点 & 168点 VS 724点
』

「何よ？あのでたらめな点数！」

「腕輪もち？勝てるわけ無いじゃない！」

当たり前だ。物理と化学なら負けることは無い。

(日本史と世界史は選択で取れるかで0と1が換わるだけ……)

「お前から相手には腕輪ももつたいない…衝撃のおおおお！ファーストブリット！！」

やっぱりと言わんばかりにシエルブリット第一形態が出てきて、三本の羽を一つ消費して…それが推進力となり2人に殴りかかった。

「お前らは人を愚弄しすぎだ。その雑魚に負けたんだ…クズ以下め」

「…」

俺の言葉に2人は返す言葉が無かったが、ダンボールの中から鉄人が出てきて

「こんにちはMr.インクレディ…西鉄」

「お前、今俺を二度愚弄したな？補習になったら覚えておけ！」

「今のうちに…」

「逃げるわよ…」

あいつら…どこまでいやな奴なんだか？

「それはそうと西鉄。あいつら逃げたぞ？」

「貴様、今俺の名前とあだ名で斬新な苗字を…逃げな！戦死者は補習！！」

さて…

「いいか！俺等が勝った暁には…Fクラスという概念は消えて、最高級の設備があるんだぞ！もしかしたら美人ひ」

『ウオオオオオ！』

『近くの奴から倒せ倒せ!』
『サーチ&デス』

そこはデストロイにしてくれ。

side fuko

〈同時刻〉

「瑞希、少し下がってくれますか?この2人は私が…実際、召喚実習に出ていないのでまったく分からないのですよ」

「それならいいですよ。頑張ってください、村野さん」

「風子でいいわ。そこいらの愚民には呼ばせないけど」

瑞希は優しい人です。しかし私がいけないこともあるのですが…

「長谷川先生、Bクラス岩下律子です! Fクラス村野風子さんに、数学勝負を申し込めます!」

「律子、私も手伝う!」

相手は2人…行きますわよ!

「Fクラスの村野風子!愚民どもに負けるわけが無くてよ!」

「何が愚民よ!試験召喚」

「そうよ!あなた達Fクラスよ!試験召喚」

カチッ(風子の「OSIOKI」スイッチが入ってしまった)

「試験召喚…」

『Bクラス 岩下律子&菊入真由美 VS 村野風子 Fクラス

数学 189点& 151点 VS 454点

」

まあ…腕輪も使いたかったし、この程度で止めておいて正解でしたね。

「っ！あなた本当にFクラス？」

「Fクラスだから何ですか？あそこは…私が私でいられる場所！それは譲りませんわ！」

この点数なら勝つ自信があったわ…召喚獣を見るまでは。

私の召喚獣は赤い王様が羽織るようなマント…武器は無い。それだけの召喚獣

「能力は…なるほど。『エタニティドライブ女王の下僕』」

早速腕輪を使ってみましょう。

私は武器と防具は無い代わりに、自分の点数を消費して、それに応じる強さで…異次元から何かを召喚して戦うものらしいわ。

多分金ぴかの宝具と言えば通じるかしら？あと、私の腕輪は点数を消費して、その点数に応じた召喚獣を操れるらしいわね。今回は94点消費して、愚民A（岩下）を頂きます。また、その召喚獣からでも私の効果は使えるのですね。これを『次元落とし』となすけましょう。

「何！私の召喚獣が操作できない」

「え？そんなの反則よ！」

反則なんて酷いことを…たしかにチート能力ですが。

「ありがとうございます。最高の誉め言葉ですわ。『次元落とし』」
そういつた瞬間、これはグロいですね。愚民Aから影が出てきて、その影が頭から食べて…あの子、失神していませんか？なにぶんグロいに越したことはありませんが。

食べ終わりましたね。出てきたのは

□

□

FATEのバーサーカーですか。これなら私が出すまでもありませんね。

「やっちゃえ！バーサーカー！」

字が違っている？そんなことはありません。

「こんな化け物に勝てるわけが無いじゃない！」

『Fクラス 村野風子&バーサーカー 召喚獣

数学 360点& 250点

□

改めて私の能力がチートなのかが分かりましたが…

「戦死者は補習！」

あの射殺す百頭ナインライブスにたたかれて死んでいます…両手足が吹っ飛んだよ
うですが

「皆さん。このようにグロい映像を突きつけてやりなさい！そうすれば相手は戦意喪失します」

『村野さんに続け！』

「瑞希、アイマスクをとってください。終わりましたよ」

「そうですか、なら教室に戻りましょう。坂本君から頼まれていますし」

「分かりました。行きましょう…瑞希」

第11問：村野風子（後書き）

劉の能力

シエルブリット。

決してスクラードの影響は無いと言い切れない。

第1形態

衝撃のファーストブリット

消費：30点

自分の元々の点数の五分の一を相手一人に与える。

追撃のセカンドブリットダメージ

消費：40点

：ファーストブリットを使用後のみ発動可能。

自分の元々の点数の三分の一を一人に与える。

抹殺のラストブリット

消費：10点

：セカンドブリット使用後のみ発動可能。

攻撃が当たった相手にダメージはないが、第2形態の必殺技のダメージを1.5倍にする。また五秒行動不能になる

以上の力は、一日に一度のみ使用可能。

腕輪『??????』

風子の召喚獣

ドハデなマント服を羽織って、武器も装備も無い。

攻撃方：次元落とし

点数を消費して、その点数に応じた強さを持つ者を異世界から呼び寄せて戦う。

風子の欠点は、『点数を消費しないと戦えない』事。

大差の点を持っていれば、無傷で倒す事も出来るが…風子の召喚獣は戦わない。

本人に似て嫌な召喚獣である。その為に点を消費しなくてはいけない。

腕輪 『女王の下僕』

効果：消費点数に応じて敵召喚獣を支配下において使役出来る。

例：100点消費で200点相当を操れる

なんてチートだ！

また、その召喚獣の点数を消費して…次元落としも使えて、欠点が消える様な感じ。

限定条件

? : 敵代表には使用不可。

理由 : それだけで勝負が決まる

? : 一対一の場合も使用不可

理由 : 上に同じ。

? : 何が出るかは本人の無意識から作成

例 : バーサーカー・金ぴか (Fate)

遊戯 : … などなど。

ゲートオブ・バビロンの人間版

感想え…

風子が強すぎました。しかし自重はしない！

第12問：斬り決り合い（前書き）

問 以下の問題に答えなさい

『バカとテストと召喚獣の作者の名前を答えなさい』

関戸劉の答え

『谷川流』

小田高名の答え

『高橋弥七郎』

藤川舞の答え

『三雲岳斗』

教師のコメント

お前らそこに正座しろ（鉄人）

その他の答え

『井上堅二さん』

教師のコメント

正解です。今月末には第八巻がでますよ

第12問：斬り合い

side r y u

前線の指揮を須川に任せて、俺と姫路と風子はFクラスに向かった。

「でも、どうしてFクラスに行くんですか？」

姫路が暗い雰囲気であんなに話しかけて来た。

何も分からず戻るのには不安が付き纏う。ここの質問するのも頷ける。

「瑞希、Bクラス代表はあの根本です。私達の教室を荒らし回って、なにかを盗って脅迫して来るかも知れませんが」

あの根本だ。ヒステリー馬鹿の彼氏であり、カンニング主義の馬鹿。

「……急ぎましょう」

少し考えた後に、ハツとしたかの様に急いでいた。

「風子、姫路はどうした？」

「鈍感な劉には分かりませんわ」

「少し頭に来る台詞だな。まっ、急ぎますか」

side ????

「失礼します。根本さんに手紙です」

根本に手紙が渡ったのを確認して教室から出た。

side komei

「所で、何で五帝なんて呼ばれているの？全員クラスは同じじゃないのに」

吉井はぼくらにそんな質問を問い掛けて来た。

「今は作戦中ですが、四時までは敵が来ませんし、話しますよ。舞さんと草子さんも良いですね？」

二人は静かに頷いてくれた。

「ありがとうございます。それでは話しましょう皆さんは静かに聞いて下さい」

僕は、そう言い終わると静かに口に出していた。

「まず、五帝と言うのは学園長…ババアで良いですね。そいつにつけられました」

この名前が付けられて、バイトが出来なくなりましたが

「私達にはそれぞれのあだ名があったんです」

「劉が『蒼穹の拳聖』。僕が『星の詠み手』。風子さん達は『海の守護者』。舞さんは『暗黒の薬師』…すべて文月に住んでいる人なら聞いたこともありますよね？」

舞さん以外は、スペックが大きすぎると僕は考える。しかし何故つけられたのかは作者が教えてくれます。

：一万ユニークごとに番外を作成します。今現在は劉のを…

『おい…蒼穹の拳聖って』

『あの不良150人を更生させた！？』

『だが、ケンカは強そうだぞ』

三者三様の反応をしています。

『星の詠み手？聞いたこと無いな』

『しらねえよ』

『小田のことだからハツタリじゃないのか？』

処刑して差し上げます。あとで覚えておいてください、フッフ…

『風子さん罵って下さい』

『草子タンハアハア』

『舞さん俺にほれ薬を!』

.....

「坂本、破戒許可を」

「いいぞ。あと捨てておけ」

よし、これで作戦に差し支えるなんて言わせません。

「あなた方は少し僕を怒らせすぎた...」

『おっ。』

「Greifen Sie Vorbereitungen an
: Vollendung. F?higkeit, besch?
nkte Absagebest?tigung. Ein Ang
riffsanfang」

訳：攻撃準備：完了。能力、限定解除確認。攻撃開始

「アンタ！何てこと言ってるの」

島田さんには通じたらしい。何せドイツ語だからです。舞さんならほとんどの国の言葉を扱えますが…

その後…僕は手元から取り出した弓の弦と舞さん特製の『悪夢針』で…

シュタツ（高名、弓を放ち当てる）

バタンツ（当たった奴が倒れる）

ガクガク（悪夢？にうなされる）

さすがは舞の薬。即効性がある。

「それに、何で一まとめにされたの？」

「あなたはバカですか？いいえ、バカでしたね。学園長は『頭はい

いんだからその頭脳をほかのところに移しな。』とか言われたんです。一まとめにするのも鉄人の監視下に起きたいが為です」

本来、僕達がこの学校に揃ってしまった事が大変な悪事だったのだが、やはり進学校。ある程度の成績を残しておけば簡単に守ってもらえました。

しかし僕達を野放しには出来ません。だから五帝なんて名前を勝手に作って僕等を縛ったわけです

「ふうん…鉄人の監視なんて大変だね」

「そうじゃ。……きたようじゃぞ。雄二」

「じゃあ、私達は配置につくから、あとはよろしくね」

敵がお出ましのようです、僕も隠れなくては。話の中で見つかったらおしまいですからね。

「宜しくお願ひします…草子さん………」

時はさかのぼり

side ryu

「…良かった。何もとられずにすんだ。風子と姫路はどつだ？」

「私はだいじょうぶです。風子ちゃんは？」

「……………根本。あの下郎が！」

…大丈夫じゃないな。この様子からして何かを奪われたのは明白、
確実に根本への怒りの心は臨界点を超えている！

「劉！何をしているの？早く代表につなげなさい！」

「は！はいいい……」

参った…あいつのナルシスト精神が表に出てきている。いつも通り
だが

こうなった風子は草子ぐらいしか止められないし、俺は従わなきゃ
調教されかける…愚民として

『雄二か？大変だ…Bクラスに教室が……………コペツ。坂本さん、風
子です。一つお願いがありますわ』

『少し待て。今劉の悲鳴が…』

『大丈夫です。少々気をうしなっただけですから』

もちろん半分は嘘です。

『で、何なんだ？』

『…根本の弱みがほしい。それと、私の独断ですが……………』

『大丈夫なのか？それは』

『理論上は可能です。ですから頼んでいるのが分からないんですか？死にます？』

『…分かった。勝利の暁にはそれくらいしてやるっ』

『感謝しますわ。それでは』

……………

「瑞希、私は所要でここを去ります。劉を頼みました…襲わないよっ」

「は、はい！わきやりました！」

少々言葉に力がない。

……………根本恭二

奴には学園全体を敵に回して貰いましょう。

第12問：斬り決り合い（後書き）

SHIT！感想もとむ！閑古鳥でS

伝達：一万ユニーク&二千PV達成！

風子のキャラ紹介を作成しました。

追記：次回は外伝です

ただ力を追い求めてきた……

しかし、彼には守るものが出来てしまった……

新たな可能性を紡ぎだす為……

史上最悪の『ケンカ』に挑む！

外伝：蒼穹の拳聖

特別問題：蒼穹の拳聖

冬。本来ならば寒さが身体を覆いフトンの外に出たくないと考えた
だろうが、そうは問屋が降ろさない。今は

「おい…お前の所の妻は平気なのか？」

今、中学生の俺《関戸劉》が雄二の見学（ケンカ）に来てた。

「ああ、問題ない」

やっぱりかという様なゴリラが出て来た。

「雄二は良いよな。守る者があって…その人の為に力をつけるなんて、到底出来ねえ」

「……そうかよ、どうやら俺は翔子を恋愛感情無しに守りたい。そう思っている」

ゴリラにしては良い答えだと思った。流石は神童…って所だな。

俺は、いつも俺の事しか考えないでケンカをしている。…一体何なんだろうな？俺と雄二の差………

「人間か動物かの差だ！」

「まで関戸。いま俺を動物扱いしなかったか？」

雄二が何か言ってる様だ。ゴリラ語なんてわかんないが……

「人もゴリラも動物だ」

「本当に最悪だなっ！……けどな、お前は力の為にどれだけの苦勞があつた。その力が生かせる時が来るさ」

「ゆ…ゴリラ……」

今の一言にはまあまあ重みがある。

「ちょっと待て。言い直す必要がどこにある！」

俺の気紛れだ。

「じゃあな」
「またな」

俺は『高性能ゴリラ：坂本雄二』と別かれた後

「ん？秀吉…か？」

前にいたのは木下だった。優子が秀吉だか分からないわ。面倒な奴としか考えられない。学校は中学から別…何か寂しいわ…

「優子なんだけど…」

優子だったか、やっぱり見分けられん。

「よっ！優子。少しは胸が大きく俺の関節があああ！」

「五月蠅いわね劉！これでも気にしているのよ！」

その言葉にして、どうして力が入るんだ？

「…元気でたか？」

「え？」

会った時に、悲しい顔をしていたのに、優子は俺に普通に接していた。俺が出来るのは――

「何があっただ？」

優子の悲しみを受け止める。

「…つまりは『優等生』の自分と『ありのまま』の自分。どっちが優子なんだかわからなくなった？それで良いのか？」

「……………うん」

優子はうつむいたまま、俺に相槌をうつてくれた。

「……………あっはっはっはっはっ！笑えるぜ優子」

「何よ！これでもちゃんと相だ」

「俺が笑っているのは、お前がそんな程度で迷っているからだ！だからその関節はそっちに曲がったら外れるから！」

「いてえ！いつの間にそんなサブミッション身に着けたんだ？」

「ふざけないで！その程度で終われば劉には相談しないわよ！」

「じゃあ聞けど……」

「あなたは、そこにいますか？」

言っ て見た かつ た台詞 が言え た！！最 高の 日だ！

「何よ！いるに決まっているじゃない！」

「なら、今のお前は『木下優子』だろ？」

「私は木下優子に決まっているでしょ！！そんな事も考えられない頭になったの？」

俺は馬鹿じゃない！

「多分：素でも優等生だとしても、お前はそう答える。簡単じゃないか」

「ッー」

その一言。たったそれだけで優子の悩みが消えた。

「どつちの優子だって良いじゃないか！お前は木下優子。木下優子はお前だろ？」

「どつちでもいい？」

「当たり前だ！……それに、秀吉にも相談出来なかったんだろ？」

「……なんで私の事をわかるの？私でもわからなかった事を」

優子の声が弱々しくなつて来た。もうすぐだ……

「優子。俺はケンカ位しかとりえが無いんだぞ？優子には俺には出来ない事ができている……自分に自信をもて。いつでも相談に乗る」

「……………分かった」

優子が抱き付いてきた。誰かを頼れない、優等生の悩みだ。ち
やんといいい大人になれよ？

「劉、ありがとう」

優子が礼を言うなんて…おかしな日だな。

「別に。じゃあな」

「うん、じゃあね」

(プルルルルルルル)

家に帰って来て、もう午後10時にもなる時に電話がかかって来た

電話の主は秀吉だ。

『はい関戸で……』

『んで、どうするんだ？人質をとったのは良いが、これからどうするんだ？』

『こいつら…おびき寄せる為の餌だからな…ヤっちゃえば？結構可愛いし』

『止めるのじゃ！それに何用でこのような倉庫に…』

.....

『放しなさい、劉と何があったのかは知らないけど私達は関係ないわ』

『何言ってるんだ？今日の夕方にアイツと話してたのは知ってたんだよ！』

『ええい！劉はここに現れる！じゃから、姉上には手を出すな！』

.....

劉、頼んだぞい

プー
プー
プー
プー
プー

s i d e y u k o

「さて…そろそろ手紙を見てくるだろうな？」

「お前ら2人はおとなしくしていな！」

早くきなさい！劉！私はともかく殴られていた秀吉が

「神への懺悔は済ませたか？」

「え？」

そこに見えたのは、

蒼いセミロング髪を肩までなびかせ

全てが見えるような藍色の目。

「遅すぎるわよ。劉」

side ryu

「神への懺悔は済ませたか？」

ようやく見つけた…高名には感謝しなくちゃな。あいつのおかげですぐに場所が分かった。

「遅すぎるわよ。劉」

そこに見えたのは…殴られ続けて、気を失っている秀吉と今にも泣きそうな優子だった。

「ようやくきたか。関戸劉…」

「『鬼殺し』のお前を倒せば俺らが」

「……………るな」

「アア？なんていった？」

「テメエのちいせえ声じゃきこえねえんだよ！」

「……………わるな」

「その薄汚い手で優子と秀吉に触るな。三下が」

俺は…キれていた。

優子や秀吉を襲った奴ら？いいや。違う

…俺にだ。俺のせいで2人を……

『どつやら俺は翔子を恋愛感情無しに守りたい。そう思っている』

こんなときに雄二の言葉を思い出す。

よく考えろ……

今、傷ついているのは誰だ？

秀吉と優子だ。

なら俺は、2人を……

「テメエ！俺らを相手に無事に帰れると思つなよ！」

「お前を倒せば、俺等が最強だ！」

ざっと周りを囲んだ不良…10人か。合計は150人だけど……

『開け…開け…自分の本能を《キャパシティーオープン…クラッシュ》
』』

俺の狂化の合言葉を相手10人にした。

その言葉の合図により

「8541541568475678948676！」

狂った奴らが完成。そいつらに

バキッ

パンチを顔面に一発。丁寧に鼻を狙って

「くそっ！全員でかかれ！」

……

…これから固有結界じみたものが出てきます。ご注意ください

「お前ら…そんなことして楽しいのか？社会のクズ？親不孝？ハッ、俺ならお前らみたいにはならないな。だってそうだろ？お前らは努力を諦めた。だからこそここでいろんな奴らとつるんでいる。別に

つるむのは悪くない、むしろ良い方だ。…自分の悩みを他の人に打ち明けるのがどんなに恥ずかしいことかは分からないだろ？考えることを捨てて自由に生きようとした時点で、人生が終わっているのと同じ義だ。だがな、お前達は今。その間違いが分かった…年も若いしやり直せるんだよ！どんなにクソだとしてもだ。実際、俺は自分のためにしか拳を振るわなかった。…だが、今目標が出来た！私…俺は優子たちを守る！近くの笑顔を守るために戦う！」

「おめえ…強すぎんだよ」

「与えた傷がその髪だけなんて…」

結局、俺は全員の鳩尾を殴って行動不能にした。

俺の髪が半分ナイフで切られるのを引き換えに

「ならやりなおせ。お前らはまだ若い。やり直せるはずだ」
全員気を失った。

その後、秀吉と優子に近づいて

「秀吉…優子……………」

帰ろう！

そのあとにいくらかの噂が立った。

曰く、一つの不良グループが更生して、解散した事

曰く、解散させたのは1人の中学生だという事

曰く、その中学生は蒼い髪で藍色の目だという事

曰く、その中学生はケンカ無敗だという事

曰く、その中学生は『蒼穹の拳聖』と呼ばれるようになったこと

特別問題：蒼穹の拳聖（後書き）

…

…

…

ねーよ。

完全に優子フラグたったし……

一回消えたので、少々文を削りました。

次の外伝は高名です。

ダブルクエスチョンさん、初めての感想をありがとうございます。

第13問：高名の罫（前書き）

問 以下の問題に答えなさい

姫路瑞希の声優は誰でしたか？

関戸劉・小田孔明（笑）の答え

『中原麻衣』

村野草子・風子・坂井舞の答え

『原田ひとみさん』

教師のコメント

どちらも正解です。中原さんはドラマCD・原田さんはアニメ版です
すね。

吉井明久の答え

『姫路さん』

教師のコメント

どうコメントしていいかわかりません

第13問：高名の罫

s i d e k o m e i

現在時刻 16:35。

…まだ時間があります。作戦について確認しますか。

？小山を齎して手紙をあつ肩に渡す。

？時間を決めて屋上に（ぼくらは待ち伏せ）

？一応、元彼女には別れを告げさせる

?フルボッコ!

簡単な手順で死体が精神的にも肉体的にも完成です。皆さんもお試し下さい。

「友香、いるか?」

根本来襲。

《風子さん。好きにして下さい》

《……………》

相当キレてますねコレ。アイツは何をしたのか気になる所です。

「友香。二人っきりの話して何だ?」

「それはね……………」

… Fクラスの皆さんに聞いて
」

「今だ！須川、扉を閉めろ！」

ボタン！

坂本の合図でFFF団の10人で扉を閉める。

「なっ！友香！どっという事だ？」

ゴチャゴチャ五月蠅いです。馬鹿なんですか？死ぬんですか？

「私達、別れましょ！」

小川用（一人一人の隙間）の出口から、小山と根本が…逃げられる
と思わないで下さい。

「……………あなたたちは……………」

一緒にいた高橋先生が溜め息混じりに言い放った。

「まあ身構えないで下さい、人生の負け組で屑でゴミで女装趣味…
さらにはカンニングしないとDクラス並でさっき彼女にフられた根
本」

「……………俺は酷い言い様だな！」

当たり前です。負け組に尊敬の言葉は、ありませんからね。

「交渉です。私達の一人…草子さんとあなたが総合で戦って、星の見える確率で勝てればここは見逃します」

「……いいだろう。ここで断つても、集団攻撃をくらうだけだしな。Fクラス程度の奴に俺が負けるか！」

流石は卑怯者。僕たちと同じで悪知恵だけは働きます。

「やれやれ…去年のあなた方五人は、まだマトモだと思っていましたのに……承認します」

高橋女史が承認した。頼みました。草子さん……

s i d e f u k o

「失礼しますわ、愚者共」

私は坂本くんに頼まれて…いや、頼んだと言う方が正しいかしら。Bクラスに來ています。

「私達の畏によって、Bクラス代表は戦死寸前です」

『やっぱりな』

『これでCクラス設備か』

もう負けているかのような反応です。根本はとことん人望も信頼も人生も将来も過去も現在もないですね。

「私達の提案は…私が指示したときに、根本を使ってAクラスに『試召戦争の準備が出来ている』と行ってほしいのですわ。宣戦布告はしないように。それであなた方の設備のランクダウンはみのがします」

『本当か?』

『これなら…』

『根本なんかよりも信頼できるぜ!』

…………… 本当にこのクラスは……………

「後1つ。根本の人権を譲ってください」

『それぐらいなら…喜んで差し出そう!』

この学園全体は、私の法律です。日本国憲法なんて知りません
交渉は成立しました…

草子、決めなさい!

s i d e k o m e i

どこからともなく『日本国憲法なんて知らない』
なんて聞こえましたが…気のせいですよね?

『試験サテン召喚』

両者に幾何学模様が現れて召喚獣が現れる。

根本のは説明は要りませんね。どうせ惨たらしく死ぬんですし…

草子さんは……

『眼福じゃああああああ！！！！！！！！！』

やはりFクラス。女物には目がないです。土屋なんて一秒に5回ぐらいシャッターを切っているんじゃないか？

『Bクラス 根本恭二

総合科目 2141点 』

根本にしては点数がありますね。カンニングでもしたんですか？

草子さんの召喚獣は、青いスカートにセーラー服。武器は………鉈？

「草子さん！？それって竜宮 ナじゃないですか？」

著作権的にも放送事故的にも問題が多すぎます！

『Fクラス 村野草子

総合科目 7424点 』

「なにいい！なんでそんな奴がFクラスに」

勝負は、草子さんの鉈が根本の首をかつきつて勝負がついた。しかも、草子さんは、肢体をを二十個ぐらいに切った……

「分かったら、姉さんに近づくな」

…こわいですよ。本当にこわいですよ。

《Fクラス WIN!》

第13問：高名の毘（後書き）

根本がしたことは

『風子の家族写真』がズタズタに……

根本。この程度で許されると思うなよ？

p s ・根本は原作で一番嫌いです。

特別問題：鉄人の補習

side r y u

「全く…なんで来週からテストなんだ！夏休みにテストとかイカレてやがる！！」

いまは夏休み。心が躍る最高の月だった筈だったが…

「黙れ劉。テスト一つで騒がしくしないでください」

相変わらずつるさい高名。いいかげん殴りたくなってくる。

「そつだよね。今さらはしゃいでいても大変だよ…って聞いている、劉君？」

俺には分からん単語が多すぎる。自分でもこの頭でよく高校に入れたと感動している。

もちろんあの観察処分者よりは頭がいいとは自負している。

「関戸くん、小田さん。草子さんは学年主席です。毎回2教科しか受けませんが、全てあわせると五桁も夢じゃないですから。そんな話をきいても駄目です」

流石は舞だ。いうときは言ってくれる、真面目にピシヤリと草子を黙らせた。シツカリとした人だな…

「さあ関戸くん。私と2人つきりで薬学の実験をしましょうか」
前言撤回をしよう。やっぱり舞には、常識を教えてあげないといけない。

「ちょっとまって！俺は理科だけ出来れば良いんだ！鉄人の補習を受けない程度に！」

「劉さんはだまって？あの死神にあれだけ言われて悔しくないのですか？だから勉強しますこと！」

最近、風子さんの実態が分からなくなってきた今日この頃。

「趣旨が違います…関戸くんは、あの化け物に報復したいのではありませんからそのための薬を…」

「俺からすれば、二人とも趣旨がずれてしまっているんだけどな！」

「劉君、勉強教えてあげようか？」

「劉、人の殺し方を教えよう」

草子が勉強を？それは助かる…

二人共同じ様な顔でそんな事を言うのか。

？はっ！殺気っ！

「食らうかあっ！」

飛んで来たのは謎のカプセル。それは多分舞の睡眠薬！やはり犯人は舞かつ、あんな薬誰も

「折角藤川さんから貰った薬が、もつたいない事をしましたね」

舞、悪かった。後で謝るから許してくれ…

「アラッシャアアア！」

そうして、俺はあのフヌケ孔明の腐れ顔にハイキックをして、おまけに股間への攻撃も忘れない！

「（、）グボアッ！」

「君がつ！亡くなるまでっ！蹴るのを！止めないっ！」

オラオラは封印中だ。我慢しなさい

見事に撃沈。やっぱり武力は低いな。頭はいいのに…

「さて、追い討ちをしておくか！消えろ、自分の薬で！」

そう言つて、舞たち三人を眠らせた。俺をバカだの罵つた結果だ！

「お前ら何をやっている？おっと、窓から飛び降りるのはなしだぞ？」

いつの間にか鉄人来襲…くそっ！俺たちの咄嗟の行動も静止するとは、なんて奴だ？

「先生、これは藤川さんの薬のせいです。西鉄さんもお分かりですよ」

さすがだぞ！こういえば大体は消えてくれる！さあ、とつとと教室から

「飲ませたのは劉ですが。」

きえて…貴様…自分の保身ばかり考えやがって、なんて奴だ？

俺もお前を売ってやる！じぶんの行いを呪うがいい！

「違います！小田孔明（笑）が、持って来た酒を隠すためにこんなことをしたんです！」

「何て事をいうんだ君は！」

「そうか…2人とも、鉄拳制裁と精神崩壊。好きなほうを選ばせてやる。今のうちに命乞いでもするんだな」

何だって？こんな事をされては、当分の間社会復帰が出来なくなる！

高名…おまえも同じことを考えていたか。ならいくぞ！

「先生！生徒指導を受けますから劉（高名）を好きにしてください！」

俺たちはどこまで腐っているのかが実感できた。

「もういい。おまえら2人とも中国語で反省文を書いてから帰れ。それまでは返さんぞ？」

「だから…何で反省文が中国語なんだよ！習ってもいないのに書け

るか！」

実際に言つとこれで大体三桁分くらい書いている。

「悪い。もう覚えただろうから、辞書を忘れてしまったしな。…とつとと書け。書いたら返してやるからな」

今日、俺たちが開放されたのは…夜の9時30分だった…腹減った

特別問題：鉄人の補習（後書き）

簡単な外伝です。

劉たちの夏休みを描かせていただきました。

少々雑ですが、これは自分の過去作から少々転写しています。もちろん公開はしていませんが。もち

次回！Aクラスへ宣戦布告！一騎打ちが……

『俺とFクラスとボロ教室』！

第14問：二人の覚悟（前書き）

問 以下の問いの（ ）を埋めなさい。

江戸幕府八代将軍は（ ）である。

吉井明久・姫路瑞希・村野草子・風子の答え
『徳川吉宗』

教師のコメント
正解です。しかし、吉井君の名前を見ただけでバツをつけた先生を許してください。

関戸劉の答え

『征服王イスカンドル』

小田高名の答え

『金ぴかWWW』

藤川舞の答え

『アーサー王』

教師のコメント

Fateのやりすぎです。

第14問：二人の覚悟

side komei

「さて、戦後対談と行きますか。人権を失ったゴミ」

いま、坂本と風子さん。そして僕がいます。バカ劉は舞さんの薬で気絶しているので、草子さん達が見ているでしょう。

劉（笑）は交渉が苦手ですからね。僕が来ている訳ですが…

「なんで貴方が、…潜入捜査中では？スネーク」

「おれをスネークと呼んだのは貴様が初めてだ」

そう笑いながら言うて来る。…目以外は笑っています。本当に…

「さあ、このゴミの女装撮影会を始めましょう。浴衣やナース服は言うに及ばずスカートやチャイナドレス、ネコミミ……………言つてて気持ち悪いので、後はBクラスに頼みますわ。オーッホッホッ
！」

撮影したのをムツツリ商会と協力して全国ネットで流しましょうか。彼の社会的な死を！笑いが止まりません！

「カンニングの証拠を、ババアに提示しておきますので、退学とまでは行きませんが…クラス代表からは落とされるでしょうし、何でも良いです。ご自由に」

『日頃の怨み！倍返しだぁ！』

『今死ね！すぐ死ね！骨まで砕ける！』

『どうしたのかな？かな！』

何か勇 王。バル トスト ナが見えたけど気のせいです。しかも根本は喋ってすらいません。

「坂本、貴方がAクラスの代表と一騎打ちするのですよね？」

放課後。屋上で坂本と二人で話しています。霧島さんには了承済みですよ？

「大丈夫です。土屋の盗聴は、カットさせていますから」

勿論抜かりはありませんから、ご安心下さい。

「……ああ、教師どもに『世の中、勉強だけが全て』じゃない事を証明する為だ。……高名、お前の考えは？」

確かにそうですね。勉強ができた坂本が言うと、何故か説得力があります。

「……一参謀として言いますと賛成ですが、坂本の学力を考えると反対です。何せ小学生レベルの問題で躓きそうですから」

「……………何も言えない自分がムカつく」

図星でしたか。

「ですから、7人の代表戦を提案します。土屋などの単科が勝負の人材を使いやすく出来ます。……………どうですか？」

「…ウチの参謀がそう言ったんだ。なら従うまでだ」

「やはり小学生レベルの問題で躓きますか？」

「……………善処するしかないえんな」

「僕は、この学園の考えをほとんど否定するために来たようなものです」

このカリスマ性は…風子さんに匹敵するぞ？なんて奴だ…

「さすがはお山の大将…おっと」

「やっぱりかわしたか…」

「俺は今おねむだ。邪魔するなら消す！存在を」

ビュン！とした勢いで俺にチョークが飛んできたが、普通にかわして…後ろの高名に！死んでしまえ！

「おいゴミ劉。今僕に死んでしまえ！なんて思いませんでした？僕も同感です！死んでしまいなさい！」

「皆ありがとう。しかし残るAクラス戦団体による5対5で決めたと思う。オレはAクラス代表の翔子と戦う」

雄二のスルースキルは欲しいと思ったのは、今だと思う。

「上等だ！表出やがれ！」

「望むところですよ！今日こそこの入っばこを還して殺ります！」

「ヘツポコ？おまえじゃあないのか？それと本気でかかって来い！」

「上等です！外に」

「駄目だ！今外に出たら」

ガラッ！（俺と高名。ドアから外に出る）

バキゴキッ（鉄人にみづかり、鉄拳制裁）

ガラッシャーン（教卓を壊しながら、卓袱台を数個巻き添えに吹っ飛ぶ）

「教室から出るんじゃない」
『了解です』

この鉄人への返事は、俺以外のクラス全員で返事したそうさ。

はっ！ここは…

「気が付いた…良かった」

明久が安堵の声と顔になっていた。どうやら助けられたそうだ。

「サンキュー。明久…話しは変わるが、試召戦争のことはどうなった？」

「え〜っと…7対7の代表戦になったよ。三本先取で勝ちだからね」

「は？三本先取？どういうことだ？」

「実は…その内の2戦をペアの対戦になったんだ」

「ペア？…大方村野姉妹と康太&舞だろうし…」

「とりあえずは助かった。俺はテストを受けてから帰るわ。じゃあな…明久」

「じゃあね。劉」

こうして、俺は帰路についた。

第14問：二人の覚悟（後書き）

PV19796

え？

これじゃあ、すぐに高名（謎）伝書かなきゃいけなくなる！

本編進めるから、外伝だけはお助けを！

感想求む！評価も！閑古鳥が108ぐらい鳴いているよ！

第15問：出落ちキャラは必要？

side komei

「それではAクラス対Fクラスの試召戦争を始めます。両代表…準備は良いですか？」

「……はい」

「こつちも問題ない。始めてくれ」

高橋女史が霧島さんと坂本に確認とって、試召戦争の火蓋が切って落されました。第1試合は……

「姫路、頼んだ」

「分かりましたっ」

うちのエース・姫路さん。対する相手は

「なら、僕が行こう」

姫路さんの“おこぼれ”で学年次席になったガチホ…久保でした。

あ、科目指定権はこっちにあります。雄二の特別写真集を渡して買収成功。

科目を指定すれば教師にも負けない、僕たちには破格の条件です。

「科目はどうしますか？」

僕のローカルライン『たかな ねっと』だと、久保と姫路さんの総合科目の点数差は、20点あるかないかです…そうなるよ

「総合科目でお願いしますっ！」

姫路さんが答えていた。少し誤算ですね……

高橋先生がノートパソコン（高名印）を捜査しました。あれで、科目を操作している様ですね。…こんど使用料を請求しなくては

『試験サテン召喚』

2人の召喚獣が呼び出されて、………一瞬でケリが付きました。

『Aクラス 久保利光 VS 姫路瑞希 Fクラス
総合科目 3997点 VS 4409点』

『ま、マジか!?!』

『いつの間に!?!』

至る所から驚きと賞賛のこえがあがりました。

「……私、このクラスの皆が好きなんです。人の為に一生懸命な皆のいるFクラスが。…だから、頑張れるんです」

嬉しい台詞を言ってくれますね。劉はとっと思いに気付いてあげるべきですよ。手が滑って、殺したくなります。

「まずFクラスの1勝です」

高橋先生がパソコンを操作しました。いきなり負けるのは驚きましたか？

「では第2試合です…どつぞ」

「……………任せろ」

「私が、保険体育で負けると思っているんですか？」

Fクラスからは保険体育のWエース。土屋と舞さんが…Aクラスは

「去年に転校して来た工藤愛子です」

「久しぶりだな…薬学王」

工藤さんと……誰だ？あんな炎髪の奴なんて

「……………マスター、お手合わせ願います」

マスター？まさか…舞さんが言っていた、『師匠』って…

「今月限りで、ハーバートに転校する、福間雷太です」

福間雷太…たしか、福間病院の跡取り！だとしたら……

「それでは第2試合を始めて下さい」

フィールドは保険体育

『サマシ試験召喚』

『Fクラス 土屋康太&藤川舞
保険体育 461点 & 510点』

「舞！不調なのか？」

劉が声を張って言う。僕もあの点数はおかしいと……

「今回は……あの……土屋くんの方がやりやすかったんじゃない……」

エロ方面が多かったんですか。なら………

『Aクラス 工藤愛子&福間雷太
保険体育 421点 & 712点』

「何だと？こいつらに保険体育で勝つなんて！」

坂本が誤算の様な声をあげていた。

アイツ…福間の召喚獣は、白衣を黒くした…黒衣と言いましょ。武器は、メスですか。逆にメス以外が出たら故障ですよ。

「行きますよい！同化！！」

福間が腕輪の発動をしました。すると、いきなり

「消えた？」

「……………気配がない」

土屋が分からないくらいです。どこに

「土屋、後ろですよ」

「……………不覚」

後ろをとられた、土屋の召喚獣を福間の召喚獣が……………

吸収された。

と言った方が正しいですかね。姿もなく、点数も残っているのに戦死扱って

「どんだけ反則な腕輪なんですか？」

「貴方には言われたくない」

一言で返された。そこまでチートじゃありませんからね！

「…私一人じゃ勝てません。棄権させていただきます」

舞さんの棄権で試合終了。今回は、運が悪かったと考えるべきです

「薬学王…いや、舞。『研究者は疑問が消えたら終わり』……忘れ
るな」

「はい。マイスター……雷太さん。私は貴方を超えます！」

回りから拍手喝采が、至る所から飛び散ります。

「じゃあ、代表。最後にたのしめたっ…元気だな」

「……………ありがとう。福間」

そう言って、出て行った……………彼は出落ちキャラなのか？

注：名前と外伝は出します！出落ち何て、いわないで！

「これで1対1です」

第15問：出落ちキャラは必要？（後書き）

玉野さん&狂戦士WWW

8巻吹きまくりです。

葉賀さんの絵も上手ですし…

こんな気分です。

『『『YEAH! Let's Party!』』』

すみません…バカテストは次回記載します。

第16問：Fへの手向け（前書き）

以下の（ ）（ ）に当てはまる歴史上の人物を答えなさい。

楽市楽座や閑所の撤廃を行い、商工業や経済の発展を促したのは（ ）である。

姫路瑞希・村野風子の答え

『織田信長』

教師のコメント

正解です。

吉井明久の答え

『ノブ』

小田高名の答え

『信ちゃん』

教師のコメント

ちよっと馴れ馴れしいと思います

関戸劉の答え

『泣かぬなら 殺してしまえ！ホトトギス』

教師のコメント

うる覚えにもほどがあります。それは…

第16問：Fへの手向け

「それでは、第3試合を始めます。代表者は前へ」

3 試合目……ここを落とすと、後が辛いです。

「……僕が行きましょう、代表」

「頼んだ、孔明」

雄二？あとでOHANASSIしましょうか。

「高橋先生……貴女と古典で勝負させて貰えませんか？」

『何を言っているんだ！』

『勝ち目があると思っているのか？』

相変わらず五月蠅い周りの声が、怒号となって襲いかかります

「坂本……最悪『引き分け』に持ち込みますから」

「……」

ここは坂本も考え物です。なんせ、相手は高橋女史の上、負けたら後がありませんから。

代表には僕の腕輪の事……代償を含めて教えてあります。情報処理を使えば引き分けにできます。

「……………分かった。好きにしる高名」

「ありがとうございます。高橋先生は良いですか？」

ここでAクラスが文句を言う事は無い。なんせ高橋女史が力を貸す………とんでもなく強くなるからだ。

「……………私達は構わない」

「分かりました。科目を古典で承認します」

さあ……こんな大舞台！簡単には終わらせません！

「Identifikationsnummer 187
428 000!」

(ドイツ語：識別コードno5 187 428 000!)

『試験召喚』

さあ、殺りましようか!

半年間おさらばするんです!むちゃくちゃにしてやります。

『学年主任 高橋洋子 VS 小田高名 Fクラス
古典 726点 VS 651点』

高橋先生の武器は鞭。僕の鎖よりは、攻撃力は低そうですが、範囲は相手の方が広い。

おまけに召喚獣の操作は吉井並です……本当に厄介ですよ。

「そっちから来ない様でしたら、私から行きます」

高橋先生の召喚獣が鞭を振るい始めた。やはり操作が上手です！出鱈目に振り回している様に見せかけて、僕の召喚獣を狙っています。

「ハアッ！」

しかし、鎖を天井にかけて、ターザンジャンプみたいにかわした。

「ハアッ！」

高名の召喚獣が、鎖を鞭に絡ませる。召喚獣同士が綱引きの要領で引っ張り合っていた。

「さあ我慢比べです。どちらが先に力尽きますかね？」

「望む所です！」

『学年主任 高橋洋子 VS 小田高名 Fクラス
古典 584点 VS 530点』

差が迫って来ましたか！僕の鎖自体に触れていると、防御を下げられます。

「流石は小田さんの息子です」

言い忘れてましたが、僕の母さんはこの卒業生です。高橋先生に、一度も勝てないでいた次席ですが。

「……そうですね。勉強だけが全てではないんです。貴女に思わせなかった、母の分まで、僕はあー！」

綱引き状態で膠着のまま、高名の召喚獣は、自分の首を切った。

「なにやってんだよ！自分を攻撃しても意味なんてねえ！高橋女史を倒せ！」

「……いいえ。これは腕輪の発動の為ですわ」

劉は風子の話しを聞いて、少しは落ち着くが、まだ納得はしていない。

「関戸劉！暫し見なさい！これが、貴方をライバルと認めた小田高名の力です！」

召喚獣から、吹き出た血が魔方陣を描き……高名の召喚獣の腕輪が

光っていた。

「腕輪？鎖のせいだ……」

そうです！これを狙って膠着状態にしたんですから！

「^{ベルレ}騎英の………」

「くっ」

ラストオ！

「^{フォー}手綱！！」

魔方阵から出て来た……天馬が、一直線に高橋先生の召喚獣を、攻撃した。

『学年主任 高橋洋子 VS 小田高名 Fクラス

古典 84点 VS 30点

』

「まだ点数が？なんて強さだ！」

「ふう……まさかここまでとは……《再生》」

高橋先生の腕輪が光って……

『学年主任 高橋洋子

古典 762点 』

点数が戻っていた。

「小田さん、とどめと？」

しかし、この絶望的状况の中……高名は笑っていた。

「確認します。これは高橋先生が承認して出来たフィール
ドですよね」

「はい。私が承認しましたが、貴方の腕輪は使えませんよ?」

やはりこの事を見越して、使われない様に……………でも

「……………インフイニティ・リパース情報処理」

「な?」

高橋先生も驚く。しかし腕輪を使えない筈なのに

腕輪が光っていた。

「おいしいおいしい。先生が腕輪を使わなければ負けてましたよ」

「な？…どういう意味ですか、小田くん」

高橋女史も不思議がっています。単科の勝負では、僕の腕輪は圧倒的ですからね。代表相手には使えないのが勺ですよ。

「僕の情報処理…インフィニティ・リバーは…高橋先生か鉄人先生による承認…もしくは相手が十人以上必要ですね？」

「ええ。それは間違いありません」

「だけど…単科で300点離れていても使えるらしいです。もっとも…2分の時間制限がありますので」

「そうでしたか…」

さて…とつとと決着をつけさせてもらいます。

「高橋先生。その鎖を繋いだままなのは失敗じゃないんですか？」

再び僕の鎖で地の魔法人が描かれる。

『Fクラス 小田高名
技術 4121点』

「…はい。どうやら、逃げる力が出ませんね」

そりゃあそうです。5倍は点数差がありますから。これで抜け出せるのは、明久と力任せの劉だけですから

「…ヘルレフオーン 騎英の手綱」

ぼくの天馬が、高橋先生の召喚獣の上半身を打ち抜いた……

「私の負けです。小田さん…親を超えましたね」

「やめてください。腕輪が二個もあるほうがチートですから」

やばっ…意識が消える……

「劉…負けちまえ」

第16問：Fへの手向け（後書き）

高名k t k r

高橋女史の腕輪…再生にしました！勝手に！

効果：一月に一度、点数を試験召喚で減らされた分回復できる。

今回は明久・劉VS佐藤・優子です！

第17問：吉井明久（前書き）

問 以下の英文の（ ）に単語を入れて正しい文章を作り、訳しなさい。

『 She () a bus .
』

姫路瑞希・藤川舞・村野草子の答え

『 She (took) a bus .
』

訳：彼女はバスに乗りました。』

教師のコメント

正解です。他に“bus”に使われる単語としては、“get”などがありますね。

177

関戸劉の答え

『 She (steal) a bus
』

教師のコメント

彼女はバスを盗みました。

小田高名の答え

『 She (break) a bus
』

教師のコメント

後で関戸君と職員室へ

村野風子の答え

『She (DEAD) in bus』

教師のコメント

風子さんも来てください。問題文改ざんについても、話しがありません

第17問：吉井明久

side akihisa

「霧島さん…せっかく機会を与えていただいたのにすみません」

霧島さんに謝る高橋先生。さすがに謝らないといけないな。学年主任が一生徒に負けた…腕輪の能力や、武器について知られていたとしても…代わりに戦った以上、責任もあるんだしね。

「……しょうがないです。高橋先生が、勝てないなら…私達も勝てない」

霧島さんはやさしい人だなあ…美人だし。胸も大きい。……美波からの殺気が漂ってきたから、この話しは止めよう。さあ！これで後一勝だ！次はタッグ戦だから村野さん姉妹でいくのかな？コンビネーションもよさそうだし。

「…これで二対一です。第四試合をはじめます」

さすがに焦りも出ている…Fクラスなんかには二勝もされたからだろう。

「こっちは劉と明久」

うんうん。劉と僕が次の試合

「マテやゴルアア！」

渾身のハイキックをかわされた。チイツ！雄二め、良いかんしてやる！

「私が行きます」

「わたしも行くわ」

Aクラスは秀吉のお姉さん・優子さんと佐藤さん。どちらも定期テストで一桁に入る実力者だ。

「よし！いくぞ明久」

「はい！科目は数学で！」

…しまった！劉は数学は得意じゃないんだ！

「ちょっと」

「承認します」

高橋先生の無残な一言により、僕達の勝敗が決まった。

『 Aクラス 木下優子&佐藤美穂 VS 関戸劉&吉井明久

Fクラス

数学 314点 & 305点 VS 64点&

72点

』

side komei

「……………劉……………」

僕が気絶から、回復したと思ったら…劉が負けていやがりました。

「殺せ。そのほうが清らしい」

良く出来ました

「さあ一人ずつ殺してやります！まずは眼鏡やんきー劉！お前からです」

大丈夫です。吉井も抹殺対象に入っていますから。

「ノリ・メ・タンゲレ
我に触れぬ」

某毒舌シスターの赤い布を取り出した。

「おい！動けないぞ！何なんだ？」

「どうして僕までつかまるのさ？」

吉井も捕まっていたか。好都合…何故持っているのかは秘密です。

「さあ、異端審問会のみなさん。彼らを処刑した暁には、ムツツリ商会の割引券を差し上げましょう」

その言葉に須川が

『了解した。盟友の頼みあらば断れん』

『殺せえええ！』

「クズ高名い！あとでおぼギヤアアアア！」

「小田君！君もぼくのとぎやあああああ！」

いうでしょう？

『人の悲鳴は蜜の味と』

「……………早く終わらせてくれ」

「さ、最後の一人、どうぞ」

高橋先生もさすがに動揺が隠せないようです。フルセットに持ち込んだだけで、快挙と言っていいくらいですからね。

「……はい」

「俺の出番だな」

そして、最後の一人は当然代表対決。

「教科はどうしますか？」

「教科は日本史、内容は小学生レベルで方式は百点満点の上限ありだ！」

<上限あり!?!?>

<しかも小学生レベル！満点確実じゃないか>

「わかりました。そうになると問題を用意しなくてはいけませんね。少しこのまま待っていてください」

高橋先生はそう言って退出した。

「雄二、あとは任せましたよ？まけたら……」

「ああ。任されたが…その怨念じみた感じが怖い。やめてくれ」

日本史勝負 限定テスト 100点満点

Aクラス 霧島翔子 97点

VS

Fクラス 坂本雄二 53点

∴ Fクラスの卓袱台がみかん箱になりました。

雄二に一言。

い。そんな理想論しか出せないのだったら……そのまま溺死してください。

第17問：吉井明久（後書き）

終わったー。一巻オワッター。

感想&評価をもとみゅー！…

見たらつけてもらえますか・宜しくお願いします…

最後がむちゃくちゃでしたが終わりましたよ？

なお、アンケートをとります。

ぶっちゃけ、劉が主役なのに…高名メインで出しました。

それなので第二巻は…

？やっぱり主人公！劉が主役

？この二人は困惑？村野姉妹！

？静かに時勢を見極める…舞の独壇場！

？原作をぶち壊せ！5人が主役！（高名は助演）

どれ…でも原作ブレイク確定です。
現在もその通りですし…

次回にエピソードを入れた後に高名伝です！三部作の一話を入れま
す！！！！

宣伝です

水銀さん！キャラ採用ありがとうございます！

《バカと天才と運命》^{デステイニー}。主人公の名前が同じです。

鳳凰劉の凡人のようでバカな物語にも立ち寄ってみてください！

第18問：げえっ！鉄人！（前書き）

問 以下の問いに答えなさい

暑い夏には欠かせないのがかき氷です。かき氷など冷たい食べ物を急いで食べると、こめかみのあたりが痛くなります。この症状の名前を答えなさい

藤川舞の答え

アイスクリーム頭痛といい、『ice cream headache（アイス クリーム ヘッドエイク）という別の呼び名もあります。かき氷などの冷たい食べ物（刺激の強い物）を一気に食べると、上あごの奥にある三叉神経から脳へ『冷たい』と感じる刺激が伝わるのですが、その刺激を脳は『冷たさ』ではなく『痛み』と感じてしまうのが頭痛の原因です。特にかき氷を

教師のコメント

詳しくすぎです

関戸劉の答え

『キンキン病』

村野草子の答え

『かき氷病』

村野風子の答え

『かき氷病』

教師のコメント

誰かはかくとっていました

吉井明久の答え

『その前に鉄人に殴られて痛かったから』

教師^{鉄人}のコメント

あとで補習室に来い。

第18問：げえっ！鉄人！

「……雄二、私の勝ち」

代表様……その一言で処遇を

「……………殺せ」

良く出来ました。貴方は劉と同じ目に合わせましょう。

「上等だ！今殺してやる！」

「楽に理想郷アウアロン何かに逝けると思うなよ！」

吉井と劉……君達がいえる事では無いんですよ？それに、僕より先に処刑しないで下さい。

「大体53点って何だよ！名前の書き忘れならまだ

」

「いかにも、俺の全力だ」

「雄ニイイイ！」

「非人類のゴリラ！冥界に逝きな！」

五月蠅いです。

「ノリ・メ・タンゲレ
我に触れぬ」

「「またかつ！」」

再び捕獲完了！ハハハハハハ！どんな豚の様な悲鳴をアゲルノカ、
タノシミジヤナイデスカ！

「……………孔明（笑）が壊れた」

「ええい！落ち着くのじゃ小田！」

少し悪ノリしただけですよ!……少し

「……雄二、約束」

「ああ…何でも一つ言う事を聞く。だろ?」

「………(パシャパシャパシャ)」

………前言撤回です。参謀にそんな事を言わないのは、十分に裏切り行為ですから。ただで死ぬると思わないで下さいね?それと

流石は土屋、準備が早いです。

「分かっている。何でも言え」

潔い坂本の返事…

「………それじゃ」

霧島さんが姫路さんに視線を送りましたが、再び坂本に戻しました。

そして、小さく息を吸って

「……雄二、私と付き合って」

言い切りました。そうですか………試召戦争のA級戦犯だけじゃ飽きたらず。彼女まで………

(プツン！)

「霧島さん。この布をあげましょう」

僕があげたのは

あの赤い布。ロシアで3枚買ったんですよ。まさか、実在するとは思いませんでしたが

「『我に触れぬ』と言って投げれば、手錠より効果がありますよ」

「……ありがとう。小田はいい人」

「……拒否権は？」

「……ない。約束だから。今からデートに行く」

「グアツ！放せ！やっぱこの約束はなかったことに」

ぐいっ

つつかつか

霧島さんに首根っこをつかまれて、教室を出て行きました。

「……………」

「……………」

全員、告白の段階で放心状態でしたから、声が出ないのは分かりません。

「さて、Fクラスの皆。お遊びの時間は終わりだ」

そう言って出て来たのは…暑苦しい、筋骨隆々。趣味がトライアス

ロンの

「来たか。西鉄」

「担任でも無いのに…邪魔ですよスネーク」

何故そう呼ぶか？最近やった、迷彩服をきた主人公のゲームのこえに、とてもにているからです。

「……お前らは、まあいい。今からFクラスに補習についての説明をしようと思ってるな」

『えっ？』

えっ？なんで『我が』なんですか？

「おめでとう。お前らは戦争に負けたおかげで、福原先生から俺に担任が変わるそうさ。これから一年、死に物狂いで勉強が出来るぞ」

「『何いつ？』」

……担任がスネーク。抜け出すのには、骨が折れますね。あだ名が『鉄人』や『鬼』なだけに、絶対に引いては行けないカードですよ？

「いいか。確かにお前たちはよくやった。Fクラスがここまで来るとは、正直思わなかった。でもな、幾ら“学力が全てではない”と言っても、人生を渡っていく上では強力な武器の一つなんだ。全てじゃないからと言って、蔑にしている物じゃない」

全て坂本のせいです！暗記が物をいう歴史で、勉強をしていなかった雄二に出来るわけが無かったことを気づけば……

「吉井と坂本、お前ら……小田以外の4人は特に念入りに監視してやる。何せ開校以来初の『観察処分者』と『A級戦犯』。それに、学業以外は問題大りの四人だからな」

「そうはいきませんよ！ 何としても監視の目を掻い潜って、今まで通り楽しい学園生活を過ごして見せます！」

「俺もだ！なんでクソ高名だけ外れてんだよ？絶対に平穩を取り戻す！」

「私も！学校で遊べないなんて、そんなの学校じゃない！」

「私ですわ。ここは私をたたえるべき場所なのです。なのに監視なんてあんまりですよ！」

「さすがに私も困ります。薬学室作成の夢が……」

「……お前らには、悔い改めるといふ発想はないのか？村野妹。ここは勉強をするところだ……本来なら学年主席なんだが」

へえ。スネーク……鉄人でも悩みがあるんですか。

「とりあえず明日から、授業とは別に補習の時間を2時間設けてやるわ」

「うーん……そうだね。また3ヶ月後に鉄人の魔の手から逃れるって目標が新しく出来たから、やってみようか」

「やる気が出たのはうれしいが、もうちょっとマシな理由はないのか？」

あるわけが無いでしょう。私達には

「僕は用事があるので失礼します」

「おい高名！ここから助け……」

すみません。これだけは駄目なんです。

『こちらハ ミット。これからNASAに向かいます』

『こちら本部。了解しました。NASAには、研修生として向かってもらいます。任務が終わり次第…お前は組織とは縁が切れる…その約束で良いんですよ』

『…はい。こちらとしては、とつと縁を切りたいところですから。また文月学園に戻るために』

『了解。通信おわります』

この学校…楽しかったですよ。また来れると知っていても、涙が出るくらいだ。

さよなら

【僕の仲間へ】

唐突ですが、手紙でしか話せないことを許してください

劉…少しの間、お別れです。しかし、話や情報を届けるために『高名式自立稼動パソコン』を家に送っておきます。僕だと思って口喧嘩でもしてください。

風子さん…貴方は王女？のたしなみを整えてくださいよ？またあつたときにも傲慢だったら、困りますし。

草子さん…貴女の気持ちは絶対に通じます。頑張ってください…僕は、父さんに言われて海外に行きますから。

舞さん…帰ってきたときには、多分『風邪』をひいてしまっている

でしょう。貴方の薬に期待します。幸せの白い粉なんて飲ませないで下さいよ？

最後になります。

みなさん。いつも通り、バカに過ごして下さい。そうでないと僕の居場所が取られたような気がしてなりません。

また、会えます

小田 高名

第18問：げえっ！鉄人！（後書き）

問題はバカとテストと召喚獣 バカテスト編から頂きました。

NIGHTさん。この場を借りてお礼を申し上げます。

アンケート通もこない！かいて一日だからしょうがないけど……

次回！『オダタカナ・中学の始まり』（仮）

過去問題：オダタカナ 1話

ロサンゼルス行き。間もなく離陸します。シートベルトをお
絞め下さい。

僕こと小田高名は、文月学園を出て…アメリカへの飛行機に搭乗し
ています。

理由は、Fクラスに戻る為です。3ヶ月の間、試召戦争は出来ない
んですから。どうせみかん箱で過ごしているんでしょっかね。

眠い…少し寝ましようか

「これより、皆野崎中学の入学式を始めます。生徒代表の言葉……一年B組、小田高名」

「…はい」

実際、この時は全然やる気がしなかった。入学式前日に父さんから『始業式の生徒代表の言葉を話せ。失敗は許さない』何て言われてもやる気がある人、いると思いますか？それこそ凄いですよ。

「生徒代表。小田高名」

（パチパチパチパチ）

拍手が婦人席から飛んで来るが、大方9割は父さんの機嫌取りだろう。そうやる大人の姿は最低。その一言につきました。

クラスでもそうです。

「ねえ！あの小田社長の子何でしょ？」

「小遣い幾ら貰っているの？」

父さんのせいで、朝は質問攻め。

「……小田社長の息子ってのは、本当です。小遣いは月10000円ですよ。多分…そこまで変わりは無いと思います。家も普通のマンションですし」

実際、小遣いは自分から言いました。『こんなに貰うと、金銭感覚が無くなります！』と。マンションも『大きな所に住むより、普通の家に住んで、そのお金を貯金しましょう』といいました。当然父さんは反対しましたが、母さんと僕が説得した為にこうなっただけです。

学校でも

「社長の息子だが何だか知らねえがよお！」

「あんまり調子にのんなよ！」

もちろん、いじめらしき事もありましたが、その度に返り討ちにして

「あんな父さんから生まれたのが最大の汚点です。……次にそんな事を言ったら 自分を押さえる自信がありませんから」

ほんのり殺意を込めた視線を送ったら、全員気絶してしまった。

そのことが、学校にはれて反省文を書かされましたが、父さんは『何でも一番を目指せ』。それだけの言葉でした。母さんは、ずっと会社で働きっぱなしでした。……この時でしょうか？この会社を乗っ取って、母さんと2人で暮そうと考えたのは。

クラスに、喧嘩の話が出て来て…殆どの人が近寄りなくなりました。あの二人以外は

「すみません。私わたくし、宿題を忘れてしまって…見せて貰えませんか？」

その人は　綺麗だった。整った顔立ちに、黄緑の肩甲骨の下までのびていて、最後に『クルツ』と巻いているところが　いやいや！宿題を借りに来たんですから、貸さないと。

「どうぞ。答えが合っているか、分かりませんが」

そう言っつて、地理のノートを出した。勉強は、学校平均くらいはとれていたし、技術と国語の古文は満点ばかりだった為、父さんに殴られる事もしばしば。母さんは『大丈夫。大人になったら、見返してやりなさい』何て言われていた。

「姉さん。まだ宿題やって無かったの？」

「不覚です。家の『F』に手を出したのが、いけません……草子！あなたもやってた筈では？」

「残念　やる前に終わらせちゃった。……どうしたの？」

おかしいな。僕は幻覚でも見ているのでしょうか？同じ姿の人が、二人もいるなんて…

「紹介が遅れました。私、村野風子でございます」

「私は村野草子！姉さんとは双子なんだ」

双子…ああ、一卵性双生児ですか。

「小田高名です。趣味は料理。宜しくお願いします」

これが、今の村野姉妹との出会いでした。それに…風子さんがまともだった頃です。

その頃、ハッキングを始めました。

過去問題：オダタカナ 1話（後書き）

ふいゝ。小田伝1WAです。絶対に2wa以降はながいですよゝ

アンケートプリーズ！話しが書けないよゝ

過去問題：オダタカナ 2話

「高名：少しいいか？」

そう、僕の父さん 小田悠久ハルヒサが話しかけてきました。

大体、この様に呼び出されると、会社の話が：将来について聞か
されます。

父さんは、僕に会社を継がそうと思っているらしいです。こっちと
しては最悪なんですけど。

あ、父さんの会社はパソコンの会社です。インテ とかに並ぶとか
違うとか…

「これは で……………が」

聞きたくない。なんで母さんと話したりしないんだ？どうして家族
の交流もしないんですか！母さんが、3人で旅行に行きたかった事
も

「高名。どうした？」

「いえ、考え事です。父さん」

ああ、早く終わって欲しい…

「分かりました。学校があるので行きます」

この人は『仕事』が全て。母さんもその犠牲。なんで結婚したのかも分からないくらいでした。

「待ちましたか？草子さん。風子さん」

「ええ。待ちましたわ…女性は待たせるものではありませんわよ？」

「本当だよ！」

今、風子さん達の家にあります。ノートを貸してから、一緒に学校に行ったりします。

待たせたと言いますが、ここまでは20分かかるので

(高名の家から学校まで25分)

待たせるのは、仕方が無い事です。通学路の途中になれば来ませんよ。

「はいはい、すみませんでした。以後気をつけます」

無関心な感じで返事をしたら

「「パフェ!」」

あっという間に、食べ物全般が完成してしまいました!

「……………」(無言で土下座中)

「「パフェ!」」

どつちやら土下座程度では、許されないらしいですね」

「…分かりましたよ。いつが良いですか？」

これ以上怒らせるのは得策とは考えていません。

「「今日けふ！！」」

「……………」

この人達には常識が通用しないらしい。今のお金は、1万ですか。十分ですね。

「分かりました。授業が終わった後に、僕は先生に呼び出されていますから、正門で待っていて下さい」

「分かった！」

「分かりましたわ」

お金以前に僕の体力が持てばいいんですが

ブルルルルル……

電話ですか？もうすぐ授業が　　非通知？どうしたんですかね。
まっ、トイレにでも行きますか。

「もしも「母親を預かった」ッ！貴方！何者ですか？」

「まあ落ち着け。人質の安全は保障する」

「こんな状況で、落ち着いてられますか！母さんを開放して下さい
！」

母さんに、一体何があったんですか？

「今声を聞かせてやる」

『た…高名……』

「母さん！無事ですか？」

『絶対に…話を聞いちゃ駄目よ』

「母さん！今どこにいますか？」

母さんに、居場所を問い掛けようとした矢先に

「話はすんだか？これから交渉に入る」

「クッ！わかり、ました」

これ以上話そうとしても、無意味です。今は交渉について確認しないと。

「内容は簡単だ。明日の午後0時キツカリにハッキングを始めて、30分で終わらせる。ハッキングの場所は　　お前の親父の会社だ」

「!?!?あなたと言う人はあ!」

その時高名は、確実に怒りで頭が一杯だった。母親を誘拐されて、拳げ句の果てに父親の会社にハッキングを仕掛ける。とても理不尽な交渉だった。

父親は海外出張でアメリカへ。この情報が入ったとしても、帰って来るのに2日はかかる。

「今日の午前0時にもう一度電話する。…良く考える事だな。勿論、会社関係者や警察にチクったら……殺す」

「!?!?」

殺す?ころす?コロス?

「それじゃあな…『星の詠み手』」

プシッ

「う…あ…ウワァアアアア！アアアアアアアアア！」

この『殺す』という単語がでた瞬間、高名は思考を捨てた。いや、考えられなくなった』と言った方がはやく。

過去問題：オダタカナ 2話（後書き）

あれ？これの主人公、劉だよな？

この小説を作るときに、一番設定を強くしたのが高名なはずなのに…

次回もお楽しみに！

過去問題：オダタカナ 3話

「……………」

僕が今、考える事は…

・母さんが無事なのか。

・相手の目的は？

・理由は？

大きくすると、この3つです。

学校？

モチのロンでサボりです。後の2人が　いやっ！今はどうするか
について考える

「小田さん…授業をサボって、屋上なんかいたら駄目じゃないで
すか」

「高名くん…どうしたのかな？顔がくらいよ？」

暇も無く、見つかってしまいました。

「すみません…パフェですけど、今日は都合で行けなくなりました」

「いきなりの用事ですか？」

「……何かあったね」

はあ、草子さんは色々見透かしたように、といかけてきますね。こ
れは話すしか

「実は
」

僕は話した。母さんが誘拐された事。

交換条件に父さんの会社にハッキングを仕掛ける事。

母さんが殺されそうな事を除いて。

「…そ、そんな」

「そうでしたか。話を聞いた以上、私達も関係者です。力にはならないかも知れませんが、協力させていただきます」

草子はショックを受け、風子はそれを受け止めた上で協力すると言い出した。

「み…みんな、ありがとう」

やはり15程度の中学生には荷が重すぎた。高名は泣き崩れてしまった。

23時00分　〜高名自宅〜

「びびびびびび…」

「草子、落ち着きなさい。今一番大変なのは、小田さんなんですよ」
「！」

「……取りあえず『交渉に応じる』と言う事で、母さんの開放を指摘します。もしそれで、会社をハッキングする事になっても」

「高名くん、ハッキング出来るの？」

草子さんが悲しい感じで質問してきました…

「実は、去年の今頃から始めました。最初はゲーム感覚で」

「ゲーム？何の？」

「草子！」

いきなり単語に反応して、風子に怒られた。やはり突発的だったのか、反応してしまった事を後悔している。風子もこの状況で、カリカリして苛立ちを隠せないらしい。

「話を続けます。その時に使った方法：ソフトを『星の詠み手』と名付けました。これは僕の使用に、特化させるものです」

相手が知っていたと言うことは、ハッキングに長けた者でないと分

からないはずですよ。

「それで、どこまで進んだの」

「一応、ロシアやアメリカでは、指名手配の予備軍扱いです」

「そうでしたか。ハッキングに関しては問題ないとしても、あなたは自分の親の会社をハッキングするのに、罪悪感はあるんですの？」

確かに罪悪感があります。しかし、それ以前に父さんには思い出して貰いたい。

「良いんです。一度、全てを失えば…母さんとの思い出を、家族への愛情を」

実際、母さんの話しですと父さんは、優しい人だったとか。

僕が5歳くらいで、自己意識。物心がついた頃から、感情の起伏が無くなって、誰の事も考えずに仕事。仕事。仕事！

「高名くん、本当に良いの？」

草子さんが心配していますが、僕はそれに安心した表情で

「草子さん…良いんです！『小田』って呪縛を消す為に」

0時00分〜高音自モ〜

〜
……

さっきとは違う、最近W Cで良く聞いた非公式応援ソングが流れて来た。

これは、相手が一発でわかるように、着信音の設定をしたんです。

慎重に通話のボタンを押す。

「……はい」

「どうするか決めたか？」

ボイスチェンジャーを使われて、相手の特徴が良く分からない。

「はい。ハッキング、請負います。事前報酬については何ですが母さんを…無事を確認」

「駄目だ。だが、母親の無事は保証する。絶対だ」

相手……交渉慣れしていますね。彼？は、母さんを返したら、行動しないとっています。

「まあいい。ハッキング場所だが…会社のメインサーバーだ。それを動かなくさせる」

「！？何を言っているんですか！一番重要な所を30分で終わらせるなんて！！」

「このロックは硬い。硬すぎる。僕でも成功するかは分からない…」

「お前は内容を聞く前に了解を出した。断る事は出来ない」

「……了解です。12時30分に連絡して下さい」

11時50分〜高名自室：パソコンルーム

「準備はOK？」

ただいま絶賛、ハッキングの準備中です。堂々と犯罪宣下をするのもどうかと思いますが…

草子さんは家の見張りを。

風子さんは僕の補助…と言っても、犯人との連絡役です。

5…

「成功させましょ」

4
…

絶対に、成功させるんです。

3
…

母さんを救う

2
…

父さんの目を覚ます！

…1

僕の人生を

0！

変える！

過去問題：オダタカナ 3話（後書き）

……何でこんな壮大に？

アンケートを！私にアンケートを下さい！

高名は後一話で終わってしまいます！

追記：…三名ほどキャラ募集します！

感想までドウゾ。

過去問題：小田高名（前書き）

文才ネエツ！

過去問題：小田高名

12時10分

ハッキングを始めてから10分。ただいま40%終了しましたが

「…父さんの会社だけはあります」

「わたくし私には、サッパリですわ」

やはり難しい。嫌な物を作りましたね〜

「コード確認。n0425…完了。ロック解除」

これで50%完了ですが、まだ問題が幾つかあります。

「風子さん。『phynons』の確認が必ずあると思います。注

意して下さい」

「わかりましたわ。草子も」

『了解っ！』

そうして、再び作業に戻った。他人にはれない、自分が分るとなると、数は限られる上に…僕の父さんが作りましたから、結構難易度は低い物です。身内相手には弱いもの！

12時25分

「くっ」

後一つ！後一つのワードが判ればっ。

くそっ、早くでろっ！！

「小田さん、後4分です！」

「分かってます！」

後少しで……出て……え……。

ガタッ！

「小田さん！？」

高名は、最後のパスワードを見たが……高名自身からすると、有り得ない物だった。何故、出て来るんだ？と思わんばかりに。

なんで……

なんで！

「なんで、兄さんなんだよっ！」

「兄さん？」

高名には、既に故人になった2歳離れの兄……有真ゆうまの誕生日だった。

「何だよ！僕は　　どうでもいい……奴だったのか……」

7月

「父さん、貴方はそんなに僕が邪魔ですか？」

1

「兄さんの変わりに生きた、僕が！！！！！！」

4日！！

「Kontrollieren Sie Vollendung.
Main System Gefangenname, ein
System, Rudergrün? Ich beende
die Bedienung」

(ドイツ語：制御完了。メインシステム奪取、システム、オールグ
リーン…作動を終了する)

「なんで……………」

「どうしたんですか？風子さん」

「犯人からの、で、電話が」

「！風子さん、草子さんをお呼び下さい。今から会社に」

「行く必要は無いぞ。高名」

いきなり、自室の部屋の扉が開き、いる筈の無い男。小田悠久がいた。葉巻と杖を持った、長身でスラリとした体型の男性。そして

「…母さん？」

「ええ、助かったわ。試験合格よ」

試験……………

「そつだ。お前にこの会社の防衛システムの打破が可能か、確認したかったんだ」

「みんな！だいじょ……………ぶ？」

「…草子、もう少し空気を読みなさい」

「んっ、所で高名くんの両親さん？」

「そつだ。いつも高名が世話になっている」

「……」

本当に言葉が出なかった。今、何をすれば良いかも分からない……

「高名。お前も仕事になれる為に、毎日会社に来てい」

「毎日、って学校はどうするんですか！」

「やめて貰い」

止める？そしたら、村野さん達にも、会えない

「しめんなさい、高名……さっき知ったんです。私が止めないで」

母さんは、涙を流しながら言った。

「……んな」

「草子？」

「そつ…じ、さん？」

僕は喪失感に追われて、何も、何も父さんに反論できなかった。

しかし、その人は違った。相手が社長だとしても、どうでもいいかの用に

246

「ふざけんな！！」

「そ…つじき、ん？」

「草子！？」

急に父さんの胸倉を掴んで、鳩尾に一発入れた。……草子さんが。

「なっ？何をする！」

「あんだ、人の幸せ考えた事あります？」

相手が強気だろうと、全く関係ないかの様に話す。

「高名くんは、兄さんが死んでからどうなったか！親なら分かるでしょ？」

「本当に、入学直後は死んだ顔してたわよ。だけどね、私たちと会って変わってくれた！私だけにその事を話したのよ！」

「草子？！知っていたのですか？」

……先月に、話しました。貴女は『つまらない話なんて、聞きたくもありませんわ』なんて、出て行きましたよね？

「……草子さん、もう良いです」

体に力が戻った僕は、草子さんを止めに入る。

「なんで！高名くんはずっと悩んでた！私たちに、気をつかわない様に。親がこれじゃ……だ……だ……め」

バタッ

「……父さん。僕はこの家を出て、一人で生活します。貴方達に縛られることは、もう嫌ですから」

「高名……」

母さん。すみません……僕は、この人とは生活できない。だから

「そんな悲しい顔をしないで下さい。たまには会いに着ます」

「高名ッ！」

母さんが抱きついてきました。こんな不義理な息子で、ごめんなさい！

「…父さん。僕は会社を継ぎません…むしろ、潰しにきます。覚悟してください」

「好きにしろ。生活費だけは送ってやる」

「…いきましょう、村野さん。ここから出て行きます」

こうして、僕の目標は『父さんを社会的に殺す』ことになりました。

家は、村野姉妹の家の一室を借りています。

文月学園に入ったのは、学費の節約と二人がここに行く。そして

試験召喚システムの開発者の一人として

過去問題：小田高名（後書き）

……なんで、こんなに永くなっただんだ？

まあいいや、アンケートに答えて！むしろ無いと次かけないよ！

？やっぱり主人公！劉が主役

？この二人は困惑？村野姉妹！

？静かに時勢を見極める…舞の独壇場！

？原作をぶち壊せ！5人が主役！（高名は助演）

？原作に忠実に！明久主役

です。後、オリキャラの募集もしています。

【じかいよこく】（仮）

「……如月グランドパーク？」

「ちよつと？それ反則じゃない！？」

「いいからさっさと教室に戻れ！」

「これを機に、設備を良くしますわ」

「吉井を殺せえ！」

「ZZZZ…」

「さあアキ、指の骨…どこから折りたい？」

「たこ焼き焼きそばわたあめ金魚掬い射的フランクフルト…」

「が、頑張りましょう！」

「やれやれ…またババアの仕業か」

【Next Episode】

学園祭

お楽しみに！

劉「おい、お前の罪を数えろ」

蒼「え？」

劉「断罪の、シエルブリットオオオオオオ！」

蒼「グボアッ！」

幕間：座談会？（前書き）

更新遅れてすみません！

傍観側へと回ってしまいました！

幕間：座談会？

やっと1巻終わった！なんで長くなのかな？あ、こんばんは！作者の蒼です。

「関戸劉。よろしくな」

「村野風子と」

「村野草子です！」

「藤川舞です」

さあ、始めよう……

主要キャラ座談会in文月ラジオ棟！ドンドン、パフパフ。

「いきなりなんて事を言うんだ？俺は寝る予定。しかも12時間だつたんだぞ？」

「私はゲーム!!」

「私は読書ですわ」

「私は薬の調合を…」

いいから！お前らの創造神がいつているんだ！

「「「「え」」」」

え〜じゃねえよ！こっちは2巻借してて次が大変だから、こっやって時間潰すしか無いんだぞ、分かったか

『はあ…むしろお前のせいだろ』

お前ら…まずは以前使っていた方からのお土産を紹介します。

「まあ、ベタなパターンだがよ、前に使った人なんて…」

私がここを使って、土産を置いて行った。

「何やってんの？そんな事して楽しいの？」

「ふざけているんですか？ヒロポンでも使ったの!？」

お、落ち着いて草子と舞。最初のは…お菓子だな。ケーキの

「「「すいません。私が悪かったです」「」」

「買収しやがった！人間としてどうか」

二つ目は、北海道のメロンパンだな。

「　　してるわけが無いな。蒼は最高の奴だ」

お前ら、少しは自重しろよ。これじゃあ意味が無いだろ？……ふつおたが来ています〜紹介するぞ。

主要4人+作者さん（高名エ）、バカテスわ〜

「……ばかですわ〜」

「おい！俺だけが、はぶられているのか？おかしいだろ！それに電波が聞こえたぞ」

皆さんに質問です。異世界に行けたら、どこに行きたいですか？ベターですみません。
だそうだ。私はバカテスに行きたいものだよ。

「俺は絶対にスクイドだ！アルター使ってカズヤに勝ちてえ」

「私は…喰霊…です。神楽さんや黄泉さんと、仲良く暮らして見せますわ」

「僕はゲームならどこでもいいな」

「私も、医学の世界ならどこでも良いです」

皆さん、個性がありますね〜お便りをくれた、RN秋さんからでした！

「明久、シバク」

「吉井さん…お話 しましょう」

「劉くんの、おしおき……（ガクガクブルブル）」

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい」

ちよっ？二人共どうしたの？ダークサイド入っていますよ！

「……じゅるじゅる」

お前らも！じゅるりとか言わない！なにが楽しみなんだ？

「明久の悲鳴だ（ですわ）」

ダメだっ！作者が言うのも何だが、早く何とかしなきゃ

（駄目ですね。もっと精神的に追い詰めてからでは無いと）

ん？なんか電波が……

まあ、こことかで感想とかを紹介していきます〜御意見評価よろしくです。

「だろうな。まだ2人にしか評価されて無いからな」

「そうですね。何を考えたら、蒼さんみたいになるのか」

「ゲーム ゲーム」

「私の愚妹も……」

「いつその事、読者？に二服盛りますか？」

ダメだよ！いきなりこの小説消されたら大変なんだから！それに…

「エターナル・デボータ！」

ちよ！？シエリス？なにやってんすか？ぎゃああアアアア！

（暫くお待ち下さい）

BGM：追想のディスプレイ

死ぬ所だった……まい、いつの間に……

「それに似た効果を出す薬を作ったんです。どうでしたか？（実験台風情には、この程度ですが）」

「舞、後でその薬をかし（ビクビクビクビク）……どうした？俺は明久を消す為に」

使うな！！一応別次元の主役だぞ？

「え〜」

だからえ〜じゃねえよ！

次！試召戦争をしての感想。

「俺はCクラス戦だな。一番活躍した上に、あのヒステリック野郎じゃないか…思うままに闘えて満足だよ」

「私はBクラス！変なの（根本）も倒せたし、かぁいい召喚獣も見れたから…お持ち帰りしたい」

「私はBクラス戦しか出番が無かったのですが…面白いものが見れましたわ。あの後、実験したのですが…エドの兄さんや詩音のL5が出てきましたの」

それは怖いな。

「私はAクラス戦です。マイスターと闘えましたし…これからの道も、出来ましたから」

（僕はAクラス戦です。高橋女史に勝てましたし…：…母さんへの報告も出来ましたから。夏休みあたりには帰りますので）

やっぱり、ラジオの故障か？たびたび電波が聞こえるな。

つと…そろそろ時間か。

「早いもんだな〜けど、これで寝れるぞ」

次回は………ラブレター編です。

「じゃあな。また今度…ZZZ」

「さよならですわー！」

「じゃ〜ねー！」

「今度は実験『させないぞ？』…まだいってないんですけど？」

幕間：座談会？（後書き）

問題 次の熟語の正しい読みを答え、コレを用いた例文を作りなさい
『相殺』

姫路瑞希・村野風子。草子の答え

『読み……そうさい』

例文……取引の利益で借金を相殺する』

教師のコメント

そうですね。差し引いて帳消しにする、という意味なので貸し借りなどに使われる言葉です。

関戸劉・島田美波の答え

『読み……あいさつ』

例文……とても清しい朝、彼と相殺をする』

教師のコメント

それは決して清しくありません。

藤川舞の答え

『読み……ちゅうわ』

例文……薬の成分を相殺して、麻薬を作成する』

教師のコメント

…自首してください。

幕間・リフレターじゃない？何？（前書き）

アンケエ…

幕間：ラブレターじゃない？何？

side Akihisa

「うん……ありえない登校時間だ」

晴れ渡る空。澄んだ空気。暖かな日差し。……鉄人がマトモ？

いつもより1時間早いで、あんなふうなマトモな先生が出来るのか。

どうせなら、僕らの授業でも普通に接して欲しいものだ。

ただでさえ僕は、『観察処分者』の肩書きを持っているんだから。

この文月学園が使用している『試験召喚システム』っていうのがあって、このシステムは生徒のやる気を向上させるとテストの点数に比例した強さの召喚獣と呼ばれるものが、出てきて……クラス対抗で戦うものだ。観察処分者っていうのは、低得点者への罰。召喚獣をつかった雑用をやらされることとなっている。僕は、その唯一の観察処分者だ。

ん？下駄箱に手紙が……まあ、誰にも見つかってないから隠して持っていてこつ

「工藤」「はい」

「久保」「はい」

いつもと同じような出欠確認が始まった。鉄人のクセに結構やるところはやる。そのおかげで少しは学力がついたし。しかし、この平穩がいつまで続く

「近藤」「はい」

「斎藤」「はい」

「坂本」 「……明久がラブレターを貰ったようだ」

殺せええっ！！吉井の分際でえ！！！！！！

雄二の一言で台無しになってしまった。

「ゆ、雄二！いきなりなんてことを言い出すのさ！」

くそっ！今度、霧島さんに『雄二のいる場所百選』b y ム ッ ツ リー
二を送ってやる！

「でも、否定はしないんだな？明久」

「うっ……」

否定できないところが辛い……クソッ！

「おい、お前らっ！いい加減にしないか！出欠確認中だぞ！」

シン

鉄人の一括によってまた静寂が訪れる。さすがだ……教師は生徒を守る人だからね。

「それでは出欠を再開するぞ」

鉄人が出席簿をめくったが、出席簿のめくる音が聞こえるほどに静かだった。

「関戸」「ういっす」

「藤堂」「吉井クロス」

「戸沢」「吉井クロス」

「落ち着くんだ！『クロス』は返事じゃない！」

「吉井、静かにしろ！」

「先生、ここで注意するべきは他にいるでしょう？このままだと僕にクラスが暴行を加えてしまいますよ！」

「藤川」「はい」

「布田」「吉井マジ殺す」

「根岸」「吉井ブチ殺す」

「村野妹」「はいつ！」

「村野姉」「……………はい」

「よし。遅刻者はなしだな。今日も一日勉強に励むように…。それはそうと、小田だが…父親の会社の都合で、アメリカに行く事にな

った」

え？小田君が……うちのクラスのブレインがないのは大変だ！

「……………おい、嘘だろ？西村先生！！」

劉が激しく反論する。いきなりの友人の転校には、クラス全体が仰天する。新学期始まって2週位での転校に驚きを隠せない。

「……………」

あれ？草子さんは、何も言わないのかな？いつもあの面々だったら、一番近くにいると思ったのに……

「待ちなさい！あの愚劣な父親の言いなりに……なるはずありませんわ！！詳しい説明を要求しまして！！」

…小田君のお父さんって、どういう人なのかな？

「…高名くんから」ちよっと、あとで後ろに来て「…分かりました」

又ーの群れが通ったような地鳴りが聞こえた。

そして今Fクラスにいるメンバーは、俺、風子、草子、舞。なぜか

「みんな…この手紙を見て」

そう言って、真っ白の封筒をだした草子さん。

「この手紙は、高名君が残していったもの。良く見て」

【僕の仲間へ】

唐突ですが、手紙でしか話せないことを許してください

劉：少しの間、お別れです。しかし、話や情報を届けるために『高名式自立稼動パソコン』を家に送っておきます。僕だと思って口喧嘩でもしてください。

風子さん：貴方は王女？のたしなみを整えてくださいよ？またあつ

たときにも傲慢だったら、困りますし。

草子さん…貴女の気持ちは絶対に通じます。頑張ってください…僕は、父さんに言われて海外に行きますから。

舞さん…帰ってきたときには、多分『風邪』をひいてしまっているでしょう。貴方の薬に期待します。幸せの白い粉なんて飲ませないで下さいよ？

最後になります。

みなさん。いつも通り、バカに過ごして下さい。そうでないと僕の居場所が取られたような気がしてなりません。

また、会えます

小田 高名

「……………」

そうか。

風子は泣き、草子は静かにうつむく。舞も目が涙ぐんでいる

「…俺は高名を待つ。『また、会えます』なんてふざけたことを抜かしているんだ。俺等が待たないでなんになる。クソだが、あいつを信頼していない奴はいないだろ？なら、それでいいじゃないか」

嘘だ。正直、俺がこんな事を言っているのが嘘に思えてくるくらい怖い。

「…分かりましたわ。不肖ながらこの村野風子。小田高名さんが帰るまでに、淑女の嗜みを整えておきますわ！」

…この場にいる全員が『むりだな』と思ったのは言うまでも無い。

「私、薬を作るから…今日はかえると鉄人に言っておいて下さい」

この人も「麻薬じゃなくて魔薬だな」と思われていた。

「…うん。待っていてよう！みんなでゲームして！楽しく」

駄目だこの人。早く何とかしないと…

「じゃあ、こんなとこいてもつままないから帰るか。今日は心の整

理もいるし」

そう言って、俺達は帰っていった……あれ？

なにか忘れていることが…

翌日

死んだ魚の目をした明久を見て笑ったのは別の話

幕間・リブレターじゃない？何？（後書き）

文などの誤りなどは、ご連絡下さい。訂正していきます

第19問：清涼祭の準備1（2巻開始）（前書き）

問 以下の問に答えなさい

文月学園の補習担当は誰ですか？

関戸劉・村野風子・村野草子・藤川舞の答え
『西鉄村人』

西村先生のコメント
そこで正座してろ

それ以外の答え
『鉄じ…西村先生』

西村先生のコメント
全員補習だ。

第19問：清涼祭の準備1（2巻開始）

前回までのあらすじ

雄二が霧島に連行された。

高名が消えた。

鉄人が担任に…

時は五月。

桜の色が段々と無くなり、活発な緑の葉になりかけている。

それに伴って、一学期の最初の行事『清涼祭』の準備が始まった。

試召戦争の敗北と、高名の転校？に驚いていた俺たちFクラスだったが……

『さあ来い吉井』

『上等だ！この球を打って見ろ、須川君！！』

普通に野球をやっていた。しかも、授業中に…。

「今は学園祭の準備だろ？何やっているんだ」

全く……奴等には勉強へのやる気が見えないな。特に吉井、観察処分者なのにそんなんで良いのかよ？

「劉くん……私たちも屋上にいるから、同じようなもんだよ」

こちらは村野草子さん。平均的な体付きと、ふわふわとした黄緑の髪が、肩甲骨の辺りでロールを巻いているのが可愛い……妹はね。姉は

「どつでもいいですわ。世界は私を中心に回っているのですから」

こちらは愚者の村野風子。外見は同じなのに、どうしてこうなった？分かる人には、金一封を与えたいくらいだ。

まともな時は、大方誰かを弄っている時だけだしな。

「あ、鉄人が来たぞ」

そんな所で鉄人登場。

『お前らア！早く教室に戻れ！』

五月蠅い、平面だと300m。立体で30mあるのに、ここまで聞こえて来るか。趣味のトリアスロンが関係しているのか？って、こつちを見た！

『黙りなさい！！クソ劉にたのむくらいなら、自分でカタをつけま
す』

……高名、俺はお前が消えてせいぜいした。と思ってんのにな、こんな事思い出すんだ？アイツは、なんて言うんだ？

「劉君！鉄人が来ます！にげますよ」

そうだったのは、大胆なプロポーションを見せてその黒髪が腰くらいまでかかる藤川舞さん。別名薬の藤川。

大方、一発キャラだった？福間とかいう『マイスター』の事を考えているのだろう。

高名：鉄人？感傷に浸る時じゃねえ。捕まったら補習室軟禁じゃねえか！

「おい、早く西鉄から「誰が西鉄だ？」……こんにちは、イイテンキデスネ。ニシムラセンセイ」

しまった！ばれたが：周りには、誰もいない？さては逃げたな。あとで覚えてるよ…

「ああ、良い天気だな。関戸」

そう言って鉄人は笑う 目 以外は。

「さあ、サボっていた理由を聞こうか」

うーん。どう考えても死亡フラグしか無いんだが？

「昼寝しに（ゴキユ）きギアアアア！」

「早く戻れ。出し物が決まっていないのはうちのクラスくらいだ」

「くそっ！」

あそこで鉄人が見なかったら、睡眠LIFEが送れたのに…

ガラガラッ

「さて。そろそろ春の学園祭『清涼祭』の出し物を決めなくちゃいけない時期が来たんだが、とりあえず、議事進行並びに実行委員として誰かを任命する。」

雄二のスルースキルは健在。アイツは、興味が無い物にはトコトンだからな。本当に何がしたいんだか。

でも…この悪の巣窟みたいなFクラスを、雄二以外にまとめる事が出来るのは……風子さんだ！

普段は、明らかなる上から目線だけど、カリスマだけは折り紙付きだ。特に男子の殆どを味方に回せる力が……

「雄二、俺は風子を推薦するぞ。伊達に女王様やってる訳じゃない、統率力は保障する」

普段よりまともに言った為か、雄二が悩んでいる。「冗談半分なら『他の奴』とかほざくだろうし。」

「良いんだが、村野姉はどうするんだ？」

あ、風子の事考えて無かった。怒っているか……

「…ケーキホールで手を打ちます。勿論手作りです」

「それくらいなら任せろ《風子、男子の説得を頼む》」

「わかりましたわ。僭越ながら、私がつとめさせてもらいますわ《了解ですわ。》…それと土屋さんと須川さん、よろしくて」

風子が康太と須川を呼ぶ。たしかムツツリ商会のボスや異端審問会の会長を降せば、その分楽に動ける。

「……………わたくしのコスプレを撮る許可を出しますわ。それを皆さん」

「……………命に代えても約束を守る」

「…分かった。メンバーを黙らせて、動きやすくしよう……………異端審問会メンバー集合！」

そう須川が号令を出すと、明久と秀吉、俺と雄二いがいの男子が須川たちの所へ。

「俺達は学園祭を必ず成功させる！みんな、協力してくれるか？俺たちは、自分の欲望の為に、村野の姐さんについて行く！物共！立ち上がる時は今ぞ！」

「『Yes My Load!』」

なんて団結力だ。

こうして、俺たちの学園祭が始まった。

余談だが、ムッツリ商会は過去最高の売上げを記録した。

第19問：清涼祭の準備1（2巻開始）（後書き）

いかがでしたか？…感想がこない…評価も去れない…私はア
ーヤ
ー見たいな過酷な人生に…

マジすいませんでした！

第20問：劉、清涼祭に参加する。

前回のあらすじっ！

鉄人による勧告（脅迫）

清涼祭実行委員の決定

原作キャラの空気

side akihisa

キングクリムゾン！あきひさ（笑）は じっごういいんに なった

ちょっと待って！何なのさキングクリムゾンって？これじゃあ全然
分からない！！

「私が議事進行を行います。吉井さんは板書をおたのみ致します」
わたくし

「分かったよ」

良かった、劉に色々聞いといて。断ると調教まで逝くらしいからね、これで僕の貞操が守られた訳だ。

「それでは、幾つか案をお願い致しますわ。上申のある方は挙手を
下さい」

村野さんが告げると、数名が手を挙げた。しかし、それ以外の人は
(雄二&劉除く)しっかりと話を聞いてくれている。

「土屋さん、お願いしますわ」

「……………(スクツ)写真館」

なんだろうな？とても怪しい予感しかしないや。親友の案なのに。

「吉井さん、黒板に記入をお願いしますわ」

「うん」

チヨークも使いづらいし、これじゃあ大変だ。せめて先生の方だけでも普通で良いのに。……まあ、鉄人だから良いか。えっと、ムツツリーニの提案は、

【候補？：写真館『秘密の覗き部屋』】

書いた自分でも犯罪臭しかしないと書いている。

「村野さ、風子にして下さい。草子とかぶりますの」……風子さん、劉と雄二はやる気を出せそう？」

実際にあの二人は静かに寝ていた。劉はいつもなんだけど……あの二人なら、クラスを越して、学年をまとめられるのに。風子さん1人じゃ負担が掛かり過ぎで……

「無理ですわ。劉は高名さんがいなくなってからあれですし、面白い事が無い限りは動きませんね。坂本さんは、ただやる気がないだ

けですから。カンフル剤でも打てば動きそうですけど……」

「分かったよ、次の人を当てて」

「わかりましたわ。では、須川さん」

須川君がこんな……やる気があるとは思わなかったよ。

「俺は中華喫茶を提案する」

中華喫茶？チャイナ服を着て、肉まんとかを出すのかな？

「何？チャイナ服でも着せるって言いたいわけ？」

美波、予想通りの突っ込みだよ。

「いや、違う。俺の提案する中華喫茶は本格的なウーロン茶と簡単な飲茶ヤムチャを出す店だ。そうやってイロモノ的な格好をして稼ごうってワケじゃない。そもそも、食の起源は中国にあるという言葉があることからもわかるように、こと『食べる』という文化に対しては中華ほどの奥の深いジャンルはない。近年、ヨーロッパ文化による中華料理の淘汰とつたが世間では見られるが、本来食というものは」

s i d e r y u

近年、ヨーロッパ文化による中華料理の淘汰とたが世間では見られるが、本来食というものは

これは、中華料理の説明か？だとすると、須川の提案か。何か面白い物が無いかメール？高名からか。
(一応、メールや電話はしてくる)

F r o m : 高名

件名：召喚大会

内容：久し振りですね。もうすぐ清涼祭の時期ですが、どうですか？睡魔劉のことですから、寝ているのが関の山でしょうが…本件ですが、教頭の竹原が、大会の賞品の腕輪。ババア特製の試召戦争専用で効果を発揮するものを作ったのですが、学年の平均以上だと暴走するようなんです。それを使ってこの学園を潰す気です。この文月学園をくそ原…竹原教諭から守って下さい。僕が戻る為に……

情報源？このネット環境を掌握しているのは誰でしたっけ？

それと坂本が動かなかつたら『如月グランドパークのプレミアムチケットが、大会の優勝賞品の副賞』と言えば動きます。

小田高名

………おもしれえ！教頭を脅して（野望を阻止して）、波瀾万丈の清涼祭にしてやる！

天上下唯我独尊・関戸劉、出る

俺たちの出し物が、須川の熱い提案により中華喫茶『ヨーロッパ』になった。

ホール：島田・村野姉妹・姫路（要注意）・秀吉

厨房：明久・雄二・康太・劉

舞がない？それは秘密だ。

第20問：劉、清涼祭に参加する。（後書き）

感想工…評価工…

第21問：禁書二期は関係ない（前書き）

学園祭の出し物を決める為のアンケートに御協力ください

『喫茶店を経営する場合、制服はどんなものが良いですか？』

土屋康太の答え

『スカートは膝上15センチ、胸元はエプロンドレスの様に若干の強調をしながらも品を保つ。色は白を基調とした薄い青が望ましい。トレイは輝く銀で照り返しが得られる位のもを用意し、裏には口ゴを入れる。靴は5センチ程度のヒールを……』

教師のコメント

裏面にまでびっしりと書き込まなくても。

吉井明久の答え

『ブラジャー』

教師のコメント

ブレザーの間違いだと信じています。

藤川舞の答え

『ナース服！看護師の服！』

教師のコメント

それは貴方の趣味ですね。

第21問：禁書二期は関係ない

side r y u

授業AND補習が終わって、俺と明久・島田・村野姉妹・秀吉で帰っていたが、

「ねえ劉。風子さんだけじゃ大変だから、学園祭の手伝いをしてよ」

何故だし… H A H A H A H A ! 明久よ、言うようになりやがったな！

「断る！そもそも俺にはやる事があんだ。そんな事「瑞希が転校しそつになっても？関戸」……………詳しく話せ。場合には雄二にも、癪だが応援を頼む」

必死に頼んでる友人を見捨てる程、俺は腐っていない。

説明中
閑話休題

「なるほど……大きくわけると問題は3つ。一つ目は『学力の弱さ』。これは清涼祭での召喚大会で優勝すれば、すべて解決。だろ？二つ目は『設備』。これは雄二のクソ野郎のせいだが、これも清涼祭での売上げで何とかするしかねえ。俺たちの出し物を全力かつ、召喚大会での活躍が絶対だ……最後。これが大事なんだが『環境』だ。畳や机はともかく、割れたガラスや地震一つで崩壊しそうな腐った教室だ。体の弱い姫路にはキツイ所もあるんだが……これはさすがに学園長を引っ張るしかないな。ああ、風子さ『風子ですわ！』……風子と草子s『呼び捨てで！』草子。お前から召喚大会に出てくれ。姫路と島田の保険で。草子？科目が決まったら、学園長に言ってその科目以外を一桁にしてくれ」

「？まつ、劉くんからの頼みだしねっ！頑張る」

「そうですね、私の名を上げるべきですこと！^{わたくし}」

一応了解してくれた。何だかんだ言って、女子の仲は良い。草子が取り繕ってくれたからだ。

だけど、この二人の思考回路が全然よめねえのは気のせいかな？

「助かるわ、関戸。それと坂本も参加させられない？やっぱり風子だけじゃ」

「なにを言いになって？この村野風子。一人でもできますわ！」

プツッ

「草子、黙らせる」

「姉さん、どうしたのかな？かな！瑞希ちゃんの為に全力は当たり前でしょ？」

やめてくれ、俺はソウルブラザーズみたいに死ぬことはゴメンだ。

「…不本意ながらそうですわね。最善を尽くすのは当たり前的事…
…劉、坂本さんへの連絡を」

あいさつさ。霧島にかけた方が良いな。

P L L L L ……

「……はい」

「霧島か？関戸だけど、そこに雄二入るか？」

「……分かった。『し、翔子！その赤い布をほどけ！』今代わる」

今後ろから聞こえたのはノイズだ。絶対に叫んでいて、高名の布で
衰卷きにされている雄二では無い。

「雄二か？少し話が」

「お前のせいで翔子につかま『姫路が転校するかも知れねえ』……
ああ話せ、今翔子が諦めて帰ってくれたからな」

じごくに落とすぞ？

説明中

高名「暇です。ハッキングのセキュリティしか作りませんし」

「……」まあ慌てんなさ、どんな事も最速でな」

高名「そうですね？まあ、早く終わるに越したことはないんですけど」

たかなは バシルーラ（偽）を おぼえた！

説明終了

ん？なんか大事な事を、まあいつか。

「雄二、如月グランドパークのプレミアムペアチケットを回収するから、霧島と召喚大会に出やがれ。お前を倒せば、チケットは回収できてうちの戦力も失わない。どうだ、わるい考えじゃないだろ？」

「ああ、翔子となら俺はお前らと戦えばかげんも出来るし、お前らの邪魔者も始末できるから……チケットは頼んだぞ？」

「毎度あり。俺が責任をもって保管しよう」

前準備は住んだから

「明久、風子。学園長のトコいくぞ。他は店の準備だ」

え？チケットは霧島と交渉して渡すつもりだぞ？雄二にはトコトシ
地獄を見てもらう。

理由…試召戦争のときのあれだよ。アレ

第21問：禁書二期は関係ない（後書き）

蒼「ネタが無いな」

劉「なら作れ」

蒼「部活とテストで時間が無いな」

風子「そんなもの辞めてしまいなさい」

蒼「何てことを言うんだ！頑張ってきたものを無に変える気か!？」

草子「早く更新しなさい。この約束エクスカリバーされた勝利の剣が火を噴く前に」

蒼「ガクガクブルブル…今更新させていただきました…」

舞「次は？」

蒼「……」

「……消える！エクスカリバー!!!」「……」（全員がサムズアップを下におろす）

次回予告

「却下だね」

「腕輪、俺に見せてみる」

「…雄二、結婚はどこで挙げたい？」

「よし、このババアをコンクリに埋めよう」

「俺たちの周りに…『平穩』はあるのか？」

Next Episode

『ふざけた妖怪ぶち壊す！』（仮）

あ、今期のアニメは

- ・ 禁書目録
- ・ 荒川UB
- ・ 神のみ
- ・ 俺の妹

ぐりぐり…

あああさん…誤字の訂正ありがとうございます

VC - 3000を求めますよ

第22問：口先（だけ？）の魔術師・R（前書き）

学園祭の出し物を決める為のアンケートにご協力ください。

『喫茶店を経営する場合、ウエイトレスのリーダーはどのように選ぶべきですか？』

「？かわいらしさ　？統率力　？行動力　？その他（　）（　）」
また、その時のリーダー候補も挙げてください。

土屋康太の答え

『「？かわいらしさ」　候補……姫路瑞希&島田美波』

教師のコメント

甲乙つけがたいと言ったところでしょうかね。

坂本雄二の答え

『「その他（結婚相手）」　候補……霧島翔子』

教師のコメント

どうしてAクラスの霧島さんが、用紙を持って来てくれたのでしょうか？

村野風子の答え

『「？統率力　？行動力」　候補……私自身』

教師のコメント

あくどい意味では正解だと思います

第22問：口先（だけ？）の魔術師・R

side akihisa

前回までのあらすじ

雄二、地獄に落ちる！

『……賞品の……として隠し……』

『……こそ……勝手に……如月ハイランドに……』

新校舎の一角にある学園長室の前まで来ると、扉の向こうから誰かが言い争っている声が聞こえてきた。
賞品？如月ハイランド？何の話をしているのだろう。

「どうしましたの、吉井さん」

「いや、中で何か話をしているみたいなんですけど」

「あつそ。なら中には学園長がいるのか、あいてが何してよつと…
…俺らには関係がない!」

ペキッ

『俺』だけの間違いと言わんばかりに、学園長室のドアを蹴破った。
まさに期待通りの働きだと言おう。

「案外ぼろいですわね。ここはFクラスにもおとる家畜小屋ですの
!??」

「なんて事を言うんだい、クソジャリが?」

「一体何だね君達は?」

ほら怒られた。

「まさか学園長…あなたの差し金ですか?」

「フンッ、こんなクソガキの手綱なんて握ってられないさね！」

「おい、俺は学園長にOHANASHIがあつて来たんだが？」

劉、頼むから場所くらいわきまえてくれると嬉しかった。

「…まあいいです、私は失礼します…」

そう言い残して、教頭が退室した。何かを見て……

「おい、風子？どうしたんだ」

「何でもありませんわ。ただ、小田さんと比べると余りにちっぽけな部屋ですこと」

風子さんが、窓の隙間から出したのは……盗聴機。何個も腕に捕まっていた

「たしかにな、やっぱり高名雇えよ（盗聴されてやがる。ここからは筆談だ、クソババア）」

こういったところは、雄二と同じくらい信用できそうだ。ずる賢い

意味では

「フツン、私もなめられた者だね！（…分かったさね）」

「俺のキック一発だと、誰か来たら分からなくなるぞ？（俺たちが求めるのは、教室の環境の整備だ。いま、その環境のせいで姫路が転校しそうだ。お前ら学園側に『クラスの環境だけで、優等生が転校する』なんてジンクス、作りたくないよな？）」

あ、劉の言動が綻び…元からか。

「それについてはセ〇ムを雇ってるからね。心配ないさね（…本来のFクラスなら、どうでもいいんだが、Aクラス並となるとね…）」

セ〇〇程度で平気なのだろうか？こんな大きな学園で。

「甘い。鉄人がいなければ、俺ら5人で簡単に制圧出来るぞ（……代理召喚と同時召喚。回収してやる…代理の方は雄二に譲るがな）」

「ちゃんと先生と呼び名クソガキ（…分かった。回収してくれたら、それに応じるかい）」

「まあな。ところで…」「小田さんの居所、教えて貰えませんか？」「…おれの台詞」

「それは私も知らないね。アメリカにいるくらいしか」

小田くん…アメリカにいるんだ。姉さんに会わないかがとても心配になって来た。

「じゃあな、話はそれだけだ（盗聴機は風子が全部取り除いた）」

「来る度にドアを壊すんじゃないよ！」

「よし、交渉成立！」

「…ねえ風子さん、劉って何者？FFF団より交渉慣れしてるよね？」

注：明久はFFF団未加入です！

「何かしら？劉は、マッドサイエンティストの集団でも、『過激派のOHANASHI野郎』なんて呼ばれてるらしいわ」

過激派なお話するんだ。今度、美波対策で聞いてみようかな。

召喚獣設定

お茶濁しの召喚獣設定

劉

カズ その物。髪の色が違うだけ。眼鏡はアルター発動みたいな感じで消える。

武器：シエルブリット（拳）

服装もカ マのまま、操作能力は喧嘩みたいに本能で動く劉は大まかだが、しっかりした動きができる。

腕輪『アルター一体化』

アレです。分からない人はスクライド23話を！
召喚獣が半自立行動を行って、

高名

ビジネススーツに釘剣と鎖。防御は明久や雄二以下…

基本は鎖で動けなくしたところを剣で頭や心臓を刺す。急所に当たれば、大体が一撃になる為

腕輪『騎英の手綱』

ライダーよろしくのあれ。首をさすところまで似なくても……
点数を消費した分、相手に与える。

『情報処理』

高橋女史か鉄人による承認…もしくは相手が十人以上。そして、単
価で300点差が必要。

一時的に科目を強制で、自分だけ技術になる。

風子

赤いマントと学生服。武器は無い。

次元落とし

自分の点数を消費して、それに見合った能力を持つものを召喚する。

腕輪『エタニティドライブ』

自分の点数を消費して、その倍の点数の相手のコントロールを得るが、一科目3回の制限あり。+元の点数が自分より高いばあいには無効。

コントロールを得た召喚獣の点数を削っても次元落としは可能

草子

某2000人の村の分校にいる鉈女。髪と目位しか違いは無い。

攻《□》撃は『嘘だっ！』と鉈が主流。毎回2科目で飽きて、テストを受けていないから学力は高いが、総合はFクラス並の力。前回は舞による幻覚薬を飲まされて、大量のゲームと引き換えに全科目受けたからあんなになっている。

腕輪

まだ見せ無いけど………形態変化です。

舞

白衣に注射と薬でとてもピッタリ。

攻撃方法は不明。2巻の中で確認っ！

腕輪：手術に関する事。不明

召喚獣設定（後書き）

打ち落とせな〜い！

おはこんばんは。蒼です…

更新遅れてすみません！「もう週一が消えています！

かといつても、執筆時間は短いし…ああっ！

短いかもしれませんが、早めに投稿します。次回もお楽しみに

「俺がガンダムだ！」

「ガンダム・ガンダム私のガンダム私はガンダム私のガンダム」

刹那エ…グラハムエ…

第23問(表) : 文化祭準備(前書き)

おはこんばんは。第二巻内は、表と裏。W主人公で行きたいと思っています…ゴミを投げないで!

表の主役は劉ですが……裏は!?

問 アボガド口定数を答えなさい

molと答えた場合は後日指導を行います。

姫路瑞希・関戸劉・藤川舞の答え

$6 \cdot 0 \times 10^{\wedge} 23$

劉：追記・元は炭素原子から来ている

教師のコメント

正解です。関戸くんは詳しく書きましたね。

村野草子の答え

いっぱい

教師のコメント

高橋先生による補習を行います。

村野風子の答え

mol

教師のコメント

貴女も高橋先生の指導を。

第23問(表) : 文化祭準備

side ryu

「いつもはただのバカに見えるけど、坂本の統率力はすごいわね」
「ホント、いつもはただのバカなのにな」

清涼祭初日の朝。俺らの『汚い・ボロイ・近寄りたくない』の三拍子をそろえるほどに毒々しく小汚い様相を一新して、中華喫茶に様変わりしていた。机などは、使わなかったEクラスから俺と草子が相手代表と対談して…草子が今度のテニスの試合で助っ人に行くことを条件に貸し出してもらった。

一応言っておくが、草子はギガントが付く位インドア派なのにスポーツに関してはとても上手い。Eクラス代表の中林はテニス部のエースなんだが、草子にはかなわない。相手は『絶対勝つ!』なんて気持ちでやっていても草子は『テニスゲーム』なんて気持ちでやって勝てるのか小一時間ほど問い詰めたものだ。

「このテーブルなんて、パツと見は本物と区別が出来ないよ」

教室内の至る所に設置されているテーブル。実はこれがEクラスの少しボロツちい机を並べて、小綺麗なクロスをかけて、まあまあ立派なテーブルが一丁拳がりな状態になっている。

これを考えついたのは雄二と秀吉だ。雄二が演劇部の備品を使えないかと秀吉に頼んだ所、何個かは出てきたのであった。

「ま、見かけはそれなりのものになったがの。その分、クロスを捲ればこのとおりじゃよ」

クロスを捲ると、少々古い木製の机のテーブルが出てくる。

「これを見られたら店の評判はガタ落ちね」

確かに島田の言う通り、捲るとみずほらしいテーブルが出てきた。だが

「安心しろ。入り口に注意書きを書いておいたからな…それを承知で入ってもらうことになるからなあ…文句が出たらそれを盾に、おっぱらえばいいんだよ」

「きつと大丈夫だよ。こんな所まで見ないだろうし、見たとしてもその人の心のうちにしまっておいてくれるよ」

「そうですね。わざわざクロスを剥がしてアピールするような人は来ませんよ、きつと」

明久の意見に姫路が賛成する。もしそんなことをするんなら『螺旋力ババアで始まりアルター装着で終わる交渉術』をつかえるのにな。

しかも、この喫茶店は学園祭のレベルとしては最高といえるレベルだ。これなら客もたくさん来て備品を（内緒で）整えられるだろう。学園長が文句を言ってきたら、回収を盾に通せば良いんだからな。

「さてつと。康太、厨房のほうはどうだ？」

「……………味見用」

そう言って康太が差し出したのは、木のお盆。上には問うこのティ―セットと胡麻団子が載っていた。

「わぁ……………。おいしそう……………」

「土屋、これウチらが食べちゃっていいの？」

「……………（コクリ）作ったのは劉」

そこは言うな。俺の祖先が中国人だから、そっちの料理には詳しいから美味しく出来ていると思っっているんだがな…

「まあ、そういうことだ。感想はいらねえ。美味しいのは目に見えてるからな」

「では、遠慮なく頂こうかな」

そう言っつて、姫路・島田・明久・秀吉が手を伸ばして、出来立てで暖かい胡麻団子を口にほおばった。

「……………」

「すごくおいしいよ！劉、今度作り方教えて！」

「さすがは劉じゃ。中華料理なら料理屋を出せるぞい」

三者三様…ここは四者四様の反応を見せた。

島田・姫路 頬を染めてだらしない顔をしながらぼけっとしている

明久 素直に美味いといってくれた

秀吉 以前食わせたのは中2のはずなんだが…覚えていたのか。

「はっ！私ウチは何を…」

いま、二人が蘇生した。後食べていないのは…雄二か。痴漢チハン撃退用で作ったものを食べさせるか。別に『痴漢』の部分が『猿人』になっても問題ない。

「お、雄二。帰ってきたのか（これを食べ！）」

「ん？なんだ、美味そうじゃないか。どれどれ？」

そして、躊躇ためらいも無く姫路印（監修：俺）の失敗s…もとい、胡麻団子の皮をかぶった化学兵器を口に入れる。

「総員！雄二に敬礼っ！」

「っっっビシッ！！」

俺に続いて、男子三人組が敬礼してくれた。なんか嬉しい。

「？お前らが何をしたいのかは分からんが…。ふむふむ…。表面はゴリゴリでありながら中身はネバネバ。甘すぎず、辛すぎる味わいがなんと　ゴパツ！」

…午前八時二十八分。坂本雄二さん…お亡くなりn

「ねえ雄二。そんな状態で大丈夫なの？」

「大丈夫だ。問題ない」

どこぞの工　シャダイ並みの台詞を残し元気に

「あの川を渡れば良いんだろう？」

人生の境地をさまよいつつ、足を痙攣させるといふ…とても難度が高い技術を披露した。

「六万だと？バカをいえ。普段渡し賃は六文ろくもんと相場が決まっ…はっ！」

明久と秀吉による、ばれずに（ここ重要）蘇生させることを成功した。

「…雄二。これは痴漢撃退用の団子だ。味の感想をドウゾ。（正しい答えをしる。しなきゃもう1つ食わす）」

「…足が攣つかったんだ。味が良く分からなかった」

ほう、経験が生きたな。飲茶を奢ってやろう。

(劉：明久…いつか殺してやる)

(ちよつと待って！なんで僕が巻き込まれているのさ!?)

(俺に言うか？駄目だろ?)

このように、アイコンタクトだけの熱戦が始まった。

「ところで、ペアチケットはどうする予定なの？アキと関戸」

ペアチケット：ここで大方雄二が何かしら俺たちがマイナスになる行動をしてきやがる。なら先手を打つまで。

「ああ、明久は俺と霧島に渡して、雄二に楽しんでもらうんだ。

明久も俺も一緒に行く奴なんていないからな」行く…劉！何てことを言うんだ！そんなことをしたら翔子が勘違いして脅されるぞ！」

こんな事を言ったが、俺に罪悪感はない。君達に聞くが、小学生からその人のことを一途に思っている可憐な女性と…それからずっと逃げる幼馴染の男性ではなく。さあ、君達はどっちを選ぶ？

「悪いな雄二。俺たちは一回戦があるから行くぞ？明久…」

「うん。雄二はお店のほうをお願いね」

「ちよつと待て！劉！あの約束はなんだったんだ？」

「俺は約束は絶対に守るぞ？」

そう言って、俺と明久は召喚獣大会の会場に向かった。

一回戦は物理、これなら基本。たいていの奴には負けない……

おまけ

「おい高名、もう休めよ！丸二日働きっぱなしじゃないか！」

「駄目なんです…早く日本に戻らなきゃいけないんですから。仕事をオーバーワークでもやっていかなきゃ…」

第23問(表) : 文化祭準備(後書き)

あとがき

学園祭・第二巻のないようです。

表と裏はこんな感じで分けます。

表 普通の学園祭

裏 学園側VS???

舞・村野姉妹『出番は?』

まだないよ?

『万死に値する!』

え?なんでヴァーチエがGN粒子砲を……ゴブハアツ!次回

「神崎ゆうです。宜しくお願いします」

「マイスター…日本にいつ帰って?」

「いきなりだが、福岡雷太だ。…って。堅苦しいことは又キにして、よろしゅう頼むわ!」

「教頭…どこまで腐った!」

「お前ら… 『エグゼクティブ執行委員会』 の出番だ」

次回

第23問 (裏) : 執行委員会

第23問(裏) : 執行委員会(前書き)

23問の裏です。時間軸は表と同じだと思ってください。主役は…

…

第23問(裏) : 執行委員会

side may

藤川舞です。え？何でmayなの？maiじゃなくって……？
気分です。別に読もうと思えばまいとも読めますし。

今、突っ込もうとした人。お仕置きです。

さあ、せっかく出番を貰えたのですから……今のことについてお話し
しないといけませんね。

今現在。私とほか数名の生徒が学園長室に集められています。何か
ドアが壊れているのは気になりましたが、学園長は『どこかのバカ
がやったさね』とか言っていましたけど……劉君はそんなことはしないと
思いますし。

「良く来てくれた。まずは来てくれたことに感謝するよ」

これは珍しい。クソ頑固な学園長(笑)が素直に礼を言うとは

「何が笑さね！そのマッドメデイサー！」

地文にツッコまないで下さい。それとマッドメデイサーって何です
か？いかれた薬学士とでも言いたいんですか！？

「そうさね」

「あなたは心理学者ですか？」

「その薬物中毒者は置いといて……何が中毒ですか！？それだと
麻薬をやってるように聞こえます……今、この文月学園を潰そう
とする輩がいるらしいさね。……犯人は今回の召喚大会の商品『白金の
腕輪』と『黒金の腕輪』を暴走させて学園のイメージダウンを図っ
ているのがいるのさ。この学園は世論の影響を強く受ける。それで

つぶれてしまいそうなんだよ」

「……」

全員が静かに聞いていますね。私も最初は軽い話で終わると思っていたのですが、そこまでの事態になっているなんて……

「腕輪の回収はある生徒に任せただから……アンタ達には犯人の確保を依頼したい。このメンバーは少なくとも私が信頼する生徒。大事な仕事を任せたいんだよ」

私って信頼されてたの？されたくないし、されないような事を沢山していたのに！

「で、全員参加してくれるんだね？」

『はい』

「良いですよ。……Fクラスの補習を軽減で」

「一人根が腐っておったが……その程度ならOKさね。なら……お前達に！『執行委員会』に着任を命ずる！」
ばあさん……結構年なのにそこまではつきりとした声じゃなくても……

「この『執行委員会』……別名『エクソキューター』は、臨時的に学園側が任命した生徒に『フィードバックのない観察処分者として任命する』と思ってくれ。召喚許可もこの二日間限り出来るようにする。つまり、一時的に先生と同じ召喚獣設定をするのさ」

「つまり、逃げる前に人の数倍の力がある召喚獣で確保しろ……？私の召喚獣は注射が撃てるんですけど、実験しても構わないのですか？」

「そこまで大層じゃなきゃ許可するさね。頼むからね。ただし！口

外は禁止だよ！ばれたら意味がないんだからね…後は全員で自己紹介でもなんでもすれば良いね！」
そう言つて、学園長室の奥に入つていった。これから面倒なことになるそうですね。

「それじゃあ自己紹介しましょうか。私は2年C組・神崎ゆうです。宜しくお願ひします」

あれ？神崎さんなんてCクラスにいましたっけ？試召戦争では見かけませんでしたか…

「私はFクラスの藤川舞。薬で困る人は来なさい！二日だけよろしくね」

「私は橘 たちばな 桜花 おうか！Dクラスだよ。よろしく！」
…なんて中二な名前なんですか。桜花って…親の顔が見てみたいですね。

「…中。塚原 あたる 中。Aクラス…それと…」
静かな人ですね。土屋さんといひ勝負ですよ。「失礼する」……え？何で？

「マイスター…いつお帰りに？」

「さっきだ。福間雷太、執行委員の命を受けて帰つて……そんな堅苦しいことはええ、みんなよろしゅうな！」

「…マイスター「ここでは福間とよぶんや」…福間さん。学校で関西弁は使わないじゃ…」

「ええんよ。かたつくるしいのは嫌いだな。それと舞…この事件。小田くんの会社がかかわつとるかも知れんや。せやから、ワイが

帰ってきた。OK?」

小田君の会社…パソコン会社ですか。確かここの資金を出している
1つの会社ですね。

「それは本当ですか?って何で小田君のことを?」

「たかな ねつと。や」

…………… 小田君

「ささつ。リーダーの舞さん 指示出して な」

「何で私がリーダー?おかしいですよ!」

本当です!貴方の気まぐれで決めたこと

「私も貴女が適任だと思えます」

ゆうちゃん…

「舞ちゃんなら出来る!」

桜花さん、貴女も…

「…………… 藤川、やる」

ブルータス。あなたもか。

「そういうこっちゃ。頼むで」

なかなか無茶なことを言ってくれますよ。マイスターは…

「分かったわ。逃場がないようなので、リーダーを受け持つわ。』
『オペレーションマスター
執行委員会』 作戦開始よ!」

清涼祭・後夜祭終了までに、学園長失脚をもくろむ輩を捕獲せよ！

残り??人

第23問(裏) : 執行委員会(後書き)

関西人&ゆうキターー

こんにちは、蒼です。

裏パートはVSアローズ…教頭側です。

水銀さん！ゆうはここでの登場ですが…大丈夫ですかね？自分でキ
ヤラ設定を作ったのに…

格キヤラの紹介は、第二回キヤラ紹介でさせて頂きます。多分二巻
が終わるまで出来ませんがね。(キリッ

裏の主人公は舞です。雷太もいますが…

それでは次回の更新で。

第24問(表) : 召喚大会一回戦!(前書き)

どうも。蒼です。文化祭三日前なのにこんな事をしております。知られたらただじゃすまないでしょうが(キリッ)

今回は劉・明久ペアと村野姉妹ペアの一回戦です。え?原作?あー、何所に逝ったんでしょうかね(滝汗)

第24問(表) : 召喚大会一回戦!

side r y u

「えー。それでは、試験召喚大会一回戦を始めます」

校庭に作られた特設ステージ。そこで召喚大会が催もよされるが、こんな金があるなら俺たちの設備をどうにかして欲しいと切に願う。

「三回戦までは一般公開はありません。リラックスして臨んでください」

今いる先生は木村先生だ。俺にとっては、良いとも言える先生だ。物理なら負ける気がしない。負けたとしても草子だけだしな。…風子の腕輪を禁止にして

「明久。勉強の成果を見せるんだよ！前の屈辱をバネにして…闘うぜ！」

「うん。もうあんな醜態はごめんだよ」

Aクラス戦でのあの光景…俺は忘れねえ！あいつら、優子と佐藤はペアで出ていたから、当たれば準決勝。絶対に雪辱してやる！

「一回戦は…岩下と菊入か。同じクラスだったよしみだが…勝たせて貰う！」

あいつらはBクラス。試召戦争を経験している、のか？まあいい、明久も勉強しているんだから同じくらいになっているはず。

「では召喚してください」

木村先生が告げると、木村先生の足元から立方体のフィールドが出てきてステージ全体を覆った。

「試験召喚サモン」

そう言い終えた後に、これまた足元から幾何学模様が出現して召喚獣が出てきた。あいつらの召喚獣の装備は西洋風の鎧と剣。俺たちにその鎧をよこしやがれってんだ。

『Bクラス 岩下律子 & 菊入真由美

物理 184点 & 174点 』

「じゃあ明久、召喚するぞ」

「うん「試験召喚サモン」」

俺たちも召喚のワードを言って、召喚獣を出す。

俺の装備は…髪と眼鏡以外はカズマそのもの。武器はグローブすらなくて防具も無い。本来なら最低の装備だが、アルターで消えちまうから困る。まあ良いや

バンツ！バンツ！

俺の召喚獣が眼鏡を分解して、右腕の再構築を始めた。正式名称は精神感応性物質変換能力と呼ばれ、自分の意志（精神力）により周辺の生物以外のあらゆる物質を原子レベルで分解し、各々の特殊能力形態に再構成することができる特殊能力である。∴ Wakipe

d i a っ て役に立つな。

俺の召喚獣の特殊能力…といっても固有技能？といったほうが良いのか？武器が無い代わりにこんな能力を使えてしまう。もちろんシエルブリットだが

明久の装備は改造学ランに木刀と、装備だけを見たら俺より上。何かむかついてきたが仕方が無い。明久には『観察処分者』というものに任命されているおかげで、体に召喚獣のダメージがフィードバックしてくる代わりに、雑用を召喚獣とする為もあって操作能力だけなら先生にも匹敵する。

『Fクラス 吉井明久 & 関戸劉

物理 79点 & 643点 』

明久、勉強しろ。

「律子、あのバカを倒してから関戸くんを倒しましょ」
「ええ」

どうやらあの二人は明久を狙う気が満々なようだ。あいつらは俺の物理の点数を大方知っているから別段驚きはしない。しかしそれもあって俺は二人で倒そうとする。当然の攻め方だ。

計画通り（キリッ

「くるぞ。明久、シフトA」
「了解」

そういった後に、俺の召喚獣が明久の召喚獣の背中を守る立ち位置に付いた。これは召喚獣の操作に長けた明久が、相手の攻撃を受け流してその隙を俺が倒す。明久じゃないと出来ない作戦だ。俺も高得点たたき出さないといけないが、その分明久は攻撃を食らうと一撃死が待ちかねている。俺も一撃で倒さなきゃいけないから連携も必要だが…

「オレ（僕）はあの二人に勝つまでは、負けられないんだ！！」
そう。その感情だけが突き動かす。
ギーン！

明久が岩下の召喚獣の攻撃を木刀を使ってその姿に似合わないほどの華麗な受け流しを見せ、明久の左側　　オレのシェルブリットが待ち構えてる方へと誘導した。

「劉！」

「ナイスだぜ明久！衝撃の、ファーストブリットオ！」

召喚獣の背後についた三枚の小さな羽が1つ碎ける。そこから衝撃波がジェット噴射となって俺の推進力になる。本来なら五分の一しか相手に与えられないが

「その体勢なら避けられない！脳天へとパンチだ！」

「キヤアツ！！」

パンチが脳天にあたってダウン。召喚獣が消えたから、急所と断定したんだな。

「FUH A H A H A！俺を倒せる奴はいるか？」

そう言つて、負けた覚えがある俺は…

「……」

明久が黙つて俺を見る。見るな！そんな目で俺を見るな！

「…先生としてはぜひとも、関戸くんたちに負けてもらいたいものです」

いいえ木村先生。俺も本人じゃなきゃそっち側に立っている。一人間としては正しい答えだ。

「じゃあ、明久………OKか？」

「うん。それにしても、小田君より作戦が上手じゃない？」

「いいや、殲滅戦と殺戮戦のみだ」

中学では毎日ケンカだったんだ。相手を確実にしとめる術は手に入れている。

「よくも律子を！」

そう言つて菊入が召喚獣を使って俺たち二人をまとめて切りかかってくるが、どうも動きがぎこちない。やっぱりすぐ倒されたとかなんだな。それに冷静じゃねーやつに…

「俺たちに勝てると思ってるのか？」

俺がシエルブリットで迎撃。明久が木刀で何度もたたく。さすがの明久の点数でも何度かたたけば大きな一撃となる。

「悪いな。武器は放さねえ」

俺が召喚獣の剣を握っている…つまり反撃の手段が無いからだ。雄二とかなら殴りかかるかもしれないが、相手は女性。殴りかかるなんて旧石器時代の考えはさすがに起こさないだろ。

「ラストオ！」

…明久、倒したのは良いがどうして20秒もかかる。しかも十回以上たたいてたな。完全に俺たちが悪役だぞ？

「…一回戦。勝者、関戸・吉井ペア」

ようやく終わった。さて、中華喫茶も気になるから戻るか。

s i d e f u k o

「召喚獣大会一回戦を始める！選手は召喚しろ」

よりもよって担当は鉄人。科目は物理だから負けなと思いますけど、相手は…

「ふう…よりもよって君達にあたるなんて不幸だよ」

「…残念」

Aクラスの塚原君と久保君ですわね。相手にとって不足はありません！

「……試験召喚」

『Aクラス 久保利光 & 塚原中

物理 276点 & 346点』

さすがはAクラスといったところ。久保君は確か文系でしたが、それでもきっちりAクラスの平均点に乗せてくる。すごいですわね。塚原君は理系とお聞きしましたし…相当な難敵になりそうですの。

『Fクラス 村野草子 & 村野風子

物理 648点 & 141点』

前よりは点数が上がりましたわね。私の腕輪は『それを使われると面白みに欠けるから、使わないでおくれ。まあほかのプレゼントをしてやるから』なんて言われましたけど。まあ良いですよ。私はこの文月学園のクイーンなのですわ。その程度の障害なんて、無いも同じですこと

「次元落とし！召喚『？鐵の演操者・夏目』！」

ハンドラー

私の点数が…

『Fクラス 村野風子

物理 41点 』

『夏目智春。契約にしたがい、相手を倒す。行くぞ、操緒』
『おっけー。つかれたから早くかえろっ』

ほ、本物の智春&操緒…感激ですわ。

注！…この作品では、結構アニメなどに染まっている人が多いです。

『第3生徒会 夏目智治ナツメ トモハル&水無神操緒ミナカミ ミサオ

????

200

』

「草子、行きますわよ！」

「久しぶりだね。二人だけで協力なんて」

「…そうですわね。でもこうなったら」

「アナタたちに勝ち目は無い」

「…さあ、いきますわよ（いくよ）」

『闇より暗き深淵より出でし 其そは、科学の光が落とす影！』

智春さんの力が頭に入ってきましたが…空間切断と重力操作って、本当にチートですわね。草子が出る幕じゃないでこと。

「行きなさい！」

そういった後に、？鐵の手から魔法陣が伸びて塚原君を捕らえました。

「中君！逃げ…動けない…重力操作の類」えっ…」

逃げられないのも無理ありませんわ。100点近い点数を消費してもわずかに数秒しか動きを止められません。ですがその数秒に（どさつ…）さすが、元は一人だっただけはありますわ。

「…いいコンビ」

「鉈を投げるなんて…武器を捨てる気？」

前言撤回を致しますわ。何で武器を投げるんですの？

「でも、僕には君達を倒す力が無いからね。棄権するよ」

久保君に感謝ですわね。

ボソ…「吉井君はチケットを翔子ちゃんに渡すから安心ですよ」

ボソ…「…本当かい？助かるよ」

「勝者！村野姉妹！」

…なんで二人でくるのですか？まあ良いですけど。喫茶店の方が気になりますし

「もどろッ！姉さん」

「…後で説教ね」

愚妹への説教も忘れずに。

第24問(表) : 召喚大会一回戦! (後書き)

こんばんは。なんだか過去最長になった気がします。
前回の問題でしたが、アレは自分のテスト範囲の中の問題でした。
とても眠い…

次回

「俺は須川亮だ。よろしくな」

「ああ? 邪魔してくれちゃうの?」

「薬には、こういう使い方もあるのや」

「『執行委員』藤川舞です! さあ、貴方達の罪を数えなさい!」

Next Episode

「初任務」(仮)

Wikipediaとかきましたが、わざとなので気にしないでお
読みください

第24問(裏) : 初任務(前書き)

舞のぶっ壊れ回です。

第24問（裏）：初任務

side may

お早うございます。藤川です。いきなり学園長の失脚とか、執行委員とかマイ……福間さんが帰って来たりと人間の許容量キャパシティーじゃ体や脳がもたないわよ！

「以上が前回までのあらすじでした」

「舞ちゃん、誰に話しかけてるの？もしかして電波に毒された？」
気にしないでよ。

はい、今は神崎ゆうちゃんと一緒に変質者。もとい私わたしたちにケンカを売って来た、愚かな人達を捜しています。

雷太さんは小田君からの連絡まち。中君は召喚大会。桜花ちゃんは、クラスでの仕事があるから待機。私は仕事がないニート状態なので、暇を持て余していたゆうちゃんとパトロールという名目で、いろんなクラスを回っています。

「ゆうちゃん、悪いんだけど自分のクラス行ってもいいかな？色々あって準備から居なかったから」

「良いですよ。胡麻団子を食べて見たいですし」

「ありがとう。じゃ、行こうか」

ゆうちゃんも乗り気で助かります。私達は何で執行委員に選ばれたのかを考えても、何かしらの理由がある筈……

「うー おい！邪魔だ邪魔だ邪魔ア！！」

prrrrrr.....

「はい？藤川ですけど」

「よりによってアンタが行動可能かい、まあいいさね。学園内にバカみたいな精神錯乱者らしい奴がいる。力を使っても構わんから、つれてくるさね」

「アナタは人を何だと思ってるんですか」それと、薬の使用は許可する」必ずしとめます！ご安心下さい、学園長」プツリ...

薬の使用が可能ですか...私の今の手持ちは...治療薬や催涙薬や催眠薬や麻薬や精神不安定薬とかしか無いわね。あれ？この袋と手紙は？

from: Raita

一回限りの身体能力増強剤や。こついう物、作れないんやろ？仕事に役たてな

そうですか。これは一度きり...なら確保には召喚獣しか

「『エクソキューター執行委員』ですの！さあ、貴方達の罪を数えなさい！」

「お...同じく『執行委員』神崎です。貴方を重要参考人として連行させていただきます」

もちろん言うのは某正義という異能力者の組織のテレポーターから。何で知ってるのかは割愛ですよ

「なんだあ？この『自主規制』の『自主規制』で『自主規制』が！」

「まずは、注射！感覚麻痺剤」

プスッ。という音がして相手の首近くの血管にぶっ刺した。その瞬間に刺された男が、いきなり力が抜けたかのように力なく転がった。

「な、動けネエ！」

「当たり前よ。感覚を麻痺させる薬を打ちましたから…次！『幻覚剤』ver.0」

薬の色が黄色に変わり、そして少しずらした所にまた刺した。舞は何故か召喚獣の薬を指定していた。

「だれか…きて…」

そして、それを目の当たりにしていたゆうは失神してしまった。この行動だけで軽くグロい惨劇が広げられていたからだ。

「うわああああ！来るな！俺は死にたくない！」

そして男は何かの幻覚を見たかのように声だけが暴れていた。

「やっと気が治まったわ。まずはゆうちゃんに薬を…脈拍・心音には異常がありませんか。…あ、須川君」

私は、丁度近場を通っていた須川君に声をかけました。

「この子を、Fクラスで安静にさせて貰えない？あの男に襲われそうだったの」

もちろん嘘八百ですが、こう言った方がFFF団に対しての牽制が出来ますし。

「分かった。とりあえず何とかしておくが、舞さんはその男を」

「もちろんよ。この男を学園長に差し出してくるわ…それと今見たことは内密にお願い」

「もちろんだ。そんなことをしたら後が怖いからな」

ふう…まずはこのおと…こいつで十分ね。麻酔を打ってつれて行くかしら

ザッ…ザッ…

このとき、学園長が手を出してくれたお陰で一般人の目撃者はいない。学園内なら『またあいつらか…』ぐらいで済むから結構助かっている。

おまけ

「あと27%…これが終われば…！」

「お疲れ様です。高名君…さすがはアキ君のクラスメイトなだけがありますね」

「それも、貴女が協力してくれたから早く終わりそうなんですよ。
玲^{ひな}さん
玲さん」

「大丈夫ですよ。アキ君にはぼつきり説明してもらいますから」

「玲さん…それは『じつくり』だと思えますよ？」

第24問（裏）：初任務（後書き）

やりすぎたと思っている。しかし反省はしない。

今回は、単純にゆうとFクラスの接点を作りたかったためにこのような話になりました。

舞は、『自称規制』のようなことを言われると、凄い怒ります。実際にはそのあたりの保健テストは全て不正解です。ははは…
五万PVと七千ユニーク突破！皆さんありがとうございます…これに感想と評価があれば（ボソッ

次回

「お前、誰だ？」

「舞さんと同じ中学校の同級生です」

「さあ、交渉をはじめようか？」

「わ、悪かった！頼むから許してくれ！」

Next Episode

『夏は常にとある村の川が枯れる』

第25問(表)：夏は常にとある村の川が枯れるb y作者(前書き)

こんばんは。更新に参上しました。

今回は、常夏共が襲来する所まで書き上げます。

それにしても三國無双6は、色んな意味で期待を裏切ってくれますよ。

では、本編へドウン

第25問(表)：夏は常にとある村の川が枯れるb y作者

前回のあらすじ

「俺たちは負けられねえんだよ!」

…何がしたいんだか。

side ryu

「明久に劉。すまぬが急いで教室に来てくれんかの?」

召喚大会の一回戦終了後に、校庭にある特設ステージへ秀吉がやってきた。少し息が弾んでいる所を見ると、急ぎの用みてえだな。

「あれ?喫茶店で何かあったの?」

俺の疑問を払うかのように明久が秀吉に聞くと

「うむ。少々面倒な客がおつての。すまぬが話は歩きながらで頼む」

「ちよつと待て。何で雄二の所に来ないで俺たちのところに来たんだ?」

「雄二たちは召喚大会の途中ぞい。こんなトラブル、どうにかできるのはお主らしくないじゃ」

歩きといいながらも、早歩きで教室に向かう秀吉を見ると…かなり確立でトラブル発生とみるだろうな。

「秀吉。それって営業妨害なの?」

歩いている明久の目が少し神妙になっている。学園長の所に直訴に行こうとした時と同じ目だ。いつもこんな感じなら絶対に助かると思うんだが?

「それが、明久の行ったとおりなんじゃ」

秀吉の端正な顔がゆがむ。営業妨害ね…本来なら停学レベルの問題なんだがな。

「そう来やがったか…で、オレらにケンカ売ってきてるバカどもはどこのだいつだ」

「うちの学校の三年じゃ」

よりもよって三年か。くそっ！受験もあるのにとことん暇なんだな！

それを言われるととても弱いんだが（作者

「雄二め！チンピラにはチンピラを当てるのが一番なんだがな！！」

「今の僕には、劉もチンピラの一人に見えるよ」

何てことを言いやがる明久。つと言いつつも教室近くとはいえ、廊下にまで響く大声が聞こえてきた。

「む。あの連中じゃな」

「秀吉。マイナスアピールをしない程度で修正してもいいか」

ここでいう修正〃もちろん拳の話

「マジできつたねえ机だな！これで食い物扱っていいのかよ！」

俺が扉を開けるなり耳に飛び込む罵声^{ばせい}。どうやらクロスで覆い隠していたEクラスの机を良く思わなかったらしく、クロスを剥がして文句を言っつきやがった。なるほど。小物だ。

だがよお、お前達は失敗を犯した。その為に俺たちから処刑されるんだ！

「……………」
あの絵にかいたようなチンピラの様子を見たお客さんが静かになる。マズい。喫茶店でこの悪評はかなりの痛手だ。

「劉。早く何とかしないと経営に響くよ」

「まあそうだな・秀吉は客への説明。明久は外に飾ってある説明文をもってきてくれ。あとチンピラの特徴を覚えておけ」

「了解じゃ。…あ、すみません」

秀吉は聞いた後、すぐにお客さんへの説明を始めた。こういうところはさすが演劇部といった所だ…秀吉の才能が良く分かる。

僕に対しては表にある説明文を持ってくると、相手の特徴を覚えることだ。

営業妨害をしているのは二人。いずれも男だ。片方は中肉中背の一般的な体格と、小さなモヒカンというこの学園としては似合わない非一般的な髪形をしている。もう一人は175?くらいの普通の体格で、髪は丸坊主だ。なんとも覚えやすい髪形をしているんだ。

「まったく、責任者はいないのか!このクラスの代表は(ペキュ)ゴペア!」

「大変失礼させていただきました。代表は召喚大会に行っているために代わりに私が話しを聞かせていただきます」

ホテルのウェイターのように恭しく頭を下げる劉話し掛ける前に顎を殴り飛ばしていなければ、まるで模範的な責任者のようだ。

「不満も何も、今連れが殴り飛ばされた気が……………」

殴られていないソフトモヒカンの男が驚いている。無理も無い。僕だっていきなり友人が殴り飛ばされたら驚くだろう。

「それは私の『脳の揺さ振りから始まる交渉術』に対する冒瀆ですか？」
「すごい怖い交渉術だ。」

「ふ、ふざけんなよこの野郎……。何が交渉じゅてギヤア！」

「そして『鳩尾キックで繋ぐ交渉術』です。最後には『肉体的拷問で閉める交渉術』がおまちしているので」

「わ、わかった！こちらはこの夏川を交渉に出そう！俺は何もしないから交渉は不要だぞ！」

「おい！汚いテーブルで食べ物だしたお前らがやることか！？それと常村！俺を生贄にしようとするな！」

ここでまさかの正論を言う坊主頭。覚えにくいから『常モヒカン。夏坊主』でいこう。

「コホン　では、説明させていただこうか？常夏コンビ」
あ、劉の仮面が外れた。どうやら少ししかまともな姿勢は維持できないようだ。それと、そのコンビ名はいい名前だよ。

「お前ら。入り口に張っておいたこの張り紙を見たか？これにはなあ『私たちはFクラスです。この学年では最低限の設備しか与えられていません。よって皆様には不快な思いをさせてしまいますが、食品は丹精こめて作らせて頂きます。それをご了承の方のみお入りください。私たちも最大限のサービスをさせて頂きます』って書いたよな！それを無視してまでもクレームをつける。これが大学受験なら問題文の読解不足で即首切りだ！さらにはここに来られる客にも不快感を与えた！テメエらのやることはただの侮辱だ！ここにいらっしやる人たちに対する！本来なら賠償請求も出来る…だから、とつとこの教室から出ていきな。それでも文句をいい続けるなら…お前らの身の安全は保障できない」

劉が…とても怖く見えた。一瞬だけど、あの目。彼は本当に劉なのか？

『そうだ、その少年の言う通りだ！』

『お前らなんて来るんじゃない！とつと自分の教室に帰れ！』

『少しは常識を理解したらどう？』

周りで僕達の料理を食べてくれている人たちが常夏コンビに反論してきた。僕達の考えが判って貰えて嬉しい気分だ。

「覚えておけ！」

どこかにいる悪役のような捨て台詞を残して去っていった。なるほど。劉の行ってた…

「安心しろ。入り口に注意書きを書いておいたからな…それを承知で入ってもらうことになるからなあ…文句が出たらそれを盾に、おっぱらえばいいんだよ」

こつこつ意味だったのか。これならどんなクレームも受け流せる。

「皆様。お見苦しい所をお見せして申し訳ありませんでした。これからは私たちが精一杯のおもてなしをさせて頂きますので、どうぞこれからも宜しくおねがい致します」

『いいぞ、ボウズ!』

『そんなこと気にしないで! 私たちは大丈夫だから』

周囲も安心した。これで楽に……って

「劉? 何所に行くの」

「あ? お前もくるか? 決まってるんだろ」

そう言って劉は、とてもいい笑顔で

「俺たちに責任をなすりつけた奴への処刑」

雄二に対しての死刑宣告をした。

第25問(表)：夏は常にとある村の川が枯れるb y作者(後書き)

コンビ名考えてみました。

劉&明久「史上最低のコンビ」

劉&高名「水と油の交わりコンビ」

村野姉妹「華麗な双子姉妹コンビ」

…いびつだ。修正してやる！

バカテスとは次回の表で書かせて頂きます。

時報

「ZZZ…」

「…あなた、……連行」

「『執行委員』よ！全員お縄につきなさい！」

「クソツ！学園長の差し金か！」

「……Aクラスに、……近づくな！」

Next Episode

塚原 中

第25問(裏) : 過去と須川と明久と(前書き)

すみません！中の話を出そうかと思ったのですが、これからの書き易さと都合上で前回の裏からの続きとなります。すみません！ホントすみません！

第25問（裏）：過去と須川と明久と

side may

学園長室

「…と云うことですので、この下劣な人を連れてきました」
「そんな事をいわれても分からんさね！しゃんと説明しな！」
というわけで、私は学園長室にあの変態を連れてきました。女性の
前でそんなことを言うのはおかしいからね。

「も、もう…許してくれ」

「本当にアンタは何をしたんだい！？」

嫌ですねえ。ただ感覚麻痺と幻覚を見た後に麻酔をかけただけじゃないですか。何をそんなにおどろいているの…失礼ですよ。

「まあ、この人にはこれから自白剤「するんじやないよ！犯罪だからね！」…節度を守ってやっているのよ？問題ないじゃない」

「これが普通と思うなら病院に行くんだね！」

「まあ、それは別として…この変態みたいな人が出てきたら、召喚獣による介入は許可するんですね。私もあの噂が消えてくれれば動きやすくなるんですが」

「別に召喚獣は使っても構わんよ。あの事件？確か『一家毒殺』のあの事件だろ？あれは」

…

「それ以上言わないで貰えますか？つい手元が狂ってしまいかもしれませんから。少し動かすと、頸動脈へ麻酔を刺すわよ」

そう。あの事件だけは知られるわけには行かない。マイスターはも

ちろん、劉君や風子ちゃん。草子ちゃんにも…

「まあ良いですわ。で、ほかの生徒への指示は？これじゃあ何か問題があるのは目に見えるわよ」

「それは大丈夫さね。塚原と橋に学園内は見張らせているけど、あまり期待は出来ないよ。犯人の目星がつけば良いんだけどね」

学園長が少し苛立った感じで話す。私も自分の学校に、こんな形で清涼祭を台無しにされるのは嫌よ。気持ちは分かりますけどね。

「高名君からの連絡は？（ブー！ブー！）。失礼します…こちら藤川。どうしましたか？」

『こちら橋！2年Aクラス付近に召喚獣を使った明らかにヤクザっぽいカツコの人！今、中といっしょに交戦中よ！』

「大丈夫ですか？桜花さん！今向かいます…：…：学園長。すみませんが、この人たちを呼んできてください。そしてこの紙を」

そう言っって私は、説明を書いた紙を渡す。

「わかったよ。校内放送を使えば呼べるからね」

「では失礼します！」

私は足早に学園長室を出て行きAクラスへ向かった。普通の人が相手だったらまだ平気かもしれませんが、相手は召喚獣を使う。これだけで、学園の関係者が絡んでいるのは確定に近いですから。もし、学園の崩壊を目論むのであれば、傷つけることも辞さないだろう私はもう大事な人を失わない。

絶対に

無くしたりはしない!!!

side yuu

「か・おい」

「ここは？私は…確か舞さんが

「大丈夫か！」

「ひゃっ！あ、あの？」

「私が目覚ますとそこには一人の男性が立っていた。」

「あ、悪いな。舞さんから介抱を頼まれたFクラスの須川 亮だ。

「あなたは「神崎！」は？」

「私は、神崎ゆうです」

「この人、須川さんが私を…とりあえずお礼を言っておかなくては

「ありがとうございます。しかしここはFクラスですよ。正直ここにいたくな 冗談です。いたら邪魔かと思うので失礼させていただきます」

「いけないいけない。本音が出てしまった。私って、嘘をつくのが苦手ね…」

「まってくれ。舞さんからここにいてくれと言伝を頼まれたんだ」「え？」

side kaoru (学園長)

「それにしても…面白いことを考えたものだね」

呼び出す人方

・関戸 劉

・福間 雷太

・吉井 明久

「クツクツ…本当に楽しみになって来たよ」

第25問（裏）：過去と須川と明久と（後書き）

やっぱり勢いでかいた。後悔はしない

主な内容は舞の過去に少し触れるのと、中君までの道を出すこと。
おまけみたいなもので、ゆうと須川の出会い。それと明久強化フラ
グ。明久と須川は二人とも気に入っていますからほんのり優遇した
いんですよね。

とりあえず…いろいろすみません！！

第26問(表) : 召喚大会二回戦っ！(前書き)

問 以下の問題に答えなさい

『PKOとは何か、説明しなさい』

姫路瑞希の答え

『Peace Keeping Operations(平和維持活動)の略。』

国連の勧告のもとに、加盟各国によって行われる平和維持活動のこと。』

教師のコメント

そうですね。豆知識ですが、United Nations Peacekeeping Operationsとも呼ばれたりします。余裕があれば、覚えておくと良いでしょう。

関戸劉の答え

『Persona Keeping Operation(仮面保護運動)の略。人間の心の中にある仮面を国連加盟国で守っていく運動』

教師のコメント

それは人権保護団体のする事です。ゲームの話も大概にしてください。

橘桜花の答え

『Paladise tatumiya Keeping Operationの略。フェストウムから竜宮島を守っていく運動。』
この島だけが…最後の楽園だよ!』

教師のコメント

熱いコメントをかいても不正解は不正解です。来月は映画公開ですよ。

土屋康太の答え

『Pants Koshi-tsumi Oppaiの略。世界中のスリーサイズを規定する下着メーカー団体のこと』

教師のコメント

君は世界の平和をなんだと思っているのですか。

吉井明久の答え

『パウエル・金本・田の略』

教師のコメント

それは世界の平和を守る人達です。

第26問(表) : 召喚大会二回戦っ！

side ryu

「で、二回戦の相手はどんな連中？」

特設ステージにむかひながら、隣で歩いていた明久が聞いてきた。

「対戦表を見た限りだと、勝ち上がってくるのは…Cクラスの野口と黒崎だな。一応は勝ったことがあるんだが、科学での勝利なんだよ。実際、英語は200点近いけどな…明久、俺は一人。野口に集中するから黒崎を頼んだぞ」

「了解。僕だつてやれば出来るんだから」

先に(心の中で)言っておこう。お前の出来るほど、信頼できない言葉は数少ない。

一回戦：物理

二回戦：英語W

三回戦：現代社会

四回戦：数学？

準決勝：数学

決勝戦：総合科目

Now loading...

「それでは試験召喚大会二回線を始めてください」

今回の立会人は、多少のことが会っても目をつぶってくれる遠藤先生だ。俺はこの先生には頭が上がらない…今まで何度鉄人から守ってくれたことか…

「『『『試験召喚』』』」

俺たちの足元から毎度おなじみになってきた、幾何学模様の魔方陣から俺たちの召喚獣が出て来る

「 Cクラス 野口一心 & 黒崎トオル

英語W 167点 & 125点

相手の片方は英語は苦手なんだな。アイツなら明久でもすぐに倒せる。武器は雑刀なげなたか…
接近戦に持ち込めばいける！いくら六十点台でもって考えてすいません！

「 Fクラス 関戸劉 & 吉井明久
英語W 194点 & 101点
」

「明久！？いつたい何があった！？」

s i d e a k i h i s a

「明久！？いつたい何があった！？」
劉が驚いた顔と声で僕に問い掛ける。

「僕は家族が海外で暮らしているんだ。そのお陰で、英語はかなり叩き込まれたんだよ。かなりやつてもこの程度だけだね」
でも、僕の『観察処分者』としての召喚獣を操作する能力が高いことも合わせれば、このくらいの点数が相手だったら戦える。

「バカはほつとけ！」

「関戸！前回の試召戦争の恨みい！」
一応Dクラス並だよ。Cクラスの二人組が劉にめがけて薙刀を突きつけてきた。
と、おもったら

「引つかかったな！観察処分者！覚悟」
もう一人。黒崎君が僕にめがけて薙刀を振り落としてくる。だけど、僕はその動きに合わせて召喚獣を一步だけ横に動かして

「はあっ！」

腕目掛けて木刀をたたきつけた

「このう！」

避けられた上に、カウンターを食らったためか今度は大きく横に薙いで来る。距離を良く測って小さく後退する。

「くそ、バカなのによォ！！！」

ムキになっているおかげで相手の動きが単調だ。これなら小さな動きでかわすことが出来る。それに、相手の動きはどうみても召喚獣の操作に慣れていない。そういえば劉に前回の恨みとか言ってたな、せっかくの実践を早々に戦線離脱となつたわけだし、慣れていなくても当然か。

毎回、カウンターをしているとはいえ、踏み込みが足りず大きなダメージにはなっていない為、いつまで避けていても埒があかないし、
「よし、そろそろ　いきますかあっ！」

大ぶりの攻撃を避けざま、木刀を握り締めて僕の召喚獣が攻勢に転じた。

「な？ちいつ！クソツ！！！」

今回は大きな点差が無いから攻撃が通じるけど、本来の点差なら敵の鎧の隙間などを狙って的確に攻撃を叩き込まないと効果が無い。

一息で眉間、首筋、腿、最後に鳩尾を打ち据える。劉が言っていたけど『召喚獣といってもベースは人間だ。お前ならどこを狙っている？』とかいってた。それを聞いて。本来なら腿でとめるのを鳩尾まで攻撃するようにした。一撃が弱くても部位に攻撃をかませばいい。一撃が弱くても手数でなら勝てる！劉はどうしてるかな？

「Fクラスのむ、村野姉妹！お前達が相手か！？」

「確かに。あのイカれた薬剤師と一緒になのね」

相変わらず性格が悪いですわ。しかし代表があいてですか。点差がどうなるか…

「まあ良いですわ…所で小山さん。こんなものに興味はありまして？」

そう言いつつも私はアノ写真集『生まれ変わったワタシを見て！』を渡しました。絶対にみたくありませんええ絶対に。

その後、私は一ページ目を捲る。そこには女子制服を着た（自主規制）が立っている。みたくもありませんの。

「さて、小山さん…これがみたくれば負けてくだらない？」

「おい！村野姉！お前は鬼『姉さんに近づくな』ヒイツ！」

威嚇完了（ニヤリ）

「いいわ。私もこいつに無理やり出されたわけだし。私たちの負けよ」

「さっすが、ユーちゃん！話がわかるねっ！」

「ゆーちゃん？うちのクラスにゆうって子がいるから、その呼び方はやめてくれない？」

…愚妹がすみません。

「けち。なら友香でいいよね。これからよろしくっ」（高名君が好きになったんでしょ？応援するよ！）

「よ、宜しく…」（う、うん／＼／＼。だけど…）

この二人はアイコンタクトが使えたんですか。話の本質と裏が違すぎる気がしますよ。

「さっ風子。喫茶店も気になりますし、教室に戻りますわよ」

「うんっ！じゃあ先生、私たちの勝ちね！」

草子が先生に話すと『また問題が…』とかつぶやいていますが、本当にどうしたんですかね？

「あ、はい！それでは草子さんと風子さんの勝利です！」

これで正式に勝利宣言を受けた。安心して教室に帰れますわ

第26問(表) : 召喚大会二回戦っ！(後書き)

蒼です。マロさん…感想ありがとうございます！須川はこれからも出しますよ？何故、疑問形かは気にしないで下さい。

感想も貰ったことなので宣伝を

バカとテストと優等生？

世界で初めて試験召喚システムを導入した試験校の文月学園。不本意な理由でFクラス所属となった主人公が本人の意思とは関係なしに明久達と共にAクラス打倒を目指し戦う羽目なる。

ぜひこちらにも拝見していつて下さい！

それと自己満足ですが宣伝を

蒼穹のファフナー HEAVEN AND EARTH

12月25日公開！

主題歌：angeliaさん

これは過去に放送された蒼穹のファフナーの後日談です。公開劇場が限られています、ぜひ見に行ってください。

私は関東のどこかで見させていただきます

あのあと、灰になりかけた野口君はスタッフが美味しく？いただきました。
ました。

宣伝ばっかになりましたが…次回は予見どおり、中君のお話します

第26問(裏) : 塚原 中(前書き)

こんばんは。ダブルオーと来月のファフナーに全力を注ぐ?蒼です。
予見どおりの中君サイドです!ドウゾ

第26問(裏) : 塚原 中

前回のあらすじ

「オラオラオラオラオラオラア！」

「無駄無駄無駄無駄無駄無駄あ！」

「……………うるさい。…邪魔」

side ataru

なんで僕が『執行委員』とかいう組織に…はあ、もう嫌だよ。静かにしているほうが楽しいのに…何で…何で

「さあ！Aクラスを案内して！」

こんな五月蠅い子と一緒にゃダメなんだ…。僕は静かなのが好きなのに…しかも

「……………橘。……………離して」

「嫌よ。犯人に隠れて行動するのには、恋人っぽくやるのがマロンなのよ！」

「……………マロンじゃなくて……………ロマン」

廊下で堂々と手を握ってくる。正直止めると言いたいけど、相手のことを考えると言いたくない。それで怒られても面倒だし…

「諸君、ココはどこだ？」

『『最後の審判を下す法廷だ！！』』

「異端者には？」

『『死の鉄槌を！！』』

「男とは？」

『『愛を捨て、哀に生きるもの！！』』

「よろしい。これより 2・F 異端審問会を始める。」

「皆さん、ココはどこですか？？」

『『悲しみをぶつける所！！』』

「リア充には？」

『『裁きの時間を！！』』

「女とは？」

『『怒りを糧に、愛を育てるもの！！』』

「いいわ。今から殺陣武道会を始めるわ。目標は お よー！」

なにこれ…？誰に対しての集会？

「……Aクラスに……行こう」
「さすが！話がわかるね、中君」
「……静かにして欲しい」

テクテクテク

side r y u

「で？俺たちに何のようなんだよ、ババア」
「そうですね。僕たちも用があるので手短に。ババア」

「……あんたらには一度、学園の最高権力者が誰だか教えたほうが
いい様だね」
何で無理やり放送で呼ばれた上に、罵倒をあびなきゃならねえんだ
よ！俺だって暇じゃねーんだ！

「いいや。寝ようとしてただろ？それに呼んだのはあのマッドメデ
イサーだよ」
心読むんじゃね。よ。それに『いかれた薬』なんて舞以外いないだ
ろ。

「まあいいさね。呼んだのは……そのバカ専用の腕輪を作っ
て欲しいんだよ。能力付加の形でね」

「能力付加だと！？召喚システムに干渉できる能力を作るのには最
低でも『今日中に作るんだよ』何だと！お前も科学者なら分かるは

「ずだろ！」

「だから、その手に詳しい助っ人を用意したんだよ！」

ガチャリ…

「失礼します。どないしてワイが？しg 関戸君に吉井君やないか？あんさんたちも呼ばれたんかい？」

「福間君…放送聞いていなかったの？一緒に呼ばれたでしょ？」

「おい。『愛したものを』」

「…『自分の手で殺せますか？』やる？」
「なんてヤツだ…すげえ！」

「任せるババア！福間…：雷太でいいか？実はかくかくしかじかでいるはにほへと何だよ！手伝ってくれ！…：報酬は高くつくぞ？」

「ふむふむ。舞がえらんなんなら、違ううことは無いで。よっしゃ！久々の実験や！」

「そうだ。俺も数ヶ月振り え？」

「ちよつと待て？久々って」

「ああ。いい忘れとったな？わいはこの『試験召喚システム』の開発グループの一員や」

「「何だとおおおおおお！」」

その日。学園長室に大きな声がこだました。

side ataru

学園祭って疲れるよ……。利光が何でそこまでやる気になれるか知りたいくらいだよ……。あれって？

「さあ！一緒に来いよ！」

「なんで召喚獣を……いや！離してよ！」

…何で召喚獣を部外者が？まさか、こんな形でこの肩書きが役に立つなんて

「……Aクラスに、……近づくな！」

「『執行委員』よ！全員お縄につきなさい！」

僕の意図がわかってくれたかのように、橘が手を離す。

「塚原君……」

「邪魔だぞ！根暗あ！」

いきなり殴りかかるなんて…本当に大人は腐っているよ。…それに五月蠅いし…

「『試験召喚！』」

足元にナゾの魔方陣が展開されて、僕と橘の召喚獣が出現した

『????? ソルト

総合科目 4046点』

『 Aクラス 塚原中 & 橘桜花 Dクラス
総合科目 4184点 & 2417点 』

「……………橘。…振り分け試験、手を抜いた？」

相手の召喚獣は多分点数操作されている。僕は学年ではトップクラス。橘はDクラスなら、1500点あたりが上位のはず。多分Aクラスにも入っていた

「当たり前よ！最初から温室で育てて何が楽しいのよ！『即刻下克上！』それが私のモットーよ」

前言撤回。彼女は五月蠅すぎるからAクラスにはいらぬ。

相手の召喚獣はただの特攻服に木刀。多分試召戦争でみた吉井よりも酷い。

僕は、某00武力介入組織の緑色の制服に、ロングバレルをつけた狙撃銃。基本は二人以上で戦うスタイルだったから、彼女がいて助かる。

彼女…橘の召喚獣は、

期待した僕がバカだった。

「……なんで、ロングボウ？」

「仕方ないでしょ！祖母ぐらいの人がアーチェリーやってたせいで私も弓道部所属なんだから」

そつ。遠距離&遠距離。揃ってはいけない最悪の事態になっていた。

「……藤川に……連絡」

「分かったわ！とりあえず回避しながらあの子を助けて」

「しゃらくせえんだよ！」

いきなりの特攻。しかも少々よろつきながら。点数はよくても所詮は素人…操作性が上の僕たちに

「……勝てるわけないよ（ないわよ！）」

Bannon!

僕の放った弾丸が召喚獣の足を狙い打つ

『????? ソルト』

総合科目 3476点『』

結構の点数が減らせた。それに少し相手の足が引きずっている。

「グワツ！痛みが、かえるなんて……聞いて…ねえ、ぞ」

どうやら、相手側はフィードバックを外すほどじゃなかったようだ。それだったら「中君！私の腕輪で何とかするわ！」……思考を読まないで欲しい。

「さあいくわよ！『氷乱』！」

……どうにかするといっても、ただ弓を撃っているだけじゃん。それに相手もそこまでは

「何だ？体がうごかねえ！クソッ！」

体が動かない？何故？彼女は召喚獣で何を？

「……………橘。……………何をした」

「私の腕輪『氷乱』は、その名の通り！召喚獣の武器に氷の力を与えるの。ヒド系かブリザだと思えばいいわ」

…相手が動けないなんて。Dクラスは要注意だね。

『????? ソルト

総合科目 2130点』

「……………はやく、教室に」

「ありがとう。塚原君」

……………救助は完了。だけど橘は僕の召喚獣の腕輪をみてくる

「じゃつ、腕輪使つてよ。私だけ見せて不公平じゃない？試召戦争のためだし」

そついう魂胆……………そこらの大人より質が悪い……………

「……………無理。……………これは障害物を無視して攻撃する『貫通』……………試召戦争ぐらいしか使い道が無い」

「……………まあ、情報を聞けただけいいわ。じゃあとつと倒してよ……………もう飽きたの？仕事なんだから。」

「……………目標を、……………狙い打つ」
バアンバアンバアン！

三発の弾丸が召喚獣を通り抜けた。これで戦闘不能だ

「ぎゃあああああ！クソツ！」

フィードバックでいたんでいる所を。舞さんが何かを注射している。

！？」「わいはいはい

n o s i d e

学園の開発室にて

「なあ、能力って何をつける？」

「何って…きまっとるやろ！代理召喚と同時召喚ときたら」

「「複合召喚だ！」」

第26問（裏）：塚原 中（後書き）

こんばんは、蒼でした。……ってまだまだおわりませんよ！帰ってきて下さい！

やっと中君の話をかけました！あの女の子の正体は…

中君の腕輪は、壁などを無視して攻撃するチート能力ですが、一発75点の高燃費攻撃です。あしからず

今回は葉月ちゃん乱入？です！お楽しみに！

第27問(表)：葉月と草子(前書き)

こんばんは。第二十七問、葉月登場の会です。そのとき草子は!?!?

第27問(表) : 葉月と草子

side ryu

婆さんに言われて、腕輪の製作を決めた後…雷太とは放課後に約束して少し早足で明久と教室に戻っていった。

「ういゝつす」

「ただいまー……つて、やっぱりお客さんが少ないな……」

客が少ないのは…あの時は何とかできたがやはりFクラスに近づく人は少ない。仕方がないことだが、何か大きな……

「お、戻ってきたようじゃの」

少し休憩中だった秀吉が、俺たちに声をかける。秀吉も少し暇そうだ。

「まあな。無事勝ってきたぜ」

「わたしたちも」

「ただいま…何ですの？この客層は！？もっと宣伝なさい！」

お前達は、自由すぎだ。

「雄二君は、トイレだった！」

草子。お前はそれを大声で言うのは女性としてはどうかと思うぞ？

「それより秀吉、妙な客は来ていないんでしょう？それなら何で…」

「むう。ワシはずっとここにいるが、妙な客はあれ以来来ておらんぞ？」

秀吉が首を傾げている。

「だったら、ほかの所で何かあるんじゃない？」
草子が久しぶりに喋る…もとい、意見を出す。そうやって抱え込んでいると

『お兄さん、すみませんです』

『いや。気にするな、チビツ子』

『チビツ子じゃなくて葉月ですっ』

雄二と小さな女の子の声が聞こえてきた。そうか…こいつはロリコンだったのか。

「おい雄二。後ろに霧島がいるぞ」

「待て！違うんだ翔子！これは　　だましたな？」
だまされるほうが悪いんだ。はっはっは。

『で、探しているのは誰？』

草子が雄二と一緒にきた子供と喋っている。草子の影で見えないから小柄なのだろう。

『可愛い子だな。ねえ、五年後にお兄さんと付き合わない？』

藤堂（

『俺はむしろ、今だからこそ付き合いたいなあ』（新田）

…どうやらこのクラスにはまともな奴がないようだ。それと藤堂！お前は何がしたい！

『あ、あの、葉月はお兄ちゃんを探しているんですっ』

『お兄ちゃん？名前はなんていうの、葉月ちゃん？』

『あう……。わからないです……。』

『家族の兄ちゃんじゃないの？それなら、その子の特徴は？』

さすがは草子。今になっても公園とかで子供と遊んでいるだけはあるって、扱いがうまい…それだけなら良いが。

『えっと…バカなお兄ちゃんでした!』

とんでもない特徴だな。ん？明久が汗を流しているぞ？

『そう…』

草子が、教室をきよろきよろ見回してクラスを一通り見た後

『いっばいるよ?』

……否定できない。

『あ、あの、そうじゃなくて、その……』

『どうしたの?ほかに特徴があるの?』

『その……すつごくバカなお兄ちゃんだったんです!』

『『吉井だな(ですね)』』

どうした明久!涙が止まらないぞ!

「全く失礼な!僕には小さな女の子の知り合いなんていないよ!だから…ぬいぐるみの子」

「あっ!バカなお兄ちゃんだっ!」

小さな子…葉月が明久にいきなりかけて、抱きついた。

「全く…バカなお兄ちゃんがバカで御免な?葉月ちゃん」

「ん?青い髪と眼鏡…眼鏡のお兄ちゃんですっ!」

…俺への眼鏡のよさが分かる?

「葉月ちゃん。俺は関戸 劉って言うんだ。眼鏡のお兄ちゃんだぞ!」

そう言って、軽くなでてあげる。

「眼鏡のお兄ちゃん!ありがとうございますっ!」

小さな顔から笑みがこぼれる。こういうのを純粹に可愛いつて言うんだな。俺はロリでもないがな

「あ、お姉ちゃん！遊びに来たよっ！」

と、葉月が島田を見て喜ぶ。

「いらつしやい葉月ちゃん。ぬいぐるみは大事にしてているかい？」

「はいです！お姉ちゃんが喜んでくれたですっ！」

ぬいぐるみなんて…えっけでもしたのか？明久よ…

「そっか。それはよかった。それにしても、よく僕の学校が分かったね」

確かに。バカと覚えるくらいなら、試験校のここは該当から外れるはず…

「お兄ちゃん、この学校の制服着てましたから」

そう言つて明久の制服を引っ張る葉月。うんうん。小さい子は純粹に生きるよ。島田みたいに、凶暴になったら手遅れだからな。

「あれ？葉月とアキつて知り合いなの？」

そんな様子を見て島田が首をかしげていた。何かあったのか。

「うん。去年ちよつとね。美波こそ葉月ちゃんの事を知っているの。」

「知っているも何も、ウチの妹だもの」

「え？」

…確かに似ている。顔の、とてつもない怖さはないが……

「あ、あのとときの綺麗なお姉ちゃん！ぬいぐるみありがとうございますでしたっ！」

葉月がしっかりとお辞儀をする。凄げえ礼儀が正しい。婆さんや雄二とは大違いだ。

「こんにちは、葉月ちゃん。あの子、可愛がつてくれてる？」

「はいですっ！毎日一緒に寝ていますっ！」

ぬいぐるみ……毎日一緒……姫路も葉月にぬいぐるみをプレゼントしたのか？

「よかつた。気に入ってくれたんですね」

そう言つて嬉しそうに微笑む姫路さん。確かに俺たちの中には子供好きは多い。俺も結構好きだし。いや！育てがいがあるなんていつてケンカ技なんて、仕込んでいないぞ？本当だ！

「おい。楽しい所悪いが、この客の少なさはどうということだ？」

つたく。空気がよめねえ猿人類だ全く…葉月の登場で、忘れ去られたと思つたのによ。

「そういえば葉月、ここに来る途中でいろいろな話を聞いたよ？」

「ん？どんなはなしだ？」

俺はかがみこんで葉月の視線に合わせる。相手に合わせないと、話はずらいからな。

「えつとね、中華喫茶は汚いから行かない方がいい、つて」

まだクレームがでているのかよ。今度こそ『関節外しから始まる交渉術』をくらわしてやろう

「ん。さっきの常夏さんじゃないの？私たちのこと悪く言つてたよ？」

そうかそうか。あいつらにはもう一度交渉が必要か。そうか。

「ふむ……。その連中の妨害がまだ続いているんだろつな。探し出してシバき倒すか」

やはり俺と同じ考えか。

「それで葉月ちゃん。その悪い人たちはどこにいたの？」

俺は、あふれ出そうな怒りを抑えながら、葉月に聞いた。

「えつとですね　短いスカートを穿いた綺麗なお姉さんがいる

……」

「何だつて！？雄二！それは早く向かわないと！！」

「そうだな明久！わがクラスの成功の為に、（低いアングルから）綿密に調査しないとな！」

ダダダダッ！！

…なんて早さだよ。おかしいだろ。

「アキ、最低」

「お兄ちゃんのはかつ！」

俺は、葉月と姫路。島田を引き連れて葉月が行ったクラスへ向かった。…そもそもあいつらはどこか知らないはず？草子と風子は『召喚大会がありますから』とかいって、勝手に消えやがったし……

第27問（表）：葉月と草子（後書き）

あああああ危ない！ただいまPC禁止令が出ている蒼です！
ばれないうちに書き上げるのは大変だ！…と云うことで簡単に次回
予告！

次回！

「EクラスとDクラス」

劉「…すまねえ。作者がこれを書いてる途中に見つかってしまった
から半端になった。」

本当に申し訳ありません！

第27問(裏) : EクラスとDクラス(前書き)

あれ?更新が遅くなるって昨日言ってた?せっかく早く更新できたんですから気にしないキニシナイ…

「そんな更新で大丈夫か?」

「大丈夫だ?問題ない?」

第27問(裏) : EクラスとDクラス

前回のあらすじ

「……………目標を、……………狙い打つ」

「『氷乱』!」

… 大まかな動きだけじゃないか。

side may

わたしは再び不届者を再度学園長に引き渡した後、中くんや桜花ちゃんと一緒にFクラスにいるゆうちゃんを迎えに行きます。

犯人に何をした？嫌ですね。ただ『死んだほうが良い』と思える『光景を見せただけです。はい。相手が薬物中毒だったからこそ幻覚を見せても、罪を擦り付けられますから。

「ゆうちゃん、迎えにきましたよ」

「あ、舞ちゃん。桜花ちゃんに塚原君も」

「やつほ。大丈夫？」

「……………神崎。……………気分は？」

「もう大丈夫よ。この程度は何とかなるわ」

… なんて私たちは合って数日の人たちと違和感無く過ごせるのかし

ら？

「じゃあさ、ほかのクラスの出し物を見に行かない？」

と、一言を発したのは桜花だった。元から行動力のある彼女には、少々のんびりはしたくないようだ。

「……うるさくなければ良い」

「いいですけど、仕事番がないですから、クラスの皆さんには」

桜花の言葉に、少なからず中は賛成したが、ゆうは仕事をしていない分迷惑がかかる。と思っっているらしいが

「大丈夫ですよ。私たちは『執行委員』として働いていると思うわよ？学園長も仕事に差し支えがなければ出し物を見ても構わないって。もし文句を言う人がいたら『五帝がくる』っていいなさい。多分、学年内なら完全に沈黙しますから」

舞がゆうに説明する。中と桜花は少々顔を引きつらせながら話を聞く。

「…規格外すぎますよ？でも、楽しいことには代わりが……」
まだ不服ながらもゆうは賛成した。

「じゃあ、隣のEクラスに行きましょう！」

桜花が中とゆうを引っ張って走りながら隣の教室から出ている列の最後尾に向かった。

「……橘。……早い」

「桜花さん。早いです」

ゆうちゃん。その冷静なツッコミ…グツジョブです！

学園祭途中経過

吉井&関戸。村野姉妹。姫路&島田ペア
三回戦進出。

坂本&霧島。木下優子&佐藤
同じく三回戦進出。

「さあやって来たわよEクラス！」

「……この状況で、……どうやって」

中君。そういう大人の事情には口出ししちゃうダメですよ。怖いですがから

「Eクラスは、体育会系の人が多いですから……スポーツみたいなのではないか……脳筋ですね」

確かにEクラスは体育会系が多いですが……ゆうちゃん！脳筋なんていったらFクラスの人は救いようがありませんよ！だから私は「ゆうさんって、隠し事が苦手ですか？」

カマをかけることにした。

「違います。私は隠し事は苦手ではなくて、思ったことが口に出てしまうんです」

世間一般ではそれを苦手というんです。

「いらつしゃいませ。Eクラスへようこそ！ここはストラックアウト。野球のボールを投げて的に当ててもらわよ。それと四球百円ね」

受付のに四人分をまとめて差し出した百円玉四枚を愛想なく受け取る。

名札を見ると、『三上』と書いてあった。…三上？誰ですかね？

中の挑戦

「……目標を、……乱れ撃つ」

…四球で全ての的（9つ）を倒すなんて、彼って何者！？

「頼む！助っ人でいいから、今度の試合に来てくれ！入部なら大歓迎だ！」

「……うるさいのは嫌い」

勧誘されていますね。これではないのは目がない人だけですよ。

桜花の挑戦

「直線一投！」

『おお！』

「まだまだ！」

桜花さん。コントロールだけなら最高ですが、これは多くの的を倒すものです。ですので

「これで！最後よっ！」

『四球全部、ど真ん中だと……？』

真ん中だけを狙うなんて、話を聞いていましたか？

「……橋は、……自分が好きなように動く」

中君。よく桜花ちゃんのことを分かっているわね。この時間で何かあったのかしら？

ゆづの挑戦

「……やあっ」

「……神崎。……力を抜いて、ゆっくり投げる」

「はい……あたった。塚原くんって凄いわね」

何でしょう？この、『リア充なんて死んでしまえ！』的な光景は。

この場所に道具があれば多分滅殺にかかりますのに。

「ふふっ。ありがとう、塚原くん」

「……お礼なんていらない」

「皆さん、ココはどこですか??」

『『悲しみをぶつける所!!』』』

「リア充には？」

『『『裁きの時間を!!』』』

「女とは?」

『『『怒りを糧に、愛を育てるもの!!』』』』

「いいわ。今から殺陣武道会を始めるわ!」

そんなことを言うから、私の薬の効果が切れたCクラスが媒介の『異端者撲滅会』が動きましたよ。

舞の挑戦

記録：0枚

「…私なんて、運動は駄目なんですよ」

「ま、まあ…次のDクラスにいきましょ!」

「私は、お店の手伝いをするから先に行くね」

「……うるさくなければ、いいよ」

桜花は先にDクラスに向かって、ゆうは舞を慰める。その中で中は^{あたる}どうでもいいのかのように環境の心配を始めた。

ちなみに、中くんは野球のボール20個。ゆうちゃんはソフトバレーボール。桜花ちゃんは特別賞でテニスボールを商品で貰いました。

全員、『こんなものいらぬ！』という顔をしながら……

N O W L o a d i n g

「……なんでいきなりDクラスに？」
中くん。突っ込んだら負けです。」

「いらっしゃい！このクラスの代表の平賀だ。ここでは……」

「三国志の問題を出している」

予習問題 次の問いに答えなさい

三国時代に魏・呉・蜀の初代皇帝になった人物を答えなさい

第27問（裏）：EクラスとDクラス（後書き）

変な斬り方をしたな：次回の裏はDクラスの続きとCクラスに入ります

三国志を選んだのは私の趣味です！ええ！

感想・評価を宜しくお願いします。

あ、問題の答えもお待ちしています。

次回！Aクラスのメイド喫茶で何が起こる？

雄二の危機！？

劉と明久の宣戦布告！

ムツツリ商会の暗躍？

次回！「諸君。リベンジは好きか？」

お楽しみに！

第28問(表)：宣戦布告！(前書き)

第28問更新です。ではどうぞ！

第28問(表) : 宣戦布告!

s i d e r y u

「明久、劉。ここはやめよう」

「ここまで来て何を言ってるのさ!早く入ろう」

「そうだ雄二。低いアングルから綿密に操作するんじゃないの
か?」

「頼む!ここだけは、Aクラスだけは勘弁してくれ」

俺たちが向かった目的の場所は、我らが宿敵のAクラスに「メイド
喫茶『ご主人様とお呼び!』」という名前で、堂々と存在していた。
正直に言うと、俺たちにとっては邪魔にしかない。瑞希…いや、
姫路の転校に関わっているからだ。

「ほれほれ雄二。愛しの霧島さんに会えちゃうんだぞ?」

「雄二、これは敵情視察なんだ。決して趣味じゃ」

「……………!!(パシャパシャパシャパシャ!)」

俺たちの隣にはならない筈の厨房担当人

「……………康太?」

「……………人違い」

クラスメイトのムツツリーニこと土屋康太がカメラ片手に否定のポーズをとっていた。

「どこからどう見ても土屋でしょうが。アンタ何してるの?」

島田が疑問に思い康太に質問するが

「……………敵情視察」

欲望丸出しの答えを出してきた。どうやら最近の敵情視察はローアングルから女性の写真をとることらしい。

「ムツツリーニ、ダメじゃないか。盗撮とか、そんなことをしたら撮られている女の子が可哀想だと」

「……………一枚百円」

「ニダース貰おうか 可哀想だと思わないのかい?」

「アキ。普通に注文してるわよ」

「明久、お前の言葉に少しは改心したと思ったが……………」

「……………そろそろ当番だから戻る」

康太は明久に写真を渡して、教室のほうまで走っていった。それにして康太はプリントアウトまで済ますなんてな。それがエロ方向に向かわなければ…な?

「所でアキ。その写真をどうする気?」

「やだな。もちろん処分するに決まってるじゃないか。それよりもそろそろお店に入る?もう凄くおなかが減っちゃったよ」

明久。話をずらすのは良いんだが、その写真が目線近くの時点でアウトだよ。

「うんうん。早く敵情視察を済ませないと 移ってるのは男の足ばっかりじゃないか畜生!」

「やっぱりみてるじゃない!」

あ、明久の面接が外されてまた戻された

「全く…入るわよ。お邪魔しまーす」

「……お帰りなさいませ、お嬢様」

俺たちを出迎えてくれたのは、ゴリラにだまされている、クールで知的な美人メイド。霧島だった。

「わあ、綺麗……」

姫路。隣でいつ島田が呪詛を唱えるか分からないからそんな発言は止めてくれ。

「それじゃあ、僕らも」

「ハイ。失礼します」

「お姉さん、きれ〜！」

「ういーっす」

俺たちが多種多様な返事で入店をした。…おれはWAWAWAWAWじゃない！

「……おかえりなさいませ。ご主人様、お嬢様」

こんな返し方もあるのか。しっかりしているな。

「……チツ」

お。雄二が折れたな。やっぱり低いアングルからの撮影がねらいか？

と、そんなことはほっといて

「おい明久、ちよつと来い」

「え？どこに行くの？」

「なあに。心配はいらねえさ」

簡単な宣戦布告だよ。

「いよう！優子に……中野？」

「佐藤です！覚えてください！」

全く。俺はわざと間違えたのに、何故わからねんだ？

「おいおいどうした？俺はお客様だぞ？まあいいか。さて……中村」

「明らかに言おうとして間違えましたよね！？止めてください！」

「で、吉井君に劉は何のようなの？みての通り、私たちは忙しいんだけど？」

と、話をせかすように優子が話しに割ってくる。クソウ！佐藤はいじりがいがあると思ったのに！！

「まあいいや。明久」

「うん」

おれは明久に確認をとって、静かに一呼吸を整えた後

「俺たちは、お前達に勝とうと思っていた」（劉）

「だけど、試召戦争ではあんな形で負けてしまった」（明久）

「「けどね(な)!!」」

「もう一度、この召喚大会でリベンジする機会が与えられたあ!」
(劉)

「しかも科目は数学…本当におあつらえ向きな環境だよ…」 (明久)

「俺たちは、あの時……無様に負けたのは悔いた!」 (劉)

「小田君に至っては、気絶するまで戦ったのに…」 (明久)

「だからこそ!男として、テメエら(二人に)召喚大会内でのリベンジをさせてもらう!」

「優子。俺たちは負けねえぞ?意地の力だけなら、誰よりも知って

るよな？」

「僕は観察処分者…バカの代名詞がつけられているけど、その操作能力だけなら誰にも負けない！」

「だから…俺（僕）たちは、絶対にかつ…！」

「……終わったの？おわったの？」

佐藤がおどおどしながら劉達と優子を見回している。

「確かに、アンタ達には負けられないわよ。だけど準決勝に勝ちあがれるの？」

「できるさ。俺を誰だと思っていやがる……」

「君達を倒す…そのためにもう一度コンビを組んだんだ！」

優子の挑発に、負けじと名乗る劉達……そして

「じゃあな。次は大会のステージでだ」

「今度は、僕達が勝つ…！」

「優子ちゃん……」

「ええ。分かっているわよ。私たちもAクラスだから、Aクラスの誇りがあるわ。受けた勝負は……」

「『完全勝利』。でしょ？」

「ふふつ。ありがとう美穂。…勝ちましょう！」

AクラスとFクラスの二人組が熱を出したと同時に……

「諸君、ココはどこだ？」

『『最後の審判を下す法廷だ！！』』

「穢れなき聖域を汚す者には？」

『『死の鉄槌を！！』』

「男とは？」

『『愛を捨て、哀に生きるもの！！』』

「よろしい。これより 2・F異端審問会を始める。諸君。被告人の夏……坊主とモヒカンは、女性の胸をもみしだくという大罪を犯した。それはどう思う？」

『『万死に値する！！』』

「よろしい。判決！！死刑！！」

「おおおい、常村。いったいどうなってるんだよ！？」

「ししじるか、夏川。そんなことはどうでもイイほどに腕の関節が
がd gじやd kうお！」

「常村！畜生！！こいつら、化け物か！？」

化け物です。その化け物に、三回戦が始まるまで追われていた常夏
コンビだった……

第28問(表) : 宣戦布告! (後書き)

マロさん。感想を毎回ありがとうございます!

…今回は、劉と明久による宣戦布告が主な内容です。結構自分で書いててハズカ! ジンと来る所もあります。

それと八千ユニーク突破していました!! 感謝感激です!!

翔子と雄二の漫才? はスキップしました。少々物足りないと思いますが、如月グランドパークでは、うつぶん晴らしのように一部オリジナルを加えますのでお許しをおお。

今回の裏は三国志問題のDクラスとナゾのCクラスです。

予習問題 次の問いに答えなさい

三国時代に魏・呉・蜀の初代皇帝になった人物を答えなさい

一応、上に前回の問題を出しておきました。三国志は好きです!
!あ、劉のネームに関してだけはそれを参照にしました。高名? 関係ありませんよ? ええ。

次回: 来週中に更新できたらな.....

第28問(裏) : DクラスとCクラス(前書き)

こんばんは。更新させていただきました!ではどうぞ

第28問(裏) : DクラスとCクラス

前回のあらすじ

「……………目標を、……………乱れ撃つ」

前回と一緒にじゃねーか!! (劉)

side may

「三国志って、あの三国志ですか？」

私達が入って、Dクラス代表の平賀くんに聞いてみたら

「そうよ。私が世界史好きで、聞いたたらそれでOKだって聞いたから!」

昔の羽織を着て出てきたのは橘 桜花ちゃんでした。

「ちなみに、この学園にちなんでレベルを作ったからそれを見て決めてね!」

Aレベル：孔明・郭嘉・周瑜並

Bレベル：陸遜・姜維・馬謖並

Cレベル：曹操・劉備・孫權並

・
・
・
Fレベル：劉禪・孫皓・曹奂・袁術並。暗愚

「かなり斬新なレベルの設定ですね」

「……Fレベル。……全員潰している」

「Cレベルで君主ですか……難しそうですね」

どこのクラスにするか迷っている中、桜花ちゃんが

「一応、Aレベルの問題例なら出せること、みる？」

問題例。これをみればどの程度の問題に挑戦すればいいかわかりますね。

早速、桜花ちゃんに頼んでAレベルの問題を見せてもらいましたといっても難しすぎない!?

問

曹操が郭嘉に河北において大勢力を有する袁紹への対応を相談した

ところ、郭嘉は「公には十の勝因があり、袁公には十の敗因があります。それは【】でございませう」と言った。

【】にうまる言葉を答えなさい。

問

三国時代に魏・呉・蜀の初代皇帝になった人物を答えなさい。

問

五斗米道という道教集団があつたが、その信者になるにはどのような物がどれだけ必要だつたか答えなさい。また、三国志内での主な布教場所を答えなさい

「……むずかしすぎる（わよ）！！！！」
「……」
「こんなの、完全に分かる人は学校内にいないわよ！いいえ、絶対い
ないわ！」

「え？私とほかに二人答えられたけど……」
「その人たちと一緒にしないで下さい！」

「……藤川、神崎。……クレベル」

「そうですね。AレベルやBレベルは玄人レベルですよ。私
たちは絶対に無理です！」

「…ということですよ。じゃあ、桜花ちゃん。三人分お願いします」
「分かったわ！準備ができるまでそのあたりの資料を漁っておいて！」
そういつて、桜花ちゃんはお店の裏に入っていきました。
資料といつても、真・三國 双や蒼天航路。三国志戦記に横山三国志…三国志大 のカードとかじゃないですか！

「それでは制限時間は10分です。始め！」

…これは、回答も募集しております！ぜひ考えてみて下さい！

問

蜀の武将・馬謖ばしやくが、街亭の戦いで軍師の諸葛亮の指示に背いて敗戦を招いた。

この責任をとり馬謖は処刑されることになるが、馬謖は諸葛亮の愛弟子であり、他の武将の一部からも「馬謖ほどの有能な将を」と慰留の声があがった。しかし諸葛亮は「軍律の遵守が最優先」と涙を流しながらも処刑に踏み切った。

ここから出来たことわざを答えなさい。

問

天下を大きく左右することとなった『赤壁の戦い』
これをもとにした映画の名前を答えよ

問
蜀が魏への北伐の際の戦い、五丈原ごしょうげんで魏の將軍、司馬懿との対戦中に病没した諸葛亮。それを機に追撃したが、蜀軍が旗を返し、鼓をならして反撃の姿勢を見せたので、諸葛亮がまだ生きていると思い、計略にかかることを恐れて追撃をやめた。しかし、その後孔明は死んでいると聞かされた。それを人々は何と言ったか答えよ

問
作詩に優れた曹操の息子・曹植は兄の曹丕に『歩。歩く間に詩をつくれなければ処罰する』といわれたが、曹植は見事にやってのけた。に当てはまる数字とこれから出来た名言を答えなさい

問
蜀の劉備につかえていた諸葛亮・ホウ統。彼らにつけられたあだ名を答えなさい

10分後……

「終了です！それでは、点数を発表します！」

中 80点

ゆう 75点

舞 20点

「……私なんて……」

「いいえ。舞ちゃんが解いた問題は、難問だったのよ？Aクラスレベルの。ほかの二人は、そこでおとしたから同じくらいよ。点数は気にしないで！」

「……カンで書いた問題があっていたのですか。」

「……Cでこれなら、……Aなんてとけない」

「確かにむずかしかつたですね。私たちの知らない所まで出てきましたので」

結果に関心している二人。少し落ち込んでいる舞

「商品は……あとでいいや！Cクラス行きましょ！」

「え？あ？桜花ちゃああああん！！？」

「……橘……」

「(ズーン) 20点…はあ…」

商品は三国志のゲームセンターで使うカードでした。今度やってみようかしら…

Cクラス

「さあ始まるわよ!」

「……行くでガンス」

「フンガー」

「真面目に始めましょうよ!皆さん!」

「……ここは、花火とかの時に出る夜店見たいな物ですか。楽しみですね」

……
続く？

第28問(裏) : DクラスとCクラス(後書き)

趣味に走りすぎてすみませんでしたアアア！(ジャンピング土下座)

O T L

蒼です。レフェルさん、マロさん、GAUさん。感想ありがとうございます！

今回は、バカテス要素0に近いです。むしろないかも。

問題ばかりで、バカテストのまとめみたいになってしまいましたが、大丈夫だと思いたい…ところ！

今回はチャイナドレス！？明久と康太と劉と。をお送りします。それでは

劉「もうバカテスじゃねえじゃねえか！」

O r z

舞「……………あんだ……………」

O r z

高名「なんと言う失態……………」

O r z

第29問(表)：覚悟(前書き)

高名くんが頑張っているとき

姉さんがそれを手伝っているとき

私は何も出来なかった

そう

何も……

第29問(表) : 覚悟

side ryu

「で、三回戦は不戦勝じゃったと」

「そうだ。現社は俺たちはFクラス丸まるだからな。結構助かった
…… 姫路の食いもんじゃないといいがな」

あの少し恥ずかしかった宣戦布告の後、ほんのり急いでステージに
向かうとまっていたのは、相手が棄権というやる気が出ない内容に
なっていた。

「ならば、すまぬがこつちの建て直しに協力してくれんか？」

「いいぜ。一応売上も出さないとな？ 明久」

「そうだね。このままじゃあ姫路さ (ガバツ) ムゴ・・・」

明久が姫路のことをばらしそうになったので、強硬手段で劉が明久
の口を止めた。

「… 明久。ばれたら俺たちの計画はおしまいだ。頼むから黙ってく
れ」

「… コクン」

明久も了承してくれた。

その後に、簡単な手伝いをしていると雄二が帰ってきた。表情から
すると三回戦も勝ったみたいだな。

「雄二。かえってきた所悪いが、客足が少ない。打開策はないか？」
「任せておけ。中華とこれは安直過ぎる発想だが、効果は絶大なはずだ」

そう言つて雄二が取り出したのは、刺繍も見事な水色と白のチャイナドレスだった。如何してそれを持っているのかは霧島も混ぜて、後で聞くとして

「ほう。若干裾が短いような気もするが、これなら確かにインパクトもあるじゃろうな。これを宣伝用に」

宣伝用に着れば、絶大な効果を發揮すること間違いないだろう。これを誰が着るんだ？

「ああ。これを　　明久が着る」

女子という発想から180度外れた答えが雄二から帰ってきた。

「おい雄二！野郎の明久がきても客層が減るだけだ！確かにDクラスに『アキちゃん』だの騒いでいた奴がいたがな、それはごく一部にしかうけねえ！」

明久はただでも有名人なのに、これ以上汚名はかぶさせねえ。本当の悪人じゃないのに。

「冗談だ。これを姫路と島田。村野姉妹に秀吉がきてもらう」

「冗談も大概にしるゴリラ！」

「黙つてみていろ突撃兵」

「ワシが着るのは冗談ではないのかのう……？」

秀吉がチャイナドレスを着るのを渋っている。まあこれで快諾したら、確実に性別が『秀吉』の説が急浮上しだすからな。

まあ、少ない女性人に頼んだのは正解だったな。これは康太も歓喜だろうし。

「たっただいま〜！三回戦勝つて来たわよ」

「これで四回戦進出です」

「眼鏡のお兄ちゃん。二人とも格好よかったですっ！」

島田姉妹と姫路がかえってきた。三回戦突破したから、次は俺たちとか。科目は……いける！

「島田。姫路。さっきの常夏のせいで客足が少ないんだ…悪いが、チャイナドレス着てくれねえか？あ、秀吉は着るぞ。俺たちに見せるために」

「卑怯よ木下！自信があるからって！！」

「そうですよ木下くん！私だっておなかが……」

こいつら、軽すぎだろ。ちよっと煽らせればすぐ動く。

「それで…美波と姫路さんは、これを着てくれるの？」

「当然よ（です）！！」

ニヤリ。

明久「orz」

明久なんて土下座しながら、涙を流してやがる。

所で、あんな所で写真の整理をしながら、ものすごい速さで刺繍をしているのは康太か？厨房はどうした！

着替え中 着替え中

s i d e s o k o

私たちは、召喚大会三回戦の会場にいますっ！相手は

「オイ常村。相手は二年の女子じゃねえか…」

「そうだな夏川。さっきのFクラス共にやられた仕返しもあるしな」
私たちの邪魔をした常夏コンビ。この人たちは本当に何がしたいの…

「では、召喚してください」

立会人は元の担任である福原先生。社長だといえば伝わるって誰かがいったたような…

「試験召喚」

常夏コンビの足元から幾何学な魔方陣が現れて、二人の召喚獣が出てきた。相手の装備はオーソドックスな剣と鎧。

『Aクラス 常村勇作 & 夏川俊平

現代社会 241点 & 217点 』

「ふざけないで下さい！Fクラスを馬鹿にするきですか！？」

「ああ？おまえたちのせいで、学園の評判はがた落ちで内申に響くんだよ！」

この二人は、Fクラスを何だと…思ってるのよ！

「ここまでいわれて黙っていられませんの！草子！」

「うんっ！私でもここまで言われると許せない！」

「試験召喚！」

『Fクラス 村野草子 & 村野風子

現代社会 445点 & 196点 』

「何だその点数は？お前ら本当にFクラスか？」

坊主頭の夏川センパイが驚いている。この成績ならAクラスにも入れるからだ。

「そうよ！あなたが侮辱したFクラスの力よ！なめないでよ！」

「堪忍袋の緒が切れましたわ！次元落とし！『ALVISの子・真壁一騎！』そして『革新を促すもの！刹那・F・セイエイ！』現れなさい！」

『Fクラス 村野風子

現代社会 6点 』

そうすると、姉さんの召喚獣の前に魔方陣が現れて、小さなサイズのエクシア…ガンダムとファフナーが現れた。

「クロツシング完了…：…刹那！」

「真壁。了解した…エクシア。目標を駆逐する」

ファフナー・マークザインは緑がかった白いボディが特徴だ。この機体は「違うモノ」にならないと同化機能を発揮できない（たとえば「腕が銃になる感覚を受け入れられるか」といったところ）。つまり「存在そのものが別のモノになる」感覚を受け入れられることで真の力を発揮する。『存在』の意味も兼ね備えたファフナー。真壁一輝専用である。

エクシアは運動性に優れたフレームを元に、近接戦よりのMSとして特化された期待。大きな特徴は五種七本から存在する「セブンスード」を有する。

『ALVIS 真壁一輝

??? 120点 』

『ソレスタルビーイング 刹那・F・セイエイ

??? 120点 』

？おかしい。姉さんの次元落として召喚された人たちは消費した点数の約二倍になるはず…何で？

「行くぞ！」

最初に動いたのは一輝だった。右手に同化しているルガーランスを

使い、坊主さんに切りかかったが

「あめえんだよ！そら！」

かわされて、肩に攻撃を受けた。おかしい。如何してこのシステムが不調なの？

「この人たち…刹那！護衛はいいですから、攻撃に参加しなさい！」
「了解」

…姉さんの目には、相手に対する怒りでいっぱいだった。召喚獣には本人の心も関係するって言うていたけど、それが原因？

「行くぜ夏川！」

「おう！三年にたてついたことを後悔させてやる！」
相手の召喚獣がエクシアとマークザインに切りかかる。本来の性能ならこの点数でもあっさりかわせるはず…なのに

「うわあっ！」
「クッ！」

避けきれない。相手には召喚獣の操作で一年の差があるけど、こっちの動きが単調ですぐにかわされる。

「ねえさ」「うるさいです！早くあなたも」「ん……」

『ALVIS 真壁一輝

?? 47点 』

『ソレスタルビーイング 刹那・F・セイエイ

??? 65点 』

刹那も一騎も一撃でやられる点数に…

「貴女には何も期待していない」

「そうですね。後ろで静かにしてください」

ね、姉さん？小田くん？どうしたの？いきなり…

「母さんを助けようとしたとき、貴女は何もしていない」

「そうですね。何も出来ないのがお似合いですの」

「やめてよ…どうしてそんなことをいうの？お、高名くん。姉さん」

「あのとき、手伝っていただければ母さんも助かったのに」

「何言ってるの孔明くん。お母さんは助かったんじゃない」
そんなこといわないで。…やめてやめてやめてやめてやめて

「草子。貴女は最悪です。今戦っている私を見捨てようとしていま
すわ」

「ねえ、どうしたの？いきなりさ。」

「はあ…いつまで落ち込んでいるのですか！村野草子！」

「！？な、なに。もう何もききたくないよ！どうせ私は『ダメな子
…とでも言いたいのでしょう』…如何して分かるのよ！私はダメか
もしれない！だから元気にみんなを盛り上げることを選んだの！姉
さんみたいな綺麗でカッコいい人にはなれないから！少しでも近づ
きたくて！」

「草子さん。貴女は勘違いをしています。元気に振舞う？みんなを盛り上げる？そんなことが出来ていたら、今の風子さんみたいな状態にはなりませんよ！君は自分の姉と比較して逃げているだけです！まだ分からないのですか！いい加減自分の愚かさに気がつきなさい！！！」

「う、うるさい！高名くんに何がわかるの？ずっと人の上に立ってきた姉と比較されて！！私は足を引っ張ったらいけないの！少しでも姉さん…」

「貴女じゃないのですから、分かるはずありません！そこがいけないのですよ！君はいくら頑張っても風子さんにはれない！違う人間にはなれないのです！」

「じゃあ、どうすればいいのよ！そんなことをしたら私は……………」

「簡単です。風子さんの背中を押すのですよ。君が風子さんのそばにいてあげる。彼女は、あれでも弱さとかを心にしまいがちですから。それを癒せるのは、草子さんだけですよ」

「私、だけ？」

「貴女は『村野草子』。『村野風子』ではないのです。安心してください……草子さんは、僕や劉。舞さんに風子さんも支えてくれます。君は君が進みたい道を取ればいいのです」

「……………」

「ほら、風子さんは貴女をまっていますよ。早く行ってください」
「……うん。ありがとう！」

「エクシア！動いてくれガンダム！」
「刹那！くそっ！」

刹那も一騎も満身創痍である。そのうえ風子は点数が足りない上に、草子が動かない

「…こんな下郎なんかに！」

「下郎？先輩に向かって良い度胸だな！」

常村が風子の召喚獣に剣を振りかぶった！

「やられる…ごめんなさい」

「とどめだぁ！」

ガシンン！

「……戦死、していませんわ」

風子が召喚獣を見たら、そこに立っているのは

「援護が遅すぎますわよ。…草」
鈍で剣を防いでいる妹の召喚獣が立っていた。

「ごめんね。風ねえ…でも、もう迷わない！『無想』！」
そういつた瞬間。草子の召喚獣が白い光を纏い、その姿は天使にも見えたらしい。

「風ねえ。下がっていて。選手交代だよ」

「草…いいわ。やっておしまい！」

草子の召喚獣が鈍を捨てて、直接鎧の上から殴りかかる。しかし、一番防御が強いはずの鎧の部分が砕け散って粉となった。

「これが私の腕輪『無想』よ。集中力を極限にまで高めて、その部位の一番弱い場所を貫いたの…最弱には最弱の戦い方があるのよ！」

「勝者・村野姉妹です」

あのと、二人の召喚獣の鎧を壊した後、一輝のルガーランスの砲撃によって二人を倒した。

「最弱に負けた貴方達が最弱ですわ!」

「…」

「姉さん、もどろっか!」

「そうですね。時間もかけてしまいましたし、劉も怒りそうです」

「姉さん…私は何があっても、姉さんの味方だよ!」

第29問(表) : 覚悟(後書き)

え? 戦闘描写がない? それは苦手だから... こんにちは。蒼です!

導入歌: Ebullient Future (JAPANESE) ...

草子 on the stageでした

結構、心が弱い草子。それを支えた夢の中にしか出ない高名!

高名・草子「しにます?」

いいえ! 次回は瑞希ペアと劉たちです。裏のほうは、縁日とBクラ
ス! お楽しみに!

第29問(裏)：縁日サイコー！(前書き)

こんにちは。GAUさん、レフェルさん。感想ありがとうございます

では、Cクラスの風景をドウゾ！

第29問(裏) : 縁日サイコー!

side may

「いらつしやいませ! Cクラスの縁日『Cの革命』ようこそ!」

私たちを出迎えてくれたのは、白と赤の浴衣を着ていて綺麗な青髪を、三つ綱にして登場した神崎ゆうさん。

「とても似合ってるわよ。ゆう」

「ゆうちゃん! 今度浴衣を貸してよ!」

「……男子なのに……」

中は少し困っている。確かに女性に感想を聞かれても困るだろうし……

443

「では、最初はどちらに行きますか?」

「型ぬきをしたいわ」

「焼きそば! たこ焼き!」

「……射的」

桜花ちゃんは食べ物。中君は……言つまでも無かったですね。確実に荒らし確定ですよ。

食べ物

「美味しいですね。これは?」

「クラスの野口君のお父様が市場で働いているので、そこで仕入れ

てもらいました。少々不手際もありましたが」

「ふがー！フガフガ（美味しいわ！もう1つ！）」

「……食べ過ぎ。……自重を知るべき」

とても美味しい食べ物でしたが、桜花ちゃんは暴走して……塚原くんが苦労していますよ。

「それでも、なんでここが縁日になったんですか？」

「それは、友達の提案です。本来なら、小山とかいう代表のせいで茶道になりそうだったんですけど、二人でプッシュしたら成功しました。あの代表……傲慢すぎるわよ」

「……本音が出る」

射的

『げえっ！『成層圏』！』

成層圏？大方は塚原君の別名でしょうけど……

「……祭りは、……射的で儲かっている」

荒らしの意味ですね分かります。

「……ゆうちゃん。ご愁傷様」

「中の射撃は召喚獣になっても代わらないもの。こんなので終わるはずがないわ！」

商品は……

・モデルガン

・人には見せられない危ない薬

・人形（某薔薇乙女似）

・その他多数……

「……はい。……藤川。……橘……神崎」

「……お店の人、泣いてましたよ？」

「さすがね。銃だけならもう神域じゃないの？」

「はわわ。利益があああ！！！！」

「「ゆうちゃん！？！？！？！」」

この後、ゆうちゃんが壊れだして、直すのに1時間かかった

型抜き

「……次。……次」

「……藤川。……凄い」

「ああっ！何で壊れるのよ！」

「静かにやらないとダメですよ。桜花ちゃん」

……

「……次。……次……つぎ、これで終わり？甘いわね。精神攪乱剤の方が難しいわよ」

「……僕も精密射撃に必要」

「ムギイーーーー！こんなもの壊してやるわ！」

「落ち着いてください桜花ちゃん！」

……桜花ちゃんの性格では無理がありましたか。ですよね

この影響で、Cクラスはギリギリの黒字だったらしいが、それはまた別の話し

Bクラス前

「たのしいわ！楽しいわよ！アレルヤア！！！」
「……アリー・アル・サーシエス…狙い打つ！」
「エクシア。目標を駆逐しますわ」
「真面目にやっってください！」

ゆうが突っ込み訳になっているこの頃

第29問（裏）：緑日サイコー！（後書き）

簡単にでしたけど、裏をあげさせていただきました。

「……兄弟？……いないよ」

「私は超兵じゃない！」

「GUNDAMではないわよ」

「皆さんが、遠いです」

裏の次回はBクラス！そこには誰が？

第30問(表) : 譲れないもの(前書き)

僕は一度、二つのクラスが見る中で敗北した

片や『やっぱりな』

片や『代表に出すレベルじゃないだろ!』

とても悔しかった

勉強ができるだけでそこまで変わってしまったのかと

だけど、僕の隣に立っている人は言った。

『 ……
…リベンジだ!』

正直に言えば、また負けると思っていた。

そいつと一緒にだとしても、僕のレベルはその程度。

勝てるわけがない

そう思っていたが

後1つで、リベンジ戦

『 。 。 お前にしかない力もある。それを忘れるな』

そいつに勇気を貰った。

今度は勝って

いや、勝つんだ

こんな僕を信じてくれた。

劉のためにも!!

第30問(表) : 譲れないもの

side ryu

「明久。いいな：相手は姫路・島田ペア。畏を張ったが、優勝候補の一角だ」

俺は召喚大会4回戦：姫路達との戦いを前に明久と最終確認を行っていた。

「分かっているさ。でもこれだけは勝たなきゃいけない：だって」

「「あいつらへのリベンジだ！」」

「明久あ！難しいことは考えるな！考えるのは1つ」

「『負けるまで諦めるな！勝ちを狙え』でしょ？」

さあ、大舞台への準備は整った。全く：どんな組み合わせだよ。

「それでは、召喚大会準々決勝。四回戦を始めます」

今回の立会人は高橋先生。しかも四回戦から観客が集まる。その全員Fクラスとなると宣伝効果は抜群だ。

「お手柔らかに頼むよ。姫路、島田」

「姫路さん、美波。悪いけど、僕は負けられないんだ！」

「私たちだってそうです！あのチケットと手に入れるために！！」

「瑞希。趣旨が変わってるわよ」

どうやら姫路はチケット。島田も真面目にやってるらしい。

「あ、それと高橋女史。マイクをかりていいか？せっかく全員Fクラスなんだ。宣伝くらいさせてくれや……教師が先生に負けた」

「いいでしょう。明後日にでも補習室でお話がありますから、逃げないで下さいね」

…補習なんて嫌だわ！高橋女史も鉄人も大してかわらねえ！違うのはビジュアルくらいだし、鉄拳より鞭の方が痛いし。

「おっと、アーアー。私たちFクラスでは本格飲茶と、中国産の小麦粉を使って胡麻団子などを販売する中華喫茶を開いております。このように可愛い女子方も一生懸命頑張っていますので、ぜひお立ち寄りください」

「尚、Fクラスのため道具などに不備が出るかもしれませんが、おもてなしは精一杯努めさせていただきますので」

「……どうぞ宜しくお願いします」「」「」

俺が最初に挨拶をした後、明久の追加説明。最後に四人でお辞儀。これこそが究極の礼儀？だ！

「あ、高橋先生。ありがとうございました」

『…このことです。ぜひ、見に行つてはいかがでしょうか？』
お、さすが高橋先生！乗るときは乗つてくれる！そこに痺れる！憧
れる！

『それでは、召喚して下さい』

『試験召喚』

高橋先生の号令を合図に、俺たちの足元から幾何学模様の魔方陣が
現れた。

島田の召喚獣は軍服にサーベル。姫路の召喚獣は豪華な鎧と大きな
剣だ。

対する俺たちの装備は明久が改造ガクランに木刀。俺は私服？に右
腕のシエルブリット。

「島田。数学だから油断してるだろ？」

「三桁行かないアキ達に負けるとは思つてないわよ？瑞希もいるこ
とだし」

「そうそれだ！それがお前の弱み…電光掲示板をしてみる！」

『Fクラス 姫路瑞希 & 島田美波
化学 387点 & 54点
』

見上げてみると化学の文字が。

「な、なんでよ？四回戦は数学じゃないの？」

狼狽する美波。だが俺はさらにその上に行く！

「お前らに渡した対戦表なんだがな…」

俺はいい笑顔（あくどい）でこう言い放った。

「アレは俺の手作りだ。残念だったな」

「だ、騙したわねっ！！」

「いやはや、準決勝も数学の時点で疑いを持つはずだったが、姫路に渡さないで正解だった」

「み、美波ちゃん！なにやってるんですか！」

「瑞希！？目が怖いわよ？」

姫路。目からハイライトを消すのはやめろ。明久もおびえている。

だが、それだけじゃない！

「これで少しは有利になったな。島田も明久一人に任せられるし」

「何言ってるのよ？アキにそんな」

『Fクラス 関戸劉 & 吉井明久
化学 621点 & 94点
』

「そ、そんな…アキに負けるなんて」

「そうやって上から見下してんじゃねえ！小さな努力だって積み重ねれば大きいもんだ。」

明久の強さの真髄は 観察処分者としての最大の欠点にして

利点。

『フィードバック』にある。

本来ならば召喚獣のダメージが帰ってくるフィードバック。それを高名が研究中发现した大きな利点。

草子の腕輪見たいにダメージのくらい安い所やくらいにくい所。そしていくらデータでも疲れることが分かる。その全てを身をもって体験してきたのだから分かる。しかも明久はそれを実行する能力がある。現に

「ほっ、さっ」

「当たり前ささい！」

島田の攻撃を避けながらカウンターをしている。これが一番の戦い方かもしれない。それに『かわせない』攻撃が来ても『ダメージが弱い所』で受けてカウンター！。

………やべえ。点数同じなら、負けるかも。

「明久、終わり次第救援に来い！さすがに（ギギ…）これは辛い」

「離してください、関戸君」

『Fクラス 関戸劉』

化学 541点』

俺は、島田と明久に決着がつくまで耐える。何でも『葉月ちゃんにお願い』されたらしい。けど姫路は知らない…だから

「剣を腕で……普通は考えませんよ」

俺は、一回戦の時同様。召喚獣の剣を腕で受けている。片手じゃあ

抑えきれないから両腕をシエルブリットに変えている。おかげで消費点数も半端ないが。

「ラストオ！」

『Fクラス 島田美波

化学 0点』

「あ、アキに負けた…」

ひざを落としてうなだれる島田。バカの代名詞に負けて悔しがらない奴は今までは前の黒崎しか見ていない。

「明久！シフトX！」

「で、でもそれじゃあ劉も「うるせえ！アイツは点数が減ってねえうえに、俺はもう400切ったんだよ！」…分かった！」

『Fクラス 関戸劉 & 吉井明久

化学 376点 & 74点』

「さあ行くぜ！『装着』！」

その腕輪のキーワードにより、俺の召喚獣を右腕から虹色の光が覆う。

その中から出てきたのは

体全体が獣になった

劉の召喚獣が姿を見せた。

「行くぜえ！」

地面を拳で殴り、その推進力を使って一気に瑞希の剣を抑えた。そのときの風圧で胸の鎧が砕けていく。

「今だ明久！俺ごとやれ」

「は…離してください」

「嫌だね。お前は武器を離したら敗北確定。俺は武器をフリーにしたら敗北決定。どっちに傾くと思ってるんだよ？」

「ゴメンツ、姫路さん！」

一言謝って、俺の召喚獣と一緒に姫路の心臓を突き刺した。ウィークポイントである心臓を刺されれば、点差が大きくても一撃で戦死だ。

「し、勝者。関戸・吉井ペア」

観客席から大声援が聞こえる。高橋先生も予想外な目をしながら俺たちを見る。

「ホントぎりぎりだったぜ。またやろうな」

「はい、まけちゃいました。決勝戦にも進んでくださいね」

「任せてよ姫路さん。必ず優勝するから」

「アキ…負けたら承知しないわよ！」

こうして、四回戦が終了し、準決勝に進む四組が発表された

第一試合

Fクラス 村野草子 & 村野風子 Fクラス

V S

Fクラス 坂本雄二 & 霧島翔子 Aクラス

第二試合

Fクラス 関戸劉 & 吉井明久 Fクラス

V S

Aクラス 佐藤美穂 & 木下優子 Aクラス

決着やいかに！

t o b e c o n t i n u e

第30問(表) : 譲れないもの(後書き)

え？教頭フラグがない？H A H A H A . そういうことは裏でやるんですよ！

GAUさん。レフェルさん。マロさん。ヒョウガさん。感想ありがとうございます！

結構、明久は勉強を頑張ったりします。まあ、イロイロと理由があるんですよ…

実は… GAUさんの小説『バカと雲雀と召喚獣』に出演されている来島アキさんとのコラボが決定しました！！

実際には、二巻の終了後ですが(汗
そこ、いつ終わるんだ？なんていわないで下さい！

アキ「召喚獣の研究をしているときに、別次元に飛ばされてしまっ
て…高名。こちらの召喚獣について、教えてください」

高名「こちらこそ。まず、普通の召喚獣と根本的に違うのは僕と風
子さんの召喚獣です。僕は腕輪が二つあります…まあ、1つは母が
使っていたもののデータを移し変えただけです」

アキ「腕輪が二つ…しかしそれでは、召喚者に負担「それは承知の
上ですから」…高名。あなたは」

以上！次回をお楽しみに！

side komei

……今までの人生。

僕は父さんに振り回されてばかりでした。

あの事件でもそう。風子さんたちに助けられてばかり。

あの時、僕は自殺も考えました。

人を…息子を物としてしか見ない父さん。

風子さんたちが止めてくれなければ、今の自分はないですから。

実際、僕が親友と呼べるのはあの四人だけです。

それ以外の人は苗字で呼んでいます。

僕は、生まれの家に着いている苗字をいいものだと思っ
ていますが、やはりそれは他人との距離を作るもの。

高校一年のときに知り合いの研究者から

『一緒に宇宙へのシステムを作らないか？』

その頃は、パソコンに触るのも嫌でした。父を思い出して
けど

『親なんて関係ない。自分の進むままに』

そういわれて、再びキーボードを触ったが

まだ吹っ切れていない。

けど、この『プロジェクト HOUR』に関わっていれば何かが変わるかもしれない。

正直、草子さんや風子さんたちがいない生活は考えられなかった。

初めて、僕を『普通の人』としてみてくれた二人。

このことには感謝しきれない恩がある。

…僕は、自分の幸せを考えてもいいのだろうか？

第30問(裏) … 賽は投げられた(前書き)

こんにちは。第30問の裏です。どうぞ！

第30問(裏) : 賽は投げられた

ぜんかいの あらすじ

「たのしいわ！楽しいわよ！アレルヤア！！」

「……アリー・アル・サーシエス…狙い打つ！」

「エクシア。目標を駆逐しますわ」

「真面目にやってください！」

……ご愁傷様です。

side may

私たちは荒らしに荒らして荒らしまくったCクラスと感動の別れを告げて、Bクラスへ向かいました。…帰り際に機械的なこえで「ありがとうございました…ああ、収入が」なんて言う小山さんが真っ白になっていましたが気のせいです。

）

「……僕の携帯」

…作者さんが、00を好きなのは分かりましたがそろそろ自重すべきですよ。

なんて舞が考えている間にも、中は携帯電話を取り出して電話にで

た。

(ピッ)

「……もしもし」

『塚原か…よかった。藤川なんかにつながったらどうしようかと、何がどうしようですか？人間になりたい妖怪学園長？』…最高権力者としての自信がなくなっていくよ。それはそれとして…Fクラスの材料のストックがある空き教室に数名の暴力団かぶれがいたんだよ。それで「任務ですね分かります」……とつと行って来なクソガキ共』

……毎回毎回罵倒ですか。その手の人には喜ばれますけど……

「……はやく、……行く」

「そうよ！Fクラスって舞ちゃんのクラスでしょ」

「……ハッ！舞さん、行きましょう！」

「やれやれ、分かったわよ。『執行委員』任務開始！」

移動ちゅー。移動ちゅー

side komei…ではなくtakana

ぼくは何をしているんだ？
劉に対する情報提供。

本当に、何がしたいんだか。

体も重い

ずっと、他人が見捨てられなかった。

僕みたいな人を出さないために

ただ望むことは1つ

みんなに、会いたい！

t a k a n a 仕事完了率 98%

s i d e m a y

Fクラスの材料などが備蓄されている空き教室に來ると

「お、覚えてろっ!」

「てめえの面、わすれねえからな!」

「夜道に気をつけるよ！」
「はいはい。俺に勝てたらな」
暴力団かぶれは全員、どこかしらを引きずりながら出て行った。そして、その空き教室にいたのは、赤い逆立った髪に、筋肉質の体を持った

「さてと…お、藤川じゃないか。仕事をサボって…後ろの奴は？」
「…Aクラス。…塚原中」
「Dクラスの橘桜花よ！」
「Cクラスの神崎ゆうです」
「Fクラス代表の坂本雄二だ。藤川…なんでこの教室にきた。何かあったのか？」
「わ、私は…」藤川。…話そう『塚原くん！？…まあ、これは話しておくべきですから。代表さん。これは口外でお願いしますよ」
「やっぱり何かがあったか…例のコンビが迷惑したりだの今の変な奴らと。学園祭に何があるんだ？」

セツメイチュウ セツメイチュウ

僕はどうすればいいんだ！？
一人になって、これから生活できるとは到底思えない！
どうすれば…どうすれば…
教えてくれ…劉。
私…僕の進む道造った人に。

今は道がない。誰もいないからだ…でも、彼なら

『道がなければ造ればいい!』

mission complet!

「なるほど。大方黒幕は予想できるんだが、藤川達はそれを鎮圧する為の組織と」

「察しが早くて助かりますよ。一応私たちはフィールドがなくても召喚できますので、何かあったら呼んでください」

「……さすが、……代表の彼女」

「えっ!? 代表同士のカップル? 応援するわよ! 二年後には赤いじゆうたんを歩くんでしょ?」

「これからお幸せに」

「さて! 翔子は関係ないからな! それにカップルになった覚えもない!」

「……召喚大会。……二人で出てる」

「それは関係ない! 絶対にだ!」

代表。否定するのはいいですが疲れますよ…これじゃあループにしかないわ。

「というわけできつさてんにさんかできなくてどうもすみませんでした」

「棒読みで言っても、説得力はないからな! おっと、召喚大会の間だ。藤川…無茶するなよ」

「その言葉。そっくりそのままお返ししますよ」
はてさて。どのように動いても面白くなりそうです。

「私たちは、いったんクラスに戻りましょう」

「なんでよ！まだ悪党がいるかもしれないのに？」

「ここまで一緒にいると、その悪党にはれる可能性がありますから。
そうてすよね？舞さん」

「……藤川。……正論」

桜花は反論するが、ゆうがそれをとめる。

「…分かったわよ。戻って問題でも出してるわ！」

こうして、一時期『執行委員』は解散したのだが……

Fクラス

「私は、何を着ても似合うのです！」

「うっわ〜動きやすいよ！」

「……」

せっかくボケれたのに、突っ込みに戻らなきゃいけないの…

第30問(裏) : 賽は投げられた(後書き)

第30問。どうでしたか？

マロさん。レフェルさん。ヒョウガさん。GAUさん。感想ありがとうございませす！

簡単な教頭の差し金を書かせてもらいましたが…あれ？仕事してな
くね？

まあいいでしょう。そこら辺はご都合主義で。

次回は召喚大会一回戦With高名の苦難

お楽しみに…

今月、更新できるかな…今日もう1つ書き足そうか…

第31問(表) : 準決勝第一試合(前書き)

はあ…眠い眠い。授業で寝られれば…31問です、どっぞどっぞ！

第31問(表) : 準決勝第一試合

s i d e f u k o

四回戦はシードで助かりましたわ。科学となると草子は一桁常連。
私も百点がやっと位なので。
わたくし

『それでは、召喚大会決勝戦第一試合を行います』
今回の科目は数学。それにより、立会人は木内先生ですの。

「坂本さん。勉強したとしても、私たちには勝てなくて？」(坂本さん。わかってて?)

「……絶対に負けない」
「悪いが手は抜けねえぞ？」(分かっている。俺たちが勝つと…問題大有りなんだろう?)

「いづくぞー！」

『それでは、召喚してください』

「……試験召喚獣召喚、試験召喚！」
サモン

私たち4人がお決まりの言葉を発して、目の前の足元から召喚獣が

出てきましたわ。

翔子さんの召喚獣は、日本式？の鎧に刀。そして代表さんの召喚獣は

「素手？」

「……メリケンサックがついている」

少し驚きましたわ。本来ならばクラス内で最高得点者のはずの坂本さんが武器を装備していないなんて…防具はなく改造ガクランを着ていますね

私は、頭に王冠と赤いマント。草子は青いセーラー服と鉈。起こると怖いのですの。

『Fクラス 坂本雄二 & 霧島翔子 Aクラス

数学 214点 & 435点

』

『Fクラス 村野草子 & 村野風子 Fクラス

数学 427点 & 478点

』

「すみません、フェアプレーで戦いたいので、次元召喚するまで待つてもらえますこと？」

「別にいいぞ。翔子は？」

「……雄二が良いなら、私も良い」

さすがは坂本さんですね。貴方が賛成したら祥子さんはよっぽどじやない限り賛成しますから。

ほんらい、存在するはずの召喚獣を呼ぶのはご法度ですが

「なら…次元落とし！」我が信頼する戦友『星の詠み手・小田高名！』」

「まで村野姉！それは…」

「姉さん…風ねえ！」

「……？」

高名を召喚しようとしているが、その体には疲れが見えて…肩でい
気をしている。

雄二と草子は『さすがにこれは使わないだろ(でしょ)』と
何もしなかったが…

『やれやれ、ホログラムでも僕を呼び寄せるなんて。無茶しすぎで
すよ？風子さん』

「小田…高名さん」

「高名くん…」

ホログラムだが、その姿を見ただけで二人は涙ぐんでいる。

『おっと。その前にやるべきことがあるのでしよう？ですから腕輪
も使える得点で呼んだのですよね？』

『Fクラス 小田高名

数学 684点 』

『Fクラス 村野風子

数学 108点 』

点数を見ると、頼りがいがあるが

『Fクラス 小田高名

数学 668点 』

『どつやらデメリットもあるようです。装備も違いますし…すみま
せんが、僕一人じゃあ難しそうです。操作の手伝いを宜しく願
いします……そこまでなかれても困ります。すぐに帰ってこれると信じ
てくださいよ』

装備は、黒い機械の鎧に肩・腰・背中に大砲を抱えている。

「信じられるわけ…ありませんのっ！いきなりいなくなった上に…
帰ってくる……なんて」

「なきたいのは分かるけど…早く戦わなきゃ戦死しちゃうよ？」

『代表。霧島さん。お待たせいたしました…試合開始と行きましょ
う！』

こうして、戦いの火蓋は切って落とされた。

『僕の装備は超近接戦の坂本とは不利です！草子さん！』

「わかったよ〜！せいっ」

草子が雄二の首筋目掛けて振り下ろすが

「甘いぞ！」

メリケンサックでつばぜり合いというとんでもない行為に出た。

「あははっ！楽しいね、坂本君」

「これでも俺はギリギリなんだよ！」

あくまで笑っている草子に対して、本当につらそうな顔をしている。

「私だつて、片手しか使つてないのにな けあみすだな〜」

刹那、草子の左足が雄二の頬を捉えた。それにより体勢を崩して吹
っ飛ぶ。

「風ねえ！」

「分かっていますの！汝、一時間の間、我に力を与えよ…次元落とし！

『メメントモリ』…発射！」

雄二の召喚獣の真上に現れた衛星兵器…メメントモリ。その砲撃が
雄二の召喚獣を撃つた。

一発に全得点を賭けている砲撃の前に、雄二の召喚獣は戦死した。

「よしつあと」「…甘いのはそつち」「…きゃああー！」

「草ー！」

少し安心していた草子の召喚獣を横から霧島の召喚獣が一閃。刺さった後に、鉈を後ろに振るがそこには召喚獣はいなく、そのまま頭の上に0の文字が現れた。

「……これで一対一。雄二を倒した罪は重い」

坂本さんを倒したほうの比率が大きいのはごく当然としても……怖い。

『腕輪を使って下さい。おそらく本体もそれを望んでいます。使用許可を』
オリジナル

「了解…しましたわ…村野風子の名にかけて、成功させますの」

『了解。確認しましたよ。トランザムシステム…起動！』

その言葉を発した瞬間、高名の体が紅く光り…背中についている顔？が動き出した

「小田高名。行きます」

「……させない」

高名の喉元目掛け、剣を突いたのだが
その剣は、空を切った。

「……どこ…後ろですよ？……しまった」

『今です！』

肩から取り出したビームサーベルで切りかかるが剣にとめられる。

『霧島さん。今のをよけていれば私の負けでした…正解は…肩ですよ』

「……させない…残念でした。後ろをご覧ください』え………」

『Fクラス 村野風子

数学 1点 』

『国家錬金術師 エドワード・エルリック

???

190点

』

エドによって足元が、絡まって動けない。『等価交換』。点数を代
価に地面から生えている足枷を練成していた

「……………私の負け」

『すいません。戦死まで戦うのがルールなので……………発射!』

肩の大砲から紫色のビームが発射された。

至近距離の翔子……………そして後ろにいたエドも……

『風子さん、エド、とば(ッザツ)(…マシ(ザザー)(たよ(ザー
ー))』

『Fクラス 小田高名

数学 0点 』

『勝者。村野姉妹です!』

お、終わった。文章にすると短いですけど、本来なら五分近く戦っ
ていましたの

「……………残念」

「助かったぜ村野姉妹。これでペアチケットは……………雄二、どうい
うこと?」…ナンノコトデシタツケー」

「勝っちゃったよ!姉さん!」

「ええ…後は準決勝だけですな」

大量の拍手の中、私たちはお互いに握手をした後。舞台裏に下がり
ましたわ。

side komei

「…帰ってきた。日本に」

仕事を終えた後、荷物の搬入などを急いで行って…組織のチャータ
ー便に乗せてもらって日本の羽田に帰ってきました。

「さあ、急いで文づ……きに……」

「久しぶりだな。高名」

僕が目にしたのは、金髪で葉巻と杖を持った成人……絶対に忘れ
ない

「正確には3年と216日だと思いますが？父さん」

僕の父でした。

「それにしても、大きくなったな」

「貴方には関係ありませんし、息子と呼ばれるすじもありません。
失礼します」

この人と話していても、埒があかない。それに話す理由なんて全く

ない。

「待て。会社に戻ってくる気はないか？次期候補がお前以外見つからない」

「黙れ！母さんを見捨てて仕事に入った奴みたいになんりたくはないんだよ！帰ってください！」

「アイツ…京けいとは離婚した。アイツなら今ごろ海外じゃないか？」

「は？」

「所詮は女だ。経営に口出しされたら、困るに決まってるだろ？邪魔なもの切り捨てる。それが私のやり方だ。それより（バキッ！）…何をやる」

「気が付いたら…殴っていた。母さんを捨てた恨みか？それともこの人のやり方に対してか？」

「…僕は絶対に戻りません。そして、貴方との離縁届を出させていただきます」

「ほう？親元を離れて生活できると」

「出来ますよ。僕にはそれを支えてくれる友人がいる！それに…貴方の会社は時期につぶれますよ？」

「なにを言ってるんだ？高名。そこまでお前はバカに（緊急ニュースです！NEXT小田悠久社長に脱税と過去に起こった社長の旧夫人の誘拐容疑がでています！繰り返します）……」

「すみません。今まで静かにしていたのはこの確定証言を取るためです。今日、僕は過去を清算しにもきたのですから…言い逃れなんてしませんよね？」

「……私はやっていない！」

「脱税のほうは、それで済むかもしれませんが…誘拐については母さんが被害届を出したため、言い逃れは無理です。……僕は、未来へと進み…周りの人たちと笑って暮らします。……さようなら。悠久さん」

「……」

父さんは、静かにうつむいてしまったが…

「高名！私は何もしていないといえ！金でも望むものでも全て出す！言っんだ！」

……

「どこまでも救いようがない人ですね！貴方の実力主義で何人の方々が職を失ったと思っっているのですか！？金？望むもの？確かに貴方ならたやすいかもしれません！お金も要りません！僕が欲しいのはさっき言ったとおり『周りの人と笑っていく』ことです！笑顔を金で買うことを考える最悪な人が、どこにいますか！…もう終わったのですから！」

そう言って僕は、彼に背を向けて去っていった。

笑顔ですごくすべく

帰って来いといってくれた人がいる

文月へ……………

第31問(表) : 準決勝第一試合(後書き)

高名:こんばんは。

GAUさん。レフェルさん。感想ありがとうございます

高名。日本に戻るの巻

次回予告!

裏ではない!?31・5話 (表)!

劉・明久 VS 優子・佐藤

をお送りいたします!

ではでは

第31・5問(表)：準決勝第二試合！(前書き)

うわっわわわっわああああ！

…大変だった。

もう1つの31話をどうぞ！

第31・5問(表) : 準決勝第二試合っ！

s i d e r y u

「邪魔だ…頼むからどいてくれよ」

「悪いな。これもクライアントの指示でな…『蒼穹の拳聖』。悪いが準決勝は棄権してもらおうか」

「おいおい。約20人も出しといてそれはないぜ？どいてくれよ」
目の前にいる…いかつい野郎。それも全員が『俺と闘ったこと』がある奴ら。それも木下姉妹？誘拐のときの面々。

全員、今は改心して…子供の柔道教室を開いていた…筈だろ？
「何でだよ…何で、だ！そこまで腐ったのか？」

「知るか！俺たちだってこんなことしたくねえ！だがな、あいつは家族…そして、子供達を人質にしゃがった。…お前に言われて、正直。嬉しかった。…だから、もう失いたくねえんだよ！」

「頼む…俺はこれ以上…」

人を

たく…ねえ。

No s i d e

「あと1分でこなかった場合は、棄権となります」

大会会場がざわついていた。それもそのはず…参加者の一人がまだ、たどり着いていないからであつた。

「待つて下さい！劉は必ずきます！」

「私たちに挑発しておいて、自分は臆病ににげだす…笑えるわよ」
「関戸さん」

「木下さん！何でそんなことを言うんだ！劉は決して臆病なんかじゃない！そのところは君も分かっているはずだよ！」

「それが何だつて言うの？また教科も数学だし、無様に負けるのが怖いんじゃないの？」

「あと10」待てやゴルア！」「……はい？」

「すまねえ。関戸劉・参上だ！」

劉が到着したと同時に起きた歓声。そして待ってたといわんばかりの明久。

「悪いな。高橋女史と、優子…後藤」

「佐藤ですって！何回言えば分かるんですか！？」

「劉？その傷…」

「ああこれか？」

そう言つて、顔と腕を見せる。そこには切り傷が幾つもあつた。

「これか？ちよつと砂利で寝ちまつてたからついたんだ。気にすんなつて…高橋先生。遅れた俺が言うのもなんだけど、早く始めてくれ」

s i d e o u t

「ははっ…腕は、おとろえ、てない…な」

「……………人質の無事を確認した」

「本当か！ついてえ…」

「……………（コクコク）」

「そうか…アイツに『すまなかった』と…伝えてくれ」

「……………了解」

s i d e r y u

「明久、行くぞ」

「…うんっ！この人たちだけは、小細工なし！」

「正々堂々と、戦った!!」

『では、準決勝第二試合を始めます。各自、召喚獣を出してください』

「「試験^{サモン}召喚」

相手の召喚獣が、幾何学模様の魔方陣から出てきた。

優子の召喚獣は西洋風の鎧にランス：大きな槍って言えば分かるか？それと佐藤ははネイティブアメリカン風の衣装に鎖鎌……やっばり高名に似てやがる。真っ先につぶしてえ！

そうこう分析を行っている間に、相手側の点数が表示された。

『Aクラス 木下優子 & 佐藤美穂

数学 374点 & 364点』

本当に立派な点数ですどうもありがとうございました。といわんばかりの真面目な点数。こいつらには勉強しかないのか？

俺たちも試験は受けたが、まだ点数が分かってねえ。作戦も立てることが出来ないし

「花鳥風月：花開き、鳥が舞う。風が強き、月の意志で…この生涯すでに捨てたも同然！蒼穹拳法・初で終いの継承者！関戸劉。参る！」

「試験召喚獣召喚、試験召喚サモン」

俺たちの召喚獣が出てきて、それぞれ構える。

俺の武術の基本形は『無』。何も考えないのとは別で、思考したのと同時に反射・行動を可能とさせる境地に達するのが基。

最も、これは人間としてのリミッターを外すということだから、限界ギリギリまで力を出せる。某披見体E-57みたいな感じではなく、もう人間の域を越えているから…困ることは

「明久。優子を頼む…俺の考えは見通されそうだから」

「了解…勝とうね」

「ああ、今の俺は手加減が出来ない。カバー頼むぞ」

『Fクラス 関戸劉 & 吉井明久

数学 421点 & 198点

』

「な、何よ！前の試召戦争とは大違いじゃない！」

「俺はベクトル中心だったから簡単だったぜ？それにしても、明久も頑張ったな」

「はは。さすがに劉と雄二に教われればここまで行くよ」

明久も安堵の笑みを浮かべていた。俺もおどろいたぜ？まさか勉強しただけで400いくなんて。

「？シエルブリットは出さないの？」

「ああ。正直、あっても邪魔になる…もちろん腕輪もつかわねえ」

「点数が高いからって慢心？ただのバカのクセに」

「ああそっかい。じゃあさ、お前らの後ろにいる召喚獣は誰のだ？」

優子達は、恐る恐る後ろを見たが…

劉の召喚獣が構えていた

「一の型『無拍子』：聞いたことくらいはあるだろ？」

無拍子：初動を無くす事によって、動いていることを感じさせない技だ。

「佐藤。お相手してもらおうか」

「わ、私だって負けれないんです！」

俺と佐藤は優子から距離を取って、その間に明久が入った。

「おっと、ここをとおりたいなら僕を倒さなきゃ」

「なめるんじゃ、無いわよ！」

side akihisa

「はあっ！」

ランスを僕目掛けて突き出してくる。だけど

「ほいつさ」

ランスなら、そこまで範囲が大きいわけじゃ無い。簡単にかわせるけど…

「さあっ！」

キーン！

交差する木刀とランス。本当なら壊れるくらいなんだけど、点数が

高いおかげで壊れたりはない。

「木下さん。学力が全てじゃないんだよ。操作性もあるから……こうやって格上の人とでも戦えるんだ！」

明久が、前に優子の召喚獣を倒して小さく飛び上がって木刀を振り下ろす。

「そんな単純な！」

優子は、横に転がって攻撃をかわしたが、そのかわした所に小さい穴が出来ていた

「……召喚獣の力って、半端ないのね」

「僕も、こんな力は初めて、見るよっ！」

再び木刀を握り締めて、木下さんに向かっていく。

「アンタなんか！」

□ Aクラス 木下優子 VS 吉井明久 Fクラス
数学 258点 VS 174点 □

そつえば、佐藤さんたちのほうが静かだな。何が……って、

「なにやってるのさ劉！早く戦わないと！」

s i d e r y u

「どうした、早くこいよ」

「……………」

ま、攻撃したらしたで戦死させるまでにがさねえけど

「……………ここにいったら、確実に負けます」

「おうおう。よく分かっているな、それだったら…向こうの方が面白そうだぜ？」

「！？木下さん、あんなFクラスに？」

驚いていらっしやってますね。正直俺も驚いた。優子も動きが速いと思っただけど、明久のセンスに。

まさか、簡単なコツでここまでつかむなんてな。マジって負けちまうよ。

「なにやってるのさ劉！早く戦わないと！」

「…明久さん？これも戦いの一種だぜ。心理戦も勝つんだよ」

「美穂！どいて、劉の相手は私がするわ！」

「だ、ダメよ！木下さん」

「はあああっ！」

優子は、明久をも押しのけて俺に突撃してきた。

「……………不吉を、届けに来た。蒼穹拳・弍の型『陽炎』…」
そつつぶやいた後、俺の召喚獣をランスが貫いた。

「ふんっ、これで戦闘不能「何を言っているんだ？ちゃんと生きてるぞ」え？」

はあっ…やっぱり頭が痛んできやがる。この調子だと、召喚獣じゃ

二分が限界、か。

「陽炎は、足を限界まで動かしその熱：摩擦熱などを利用した分身を見せるのさ。化学とかにつながるから、俺にとっては最も使いやすいで、ほら明久。頼んだ。らあっ！」

俺の召喚獣に投げられた優子の召喚獣は、明久目掛けて飛んでいった。もちろん空中だから操作が難しい…それに、あいつらはこの召喚大会と、俺たちとの試召戦争でしか召喚獣を使っていない。

「じゃあ、田中「佐藤です！」ちっ…佐藤、始めるぜ！」

「せえい！」

佐藤の召喚獣が俺の足と腕…全部狙ってきやがった！

「直撃か…避けてこそ華だろ！」

それを軽く前かがみのジャンプで回転しながらかわす。

「ほらほら行くぜ！」

そうして俺は腹部を殴りかかる。さすがに女性相手には顔は遠慮するぞ？おれ、けほっ！

「劉！血が「ボサツとするな！心配だと思っならとっ」と倒してこつち来やがれ！」…劉

たくよ、あいつ等が余計なことをしなけりゃ。

「ほら、次は腕だ！その次はどこがいい！」

…思ったんだけどよ。これって一回戦みたいにイジメになってきているんだが、いいのか？

「させません！」

そう言っ鎖を引き戻す。俺の頭に当てる算段で

「これ以上は負けたくねえ！そうだろ、明久！」

side akihisa

「僕達だって、やればできる！」

僕は木刀を持って、木下さんに迫っていく。相手の召喚獣はランスを防御に使っているから、どんどん押し込んでいく

「これが、バカの力だ！」

その後、隙が出来た腰にある 鎧の弱点に思いっきり横に薙いだ。

「そんな、私が負けるなんて」

木下さんの召喚獣は戦死した！これで劉の所に「クソツタレが！」

「劉！？」

side ryu

「おせえぞ、あきひ、さ」

…もう限界かよ。この力、反動大きすぎるんだよ。

「悪い。反動が、つよ、いわ」

『Aクラス 佐藤美穂 VS 関戸劉

数学 76点 25点

』

s i d e t a k a n a

「はあ…取り合えず、ここで一眠りしますか。僕の研究所」

そこには、召喚獣理論や心理状況…召喚獣における次元干渉についてもかかれています。

僕も、AIを持つ召喚獣を開発してみようとは思いましたが…以前作成した方は行方不明に…

今、学園祭でしたっけ。正直、今は関係が無い僕が行くのは……問題が…zzzzzzz。

第31問（裏）：Fクラス誘拐事件！？前編（前書き）

こんばんは。テスト前にもかかわらずこんな事をしてもいいのかと
考えていた蒼です。

舞

「前回、塚原君とレフェル様の『俺と彼女と召喚獣』に出させても
らったわ。ありがとね…ジューズの作成レシピがなくなったのは残
念だったけど」

第31問…ついに黒幕が動き出す！ではどうぞ！

第31問（裏）：Fクラス誘拐事件！？前編

ZENKAINO ARASUZI

「ボケに戻りたいわ」

「戻らなくていいですから、早く仕事してください」

…最近、ゆうちゃんが厳しいわ。

side may

「……はい、ありがとうございます」

私は、自分の所属する『保健委員会』の服薬についての講演に行きました。私の話を聞いてくれた人もいてよかったです。本当なら断るつもりだったのですけど…

『チャイナ服。着る気ない？』

なんて、草子に言われたのでこっちにきて正解だと思いましたよ。
主に貞操的な意味で。

「……それにしても、黒幕の動きが静かですね。こういうときにこそ何か動きが（LLLLL……）土屋から？どうしてこんなときに」

「ハイ、さえ 藤川です。土屋、どうかしたの？」

「…… 姫路に島田。村野姉妹と木下姉妹が誘拐された」

「……（通りで静か過ぎると思いましたよ。全く！）それで、犯人の居場所は？貴方なら見つけてるのでしょ？」

「…… 近くのカラオケボックス。手口は睡眠薬…俺でも、近くにいた須川が倒れなかつたら分からなかった」

「……匂いと須川君の容態はどうですか？」

「…… 無味無臭。須川は変な夢でも見ている」

無味無臭……特に副作用はない……

「分かりました。こちらでも対策を打っておきます…吉井君と坂本君を呼んでおいて下さい…劉君は使ったのですよね。「奥の手を使ったら頼む」とかいつてたもの」

「…… 了解。座標を送って置く」

さて、話も済んだし…いかなきゃね。みんなを助けに

「もしもし ですか？」

そのためでしたら、私は天使とも……

悪魔とも契約しますよ。

s i d e a k i h i s a

『さてどうする？坂本と関戸と
この人質を盾にして呼び出すか？』

吉井だったか？そいつら、

『待て。吉井ってのは知らないが、坂本は下手に手を出すとマズい。』

今はあまり聞かないが、中学時代は相当鳴らしていたらしいからな
『関戸って、あの「拳聖」か?』

「zzzz」

全員が眠らされている。これはどういうこと?

「雄二、作戦は?」

「ムツツリー二が動くまで待て。だそうだ…藤川が来るころあい、
舞と呼んでくださいといいませんでしたか?」…これだけは譲れな
い。翔子に襲われそうなんぞな」

丁度いいところに藤川さん登場。劉も来たかったらしいけど、体が
動かないらしくてFクラスの料理製作にかかってくれている。

「……相手は睡眠薬を盛つたらしいわ。これ、軽い痛みが出て来く
るけど薬の効果を無くせるわ。…五分が限界だけど」

彼女はこういうルートで薬の材料をもつてくるのだろうか。本当に
犯罪になりかねないことをしているね。ムツツリー二とか舞さんと
か……小田君も。

『………灰皿をお取替えします』

『助かる。で、その人質はどうするんだ?』

『おう。で、このオネーチャンたちどうする? やっちゃっていいの
?』

『だったら俺はコッチの巨乳チャンがいいなー!』

『あつ!ズリー!それなら俺二番ね!』

……本当に聞くに堪えない話だよ。このチンピラたち

「……突入します。私が前に出ますので援護を」

「正気か藤川!？」

「正気ですよ?実際に私の薬は108式…いえ、300通りありま
すからね。それに今回は人質の救助です。私が隙を見て救い出すの
で」

「…クソツ！それが最善の策かよ。分かった、好きにしろ」
雄二もしぶしぶ賛成。こうなったら（パライン）！？

「おっじゃま、しまーす！」

え？え？ええええ？？？？

「執行、委員よー！全員、…精神十六分割の刑よ」

え？？？？？？？？？？

n e x t a g a i n

第31問（裏）：Fクラス誘拐事件！？前編（後書き）

舞「執行委員が出ていないけど、大丈夫なの」

蒼「大丈夫だ。問題ない」（後編にでるから）

レフェルさん、ヒョウガさん。マロさん。GAUさん…感想ありがとうございます！

中「……もうすぐ、……一万ユニーク」

桜花「凄いじゃない！最初は、『もうゴールしてもいいんだよね？』とか云ってたくせに」

劉「で、特別企画はやんのか？」

蒼「まあ、考えているのは…コラボ数作品と女性人三人の外伝でもやるのかなと思っています」

高名「コラボなどは募集するのですか？それに、僕とアキの」

蒼「しないですよ。ちゃんと高名は主役だから」

と、言う訳です！次回は

「……なんで、貴方が？」

「私も雇われたのだ。だが、人質をとった時点で終わろうと思ってしたが…済まなかった。舞」

お楽しみに！

第31・5問(裏) : Fクラス誘拐事件! ? 後編(前書き)

こんばんは…今回は短かめとなっております。ではどうぞ

第31・5問(裏) : Fクラス誘拐事件!? 後編

前回のあらすじ

.....

サボるな! b y r y u

s i d e
m a y

私が見つ込んでからといましたが、∴この人は。

「さあ、彼女達を放しなさい∴∴それとも、地獄を望みますか?」

彼女は、私の助手・大前 安生 (おおまえ あんせい)。私のラボ∴いいえ、実験室にいつわっている研究員の一人です。

年は20歳ですが、私を『メデイサー』とか呼んできます。この学園の保険医をしまして∴俗にいう『二重人格』をあらわにしている人物です。

最初に話すのは活発で陽気なんですけど、時々かんでしまいます。

その後には話すのは、静かで冷静な人格です…怖いけど

私は、彼女の二重人格を安定させるために協力をしています。二重人格は何かからの『逃避』によってできるものだとは考えています。

その二つがぶつかり合うと…最悪、植物状態も考えられるのです。それを防ぐために予防薬を出していました。

この人さえいなければ…私はボケに回れるのに。

「…お、おい！こいつらが（どすっ）グワア！」

私が、安生さんの壊したガラスから押し入って、その勢いを利用した回し蹴りを相手にご披露。

スカートは穿いていません。白衣とズボンですから…

「なんだ女！お前も人質になりてえのか？」

これだから下衆の男は…刃物を持っているからって、優位にたっていると思ってるのかしら？

「ナイフですか。それでしたら私も、メスを使わせていただきます…」

そう言つて、私の懐に入れておいたメスを数十本取り出す。

「ハアン！そんなもの寝ていれば…先生！お願いします」

「お前らのやったことは、人間としてあるまじき行為と…何故分からんか！」

そう言いだすと大柄の男性が、拳を握り締めて男の顔面をぶち抜いた。

「ふむ…私は協力を申し出たが『人質を安全に保護する』ことの為

に潜入させてもらったのだよ」

「え？貴方は？……薬を作ったひと。そうですね」

「さて…舞。こいつらをどうする？」

私は、忘れもしないあの方に

「そうですね…ひとまず。…こうしま、っすよ！」

そう言つて、横に動きながらメスを投げていく。一応ダーツとかは得意ですから。

「私も！……覚悟しなさい。破ッ！」

安生さんも、得意の八極拳で相手の体を吹き飛ばす。

「おいおい。俺たちを忘れてねえか？」

忘れていました。代表のパンチも冴え渡っています。

「イツシヤアア！」

…吉井君は、問題なさそうですね。大きな声をあげて渾身のハイキックをしています。

「……僕たちも、……弾圧する」

塚原君は私の渡した『睡眠弾』を弾うっています…全部静脈に当たって、どんな才能ですか！

「私は…『氷乱』。いつけえー！」

「私もです。『分身』！」

桜花ちゃんとゆうちゃんは召喚獣の腕輪を使って攻撃しています。

これって、絶対に後始末が大変だと思っただけ？

「くはははは！それにしても丁度いいストレス発散の相手が出来たな！生まれてきたことを後悔させてやるぜええっ！」

坂本さんはノリに乗って気絶している人たちへも攻撃しています…

霧島さんのせいですね。確実に

制圧完了!..... Now Loading

「それで、貴方は何故こんな事をしていたのですか?先生」

彼は福岡病院の麻酔などの担当をしています。麻酔などの睡眠薬に
関しては雷太さんよりも得意分野ですから、土屋君が薬について説
明してくれたときうすうす気づいてました。それにこの人は、

「あ!先生!.....何をしているの?」

安生さんの主治医でもあります。彼のスキルは:

- ・麻酔取扱許可
- ・医師免許。内科医・外科医・整形外科・スポーツ外科・産婦人科
- ・薬剤師

∴彼一人でもたないのです。イロイロと

「それなんだが、いきなり見知らぬ者から『文月学園の生徒を誘拐
してくれ』なんてふざけた電話がきてな。これを断つても良かった
が、断つても彼女らは誘拐される。それだったら内側から助けるこ
とを考えたのだ。さすがに今伸びているこいつらにも勝てると思
わなかったから、ここまでではつれてきて∴銀髪の奴に情報を渡して、
ここに来るように仕向けた」

「!?!?本当ですか?土屋君」

「.....情報の提供に感謝する」

どうやら本当のことみたいです。でも

「これについては本当にすまないと思っている。私の力では救える
ものも限られているからな∴それと、犯人はどうやら学園内の重役

らしい。こいつらが話していた」

「…そうでしたか。やっぱり犯人は「ちょっと待て」？坂本君。どうかしましたか？」

「悪いが、俺と明久。ムツツリーニが話しについていけない。全てを話せとは言わないが大まかなことだけでも説明してくれ。最も、明久には分からないと思うけどな」

そうでしたか…うかつでしたね。

「分かりました。彼女らをクラスまで連れて行った後にお話しします。学園長も含めて…先生。貴方は病院に戻ってください。これ以上関わっても、迷惑となりますので…」

「確かに。学園外のものがとやかく言うことでも無さそうだ。それではかえらしてもらおう」

「…早い。…どんな動き方をした？」

「…薬物による身体強化」

この二人。静かな所とか気が合いそうですね。

「さ、僕たちも教室に戻ろう」

「そうだな。こんな所においても大変だし」

「そうですね。戦争の後みたいなの所においても嫌ですし」

「…はやく行きましょ！とっとと説明するの。時間がもったいないわ」

…と、言いたい所ですけど

『お姉さん方。ここの修理…どうしてくれるの』

まずは、ここを壊した謝罪と警察への事情説明が必要そうです。

第31・5問(裏) : Fクラス誘拐事件!? 後編(後書き)

舞「……あのあと、私は大変ながらも何とか説得できました。とさ」

蒼「お疲れさん……レフェル様。ヒョウガ様。GAU様。マロ様。感想ありがとうございます」

中「……藤川。……五月蠅かった」

桜花「しょうがないわよ。一応は正しい態度をしないとイケないから」

ゆう「一応じゃなくて、ちゃんとしなきゃ!」

舞「……次回。バカとテストと召喚獣 五帝の学園生活。表!……夜明けて。……お楽しみに」

安生「メデイサー。ため息ついてる……時間軸が表と代わるけど、大丈夫なの?」

蒼「大丈夫だ。問題ない」(読者は頑張ってくれろ)

全員「次回もお楽しみに!」

劉「俺……いつ起きんだ?」

誕生日記念？座談会

蒼「こんばんは。今日、16になってしまった蒼です」

劉「蒼穹拳法・初で終いの伝承者。関戸劉だ」

高名「ハッキング対策ソフト『星の詠み手』発売中です…イロイロと八ブラしていた小田高名です」

草子「心の仮面、解き放て！…村野姉妹の妹、村野草子です」

風子「私は、この文月にあるべきもの。村野風子ですわ！全員ひざまずきなさい！」

舞「…いかれた薬剤師だの、暗黒の薬師だの言うに言われている藤川舞よ。ちよつと認識を変えれば優しいお姉さんなのに」

自分をお姉さんとか言うなよ。

劉「今回は、一万ユニーク記念も含めての話だろ」

そつだぞ！…！

ワーワー

拍手の大喝采…嗚呼。いいものだ！

劉「はいはいありがとね。これはギャラだぞ」

高名「次回もお願いいたします」

…サクラかつ！

劉「で？そうなんだろ作者」

……：そうだよ。とりあえず、改めて自己紹介・身長・体重「」「
は？」「」…女性陣はお任せしますので、劉からやりなさい

劉「高名にパス」

高名「風子さんにパス」

風子「草子にパス」

草子「舞ちゃんにパス」

舞「蒼にパス」

蒼「いや俺か…ッて違っただろ！明らかないじめじゃないか！」

劉「…関戸劉。身長176.1。体重68。軽い筋肉質だからこ
だけ重さがある…メロンパンが好きなのは誰でも大歓迎だぞ？趣味
は昼寝とかゲームとかアニメとか睡眠とか仮眠。本文中ではあまり
寝ないが、結構隅で寝ているぜ？将来は…彼女とかは居ないままで
普通に一人暮らししてるな。多分科学者にでもなってるんじゃない
か？両親は二人とも生きてるが、少々常識とは外れた考え方をし
て…初見の奴は『若い夫婦』とか思つかも知れねえけど、実際は
『精神などに疾患を持った患者』みたいな両親だ」

おい、ネタバレ」になってもいいって言ったのはお前だろ？」…両
親の名前は？

劉「親父は『鏡輔』^{キョウスケ}。お袋は『静花』^{セイカ}だ。…中二見たいな名前だけ
ど、合わないほうが幸せになれると思うぞ？」

これ以上聞いても、つまらないだろうから「待て！まだ紹介が！」
次は、…主人公の劉を差し置いてなんだか人気の小田高名くんです！

高名「やれやれ。こういつた催し物は、苦手なのですが…。お初の
人は始めまして。小田高名と申します。背は169.8cm。体重
は59キロです。結構やせた感じに見えますね、筋力は一一般的です
から。それとカレーパンが好きの方はお話が合うと思いますよ？趣
味は機械いじりとゲームやアニメ鑑賞。…ハッキングは今現在、ど

うしてもとというとき以外は行っていません。尚、『文月学園召喚獣開発チーム』の18歳以下のまとめ役をやらせていただきました。将来は、一般の方と同じような生活を望んでいます。…あの人と同じは嫌ですから。両親は居ません…質問はありますか？」

…劉と舞とはいつあった？

高名「劉は、この学園の入学試験のときです。舞さんは同じクラスになってからですよ…入学式で堂々と、白衣を着ていた人との対面なんて忘れるはありません」

舞「なんで白衣の良さが分からないの！たくさん物をしまえて便利じゃない！」

劉「俺とは、試験のとき…隣の番号だったな。俺が受かるから、テメエは落ちろ！…って感じであったんだよな……………今でも変わらねえが」

高名「いきなり五月蠅い長髪男性を見たら、その反応もつなずけますから」

いや、絶対につなずけない(汗)

じ、時間が無いから次は草子！

草子「お〜らい！私は村野草子！背のおつきさは167・4cmだよ。体重を聞いたら…後でオハナシネ。趣味はゲームとアニメと漫画と泥遊びと鬼ごっこ…(以下延々と子供の遊びが続く)だよ

！将来はね、…テレビとかにでたいっ！両親はいるよ。おじいちゃん達も住んでいるんだ！みんなたんのしいよ」

ベターになるけど両親達の名前は「これはいたくないので、拒否権を使いますわ」…了解したよ。じゃあ、次は風子よろしく」

風子「了解いたしましたの。諸君！私の名前は村野風子。背は草子とおなじですの！…文月学園のFクラスに所属しているのですわ。…最近王の何たるかを求めて日々精進していますの。将来はこの国…とまでは言いませんけど、県知事位にはなりたいですこと！皆さん、私に清き一票を！」

…そ、そうか。頑張ってくれ。それと、村野姉妹と劉。舞とはどこで会ったんだ？

草子「劉は同じクラスで！」

風子「舞さんは、受験のときですわ。高名さんと同じ感じのこと」
まあな。詳しいことは番外編とかでやっててくから

じゃあ、最後に舞ね。それと『バカとテストと優等生？』の遊佐から質問が届いているから…えっと

お前の肢体を追いかけて俺は心の声を聞かせよう

この気持ちをうまく表す言葉を知らないが

それでもお前に伝えたい好きだ舞お前の身体と体液が

MAJJIでMURAMURA YOKUZYO してる

舞「……………」(顔は笑いながら怒りを抑えている)

4人「と、常夏!?????」

「はい質問っ！藤川舞のスリーサイズと身長と体重が知りたいぜっ
！」 翔

舞「…とりあえず、自己紹介をするわ。私は藤川舞：身長は156
?…小さいって言わないで下さい……………賞味は薬の調合とか診療：
もう医者みたいなものね。将来はひっそりと処方箋の店でも作って
暮らすつもりよ…家族は、今の両親と妹の時音ときねがいるわ。…」

まあいいや。とりあえず翔くんの質問に答えてあげて(半分やけ

舞「いいわよ？こっちにきなさい？」

風子「いけませんわ！そんなことしたら、貴女が」

舞「死ぬ準備と、遺書を書いてきたら教えてあ・げ・る」

風子「（お、鬼ですわ）」

あ、上の翔くんの台詞は感想欄等からお借りしました。

で、舞と劉の出会い？

舞「私は病院で会いました。確か中3の頃ですね」

劉「あ、あの時……はあ」

次の質問！HN撫子さん他からのお便りです

劉「サンキューな」

え〜と『高名と来島アキさんは付き合っているのですか？これってもしかして作品の壁を越えた愛！？それは応援せざるを得ません！お二人ともお幸せに』…へえ。そうだったんだ高名

高名「え／＼あ、あの／＼、そそ、それは、全くの事実無言で、」

劉「テムエー！来島を困らせるんじゃないねえ！アイツに迷惑だろ」

草子「でも、高名くんがこんなに困ってるの、初めってだよ？ニヤニヤ」

風子「確かにそうですね。早く告白しませんと…ニヤニヤ」

舞「事実無言まで言うか…アキが可哀想よ？」

高名「クツ…四面楚歌とはこのことですか！………僕は少なからず、彼女には好意を寄せています。…少し距離をおいては居ますが。自分で言うのも何ですけど、アイツとの事から距離を置きがちなんですよ。今でも気兼ねなく話せるのは皆さんだけですから…本当は、楽しく話したりしたいですよ！普通の生活がしたいです！その

ためにも…ただそれだけです／＼
赤い顔で言われても説得力0だけど。

舞「だったら」

高名「でも、怖いんですよ」

昔のあの男みたいになりそうで…家族を、僕が壊してしまいそうで

村野姉妹「……………」

劉「まっ、その話はここですることじゃねえな。お二人さんで仲良くな……………やっぱ、俺には。必要だ(ボソリ)」

?なんか言ったか?

劉「なんでもねえよ！それより次行こうぜ！」

はあ…それにしても、よくここまでこれたなあ。

劉「本当だ。このサイトを見つけて三日で投稿する気になんて、ぜんぜんならないぞ？」

ま、まあそれは今まで続いているから良しとして…

高名「僕がいつの間にか消えていますし…この作品の主演を消してどうするのですか！」

劉「はあ？主演は俺だろ？何言ってるんだよ！クソ高名」

高名「バカ劉に言われたくありませんね。今日という今日は君の行いを改めさせていただきますからね！」

劉「上等だゴルァ！丁度良くこの隣に武道場がある！そこで勝負だ」

高名「すみませんね。これだけは譲れないものですから…失礼致します」

・

・
・

・
・
・

・
・
・
・
・

・
・
・
・
・
・
・

草子「はあくまたグダグダで終わっちゃつよお」

風子「でも、それが楽しいのですわ。そうですよね？」

舞「…途中の遊佐には疲れたけど」

…座談会って言うていいのか？

「大丈夫だ、問題ない」

まさかのエルシャダイWWW…

蒼「こんなグダグダで終わってしまいましたか…これからも」

舞「この『五帝と召喚獣』」

風子「そして私たちを」

草子「よろしくね〜」

それでは、次回の更新で……

その頃……

「おい高名！スタンガンなんて卑怯だぞ？」

「五月蠅いですよ？ノーマルスペックの僕が、君の陽炎だの交わせ
るわけが無いじゃないですか！特に無拍子！」

「ははっ…でも、楽しいよなあ！高名あ！」

「…そこだけはさんせいですねえっ！劉めえ！」

…これからも『バカとテストと召喚獣 五帝のお学園生活』を宜しく
お願いします！

第32問：執行委員の理由（前書き）

問 アンケートにご協力ください 00

『機動戦士ガンダム00での一番いいと思った方を挙げてください』

関戸劉の答え

『ロックオン・ストラトス（初代）
人気が高いですからね。』

小田高名の答え

『アレルヤ・ハプティズム』
これが、超兵の力だあ！！

村野草子の答え

『キラ・ヤマト』
作品が違います

村野風子の答え

『炭酸』
ちゃんと人物名で答えましょう

藤川舞の答え

『武士仮面』
それはドラマCDの姿です。

塚原中の答え

『射撃兵全て』

一人でお願いします

第32問：執行委員の理由

……

side may

私たちは、とりあえず眠っている皆さんをFクラスに運んで、とある人物を待っています

「…ところで、誰を待っているの？」

明久が、疑問に思ったことを口に出したが

「あの学園長よ！さすがに一般生徒が被害を受けたんだから、謝罪と今回の説明もしてもらわないといけないから」

桜花ちゃんが説明してくれました。

「これもやっぱり常夏と関係があるのか？」

「いいや、本当は裏で糸を引いている奴がいる…：教頭だ」

坂本さんが私に質問したのですが、返したのは…

「おう、関戸劉！完全復活。蝶・サイコー！！」

…劉君ではなくパピヨンですね分かります。その蝶の仮面をかぶられるとそれしかでてこないのですけど!？

s i d e r y u

俺は、一発ネタにつかつた蝶仮面をとって話す。

「ババアならこねえぞ?」『まだ知られるわけには行かない...』とか
言ってたぜ」

「ま、待ってよ!そんな事で...一応、顔色を見たらマジだったか
ら見逃したぜ。俺は何があったのかはしらねえが...コイツらの表情
を見たら分かるわ」...そうだったんだ」

話しながら草子たちの方に、親指を向けながら聞いた。

せつつめいちゅーせつつめいちゅー

「なる。……黒幕は教頭で決まりだが、肝心の証拠が無い。それを捕まえるのが……」

「はい。私たち『執行委員』の仕事です」

「……そう。……Aクラスに近づいたから」

「私も戦うわ！だって、生徒が主役じゃなきゃ！」

「この学校が好きですから」

えくつと、右から中。橘。神崎でいいのか？

「とりあえず作戦なんだが……」

待ってるよクソ教頭

S i d e ? ? ?

「お、おい。テメエは何モンだ？」

生徒たちが帰った後の学校。その正門にたたずんでいたチンピラが、近くを通った金髪の青年に声をかける。

「……邪魔です」

ビィッ!

「ギャアッ!」

その青年は、チンピラにスタンガンを最大出力で首筋に当てていた。

「……この学園は、セキュリティがもろすぎる。だから」

簡単に、部外者の侵入を許すんです。

… 『警視庁 特別捜査官及び文月地区市民協力者』

「……だれだ？それにそんな事言われても「暴力団を使った恐喝及び誘拐。さらには教務妨害に当たりますね」…何でそれを」

「おやおや、当たっていませんか。僕は半分冗談で言ったつもりでしたが…で、ついてきてくださるのですよね？」

「…さすがに、外にアレだけの警官が居る中で逃げようとは思わない…連れて行け」

「はい。お一人様ご案内いたします」

（私が報酬を送った奴らは、明日の清涼祭を壊すだろう。…慌てふためく姿が楽しみだ。ハハハハハハ！それまでは刑務所にでも居てやるうじやないですか……）

『（ガー）こちらハ ミット。任務終了です』

『…了解した。これで自由だぞ？』

『そうですね…やっと普通の生活に戻れますよ。最も、普通かどうかは分かりませんが…「豊岡」も頑張つて』

『おいおい、本名はないだろ？』え？僕はもう無関係ですからね？
…わあつた。じゃあな…「高名」』

『そうですね…では（ピツ）』

「…これで終わりではない、僕は悪事を切り捨てる。悪事は『ただの暴力』と同じですし、それに理由を持つ方もいる。僕は…犯罪などで困る全て…救えたら神ですね。はっはっは！しかし、手の届く方を自分が助ける。…アイツは御免ですが。『弁護士』や『国会議員』とかもいいかもしれませんね」

s
i
d
e

m
a
y

やってくれましたね!!!

『執行委員を抜ける。さもなくば妹…佐伯 時音の命。まあ、医療費を払わないだけだがなあ!』

.....

第32問：執行委員の理由（後書き）

…なんだろ、短い上に重い話しの上に説明できてない。

感想！マロさん、GAUさん、レフェルさん、ヒョウガさん、あず
まさん。かんそうありがとございます！

ああ、高名の人気があります！

…次回もお楽しみに！

コラボ問題：僕とアキと文月にて（前書き）

こん××は！

今回は『バカと雲雀と召喚獣』に出演している、来島アキさんと高名のデート？を送らせていただきます！

GAU様やGAU様ファンに「 teme何やってんだ！」と怒られなように頑張ります！

これは、それまでに感想欄での多大な交流を抜粋して載せておきます！…一部訂正しております！

アキ「……ですから、AI召喚獣を構築することで、ネットワーク上の作業効率が約220%向上するわけです。これを応用し、情報面からの世界規模の……」

高名「実際に、召喚獣を操作するのは本人の無意識に働きかけて行うことです。その意識データ……脳波とでも言い換えましょう。それに働きかけるシステムを働きかければ、操作する人間がいなくてもP召喚できます。これを実現したいのですが、何分費用が足りないもので」

アキ「……これをベースにシステムを構築することで、ネットワーク上に無敵の軍団を……」

高名「……この無敵の軍団ですか。このような大体的な構造ですと、一部分に負担がかかる上にそこをハックされてしまっただけはお終いです。ですので……」

高名「ネットワーク上での作業効率ですか。それならここをここにリンクさせた後に光通信の応用で…… AIにつきましては、先ほど申しましたがやはり人間の無意識。それと意思的な問題があり、それを実現させるのは、心理学者の分野ですから僕はあまり口出しできませんが、それでしたら一般的な思考回路などを擬似的に再現して……」

アキ「高名さん、機会があればまたお話ししましょう。次はAI召喚獣の情報構造体についての講釈でも……」

高名「それを人間で言う心臓の付近に…… もう終わりですか。来島さん。僕としては満足なひと時をありがとうございます。僕は『召喚獣と生徒』との関係性のことについてもお話してきたらと思っています」

これが二人の始まりでした…（焦
その後……

アキ「……つまり、召喚獣と生徒の関係性を紐解くには、観察処分者のフィードバック機能を考察せずにはおれません。実際、痛覚や疲労のみならず、寒暖を感じることができるよう、五感の完全フィードバックは不可能ではないでしょう。このことから、本来、召喚獣は召喚者と一心同体であつてこそ、その能力を十全に発揮できるものと推察できます。従つて……」

高名「やはり所有者によって運動能力。五感などの問題も出てきそうですね。それと、高名でいいですよ？あなたとは良い話し相手になりそうですね。アキ」

高名が名前と呼ぶ。これは五帝以外は殆ど無い事であった。

アキ「……ええ、データの洗い出しに成功しましたから、召喚獣の視覚データと聴覚データは抽出できました。ですが、フィードバックさせると召喚者への負担が大きいため、HUDを経由する方向で開発中ですよ、高名」

そしてアキも、異性では始めて高名を苗字と呼ぶ。

高名「データの洗い出しですか…さすがはアキと言ったところですかね。僕でよければ喜んでお受けいたしますよ。やはり召喚者の負担は避けられませんか…そうですね、僕達が必要最低限に抑える努力をしなければなりませんね………視覚は…不可視の武器？面白いデータです。これを召喚獣に設定すれば、ステルス武装も夢ではありません！ありがとうございます。アキのおかげです／＼」

そう、ここからだった。

アキ「……高名……すぐにも助けてあげたいと思ってしまったのは、私の傲慢さかもしれないですね。まだ、そちらへ渡っていませんし、私がどんな力になれるのでしょうか。いまだ、本編内にメッセージを送ることさえできません。彼の一大事に、なにも出来ないもどかしさを感じています。高名、例え遠く離れていても、声すら届かなくとも、あなたの仲間と、私はあなたを信じています。あなたが、無事にあの学園に戻ってこれるとを信じています。だから、負けないでください。あなたの周りであるであろう障害に、あなた自身の弱さに。それから、笑ってください。あなたに苦悶に満ちた顔は似合いません。自信たっぷり、すべて手のひらの上と言わんばかりに笑ってください。その方があなたらしい。あなたに会える時を、一日千秋の想いでお待ちしています」

何かが壊れたように話すアキに対して…

高名「…メッセージ。確かに受けたいました…僕は、他人を頼りすぎているのでしょうか？しかし、あのまま小田家で生活していたら劉にも、舞さんにも…アキにも合えなかったのでしょうか。信じているものがあるからこそ人は動けるのですね。おっと、アキと話していますのに他人のこととはまずかったですね。僕ほどではないにしても、苦しい思いなどにあつたことがある人は少なくないはずです。その人たちを救うための計画だったのですが、それが終わったらまた戻る。前に進めないでいるのです。過去は過去と振り切る

うとしても実際には難しいものですが、ただ言えることは『この学園。そしてこの仲間達を守っていきたい』とは思うことが出来ます。もちろん、アキもそのうちの一人ですよ？過去はどうあがいても変えることの出来ないものですが、未来。そして今であれば自分自身の力で変えることができる。貴女に話すことではないかもしれませんが、私たちが五帝は過去に大きな事件に巻き込まれています。それは知りませんが、いのにちに克服したのは劉でしたよ。あのような楽天的になれば、フツ。僕に笑って欲しいと言ったのですから、アキも笑っていてくださいよ？今では君も僕にとって大事な人らしいですから。女性は笑顔が一番です。いつ会うかは分かりませんが、僕も一日千秋の想い、それを抱いてお待ちしています」

高名も壊れたWWW

夢の中でも思っほどこ...

????『…… AI召喚獣の基本アーキテクチャは、完全ではない完全です。すべてのプログラムは完成せず、すべてに向かつて枝を伸ばす樹のようなもの。全体を見てみましょう。美しいでしょう？不完全故の美しさです。おそらく、この不完全さがオカルトの部分に干渉して、自我を形成するのだと思います。高名はどう思いますか？ 高名?.....』

そしてこちらも

?? 『完全ではないのは、人もです。完全でないからこそ協力し合
つていくのです。その姿を見て成長を繰り返す…召喚獣は人間にも
似て成長させるのも一苦労です。AIの場合はその枝を繋ぐ『葉』
の役割をオカルトという非科学的なことが干渉しているのだと思
います。自我とは美しいものですよ…昔の僕は無いも同然でしたが、
アキはどう思われます？僕の嫌な部分を見て否定するかもしれませ
んね……………』

研究面という、小さなつながりしか持たなかった二人だが、それで
もこの二人は相手を意識し始めていた。

そして、前回の雑談会で高名は

高名「僕は少なからず、彼女には好意を寄せています。…少し距離をおいては居ますが。自分で言うのも何ですけど、アイツとの事から距離を置きがちなんですよ。今でも気兼ねなく話せるのは皆さんだけですから…本当は、楽しく話したりしたいですよ！普通の生活がしたいです！そのためにも…ただそれだけですノノでも、怖いんですよね

昔のあの男みたいになりそうで…家族を、僕が壊してしまいそうで

やはり父の事を考えてしまった高名。その言葉を聞いたアキ。

アキ「……そ、そうですね……。私みたいに、家事無能でズボラで、家ではキャミとスキャンティだけな上に、部屋はゴミの山。お

まけに、ヤブ睨みしてるかのように半眼で、いつも目の下に隅作つてくるような女の子に、まともな家庭が作れるわけありませんよね。髪の手入れも肌の手入れもしたことありませんし、身体は痩せっぱちで、胸なんか島田さんより無くて、お尻もお肉が無くて、女性的な魅力に欠けている私なんかには、高名のような素敵な人が振り向いてくれる訳ありませんし、いつも研究、研究で楽しい話題も提供できませんし、暗いですし、話し下手ですし……。高名。こんな私です……。幻滅しますよね？ おまけに私、孤児なので、家庭的なことにはあまり縁がなかったものですから、そういうのもよく解りませんし。ちよつと特異な才能を買われて、ある施設に入ってますし。……って、あれ？ これって喋って良かったつけ？ まあいいです。とにかく私なんか、高名にふさわしくないんですよ……。きつと……。だから、高名がイヤなら、無理に合わせるだけなくていいんですよ？ わ、私が勘違いして、舞い上がっていただけですし……。そう、私がまともな恋愛なんて……。グス」

勘違いしたのか、ここまで言ってしまった。

ここで、高名の一言が

高名「アキには非がありません！悪いのは僕ですから…家でどんなことをしていたとしても、それがアキの良い所につながっていくのです！体格を気にするのですか！？君は孤児だといいましたよね。でしたらその体が本当の親の贈り物だと思って自信を持たなくてはダメです。趣味が少なくてしてもです！僕の家も、家庭とは呼べずに暮らすことだけを考えたものですよ？特異な才能があったら、それで他を導けばいい…もし、それでダメでしたら…………ぼ、僕が手を差し伸べます。そして、アキを侮辱するような方から貴女を守ります」

告白。

その結果は……………

アキ「た、高名……………あ、ありがとうございます、う、う、嬉しいです……………あ、あのあのあの、わ、わわわ、私……………きゆう（パタリ）」

OKした…気絶という大きな反動を残して。シリアスは関係ないが、作品外恋愛なんてあまり聞かない蒼だった。

…ではどうぞ…！

コラボ問題：僕とアキと文月にて

s i d e t a k a n a

紫陽花あじないの花が咲き始めた頃、僕は自宅の地下にある召喚獣の研究室に数日間引きこもっています。学校？『調整』という名目で休んでいます。劉たちには何か言われそうですが、鉄人や婆さんがどうにか説得するでしょう。それほどこの研究が大事なのですからね。

『…でしたら、この回路をこの位置に繋げ直してから再インストールすればどうでしょうか？』

『分かりました。……まさか、ここまで時間がかかったものがすぐに出来てしまうとは。僕もまだまだ未熟ですね』

今、僕とテレビ通話の原理で大型モニターと話していた方は…ぼ、僕の……彼女の来島アキです。アキとは召喚獣開発グループで御一緒させて頂き、それからは色々なことを話させてもらっていました…僕の元両親についても熱心に相談していただきました。彼女は、

僕が劉たち以外では気軽に話せるようになったのです。…少々、勘違いもありましたが。

こ、ここ告白も僕からしました。正直、勢いという所もありましたが…アキは、こんな僕でも受け入れてくれたのです。

そして、現在では

『しかし、僕達二人で召喚獣の基礎理論を確立させていくなんて普通の科学者が見たらどういうでしょうね？』

『きっと、無謀とか言ってくると思いますよ？でも私は、高名とならやっていけると思っていますから……』

『おっと、嬉しいことを言ってくれますね。……アキ、そのデータは仮定数を置き換えないと成立しませんよ？』

『あ…すみません高名。…フフッ』

『何が可笑しいのですか…』

『いいえ。私たちが今、こうしている事が今でも信じられなくて。つい笑っちゃいましたよ』

二人で、協力しながら召喚獣の基礎理論を確立させるための研究をしています。今まで分かったものの例は…

・聴覚が一部、操作者とリンクしてしまう為におこる超音波などの軽いダメージ

・とある召喚者は『不可視』の武器を持っていた。

・このことから、その不可視を武器ではなく召喚獣にもできるのでは？という仮説が建った。

…まあ、初めて半月でここまでの成果が出せたのは上出来を超えて、最高。と言えます。しかし、

『アキ…体の方は大丈夫ですか？眼の隈が酷いですよ？』

『だ、大丈夫ですけど…少し眠いです』

僕たちは、4、5日眠っていないので体調は最悪。それもアキに至っては完全にグロッキーですね。

『……とりあえず今日は寝ましようか。……それと明日、見せたい物がありますので我が家に来て頂けませんか？』

『…（ガバツ！）……行きます！行くので今日はもう寝かせていただきます！^{フツッ}それでは明日』

……勝手に切られても困ります。…まつ。たまにはサプライズデー
トでも………そういえば

まだデート何て行った事ありません

「ど、どどどどどつすればあっ！……！」

地下室の中で、少し高い声がこだましていた……近くを、掘っていたモグラが気絶しているのを知らずに……

次の日 次の日！（土曜日）

朝10時。僕は黒地のTシャツと紺のジーパンと言つ、ラフだが金髪には似合うと思つている服装でアキを待つていた。その頃高名は「大丈夫だ…大丈夫だ、小田高名！行き先は皆野崎！僕の故郷でもある場所ですし、アキは絶対に気に入るような所です！服装とかも問題ない！絶対に大丈夫です！これでダメでしたら、僕は自信を無くしていく上にさらには……」

テンパツて居ました。

ピンポーンピンポピンポピンポピンポピンポピンポピンポ
ppppppp

……高橋名人張りの連打をしなくても分かりますからね？

「……おはよう。早速で悪いんですけど、昨日言ったことは嘘です」「おはようございます高名！それで…見せ、たい……嘘？」「すみませんね。…でも、サプライズには丁度よかったもので…これから、皆野崎に出かけますよ」「え、ああ高名？遠くまで出かけるのですか？」「そうですね？2人で」

あえて2人を強調させましたが…アキの顔を見ると、嬉しそうな雰

困気を出してくれていましたのでまずは一安心です。誘った側からしても嬉しいですよ？

アキの服装は、白いワンピース…黒い髪に沿ってお似合いですよ？

このような服は着ないとは思いますが、とりあえずこれであわせてください！（蒼

…ん？なにやら変な声が聞こえますね。

「では、行きましょうか」

「高名と…デート…デート…高名と」

「…五秒後についてこないと置いて」…待って下さい、高名！
…貴女は」

草子「やってらんないよー！」

劉「…高名。お前はそこまで腐ってたのか？」

風子「なかなかの策士ですわね。高名さん」

中「……心を……狙い打った」

桜花「凄いわね！頑張んなさいよ？」

ゆう「……ぱらり（我関せずといわんばかりに読書に集中している）」

舞「……え？今回の出番、これだけ？何で

「……着きましたけど、どうして啞然としているのですか？」

「い、いえ。いつの間に着いたのかって……驚いています」

（どどど、これってデートなのに……私が高名をエスコートしないと

……普段の研究で、ただでさえ高名の足を引っ張っているのに……）

（どどど……どうしましょう。今日のデート？はアキを休ませるため
もあったのですが、僕が先導しないといけませんのに……）

どっちも考えていることは同じだった。

…ここからは、四コマ漫画的なノリで進めます…ではGO！

〈本屋にて〉

「…この本屋は、色んなものが揃っていますから。気分転換できそうなものは」

「…これは、うみねこの公式資料集！？た、高名。みてください」
(…来る場所を間違えましたかね？)

「…しかしベアトも元は、いい奴だったのですよ」
「ええ！しかも今月にはPSS3で発売じゃないですか。それを買うのです！」

(…絶対に、気分転換というよりはいつもの趣味ですね)

く喫茶店にてく

「……………このパスタは美味しいですよ？」

「そうですか…このリゾットも美味しいですね」

「アキ（高名）。このリゾット（パスタ）、一口食べ…」

「……………どうぞ」

そう言つて、自分のフォークでパスタを取り…

「あーん（暗い声で）」

「あ、あああ、あーん……………おいしいですよ？高名」

「そうでしたか（……………ここまで恥ずかしいとは、思いませんでしたよ？）……………所でアキ、どうして僕の口の前にリゾットをよそつたスプーンを？」

「……………あーん（優しい声で）」

グハッ！（高名は精神的ダメージを大きく受けた！）

「……………あーん！」

僕は観念して食べました。…確かに美味しいというほどはありませんね。しかしこれなら…勝てる！

「さてと、先にお代を払ってきますね」

「待って下さい、私の分くらいは出しますから」

「いいえ、こういうときは男性がおごるのが相場ですし…リゾートも食べましたから」

「あ、たっただただ高名!?!」

(全く…その笑顔を見ると、こっちが癒されますって。僕が気遣いしなくてはいけないのに)

(そ、そういえば…ただ、高名にリゾートを食べさせたの…わたしの……)

「さて、…いきま、アキ?どうしたのですか?アキ!?!」

「きゅ〜」

そのときのアキの顔は、とても可愛らしかったと高名は話しています。

くとあるパン屋で

「……裏メニューを二つ」

「おっ！高名じゃねえか。久しぶりだな！……で、アレでいいんだな？」

「はい。アレをお願いします」

「？何を頼んだのですか」

「……秘密です」

五分後

「ほらよ……こんかいは、俺も最高の出来だぜ？彼女と仲良くな？」
「て、店長！」

そう言って渡された二つの紙袋に入っていたのは、カレーパン。――
見普通の

「どうして、カレーパンが裏メニューなんですか？」
「この店では、基本はカレーパンは売らないんです。しかし、今日のことを考えて…昨日のうちに連絡させていただきました。どうぞ、食べてみてください」

「では、頂き…こ、これは…カレーの甘味と辛味が絶妙に引き出している上に普段なら入れられない肉までも！それにこのパンが、それを引き出す上にカレーもその助けをする相乗効果！…しよっじき、カレーパンを侮っていました」

「……………そうですね？わざわざここにきた甲斐がありましたよ」
（…僕が楽しんでどうするのですか！）

〈高名宅前〉

「今日はいきなりですみません。どうでしたか？皆野崎は」
「ええ、楽しかったですし…カレーパンもおしかったので」
「……………」

き、キス…してしまいましたね。もう本来の目的を忘れてる気が…

「さて、家まで「送らなくていいですから！また明日！」……アキ
？どうしたのでしょうか」

…こうして、僕の初デートはまあまあな感じで終わりました

高名自宅付近

「た、高名……高名がわ、わわわ私にき……キ、キスを？……」

コラボ問題：僕とアキと文月にて（後書き）

すみません！ホントすみません！

アキが少々キャラ崩壊起こしているかもしれませんが、…最後は高名の暴走です！気にせず！

GAU様、レフェル様、ヒョウガ様、マロ様。ご感想ありがとうございました！

さて、来週から始まるファフナーの再放送に備えて……

次回もお楽しみに

???? 『楽しかったですよ…今度はぜひ、そちらにも』

第33問：それぞれの選択（前書き）

こんにちは…眠い。バイトがこんなにも疲れるとは……………

今回は『出題編』とでも云いましょう

次回に『疑問編』。最後に『回答編』…あれ？うみねこっぽくね？

ではごっごー…

第33問：それぞれの選択

s i d e a k i h i s a

「じゃあ、作戦はそれでいいな？」

「……了解！」

僕達Fクラスの首脳陣と（舞さん除く）執行委員の三人と今日の作戦について相談していたが、劉の腹案に満場一致で賛成した。

今回の目的は『教頭をおびき寄せる』のと『清涼祭の成功』に関係している。

もし、僕たちが失敗して学園祭が壊滅状態になってしまったら、姫路さんが転校しちゃうし…それに、小田君の帰ってくるところもなくなっちゃう。

そうさせないためにも、今回の作戦は成功させる！

「……つと、悪いんだが。俺と明久…2人ともテストばっかで寝てねえんだ。ちよつと寝かせてもらうぜ？」

「うん…回復試験ばっかだったからね。ちよ…ふあゝ。眠いよ」

僕と劉は回復試験をずっと受けていて、寝てない状態に近い。睡眠を聖職とする劉にとっては問題であった。

「俺は…図書室でも使っわ」

「僕は屋上で。…作戦は『召喚大会の決着がつき次第』開始。だよ
ね？」

「……………指示は、俺と神崎で行う」

「任せてください。土屋くんの手助けをするので」

「……………神崎…手助け！？（ブシヤアアアアア！）」

ムツツリーニ！君はまだ死んじやいけないんだよ！？君が居なくな
ったら、誰が姫路さんや美波。秀吉や村野姉妹の写真をとるってん
だい！

「…さてと、そろそろ出てきて良いんじゃないか？ さつさとでてこいや…つつても。そこまでこつい顔してんとは、おもしれえな！ クソがあっ」

…こいつら。Fクラスを出た頃からツけて来やがって。足音からして3、4人つてのは分かるんだけどよ、さすがにこんなところじゃ、暴れられねえよ。挑発でもして、よびださな（バキッ）…何だ？ 足音が一つ増えた？ それに（バキッ！ ポコッ！ キュポッ！）…キュポッ？。まずい…そう思った俺は、逆に角に向かっていったが…

「やあ、遅かったじゃないか。『拳聖』」

…『蹴覇』か。いったい何が目的「黙ってください」…あ？

「ここで伸びているのは、俺の部下さ。さすがにそんな事されちゃあね。こっちも黙つてられないんだよ。…教頭を出せよ」

「そうか。それは助かったぜ。おかげで寝る暇も出来た…何が目的だよ」

蹴覇と呼ばれた男が、笑っていた顔を一瞬で強ばらせて劉に問い掛ける。それに答えて劉も顔を強ばらせる。

「幸い、この図書室は誰もいねえ。…語るなら拳と蹴り。だろ？ 今までもそうしてきたじゃねえか！ 操みさおお！」

「俺も多少は我慢ができるって事さ。ははっ……全く。3年振りですねえ！ 劉う！！！」

……この蹴覇？と呼ばれる男の正体は？次回に続く

「いいところで終わらせん（じゃないです）なあ！」

side may

……私が居るのは、福間病院の入院用病棟。いつものとおりに面会の受付を済ませて部屋へと向かう。

「……時音。ごめんなさい。こんなときにいつしよに居られなくて……ごめんね。」

舞が静かに話しながら、ベッドに呼吸器をつけながら眠っている。中学生くらいの体格ながら、将来を期待させるような可憐な顔立ちが目に入っている。

「私……友達を裏切ることに「そんな事せえへんでええよ」「……だれ？」」

「わっちは神崎 深紅や。えろっごっついい状況になっとなるな」

「……質問に答えなさい。時音に手を出す気なら……」

「ちよいまちい。わっちはそ悪人とヒツ捕らえにきたんや…せやか
ら、安心して娘子のちかくに居るんや ハーミットちゆう男から
頼まれたんよ。それに…福間病院からは許可を貰ってるえ？」

…雷太さんの父が了承するのであれば…

「分かりました！深紅さん、ここは頼んだわ！」

私は、一刻も早く。犯人を探す！そして

死ぬより辛い目に合わす

「いっちもつたな…さて、はんなり行きますえ？」

s i d e t a k a n a

僕は、命の危機にあっている舞さんの妹の所へ、とある場所からの援軍をお願いいたしました。…この方を使って

「さて…ハーミットの名前を出したからには、僕も隠者として働かないといけませんね…シゲン」

そういわれてでてきたのは、召喚獣サイズの高名が黒髪になった感じの小さなホログラムがでてきた

『えつとね。闇って人に頼んだぞ？銃火器の扱いだつたら高名が勝つんだけどね、総合的にみたら闇さんの方が強いはずですから、絶対に大丈夫ですよ？』

…シゲン。今なんと…

「闇ですって！？よく彼女が了承を出しましたね！彼女を知るのは学園内の生徒は僕だけですよ？…シゲン。最高の成績と最悪の成績。平均的にしてください…調子の並が激しすぎます」

とはいっても、今回は闇…神崎さんが来てくれた時点で勝負は着いたものですからね。僕は…

「この文月を僕の管轄下と知っての狼藉者は。極刑ですね」

『極刑ですよ！』

……………シゲン。絶対に何かやらかしていますね。

『あ！スイスじゃなくてアメリカの指定口座に振り込んでしまいましたぞ！』

「……失敗したら、一週間鉄人の補習ですよ？」

…やはりやりましたか。

第33問：それぞれの選択（後書き）

…みじかいっ！

…GAU様。マロ様。ヒョウガ様。レフェル様。あづま様。感想ありがとうございます！

舞にあっていたのは『僕とちっさい幼馴染と召喚獣』の神埼深紅ちやんです…次回。おお暴れの…よかん？

シゲン…元ねた分かる人。何人居るだろうか…
次回もお楽しみに！

…青少年保護条例反対！

第34問：劉と操。舞と時音（前書き）

こんにちは！…テストをみて『完全に理系です』といわれた蒼です。

ファフナーをみながらの投稿ですが、どうぞ！

第34問：劉と操。舞と時音

s i d e r y u

剛

それは片方の動き方であった。

一見、小さな動きに見せているようだったが、其の拳一つ一つが例えてみるなら『重い鉄球』。

それを相手の顔。腹部。肩などを狙って撃つ。いかに堅い守りだろうが全て打ち砕く拳。背後には守るべき者の姿が見えるようだ。

もう片方は 柔

これももう片方の動きである。

しなやかな脚の動きで、かわすよりも流す事に重点を置き、例えば攻撃を受けたとしても脚のバネで力を受け流して、最低限の力しか食らわないようにしている。

脚さばきだけであれば、サッカー選手に勝る動きを見せていた。腕を支点として、飛び蹴りや廻し蹴りを掠る程度ながら、相手の体に疲労や痛みを蓄積することに徹底している。

柔と剛。果たしてどちらが上なのか？

「全くよオ。三年ぶりだ！『拳』と『脚』…どっちが強いかもあわせて戦んぞお！」

そう言つて、右の拳を操の左胸を狙つて出す。

「フハハツ。面白い考えを出しますね。っと、といつても。強いのは脚つて相場が決まっていますよっ！」

それに相打つかのように踵を拳に向かつて打ちつける。

そして、二つの拳と脚がつばぜり合いの要領でぶつかり合う！

「この原因は、俺の集団から反対派が出てきてな！それをここの教頭に逆手に取られたんだ…どけ、劉！俺は奴を許さない」

「テメエの道理で勝手に決めつけんじゃねえ！それがお前の悪いとこなんだよ！」

「知るか！お前なんて『文^{ブン}』が居なくなつてから、おとなしくなつてよ…一人でもアレをまとめられると思つたが、このザマだ！」

おれは、文という言葉をきいて…昔を思い出す。

劉『いいか？お前達の金はどっからきてる？全部、親のもんだろ？
…俺たちのルール。まず一つ目は「両親に感謝」だ！お袋はこんな
最低な俺らに食事を作ってくれる…親父は文句を言いながらも俺た
ちの為に汗水たらして働いている！その髪染めてる奴らも自分で金
稼いだか？』

操『とりあえず、それに賛同できないのは消えてもらって結構。
…この長月付近で暴れでもしたら、俺たちを敵に回しますが。…それ
でも着いてきてくれる方は歓迎します』

文『そう！私たちは身なりだけじゃ決まらないの！世論からは冷た
く見られちゃうかも知れないけど、ただの不良じゃあ無いわ。人に
も自由はある。だから度を過ぎた人をたたく！それが』

「「俺（私）達。『三角地帯』だ！」「」

昔の考えをみて、俺は……

「…なきながら、戦うバカがどこに居るってんだよ」

自分でも気づかないほど……涙していた。

「は？……ホントだわ。ってか、戦う気がうせたわ。もう止めにしねえか？」

「フハハツ。そうですね……それで、今回の黒幕は？」

「まだ見つかってねえが……俺の友人からだ、召喚大会の決勝が終わった後にココの暴力団が来るらしいんだが……アレ？やるか？長月の再び！ってな！」

俺は、昔話をしながら『どろり濃厚ピーチ』を飲んでいる操に今回のいきさつを説明しながら、その参加を促す。……黒いシヨットヘアに右目の辺りを金に染めた髪と黒い学ランに白い蹴球の文字をたなびかせているド派手な操にきくと……

「いいな。でも2人だから台詞、どうするか？」

「何いってやがる。変えるきないだろ。俺たちの思い出なんだからよ」

「でも……死体がでない限りはずっとここで待ちます。彼女の事だから……ういっす！どうしたんだい？そんな驚いた顔しちゃってさ！……なんていうでしょうね」

「クツ……それ傑作だわ。……じゃあ、少ししたらこの2・Fに来てくれ。そのこの厨房にいる銀髪に話し効いてくれや。『関戸の知り合い』っていえやあ話してくれる。ダメだったら……コレを渡せ」

そう言つて、俺は制服のポケットから……Eクラスの女性が写った写真を数枚、操に渡す。

「……コレを渡せば絶対に信用する。あいつのあだ名が『寡黙^{ムツリ}なる性

識者』だからな」

「そうでしたか。劉はこの写真の方が好きでしたか…それでしたら、文が帰ったら俺の恋を応援する。それでいいんだよな？」

「待て…俺は文を譲った覚えも無いし、それに彼女に選んでもらうんだろ？」

そう言って、決勝戦まで他愛も無い話で盛り上がっていた。

なあ文。

もし、どこかで生きてるってなら

とっくと帰ってきて

一 発段らせる。

n o s i d e

「…ぐあつ！」

「おい、何なんだよ！このアマ！！」

「銃弾かわす奴が仲間に居るなんて聞いてねえぞ？」

こちらの人数は三人。目標は病院にいる『佐伯時音』の確保。いたとしても相手は『藤川舞』一人だと三人組は聞いていたが…そこに居たのは、女性ではあったが

「その程度でおわりかいな。せや、…わっちの方からいくえ」

その女性は、すばやく足を動かして三人の中で一番前に出ている獲物に向かって

スタンガンを出力最大で脳天目掛けて放り投げた。

「ぎゃああーldすkgい！」

その相手は、声にならないほどの苦痛と叫びをあげて気絶した。

「す…スタンガンを投げる？」

「ありえねえだろ…こりゃ」

2人が戦意喪失していたが、そこに追い討ちをかけるように

「グホッ！」
腹部を殴り

「あべし！」
首に拾ったスタンガンを押し付けた。

…
「ふう…これでわっちの仕事は終わりやが…時音はん。…かわええなあ」
時音のベッドに座って、静かに頭を撫でながらつぶやいていた。

だが

「早よう草子と戦いたいなさ」

草子との勝負の事しか頭に無い上に、

「ZZZZZZZ…」
寝てしまっていた。護衛主の真横で静かに……

「おっと、…ワイはお邪魔やったか…静かに寝とき。それと、隠者からのお礼やで」
雷太が巡回に来たが、2人の寝ている姿をみて足早に去っていった。
高名からのお礼は…

- ・草子との決闘場所が書かれた紙
- ・草子への連絡先

・高名愛用『睡眠針』：提供by舞

…こんなもん送ってええのやるか？

s
i
d
e

m
a
y

見つけたわ…世界の歪み！

第34問：劉と操。舞と時音（後書き）

…あずま様。GAUさま。マロ様。レフェルさま。ヒヨウガ様。感想ありがとうございます

…一応、学園祭編終了後は深紅と草子の決闘&ヒヨウガ様の『バカと発明と召喚獣』とのコラボ掲載後に強化合宿に入りたいと思っています

深紅：少ししか出番が（滝汗）

今回は舞と高名が暴れます。その次にようやく決勝戦です

次回もお楽しみに!!!

f a f n e r

…誰だ！甲洋死ぬとか翔子の墓汚したのは！

第35問…つづつ…ヒヤッハー！（前書き）

こんばんは。タイトルはお気になさらずご覧下さい。

舞の召喚獣の腕輪が明らか！？そして高名の情報操作とは？

…少々、過激な表現が含まれますのでご注意を

……こんな、こんな小説で大丈夫か？

第35問…じゅじゅ…ヒヤッハー！

side may

…まさか、こんな所に居たとわね。

そう、心の中でつぶやいた舞が見た場所は 体育倉庫。まさに悪役キャラが居るにはピッタリの上に、中には男性が数人しか居ない。

しかも、ここは『文月学園』の中…召喚獣を使役できる場所であった。

そんな事も知らずに男性諸君は

「はははっ！あの藤川って奴、俺たちが簡単なこと言っただけでびくついてやがんだ！」

「ああ。シスコンにも程があるってんだよ！」

「本当にな…植物状態の女なんてやりたい放題じゃねえか！！」

「おい、中学生に手を出す趣味なんてあんのかよ！『試験召喚』あ？」

…聞くに堪えないわね。この人たちは…

そうだ

『Fクラス 藤川舞

「な、何だテメエは？」

「あらあら。入っていきなりテメエなんて…そう言いたいのはこつちよ！時音に手を出そうとして！！…あなた方は、『心を失う覚悟』がある？」

「ギャハハハツ！誰かと思えば藤川舞さんじゃねえか…おう、今話してたとこだぜ？お前がただのシスコンだつてよ！」

「シスコンで結構よ！あんたら、肉親が病気でなんとも思わないわけ？すっかりと血のつながった家族は時音一人なのよ！…絶対に離さないって決めたんだから、貴方達みたいな外道に渡さない！『切断』」

相手のチンピラが言った言葉で、舞が完全にキレた？…最後に腕輪を発動していたが、実際は何も起こらない。

そして、白衣の懐からメスを取り出して…召喚獣が相手目掛けて飛んでいく

「バカかお前は？そんなホログラムじゃあ（スパツ）…は？」

舞の行動を見て可笑しく笑うチンピラだが…一瞬、何か切れた音がした後…

ソイツの右腕の肘から先が切れていた。

「ウワアアアア！！俺の、俺の腕がアツアアアあ！！！！」
痛みではなく、恐怖と焦りにより悲鳴をあげる。そんな中で舞はい
たって冷静な振る舞いで

「大丈夫。その腕、直してあげるから……私がね。キャハハハハ
ハハハ！！」
狂った笑いを挙げていた。

「さあ……次は誰が何所を切り裂かれない？キャハハツ！誰もいない
？だめよ。ここからは出られないし、時間はたっぷりあるんだから
さあ！！アツハツハツハ！！」

十人中二十人が『狂っている』といいそうな位、舞は壊れていたが…

（ああ、もう！こんな演技するのって大変なのよ？それに私の腕輪は本当に切断力を上げて、人の体だって切断できるけど、それは『幻覚剤』を使ってそう見せてるだけよ？…）

ちいさく頬に付着した（本当はしていないが、演技で）血を小さく人差し指につけて舐める。

「…ひ、ヒイツ。来るな！こつちに来るな！！！」

「あら、いい味するじゃないの…今度は、何所の血が出てくるのかしら？…フフツ、ハハハツ！！！」

アホらしかった。これが終わってからの私は本当にどうかしたとおもえるくらいに、ふざけていた。

「じゃあさ…消えてくれない？ちゃんと腕なら一晩休んで、静かにぐっすり寝ていたら生えるかもしれないからさっ！ちゃんと消毒しないと、キノコとか生えるかもね…面白っ！！！」

「あ、兄貴！逃げましょう」

「俺の…俺の腕が……うわああああ！！！」

「は、早く病院に連れて行け！！！」

「こんな所居られない！依頼を受けた俺たちがバカだったんだ！！！」

そう、戯言を言い残して去っていた…

「腕がある状態で『兄貴の腕が無いんだ！』なんて……アハハハ。笑えますね… p111」

『はい、藤川です』

『……喫茶店が忙しい。手伝ってもらいたい』

『せめて名前くらい名乗りなさいよ？今行くから』

s i d e t a k a n a

「さあシゲン。調子はどうですか？」
そうやって僕は、パソコン内の片隅に立っているシゲンに話し掛ける。

シゲンは召喚獣であると同時にデータなので、こつやってパソコン内での行動もできるのです。彼の役割は外部からデータを引きずり出そうとするスパイウェアの消去を頼んでいます。

僕は……

「三年ぶりですね。……『星の詠み手』。始動」

【星の詠み手 始動します。承認キーは？】

「『管理者権限によって解除。限界量までの操作。及びセキュリティプログラムの作成。自動防衛システムの修繕、及び改良』：設定時間五分。コード『Future・・・』開始！」

その言葉を皮切りに、パソコン画面が黒くなり白い文字が大量に流れていく。

「ここが弱い分、そこに強さが：シゲン！現在の状況は？」

「なんですぞ？こちらは、六割方終わっています：あとすこしかかりますぞ〜」

「そうですか：それが終わり次第、中枢部のデータを書き換えてください！データは途中で拾って」

『召喚獣の扱いが酷い「シゲン？」わ、わかりましたぞ！』

「……………セキュリティプログラムの作成及びロック完了。続いて自動防衛システムの修繕にかかる。……………こちらに対して攻撃を仕掛ける相手を発見。しかしこちらに対して被害なし。無視したまま作業再開」

……………相手陣地……………

「何ですかっ！私は過去に『星の詠み手』を制御させた……クソッ！何所まで凄腕なんですか！！」

s i d e t a k a n a

「……自動防衛システムの修繕及び改良。50%終了……先ほどから続いている攻撃、問題なし。自立化同型召喚獣No.042。そちらの調子は」

『ですから、私はシゲ「No.042。調子は？」……問題ないですよ。もう少しで中枢部にたどり着くのです』

「……了解した。僕はデータのスキヤンと修復を急ぎますので……終了次第、こちらに戻ってきて下さい」

高名はまるで機械になったかのように、冷静で……心が無く。本当に機械みたいになった状態で作業をしていた。本来、愛称の『シゲン』で呼ぶはずを『No.042』と呼ぶ。

「……完了。そしてデータの改ざんも終了……お疲れ様でした、シゲン」

『……また番号でよんだのですぞ』

「それはすみませんでした。僕も大変なのですよ」

そういつた高名は、先ほどまでの冷酷な顔ではなくて、仲間などに
見せる優しい笑顔で答えたのであった。

「……私が追いつかない？…まさか、このソフトを製作した」

「さっ、シゲン。次の強化合宿まで暇が出来ましたが、どうします
か？」

『…家でじっくりと考えましょうぞ…！』

「それもそうですね。ここにいると老婆に見つかる可能性もありま
すし」

s i d e r y u

「おい！主人公の出番が無いぞ！！」

今回のお前の出番、ねーから！

第35問…つずつず…ヒヤッハー！（後書き）

…感想っ！

あづま様、GAU様。マロ様、レフェル様。ヒョウガ様…感想あり
がとつございます

舞が…なんだろ、とつてもキャラかぶりしてる気がしてきた…

舞「大丈夫よ。今回は時音がらみだったからやっただけだし、もう
しないはずよ」

よ、良かった（安心

高名「…少々、体に倦怠感と疲労感が出ていますね。しかし、どう
してそのような？」

高名の能力？

『思考連環』Ver.2.46

高名の能力…といっても、常時開放型。父親と離れた後の数年間廃
人並みの生活を送っていたら、身についた。普段の生活では特に何
も起きないがパソコンの状態・環境・CPUやメモリを見て「次に
どのようなことをすればいいのか」が手にとるように分かる。しか
もキーボードを打つ速度が、人間の反射速度を大きく超えるが…
高名は気づかずして筋力を失っている他、脳や体型に影響もでる。
死ぬことはないが、後十数年で『人』として壊れる。対処法は今の

所は無い。しかも高名は何も気づかない。唯一の手口は『心の傷を癒す』…それくらいである。

…高名の心は壊れないですむのか？
そして決勝の行方は！？

次回もお楽しみに

第36問：決勝戦！…前編？（前書き）

ようやくだ…待ちわびたぞ！決勝戦！

第36問：決勝戦！…前編？

s i d e r y u

俺は操との話を切り上げて、決勝戦の会場に向かっていた…

これが終われば、あのチンピラ紛いが動き出す…その前に、あの凶悪的な点数を誇る村野姉妹をどうするかなんだよな。風子は数撃つてくる可能性もあるし、単独でいいものを出す場合もある。色んな意味でどう攻めてくるか分からないし、3000点消費の殲滅兵器なんて呼ばれたらお終いだ。

草子は、とにかく点数が半端ではないから正攻法はアウト。こっちは俺が抑えるしかないか…武器は鉞だったか？攻撃範囲を見極めれば、シエルブリットで防げる。まあ、腕輪であるアルター化するとどうしても体が合わないから使わずに戦うってのが第一目標だな。明久の腕輪…完成はしたんだけど、この戦いにはむかない。むしろこの後に控える祭りで使いたいんだ。

やっぱり明久を風子に当たらせて、俺が草子に当たったほうが…「劉？」でも、明久が負ければ絶望的…「劉！」うわっ！明久だったか。

「どうしたんだよ。いきなり大声出して」

「いや、ずっと劉が考え事していたからでしょ！」

「まっ、正攻法じゃ勝てない姉妹だからな。ちよっと作戦を……俺だつて頭は使う。あの脳筋雄二よりはいい作戦を考えられる。」

「へえ。で、どんな作戦なの」

明久が疑問めいた眼で俺をむいて尋ねる。そうして俺は

「俺は草子。明久は風子にあたる。それだけだ」

「作戦もクソも無いじゃないか！」

だから、各自で作戦を立てる作戦を思いついたんだ……

「それにしても、ずいぶんと客が多いじゃねえか」

俺らが辺りを見回しても、人。人。人？の大群……ここは歩行者天国か？

「やっぱり決勝戦だからかな。姫路さんの父さん、来ていればいいんだけど……」

……そうだな。姫路の転校を阻止するのは、とりあえず成績が優秀な村野姉妹を見れば変わるだろうし……

「関戸君に吉井君。入場が始まるので急いでください」

「おう、今行くぜ」

「分かりました」

俺たちを見つけた係員の先生が急かすように俺たちを誘導する……この司会の声、きいた事ねえな。やっぱり決勝だからプロでも雇ったのか？それなら警備員雇えよ……

『さて皆様。長らくお待たせ致しました！これより試験召喚システムによる召喚大会の決勝戦を行います！』

司会の言葉と同時に揺れる歓声。おうおうおう！テンション上がって来るじゃねえか！！

『出場選手の入場です!』

「さ、入場して下さい」

と、役員の先生にポンと背中をたたかれて入場した。俺は堂々としていたが、明久がおどおどしていやがる………こんなときくらい、堂々とでろよ。

『二年Fクラス所属・関戸劉君と、同じくFクラス所属・吉井明久君です!皆様拍手でお迎えください!』

耳が割れんばかりの歓声。ざっとみても百人は軽く越えているな。

『なんと、最高成績のAクラスを抑えて決勝戦に進んだのは、二年の最下級であるFクラスの生徒コンビです!これはFクラスが最下級という認識を改める必要があるかもしれない!』

(これって、いいアピールになるな)

(だね。姫路さんのお父さんに好印象になるね)

大方はババアの差し金だろうが:受けれる好意は受けておくべきだな。

『そして、対する選手は:二年Fクラス所属・村野風子選手!』

その大歓声を後ろに、紅いマントを羽織って前に上がってきた。

「皆様、私のためにありがとうございますわ。:今回の勝利で花を飾りましょう!」

おいそこ。五月蠅いぞ。

『もう一人は、こちらもFクラス所属・村野草子選手です!』

そっういえば:草子はどうし「いっくよ」!……は?

そう言って草子は

バク転

側転

バク宙でフィールドに乗った

「村野草子！今来たよ！！」
「ワアアアア！！！！」

これまた大歓声。勝負前のデモンストレーションもいいところだ。

それとスカートが見えると思った奴。

今の草子は男子用制服のズボンを着ている。残念だったな…

『こちら最高成績のAクラスを抑え決勝に進んだのは、なんとFクラスの生徒です！しかも彼女達は双子の姉妹と聞きます。これはコンビネーションに期待せざるをえません!!』
この2人にコンビなんてあるなら、俺と高名にも出来ているわボケ。

『それでは、ルールを簡単に説明します。試験召喚獣とは……』

勝負の説明が入るが、俺たち生徒にとっては暗記してもおかしくない事だったから普通に聞き流す。

「決勝戦……だな、明久」

「うん。まさか僕がこんなところまで来れるなんて」

「何いってんだよ。おまえが本気出せばこの程度わけないんだよ」

「劉 私と勝負だよっ！」

「では、私は吉井君のお相手を致しましょうかね」

「おうよっ！…あ、明久。『次元落し』は待ってやれよ？あれ出来ないと戦死に近いしな」

「さすがにそんな事はしないって……」

この、何ていうか、リラックスしながら開始の合図を俺たちは待つ。

『それでは試合に入りましょう！選手の皆さん、どうぞー！』

『試験召喚獣召喚！！試験召喚^{サモン}』

俺たち全体の足元に、キーワードを喋ると幾何学模様の魔方陣が出てきた。

そこから、それぞれの召喚獣が出現して、ディスプレイに点数が出てこれは何だ？

『Fクラス 村野草子 & 村野風子 Fクラス
総合科目 1376点 & 1482点』

『Fクラス 関戸劉 & 吉井明久 Fクラス
総合科目 1294点 & 1024点』

.....あゝあ？

「おい村野姉妹。その点数はどうした？」

「ごめんね、吉井君。回復試験。いつものクセで二教科しか...」

「私もですわ。申し訳ありませんでしたの.....次元落し！...何でもいいから出てくるのです」

草子に風子...お前達は。それに風子は何をトチ狂ったのか誰でもいいから呼び寄せやがった.....出てきたのは。

『何だ雑種。』

我をこのような所へ呼び寄せたのだ？』

続く？

第36問：決勝戦！…前編？（後書き）

……戦闘入っていない？仕方が無い。ちょっとばかり大変なのだから…

マロ様。GAU様。ヒョウガ様。レフェー様。あづま様。キモヲタ様。感想ありがとうございました！

次回こそは…戦闘入りますので宜しくおねがい致します！！

…次回、いつだろ？

第37問：決勝戦後編（前書き）

……『納得いかねえぞ』。。（『ゴルア』とか言う人いるかも……
ではどうぞ！

第37問：決勝戦後編

side r y u

決勝戦。風子の次元落として勝負が始まるかと思えば……

「王……良くぞお戻りに。私はこの文月を収める村野風子と申しますわ……失礼ではありますが、もうさせていただきますこと」

『ほう……風子と言うのか。宜しい、我が許す。申せ』

いきなり何をやってやがんだ？風子とあの……慢心王が喋ってやがる。それにしても……あんな召喚でギル呼ぶって、どんだけ大物なんだよ風子は。それに、普通の喋り方できるんだな。

「……………」
明久なんて思考回路が焼かれているぞ？

「はっ。ありがたき幸せです……今回は、化学とオカルトの混同した召喚獣……今の王の姿みたいなものなので戦う大会にでていますわ……聖杯戦争に似ているでしょう。その頂上を決める戦いなのですわ」

『ほう。で、風子は我に戦えと？』

「恐れながらですしかし……「ちょっと待てよ！」……劉。邪魔しないでくれませんか？」

今なら、草子と2対1に引き込めるかも知れねえ……相手があの英雄王なら……

「ギルガメツシユ。これから2対2の試合なんだがよ…お前の強さを出した点数、見るよ」

『サーヴァント ギルガメツシユ

総合科目

測定不能

』

「測定不能!？」

お、明久も戻ってきた。それに観客は一部は歓声で生徒たちは啞然として嫌がる。

「…おもしれエじゃねえか!!!」

もう関係ねえ!この点数を見たら戦わずにはいられない!

「明久、アイツの攻撃。一撃でも食らったら死ぬが、アイツ自身が使いこなせるわけじゃない。とりあえず逃げまくれ…もしかしたら、風子のほうになにか出るかもしれない」(ボソツ)

「了解。草子さんをよろしくね」

こうして、試合の火蓋が切って落とされた!

「行くぞお！草子」

まず、体を動かしたのは俺だった。

草子の武器は鉞。形状が円形になっていて鎌に近い状態だから、首をかつきつて一撃必殺の戦い方と見た！

「そらあ！」

まずはアルターと化している右腕を草子の肩目掛けて振るった。

「あまいよ！劉っ！」

キーンと金属音が響く。鎌の根本を使つて攻撃を防いでいた。

「そう来るなら…数で勝負だ！」

左腕もアルターと化して攻撃する。やはり生身で鎌を殴っても二つに切られるだけだ。

劉の両腕から成す連撃を

「甘いよっ！はあっ！…！」

鉞を華麗に扱いながら、右。左と避けていく。

「どうしたの？攻撃が単調だよ？」

「うるせえ！そんな挑発にはのらねえよっ！そらそらあ」

単調に見せかけて、確実に締める。それが俺のやり方なんだが……

「単調だか何だか知らないけど、難しい事なんていわないの！楽しければそれでいいっ！…！」

草子に対しては使えなさそうだ。

大きな金属音が鳴り響く中で、ついに草子が動いた。

「いくよ？」

鎌を地面に突き刺し、それを土台にして飛び上がる。

「それえ！」

空中からの飛び蹴り。…結構ダメージあるな。

『Fクラス 関戸劉』

総合科目 1021点』

『Fクラス 村野草子』

総合科目 1087点』

腕輪も… 『教科の中の二科目が400点を超えていれば使えるように今回はなっている。ババアが特殊能力について自慢でもしたいのだらう』と考えていると……

『おのれおのれおのれおのれおのれえ！』

「うわぁ！死ぬって、なんでカラドボルグとかグラムとか飛んでくるの？」

どうやら、UBWルートの再来が起きているようだ。あのシーンは結構良かった…両者ともに今はダメージが無いが。

そのとき、劉は気づくべきだった。

風子の点数。…次元召喚の点数を差し引いた

543点から

249点になつてゐるのを。

s i d e f u k o

『開け。王の財産』
ゲイトオブパピロン

王が宝具の真名開放をすると、背後から召喚獣サイズにあわせた宝具が現れてくる。

……完全に規格外ですわね。

この圧倒的な力。宝具。まさに王ですわ！

「わあっ！これ死ぬって！」

『フハハハハ！踊れ雑種！』

…しかも、こちらからの強制操作を受け付けません。それに合うだけの働きはしていますがね。

それと、そのマント。いただけませんか？

剣。剣。剣。槍。剣の嵐

しかし、ギルガメッシュはただ宝具を無尽蔵に放出しているだけだった。

開始前のやり取りで、冷静さを得た明久はかわす事が出来たが本音は（死ぬ死ぬ死ぬう！劉の話していた宝具とかだと、今までの英雄の武器の原型が飛んでくるなんてえ！これ当たったら絶対に死ぬからね？）

自らの保身だった。

『Fクラス 村野風子

総合科目 140点 』

『ええい！王が失せろといってるのだ！喜んで自害するのが礼儀だろっ！！』

「そんなことしてたまるかあ！」

剣を木刀を使って避けることなく、ただただかわすだけ。

これって何所の避けものゲー？

と考えながら明久は避けていた…

『おのれおのれおのれおのれおのれえ！』
「うわあ！死ぬって、なんでカラドボルグとかグラムとか飛んでくるの？」

な、何なのですか？王が戦闘に入っただけでここまで体が重くなるなんてっ…

『よろこべ雑種。貴様は我が宝具によって倒してやるっ』

「…その程度で倒せると思ってるの？慢心しすぎじゃない？」
吉井さん。あの台詞を言わせたいとお思いでしょうが、『慢心せずして何が王だ！いけ！』そう簡単に…：…：…：…：…？

『起きろエア。貴様程度には勿体無いが、一瞬で蹴散らしてやる』
後ろの宝庫から、螺旋状の禍禍しい剣を手にもった

「王！これ以上は私が持ちません！」

…いまなら時臣氏の気持ちがかかりますわね。ここまで王が無尽蔵に…

風子が気づいていれば…

『Fクラス 村野風子

総合科目 87点 』

『ふん！エヌマ…』

「これ以上したら、貴方はここには…」

「え？何あれ！？怖いんだけど！？！？」
吉井さんが慌てふためいている。まあアレは召喚獣の規模でもここ
辺いっただいを灰に出来ますもの。

『エリ……………』

？何故、王が消えたのですか？いっただい…

「おい、気づいていなかったのか？モニター見ろよ」

『Fクラス 村野風子

総合科目 0点 』

…そうだったのですか。道理で体が重い上に、時間稼ぎをしていた
のです事…………

「いいですね。私の負けですの…とりあえず。彼らの試合は邪魔す
るものではありませんこと」

「まあね。この戦いは邪魔しちやいけないよ」

そして、私と吉井さんは劉と草子の試合を静観しますわ。

…頑張るんですの。草！

観客はこの戦いに見とれていただろう。
拳で鉦に対抗している姿をみて。

鉦を体の一部とを考えて動く女性を見て

そのぶつかり合いを固唾を飲んで見守る観客。

「おいおい……がんばりすぎ、だろ……」

「りゅーくん、こそ……私は女の子、なんだよ？」

2人とも肩で息をしている。

召喚獣を使役するのにも、体力を使うためか。

「草子。運動能力抜群のお前に言われたくねえよ」

「劉こそ ケンカのセンスは誰にも負けていないね」

お前が言うか。中林だったか？テニス部のエースに勝てるとかおかしいだろ……超が着くほどのインドアなのにさあ。

「まっ。そろそろ決めようや。観客や明久達も待つてることだし」

「そうだね、点数も一撃で倒せるくらいだし」

観客が静寂に包まれる中、

劉と草子はお互いに構えを取る。

「優勝は貰ったが……この勝負も貰ってくぜ？」

「確かに私たちの負けかな？でも……悔いは残したくない！」

□ Fクラス 関戸劉 VS 村野草子 Fクラス
総合科目 14点 VS 12点
□

2人が一斉に舞台中央に飛ぶ！

「はあっ！」

草子の召喚獣が鉈を横に大きく薙ぐ。

「残念だが…外れた。」

しかし、そこにあっただのは

火があつたかのような足元。

「!?!まさか…え？」

草子が慌てていたが、…これじゃあ拳はとどかねえ。

「操お!!技借りんぜ!『旋風脚』!」

俺は、腕を土台にして体を回転させる。

それを軸に草子の足元目掛けてけりを入れる。

一瞬にしての攻防。そして背後からの煙幕…たしか決着がすぐに分らないように言ってたっけな？

そこに立っていたのは

劉
だ
っ
た。

第37問：決勝戦後編（後書き）

終わった…

マロ様。GAU様。レフェル様。ヒョウガ様。あづま様。キモヲタ様。感想ありがとうございます！

でも、本当の戦いはこれからだ！

次回！執行委員本格始動！

「……連行」

「私の…私の本があああ！」

「舞いなさい『氷乱』」

「…時音に手を出そうとした罪。其の身に味わいなさい！」

第38問：教育的指導！（前書き）

…こんばんは。

少々あくどいやり方ですがきこしないでみてください！

ではじゃい

第38問：教育的指導！

s i d e r y u

勝敗が決した。俺たちが勝ったんだ……

歓声上がる前に、モニターの画像が正門前に着いているカメラが作動して、其の場面を映した。

『これが召喚獣か。面白えな』

『確かに。物に触れるから、妨害にはうってつけだぜ』

『この教頭に感謝しなくちゃな。あんな簡単なテストでここまで
の力なんだ』

『 暴力団 数十人

総合科目 4783点 』

彼らは、まっすぐに校舎に向かって進んでいた

その点数と行動を見て、パニックになりそうだったが…マイクを持っていた司会者から、とある人物がマイクを貰って、観客に事情を説明する。

「皆さん、落ち着いてください。これは

プログラムの一部である、召喚獣による防衛システムの実験公開です。

「皆様、私は二年Dクラスの橘桜花と申します。実はあの暴力団みたいな方の皆さんには、今回の実験に協力してくれた地域の方です。中にはこのために髪を染めてくれた方までいらっしゃいます」

橘が、慌てそうな観客をまとめて、事情を説明している。本当は暴力団なんだけどな。

「ただ、ここまではOKなんだが…問題は、召喚システムが『あのテスト』をどう受け止めるかが問題なんだけど、

「この実験に協力してくださる生徒をご紹介します」

…橘、カリスマ性あるな。ここまでお前の話を聞いて静かになる観客を誰が予想したか。

「まずは、この決勝戦に参加した四人と一緒に戦います」

それを聞いたとたんに大歓声が巻き起こる。確かにここまでの勝負をして、その4人がもう一度戦うなんていわれたら、面白いに決まっている。さらには俺たちが協力する。最高の四人が戦うと外部の客は思ってるだろ…生徒は明久以外だろうと思うがそれは、言わないでおこう。

「みんな〜！頑張るよ！」

「…ようやく。私の実力、発揮できますわね！」

草子は、作戦をきいていなかったがテンションMAXで乗ってくれている。風子は、……あの古代メソポタミア王を呼び寄せて時点で最高の結果だろ…！

「続きましては、Fクラスからの参加で『呪いの朱薬、味わいます？』の藤川舞さん！Aクラスから『悪人は即刻狙い打つ』。塚原中君！そしてCクラス所属の『本をまもる。ただそれだけ』ずいぶんと低姿勢な神崎ゆうさんです！」

橘の説明とともに、彼女達の召喚獣が姿をあらわした。

塚原？それってロックオンそのままだろ！そんな召喚獣認められるのか！？

神崎は白いドレスをまもって右手に弓の弦を持っている…左利きか？

最後は……

「そして、校外よりの募集参加となった『余裕でハット』が座右の銘、来栖 失礼しました。豊岡 操さんです！」

ちよっと待て、途中で何だか某木村さんの映画キャラの名前が…

「豊岡操です。今回はこのようなイベントに参加させていただきました光栄に思います…試験^{サモン}召喚！」

豊岡の足元から、俺たちの幾何学模様とは違った魔法陣が出現して、召喚された。アイツの召喚獣は、青い手甲と機械的な足をしていて、背中に『俺を誰だと思っている？』：カミナ自重しろ。まっ、俺よりは勉強できていなかったし、もって千点が限界だと思っていた俺は何なんだ！

『研修生 豊岡操

総合科目 3026点』

研究生扱いか。なる

「なんでそこまで点数が高いんだよ？」

「言ったじゃねえか。真面目に学校で勉強しているからな。……もしかすると、ここに編入するかも知れないからな…英語と国語二教科は400点超えていたっていつてたしな」

「…おいおい。俺より平均は取れてるんじゃないか？」

「黙ってる」

「こつちの台詞だコラ」

両者譲らずのメンチのきりあい。そして…

「まず最初に、豊岡さんと神崎さん。お願いいたします」
最初に向かったのは操と神崎…漢字が違うおかげで、他作品から文句が来なくて助かったわ。

『研修生 豊岡操 & 神崎ゆう Cクラス

総合科目 3026点 & 2017点

』

どうやら神崎はCクラスでならトップクラスだそうだ。

「いいえ。英語が500点近くあるだけで、後は平均近くです」
心を読むんじゃないか？

「いきます、分身！」

神崎が腕輪のキーワードを発した瞬間、召喚獣が五体に増えた。

「私の分身…全てが本物です。全て倒せる前に終わらない事を祈ります……斉射！」

召喚獣の弓が一斉に一人の召喚獣を撃ちぬく。点数差があっても、この無意識かにおける操作になれていなかった暴力団の召喚獣は頭と腕と足をキレイに打ちぬかれて戦死した。

「そんな能力あるんだ。…俺も使ってみるかな？」

そういつて、操が腕輪を発動。……まで。足にロケットエンジンつてやり過ぎだろ。召喚者は操がぶっ飛ばしてるし、召喚獣も倒されていく。

「たのしいなあ！楽しいよなあ！劉う！」

…コイツは戦闘に入ると、完全にバトルマニアの連中と同じになる。ケンカとかは平気だけど、戦闘になったら、ダメだ。それに今回は…

「俺も参加してくる」

文へのメッセージもあるんだよ！

正門付近

俺と操が2人で立って、言葉を発する。…ねらいは暴力団にきまつてるだろ

劉「ねじれた道と前への道が…」

操「1つに交わりまっすぐ直す！」

劉・操「燃える太陽、凍える月が」

劉「めぐって廻れば全てを直す！」

操「ただの一人守れないのが」

劉「悪ぶって」
操「迷惑かけてるんじゃない！」

「…蒼穹の拳聖・関戸劉」

「翡翠の蹴覇、豊岡操」

「出るっ！」

俺と操。文にはエビ ラーとサワ ラーとかいわれたり（ズドン！）
しているんだ（ズドン）がそれはあまり（次元落とし！大量破壊兵
器・パイルドライバー！）気に入ってないんだけどな（切断…）ま
てまで！（無想）俺たちの出番が！！！！

『Fクラス 村野草子&吉井明久&村野風子&関戸劉

総合科目 4542点 & 1346点&3478点 &204
7点 』

おお。良かった俺の考えがあっていたか。

何故、点数が回復しているか？決勝戦の前に、俺たち4人は回復試
験を受けていたんだ。まあ、『採点が終わったのは勝負が終わった』
後…この得点は、大会が終わってから上書きされたんだ。結構な反
則技だけだな。

『執行委員 塚原中&神崎ゆう&藤川舞

総合科目 3647点& 1517点&3046点 』

「……狙い撃ち」

「いくらでも直すわよ？アハハハハハ！」

中はてにもつロングバレルの銃を肩に乗せて、舞はメスを五本ほど…血の着いたメスを舐めていて笑っている……あれ？本当に舞か？

「ふんっ！思い知ったかー！」

相手も残す所あと三人だが……五帝の皆様方が八割倒しておりませんでしたか？

「明久。腕輪使え」

「えーっと……それって、この戦場に入れと」

「当然だ。何のためのアナウンスだ」

慌てている明久に俺は参加を促す。

「わかったよ。え〜っと代理融合？^{フュージョン}…わあっ！劉の召喚獣がっ」

明久がワードを口にした瞬間、劉の召喚獣が明久の召喚獣と融合する。

顔は明久だが、右目の上から十字の傷が出来ていて、髪は青く体は灰色のプラグスーツに包まれる……これは雷太の影響だな。

『男なら、ドモ や 壁一騎にあこがれるもんや！』

あとでシバこう。

でも…この姿なら

『Fクラス 吉井明久with関戸劉

総合科目 (1346+2047) × 2

』

ドンだけチートな腕輪作ってんだ俺たちは。でも、なんだろな…体がおめえ。

「明久。ドモ ならさ、やる事は1つだろ？」

「そうだね。出だしお願い」

明久もこれは賛成だろ。……………

劉「流派！東方不敗の名にかけてええ！」

明久「僕のこの手が輝き燃えるううー！！」

劉「この地を守れと」

明久「轟き叫ぶう!!」

劉・明久「ばああああく熱ううう!!」

劉「ゴッド……………」

明久「フィンガー!!!!!!!!!!!!!!」

それは、召喚獣を吹き飛ばすにはもってこいの衝撃波になっていた。

劉「蒼穹!」

明久・劉「爆熱波!」

最後は、蒼穹拳法でシメる。まあこれで操の出番は無くなった（パリン!）…やっぱりか

「明久。その腕輪壊れた、すまねえな…完成品は今の俺じゃ作れねえ」

「いいよ。気分もすっきりしたし」

悪党は、召喚獣を使っていたから

「戦死者は補習……!」

「なんだこいつ!強すぎだろ!」

「教育的指導!」

……補習室送りになっていた。まあ相手が鉄人だ、これなら安心だろう。

そして、Fクラスの面々（後から合流した雄二や秀吉含む）でババアのところへ向かった。

召喚大会会場にて

「……以上です!皆さんどうでしたか?」

吹き荒れんばかりの歓声と拍手。そして桜花は心の中でこつこつぶやいた

(……私も暴れたかった!……なんでゆうなのよ!……私の方が点数高いでしょ?)

野心丸出しでした

第38問：教育的指導！（後書き）

…どうしてこうなった

マロ様、ヒヨウガ様、レフェル様、GAU様、あづま様、キモヲタ様。感想ありがとうございます！

ついでに強化合宿の予告を

「…俺は雄二にも手をかさねえし、女子の味方もするつもりはねえ」

「僕もです。…やりたければ勝手にやってくてくださいよ」

「ああそっかい。…劉だけでも助かったんだけどよ！」

「…私が手伝いますわ！臣下を助けるのも王の努め！」

「わたしも、風ねえとなら面白そうだし！」

「……高名？……どこですか？」

「殺されます絶対に出たくありません」

「ほら高名。彼女がお待ちだぞ？」

「……橘、……覚悟」

「中くん、ここはおさないよ？それに……正面からAクラスと戦えるんだから！」

「本を読んでいる途中に邪魔です。とっとと消えてください」

「……あいつらっ……！」

「今回ばかりは……女子には納得が行きませんね」

「どうやら僕は、サヴァン症候群のようですが…精神病も併せて持っているようです」

「…何だよ。何だよそれえ!！」

…（笑）。

絶対に三巻も長くなるな
次回もお楽しみに!

キャラ紹介Ver.2

関戸劉 CV:保志総一郎

名前の由来は『赤兎馬』『劉備玄德』

文月学園二年Fクラス所属。蒼髪藍眼と眼鏡な姿がお似合いの細マツチヨ。一日最低10時間は寝ないと正常に機能しない体質で、正常にする場合にはメロンパン5個を必要とする…

清涼祭編で、『三角地帯』というグループに所属していた事が判明。初期設定では、ケンカはあまりしないが口論はいつもの事で行っていた…

影が薄いけど、正式な主人公は五帝である。劉もちろんその一人。「花鳥風月:花開き、鳥が舞う。風が強き、月の意志で…この生涯。すでに捨てたも同然!蒼穹拳法・初で終いの継承者!関戸劉。参る!」

身長176.1?。体重68kgで、家族構成は両親との三人暮らしだが、雄二の母親と似たような人であるために、誰も会ったことが無い。

特技:蒼穹拳法

劉が中学生の頃に、文と操で近くの倉庫に保管されていた文書の中の1つに記されていた。他の二つはそれぞれ文と操が持つ。

この蒼穹拳法には、『更生』の意味が添えられている。劉たちがチンピラたちを更生させるのにはこの本が理由だった。操の本は『循環』。文の本は『破壊と再生』の意味が込められている。

狂化のスキルもあつたが、今は自分達を大事にしたいと思つているため枷をかけている。これも本を見て覚えたものである。

小田高名　CV：神谷浩史

文月学園二年Fクラス　NASA宇宙開発チーム　Fクラスへ？。

『警視庁　特別捜査官及び文月地区市民協力者』所属

金髪で青い目なだけあつて、初見の人は外人に間違えられがちだという。身長169.8?・体重59kg。握力20kgと貧弱さを物語っている痩せ型。カレーパンが好物で隣町である皆野崎によると必ず買うほどであるが、メロンパンには納得がいつてないご様子。

『文月学園召喚獣開発チーム』の18歳以下をまとめる役であつた。そのために母親の召喚獣の腕輪を自分の召喚獣に移植するという大変チートな行動を起こした。

どうしてこうなったのかは知らないが『バカと雲雀と召喚獣』の来島アキさんと恋愛関係になつてしまった。これは作者も予想外…しかし、初期設定ではロリコンも考えられたが今はその痕跡もない

『星の詠み手』

高名の作成した、対ウイルス用の防衛ソフト。初心者から玄人向けまで数種類販売しているが、本人が独自で販売しているために、販売数は日本で十万本限定となつているが完売した。

『たかな ねつと』

高名が、世の中にある裏情報や学園内での動きなどを召喚獣や監視カメラを通じて公開している会員制のパソコン。定価21万〜100万。最近は、インストール製のソフトも学園内でひそかに取引されていて、現在の所持者は先生方と雷太が持っている。

高名は、プログラムにわざとバグをつけたり、常人には到底追いつけない情報処理能力を備えているが、それは全て『サヴァン症候群』の一部だとされているが、高名本人は気づいていない上に精神病の一環を患っており、少しずつ心を失っている…高名父もそうだったらしい。高名父の悠久が完全に心を壊したのは、28歳…高名が小学2年の頃。

村野草子 CV：松岡由貴

文月学園二年Fクラス所属

黄緑の肩まで来るロングに最後をカールで巻いている。目の色は黄色…

身長167.4?。体重は何だか知らないけど修正液がぶちまけられていた為不明。

電波系。それに限りなく近い心が少女思考の双子妹。ゲームや漫画、アニメや公園で遊ぶのを最良としている。勉強面では、テストだと二教科しか受けないで残りをポイコットしていたから本来なら学年主席のものをFクラスに所属している。化学は明久と同レベル

本質は子供に近いが、仲間を傷つけられる事を誰よりも嫌う。お遊びなら許せるが、高名親子のことを目の当たりにしてからはそれよりもいっそう出てきた。

初期設定だと、活発にはなっているけど子供らしさが見当たらなかった

特殊な能力は無いが、超インドアにも関わらずスポーツも万能。その実力はテニス部のエース・中林を打ち負かすほどである。ゲーム一本でよく部活の助っ人に言ったりするから、愛子やEクラスとは仲がいい。

風子とは一卵性双生児だが、似ているのは髪形くらいである。

村野風子 CV：田中敦子

文月学園二年Fクラス所属

外見は全く同じだが、見分けるには目の色が緑色であることを確認するか、性格の違いを見るべきだ。

身長167.4cm。体重は次元落とによってどこかに消え去った。

自分が女王と認識していて統率力やカリスマ性に富まれるが、そのため自己中心的になりがちで多分Fクラスが最良のクラスだといえる。草子とのコンビ名は『文月悪逆非道コンビ』とされている。これは学園側に『ゲーセン』だの『女王の間』を立てようとして、鉄人と戦っていたためについた。

初期設定では、康太と草子を足して2で割った感じだった

特殊能力は無いが、カリスマ性がとても高いのと人を使う事に優れ

ている。

むしろ特殊なのは召喚獣のほうにある。高名や学園長でも不思議と感じたくらい特異な召喚獣である。

高名との事件以来、『自分がまとめないと』とおもってこのような性格をしている。たぶん素になると、草子みたいになると思う。

藤川舞 CV：雪野五月

文月学園二年Fクラス所属

黒い肩甲骨下まである長い髪に、全く持ってそれに合わない白衣を着ている

医師免許『外科』・薬剤師免許を取得している。取得先は福間病院のコネで取得したらしいが、詳細は不明。

薬を作っているのは妹である時音を植物状態から救うため。両親と妹で生活している。

本人も自覚しているが、重度のシスコンである。しかし自覚している分、区切りがいい。白衣の中には薬やメスが入っている。今は弟子みたいな住み込みの安生と日々新薬開発をしている。

…まあ彼女はこれからだ。

執行委員

神崎ゆう CV：松本まりか

文月学園二年Cクラス所属

背は康太に近くて青い髪のパニーテール。劉とは長さが違う…ゆうは腰下あたりまで伸びています。

執行委員唯一の常識人で良心。主に突っ込み役である。

協会に捨て子としておかれていたが、そこで神崎家に引き取られた。ゆうは英語を喋っていたため、アメリカ人の子孫だと思われる

女性としての場所が引っ込んでいるために、美波とはひそかに同盟を組んでいるらしい。

さらには、今の両親が通訳をしているための英語だけは400点を優々超えるが、他は平均程度である。

…読書の鬼でもある。邪魔されるとその人に敵意を剥き出しにする。

塚原中 CV：三木眞一郎

文月学園二年Aクラス所属

両親がアメリカやドイツなどで射撃兵だったために、自分もエアガンなどを常時所持している。

家に射撃場があるくらい銃が好きだが、過激なのは好まない…と言
うのは建前だけ

ちなみに両親は海外でスナイパーをやっている

とても静かで、うるさくても怒る。久保とは名前を呼ぶくらい仲が
いい

黒い目の下くらいまである髪が特徴。背は小さい部類だが、「……
誰かにはれにくい」と気に入ってる模様。

勉強においては、久保の理系と文系が逆になった感じで、得意科目

は物理と英語とドイツ語？
眼帯をつけると余計に命中率が上がる。これは『成層圏を狙い打つ男』からきている。

橘桜花 CV：小林沙苗

文月学園二年Dクラス所属
赤い髪に黒い目をしている。背丈は162.7。体重は禁則事項です。

翔子に並ぶ大財閥のお嬢様らしいが座右の銘は『下克上』。される側なのに

Aクラスには十分入れる成績を持っていたが、『下から這い上がってこそ下克上よ！私は勝つ』とか言う。

両親は中国の外交官をやっていて、それが元で三国志を覚える。いまや三国志に関しては作者の代弁ができるキャラである。三国志サ
イコおー！

最近、中と一緒にいろいろ漫才をしているらしい。詳しくは…どこだっけ？

福間雷太 CV：うえだゆうじ

文月学園Aクラス アメリカの医学大学？

黒髪の関西男性。身長182？。体重71kg

関西弁を喋るふつきらばうな男性。いつ学園に戻っているか、アメリカにいいのかも分からない。

現在は、表立った活躍はないが高名の情報を学園長や執行委員に伝

えたりと大忙し。苦勞人です。

最初はすぐ居なくなると思ったけど、舞との関係上残すべきだと判断してこんなキャラになった。

その他！！

大前安生 CV：松来未祐

二重人格を持つ不思議な二十歳。舞の研究所に住み込みで助手をしている。実際彼女は、舞が作った薬を販売しているため、学生の舞でも給与とかには困らない。

最初にでてくるのは活発だが、後に出てくるのはとても冷静である。しかし、舞と雷太の診療だと『いつか精神崩壊を起こしかねない』といわれているため、住み込みという名の観察になっている。

彼女は、時音の隣に入院していたが退院後に職業も家もなくなったところを舞に拾われた。

なぜかメデイサーと呼んでいる。

豊岡操 CV：中村悠一

名前の由来は『曹操』から
グラムム……ではなく黒い髪に右目の辺りだけを金髪にしている。
見た目だけなら青年と判断できる。
劉と同じく『三角地帯』に所属していて、今は抜けた2人を背負つ
てリーダーをやっていたが、吸収した暴力団の一派が、教頭の誘い
に乗ってしまったって今回の事件に関わる事に…文月学園に転入する意
を見せていたが真相は？

『翡翠蹴法』を取得しているが、その真相は後に明かされる……

佐伯時音 CV：仲西環

舞の妹。福間病院の特別病棟で入院扱いになっている。
強盗に入られた際に、ガスと精神的ショックによって現在植物状態
になっているが、舞が二年にあがった際に、腕が軽く反応したため
に回復の兆しは出ている。
どうやらDSらしいが、本人は自覚がない。おもな登場は舞の外伝
などになる予定。

文？ CV：新井里美

名前の由来は『孫堅 文台』から。
劉たちのグループ『三角地帯』元リーダー。飛行機の墜落事故に見
舞われて行方不明に……消息もつかめていない。

果たして彼女の無事やいかに!?

キャラ紹介Ver.2（後書き）

…ふう。これで大まかな事は大丈夫かな？

GAU様。レフェル様。ヒヨウガ様。マロ様。あづま様。キモヲタ様。感想ありがとうございます！

GAU様…高名とアキの会話、ありがとうございます！

…明日は、ファフナー漬けなので更新は無理そうです…
甲洋…

次回もお楽しみに！

第39問・学園長との対話（前書き）

こんばんは。…眠い、ただそれだけです！

今回は学園長との会話です。もう教頭はいないため変な妨害は起きません！

鉄人の地獄マラソンフラグを折ったが後悔はしない！

…ペアチケットの行方は！？

第39問：学園長との対話

side ryu

「…以上が俺たちの活動だ。まあ設備の交換くらいは認めろババア」
俺と雄二、秀吉に康太…明久と協力者として操に来てもらっている。
「まあよくやったさね。これなら、環境整備くらいはしてやるうじやないか」

学園長は顔を顰めはしたが、しっかりと俺たちの反応に答えてくれた。

「それと、操の話なんだけどよ…」
俺は、さっきまでの笑いながらの顔を真面目な雰囲気を出して話をした。

「さっきの点数見たろ？アレならこの学園でもまともにもできるし、おまけに暴力団やチンピラは殆ど手が出せない」

俺が操の転校を学園長に促しているとき
「俺からもお願いしたい。もともとこの教頭に手を貸したのは俺のグループだからな…罪滅ぼしつてのもあるけどさ、結構学力がいい奴を入学させても問題ないだろ？」

操も頼んでみる。しかも学園の最高権力者にタメ口って…少しは身分をわきまえやがれ。

「まあ、いいけど…こっちも用意とかあるから強化合宿は未参加と

なるけど、いいのかい？」

「どうやら納得してくれた様だが、来月の強化合宿には参加できないようだ。まっ、転校の許可が出ただけで操は安堵の表情だったけどな。」

「ありがとうございます。俺は長月高校の豊岡操です…まあよろしくたのんます」

「そうやって一礼したが…どうやら礼をするのがそうとう嫌だったのか、ちよつと顔が歪んでいた。…こいつは、頭を下げるの嫌いだから仕方がないといえばそうだが。」

「それで、明久には同時召喚をやるのは決めてんだけどよ…代理召喚。これは雄二にやつても問題ないだろ？」

「坂本なら問題ないよ。あいつの点数でも暴走しなくなってるようだからね」

「暴走しなくなってる？…どういうことだ？誰がそんな事を…」

「あとは、プレミアムチケットだけど…明久、二枚あるなら俺が一枚貰っていいか？大丈夫だ雄二。俺は霧島にもお前にも渡さない」
「ちよつと渡したいカップルがいるんだよ…」

リア充の高名と彼女さんにな。

「それじゃあ僕は、誰かにでもうるっかな？」

「そうじゃな。明久などとは誰も行きそうにないのじゃ」

「……………行ったら、異端審問会を開く」

「ちよつと待って！…どうしてそこまで僕に対しての扱いが酷いの！？」

「……………明久だから（じゃ）」

お前ら、いい加減にしておけ。明久が涙目だぞ。

「俺が来るいみあったのか？」

そこに、しゃべっていなかった雄二が声をかける。やべえ…すつかり忘れてた。

「ああ、クラスの代表として確認してもらったよ。それなら確かだろ？」

「なるほどな。それなら問題ない（ニヤリ）」

雄二があくどい笑みを浮かべながら俺の問いに答える。これで霧島とのデートを防げるからか？

「とりあえず。もう用はなさそうじゃから、クラスに戻るとしようぞい」

「……………打ち上げ」

「そうだね。僕達も早く合流しよう」

全員、打ち上げに対してのやる気のほうが高いのは気のせいかな？

「じゃあな、…………メロンパン、問題ないな」

「とっとと出ていきな！…………問題ないさね。一月分で良いのかい？」

俺たちは、そのまま打ち上げ会場である公園へと向かった…………

おや？郵便受けにメール便？…学園長からですか。いったい何が……

『如月グランドパーク プレミアムペアチケット』

……僕にどうしろと。

まあ、アキと一緒にでも行きましようかね。

そうになると…予定を合わせなければいけませんね。そうになるとアキに報告と僕の仕事のキャンセル………

ドクン

「え？……何が……」

その音とともに、高名は力なく玄関で倒れてしまった。

第39問：学園長との対話（後書き）

… 後1話だ！それで二巻の内容が終わる！！

最後に倒れた高名。転校してくることになった操。果たしてこれからどうなるのでしょうか？作者もわかりません！

… 次回もお楽しみに

ファフナー… もう一回見に行くけど、いつ行こう… 川崎か池袋だし……

第40問：打ち上げ。そして…（第二巻終了）（前書き）

…やっと終わった（泣）これで閑話とか書ける！！

ではどうぞ

第40問：打ち上げ。そして…（第二巻終了）

「俺を誰だと思っていやがる！！この文月学園二年Fクラス！『蒼穹の拳聖』関戸劉だあ！！！！」

「…風ねえに怒られるから、静かに『ウオオオオオオオ！』ひゃあっ！」

「…なんだろ、昔の私に戻った気がするわ。草？どうしたの？？」

「どうして、Fクラスの面子は酒程度でこんな事になるのかしら？」

「…雄二、今から拳式に行く」

「さて翔子！顔が赤い上にイロイロと順番を間違えて…くぺっ」

「…行く。そして新婚旅行にも」

「明久君って、いい匂いです」

「…アキ、何をしているのかしら？」

「あはは、どうしたんだい美波？これは事故で姫路さんが勝手にその間接はそこまですか曲がらないからあ！」

「…秀吉、何があつた？」

「うむ、いったいどうしたのじゃ？藤川と明久以外はとんでもない事になっておるのじゃ」

くさかのぼる事30分

「おっ、やってるな」

俺たちは、校門前で操と別れて近くにある公園へと向かった。中では大騒ぎの上に…何でオレンジジュースの一気にみでそこまで大騒ぎになるんだよ？

「それは沿うと…雄二、売上のほうはどうだったの？」

明久は少々神妙な顔をしながら雄二に聞いたがその答えは

「ああ、机とまでは行かないが卓袱台と座布団くらいは買えそうだ」
「良かった…とは言え無いが、姫路を転校させない位としては丁度いいだろう。」

「まっ、そんな事気にしちやいけねえ！…おい須川、俺らにもジュースもらえるか？」

そう言っただけは須川にジュースを貰おうとした…おっと、眼鏡を外していたから分からなかったか。

「俺だ、関戸劉だったの」

そういうと須川は驚いたが、とりあえず俺たちにそれぞれ一本貰った。

「じゃあ乾杯「そんなことするか、一気のみ！」り、劉！？そんなことして大丈夫なの！？」

「当たり前だ！男なら何もかもまっすぐにつき…アハハハ！俺を誰だと思っついていやがる！雛見沢の口先の魔術師・Kだ！」

「劉？どうした「Kと呼べ！」…は？」

明久が乾杯の音頭を取ろうとしたが、劉が何も見ないで一気のみを開始。飲み終わった後にいきなり某K1になりかけていた。その姿

に雄二も驚いたという。

「例えばここに『コスプレHビデオ』があつたとする。コスプレと一言に言ってもその裾野は広すぎる。それについて貴様らに講義することは、B-29から落下傘で降りてきたヤンキーどもに大和魂を一から説明するより困難の上極まりない！！」

だからここでは最も普及していると思われる制服系で説明することとする！！

制服系の御三家と言えば何か！！！答えてみる！！そうだな、制服、体操服、スクール水着だろう。なおセーラーかブレザーかの好みの違いは制服にカテゴライズするものとする。勿論、ブルマーかスパッツかの違いも同様！！ スク水も紺か白かの違いはあれどカテゴリーは同じ扱いだ！！！どうだ、これだけでも甘美な響きがあるであらう？！！

ではお前ら3人がこれらの内の一つずつが好みであつたと仮定しよう！！おいノツポ！！お前は制服だ！デブ！お前は体操服、そしてチビはスク水だ！！！頭に思い描け、時間は3秒！！！描けたか？妄想くらい自在に出来る、気合が足りんやり直せツ！！！ではお前らの望む衣装が登場するHビデオがここにあるぞ、あると思え、あると信じる気合を入れる！！返事は押忍かサーイエッサーだ！！！馬鹿者それでも軍人かツ！！！！ よおし描けたようだな次に進むぞ。

それらの萌え衣装が、貴様らの馬鹿げた欲情に従い一糸纏わぬ姿にひん剥かれたと思うがいい、だがおいお前らよく考える！！！！全

部脱いだらもうそりゃコスプレHじゃないぞツ?!?!最近そういう詐欺紛いなAVが増えてるが実に嘆かわしい!!服を全部剥いだらもうそれは文明人ではない、動物だ!!全裸にしか欲情できない貴様らは犬、猿、雉だ!!キビダンゴでももらって鬼ヶ島へでも失せろ!!!ゲットバックヒアー!!!

ちなみに最近の東西雪解けに従いロシア系AVが大量に上陸しているな。そんなことも知らんのか愚か者!!制服系とロシア系を組み合わせたロシア美少女女子高生などという、ゲッター2が抜けて三神合体できないような水と油な組み合わせが出ているようだが、本官は断じて認めたりはしないぞツ!!!制服は日本の文化だ芸術だ!!!毛唐に日本の和の心など分かりはしない!!!貴様ら聞いているのか、軟弱スルメどもがああ!!!歯を食いしばれ、今日は徹底的にしごく!!!貴様らが自分の妄想でご飯三杯行けるまで今日は寝られないと思ええ!!!はいいいい指導指導指導おおツ!!!!!!

普段とは違った劉の言葉に反応するのは三人

「……………制服…水着…(ブシャアアアアア!)」
鼻血を出して倒れる康太。

「劉…どうしたのじゃ?」

このメンバーの中では一番付き合いが長い秀吉が、半分あきれながら言う。

「誰が軟弱スルメだ!」

そして軟弱に反応した雄二。

「……………これは、アルコール」

「誰だっ!お酒なんて買ってきやがった奴は!!!」

明久がビンを見るとそこには『大人のオレンジジュース』とかいてあった。

くこうして今にいたるく

：変性意識が働くために、分の頭に名前を載せます。

劉「いいかFFF団！そもそも全裸には萌えない！！！！服は脱がしても靴下は脱がすな！！ たとお天道様が西から昇ることがあるうとも！！ 絶対絶対これは萌え業界の鉄則だああああああ！！！！いいかよく聞けモンキーども。ホモサピエンスと動物の違いは何か。そう、衣服の着用だ。つまりヒトは衣服があつて初めてヒトなのだ！！！！それを全部脱がすことでしか欲情できない貴様らはヒト以下！！ 動物と同じだああああ！！ 貴様全員を矯正するツ！！ 歯を食いしばれええええええ！！！！」

FFF「俺たちは…何てことをしていたんだ！女性は服を着てこそ光るのに……」

草子「ひうつ！…怖いよ、風ねえ…」

風子「ちよつと黙ってください！草が怖がっています！」

舞「……………（我関せず。と感じながら大量の汗を流す）」

翔子「……雄二、まずは私の両親に挨拶」

雄二「おおおれはあ、あいさ、あいさあつなんて、するうり、理由なんて……」

翔子「……雄二に無くて、私にはある」

明久「ギヤアアア！もうやめて美波！！」

美波「やめない！アキの骨が折れるまでやめない！」

瑞希「zzz……」

秀吉「…帰るかの。こやつらと一緒にいるのが、辛くなって来たぞい」

康太「………写真をとってから……かえる」

こうして……一夜が過ぎようとする前に彼らは全員寝てしまいました
その間に舞が、アルコール摂取を無くす薬を打って缶も全て片づけ
しました……ご苦労様

「…以上が、僕がいままでしてきた行動です」
意識が戻った後は驚きましたが、…福間病院でなかったことが幸いです。

とりあえず、僕がここ最近の行動を伝えて今は検査の結果待ちです。

「…小田、高名？もしかして悠久さんの？」

「あの人は生み親ですが、今は縁を切っているのだからただの他人です」
高名はきっぱりと関係を否定する。しかしきっかりと生み親とは伝えておく。

「……それなら、これは！？…いや、日本人三人目とは…それも結果が出るまで待ちだな」

担当医は静かにイロイロな仮定などを出しながらブツブツとつぶやく、顔には驚きと焦りが合った。

そうして、検査結果が出たが…

「いいことが一つ。それと……悪い事が二つ。どっちを先に聞きたい？」

良い事があるというのは、まだ生命の危機とかじゃないと分かり安堵する高名。

「…いきなり悪い事を言われても困りますので、いいことをお願いいたします」

高名はきつぱりと良いことを先に聞く。

「まあ…どつちも長くなるけどね。まず君の左脳なんだが…損傷があったのだけど、君は何か大きなことをしたかい？」

「…『星の詠み手』を作成しました」

「そうか…あそこまでのソフトとなると…今、私の中で確定した。君はサヴァン症候群だ。これがいいことだ」

「イディオ・サヴァン…左脳に損傷がある方に発祥がある可能性が高い。障害をもちながらも、何かの分野において目覚しい才能を見せるものですね」

「一応、某蒼穹でも因子を組み込まれてその症状が出ていましたし…しかし、僕が天才的白痴でしたか…道理で、開発グループについてこれる方が限られているかが分かりましたね。」

「しかし…それならば僕にも何か「それが悪い事の二つなんだよ、小田君」…口をはさんですみません、続きをお願いします」

「まず、悪い事の1つは…多分、君がサヴァン症候群だったら…自閉症を持っている可能性も（ガタツ）…大丈夫かね？」

「自閉症？何で僕が！どうしてですか！何で何だよ！…どうして。」

「落ち着いて最後まで聞いてくれ、質問は全て最後にまとめて聞く」

僕は静かにイスに座りなおして、肯定の意思を見せる。

「どうして自閉症なのかというと…まず、サヴァン症候群なんだが…君の生み親、小田悠久が発祥していたからね」

あいつが？僕と…同じ？

「彼と脳波などの比較をさせてもらったけど…その部分だけがだんだん近づいてきているのが分かった。これは推測だけど…偶に、感情とかが何も思い浮かばないこととかない？」

「……………」高名君「あります。中学三年に1回…今年に入って2回ほど」

「多分、それは父親の遺伝子による発症だね。そういう説もあるし、さらにいうとどんどん感情が消えていくだろう！」

感情が消える？劉と争ったりしても何も起こらないで、草子さんとゲームしたりしても何も感じない。風子さんのわがままに何とも思わないで…舞さんとの発明にも全く興味が湧かない…そして、アキとの時間も……………」

「待つて下さい！どうにかありませんか！僕はもう…何も失いたくないんです！」

「落ち着いてくれ。その兆候が出てきているだけですぐにとはいわないが…最短で10年。長く持つても40代で発症だね」

……………もう、黙る事しか出来なかった…高名の顔はもう眉も動かない。

「それは、絶対に直らないというわけではないよ。…君はいま高校生だ。楽しい思い出などを作って『忘れたくない』と生きていくれ…私も…悠久さんを直したかったんだけどね…彼は…」

「…アイツは、いつ発症したんですか？」

「28…次男が小学2年になった頃だと聞いたけど？」

…だとしたら、今までのアイツの考えも…なんでそんな事が！

「おかしいです！彼は仕事のために家族を壊しました！そんな人が！！…そこまで…」

「…悠久さんは間違いなくその一種だよ。残念だけど…それと、もう一つの悪い所は」

「君の臓器などに異常が見える。これがおそらく今回気絶した問題だろう。」

...end

第40問：打ち上げ。そして…（第二巻終了）（後書き）

…二巻が終わりました。ここまで付き合ってくださいだった皆さん、ありがとうございます。そしてこれからも宜しくおねがい致します。

GAU様。あづま様。レフェル様。ヒョウガ様。マロ様。キモヲタ様。感想ありがとうございます…

あづま様！昨日は本当に感謝です！楽しかったですよ？

はあ、やっちゃたな…これで元には戻れない。

これからもバカとテストと召喚獣 五帝の学園生活をよろしく願います！

今回は、『僕とちっさい幼なじみと召喚獣』の神埼深紅さんに出演して頂いて

英語W勝負！草子VS深紅をお送りします！

次回をお楽しみに！

…なお、感想や評価などもお待ちしています

コラボ問題！草子VS深紅 高名の地下研究所にて！！（前書き）

こんばんは！

今回は『僕とちっさい幼なじみと召喚獣』に出演中の神埼深紅さんみくに出演していただきます！！

『ふざけんな蒼コリア！』なんていわれないように頑張ります！

今回は審判及び承認役の高名と草子・深紅しか出てきませんのであ
しからず…

コラボ問題！草子VS深紅 高名の地下研究所にて！！

No side

高名の研究室。

それは、三階建てマンションを購入して自分専用に改良した一棟…
もう悪魔の居城といつていいほどの、悪霊スポットになっているが
その購入金は『星の詠み手』や『たかな ねっと』を売って得た金
の七割を使って改装した…本来なら七割で済むほどではないこの研
究所の地下には…召喚システムの擬似再現場があった。

この召喚大会と同じ感じを再現したこのフィールドに二人の女性が
立っていた。

「ほな、わっちに触れると火傷しますえ？」

片方は神埼深紅。水色のふわふわなロングヘアに花のヘアピンを
つけているのが特徴的な彼女。勉学もAクラス並なのだが、どうい
う理由か明久と同じ観察処分者に認定されてしまっている。

(…今回の対戦を取り仕切ったのは、高得点の観察処分者がどのよ
うな動きを見せるのかデータに撮りたかったのですが…僕もたいそ
う気が狂ったのでしょかね？相手を草子さんがするなんて)
欲望と本心が混ざっていた高名が、小さく思ってから草子の方を見
つめた。

「私も準備おつけーだよ！早く！早く！」

彼女は村野草子。一卵性双生児で風子さんの妹…分からない方はキ
ャラクター紹介を！

黄緑の肩まで来る並んだ髪のが最後がカールを巻く髪型が特徴の草子。
これは姉も同じことだった…

「それでは勝負を始めます。尚、この勝負は文月学園内にも生放送されていますので、反則技などは行わないように…勝敗は戦死か、棄権で決まります。…鉄人は戦死してもこないのでどうしてもというとき以外は棄権しないように。僕のデータが取れませんか…あつ！」

つい、本音を口走ってしまう高名。それをみた深紅は

「…高名はん、依頼料払ってもらえてへんけど、どないすればいいん？」

「それはシゲンの仕業です！彼がアメリカの銀行に払って」

「なんや アメリカのほうやったんか？ほな、悪うかった」（しつてたんやけどな）

「…こちらこそすみません」

深紅の口車に乗ってしまい、本当の事を喋ってしまった高名…本来なら良かったのだが。

「高名君…これ。放送されているんでしょ？」

「あ」

いつもの冷静な顔からは考えられないほど驚きによって青ざめてしまった。

「…試合開始…！いいから早く始めなさい…！」

高名がいきなり召喚フィールドを展開する。その科目は英語W…

『試験召喚』
サモン

二人の足元から、幾何学模様の魔方陣が展開されて二人の召喚獣が姿を表す。

「それと…今回は観客も多いようなので腕輪のリミットを外していただきます…二桁でも使用可能なので」

そう言っている間に完全に姿を表す召喚獣。

深紅の召喚獣は赤いドレスに歪な剣を持っている。

草子の召喚獣は青のセーラー服を着て、左手に鉈を携える…いつものレ 状態だったが…

「最初から本気でしょ？手加減は要らない。…『無想』」

草子が、腕輪始動のキーワードを言うと…草子の召喚獣から白い気が表れてそれは翼を表現するような形になっていた。

「綺麗やね」

「…そうですね。しかし神崎は腕輪を使わなくて良いのですか？」

「平気や。わっちはこれでも『観察処分者』え？操作にはなれとるんや」

『 Fクラス 村野草子 VS 神崎深紅 Fクラス

英語 W 250点 VS 248点

』

点数は互角。あとはそれぞれの召喚獣の特性・武器・リーチや操作などに関わる。

「……………」

両者。そして校内の観客は固唾を飲む。

…

「開始！！」

キンキンキンキン！

勝負の始まりと同時に連続して鳴り響く金属音。草子の召喚獣は鉈の先端・矩形になっている部分で受け止めて離れる。そして今度はこちらから鉈を薙ぐ。

深紅の初手は頭を目掛けて剣を振りぬこうとしたが、草子の矩形の部分に受け止められてしまっただけで少しはなれる。それに対して草子が追撃をかけてくるが柄の部分をつまき使って避ける。

この行動が開始して一瞬のうちに動く。

「早すぎだよ深紅ちゃん…もう、追いつくのがやっとだった」

そういつて賞賛する草子だが、その表情にはまだ余裕の笑みが浮かぶ。

「ほなおおきに。わっちも…行きますえ!!」

そこからの行動は、高名の眼にも驚きを見せた。

「……ははは、すばらしいです！これなら観察処分者にもみ開かれたブラックボックスの解析も……」

その顔は、もうマッドサイエンティスト以外の何者でもなかったが…

キン！

そのような表情も一瞬で変えるような剣戟の音。両者ともに一步も譲らない好勝負だったか…

「まってよ…私、集中力が、もたないよ」

草子の腕輪は集中力を高めないと効果がない。つまり長期戦には不向きだった。

「ほな…次の一撃でけりをつけるかえ？」

そうして、草子。深紅両者の召喚獣はお互いに距離を取って構える。

…草子の顔から汗がたれ落ちた。

ポタツ。

「おおおおおおっ！」
「やあああつつっっ！」

二人の召喚獣が一斉に中心に向けて走る！

ギーン！

鉛のような重い金属音。

そして召喚獣は…

「引き分けだね。深紅ちゃん」

「そうえ。それでええんよ」

草子の鉈は、深紅の首筋に…深紅の剣は草子の目の前にあったからだ。

「…両者引き分けです!」

高名がそう告げると、召喚フィールドが消えて…召喚獣が消える。

「深紅ちゃん。私のわがままに付き合ってくれてありがとうね」

「ええんよ。わっちは草子と戦いたかっただけやし」

そうしてお二人の握手。あとで舞達に聞いたら拍手があったそうだ。

「じゃあね深紅ちゃん…あ。それとこれ!」

そうして草子が渡したのは…『小さな箱』

「なんか高名君がね、『何か問題があったら開けてください。僕達五人の誰かがそこからでて来るでしょう』…ってさ。何かあったら呼んでって事かな?」

「そうやね。…ほな、はいなら」

「じゃあね!~~~~深紅ちゃん!」

そうして、深紅は高名の作成した『次元航行船・うずしお二号』の力を使って帰っていった。

…しかし、これから帰ってきたうずしおが壊れて高名が」…400
万が…」といったのはその後の話し

コラボ問題！草子VS深紅 高名の地下研究所にて！！（後書き）

…京都弁、心配だな

レフェル様。ヒヨウガ様。GAU様。マロ様。キモヲタ様。あづま様。感想ありがとうございました！！

次回はヒヨウガ様の『バカと発明と召喚獣』より海谷陸さんとマナさんに来ていただいて、謎の女装コンテストに入ります！！

…高名と劉め。他作品の女装を見て笑った自分に悔いるがいい！

コラボ問題！俺たちと爆発と女装コンテスト（前書き）

こんばんは！これが今年最後の登校：いや、投稿になります。

今回は『バカと発明と召喚獣』に出演している海谷陸さんとマーナさんに審査員役で出演していただきます！

…またもや『もう小説止めろって言ってんだろオイ！』なんていわれないように頑張ります！

…あとがきで今年の反省と少々募集があります。

ではごっごー！

コラボ問題！俺たちと爆発と女装コンテスト

文月学園の体育館。そこには大きなステージが現れていた。観客席は満員御礼の大観衆…

そして右端には『審査員席』と書かれた机が見つかる。…そして

「皆さん！さて、これから文月学園にふさわしいかも分からない。

いつやるかも時間も分からなかった筈なのにこんなに集まってしまうましたが、無視していきましょう 司会は私、神崎ゆくと

「学年主任の高橋洋子です。本日はよろしくお願ひします」

二人でお辞儀して言うが、参加する男性諸君からすればもう最悪の一言しか出ない。

「なお、今回協力してくださった生徒は『……………後日、写真販売』の土屋康太さん！『発明は爆発だ！』の海谷陸さん！です」

このあとに写真を販売するという事だけで、見学している男性諸君は大いに沸いた…

「尚、審査員は海谷陸さん。マーナさん。村野草子さん。木下優子さんです！」

「宜しく」

「宜しくおねがいします！」

「よろしく！…はっ」

「よろしくお願ひします」

「……罰ゲームが楽しみね」

舞以外はしつかりと礼をして観客に挨拶をした。舞は何故か隣で黒い笑みを浮かべている。

「そして……二人以上。見るに耐えないと思われた方には、塚原中君のゴム弾をプレゼント！」

「さらに、足元の地下へとボツシュートです」

ゆうの説明に高橋女子が説明するが……

「……狙い打つ狙い打つ狙い打つ狙い打つネライウツ狙い打つねらいうつ狙い撃つ狙い打つ狙い打つRock On!狙い打つ……狙い撃つぜえ！」

どうやら中は、最初から眼帯モードの上に謎のスナイパーみたいな格好になっていた。しかもとんでもないほどに銃をステージに向けている……人選間違えたか？

「それでは始めましょう！まず最初はエントリーナンバー1番！変態・女装趣味に始まり、悪魔・鬼・根本が専売特許の2・B代表の根本恭二です！」

どうやら神崎は根本が嫌いなようだ。さらに言うと呼び捨てだ。

「……………」

根本の服装は、以前写真撮影したときと同じだったが

「おっと？誰もボタンを押しません！こんなに醜い姿であるのに！」
これは司会の神崎も驚いたが

「アイツには最後まで歩いてもらおうか。面白そうだし」

「マスター。私を忘れていませんか？」

「マーナか…いたのか？」

「やっぱりわすれているじゃないですか〜！」

…茶番劇が披露されている中で

「おっと、最後まで歩ききってしまいました。これは誰が予想した事か！」

司会者も驚いているが、観客の中には数人ほどトイレに向かって走っていった人が見受けられた。…ご愁傷様です（by作者）

「続いてエントリーナンバー2番。最近、代表として働いているのか？坂本雄二さんです！」

そういつて現れたのは、カツラをかぶってチャイナドレスを着た雄二だった。

「…中」

「中君」

そう言って、陸と草子がスイッチを押した途端に

狙い撃つ！

「くへっ」

首筋にゴム弾を撃たれた拳銃に、足元へ落下。悲鳴とかが聞こえそうだが気のせいだろう。

「ターンをする前に落とされてしまいました！これは…」

「はい。何所が悪かったか考える必要がありますね。それに平均以

下でしたので、補習室でお話しを聞きましょう…神崎さん。次をお願いします」

『何いつ！』

足元から悲鳴をあげる雄二…『ギヤアツ！』捕まって補習室に連行されたようだ。高橋先生は容赦のないコメントを残して…

「続いてエントリーナンバー3番！『外見だけなら女性に見える？』
関戸劉さんです！」

そうして出てきたのは、白いドレスにポニーにしている所を花のゴ
ムで止めた劉の姿だった。

『……舞め、いつかナグル』

少し顔を赤面にさせた劉が現れた瞬間

『劉ちゃんだ！劉ちゃんが現れた！』

『……私たちは精一杯関戸君の応援をするわよ！』

「はい！関戸君を応援しなさい」

男子諸君と異端者撲滅会が一気にハイテンションになった挙句

「アツハツハツハ！劉！それは傑作だな。俺は優しいから最後まで
ボタンは押さないぜ？楽しんできな！」

「頑張つて下さい、関戸さん」

「…劉。似合ってるよ！」

「劉君。がんばって」

「…何で私より女っぽく見えるわけ？」

陸は大爆笑して、さらには死刑宣告とも思える宣言をした。マーナ
は面白そうだったので応援…草子や舞はハイテンションで応援して

いる。…優子はショックを受けていたが、それは何か違った感じでのショックだった。

「おっと、わたりきりました！これは好評価だと思いませんか？高橋先生」

「そうですね。普段の感じからはとても考えられないほどにお綺麗でした」

高橋先生も賞賛の声をあげる…

「なお、お飲み物などはここを出て11歩のところであり、とても便利なのでぜひご利用ください！」

11歩を無駄にきょうちょうするゆう。その数字には何が込められているのか？

「続いてエントリーナンバー4番！姿は外人？だけど日本人。小田高名さんです！」

そう言っただけで現れたのは、黒い舞子さんのカツラと和服を着た高名だったが。

「……………」

「え？」

何も反応がないまま落ちてしまった。

「あえ、え、えっと…どうやら機械のミスみたいです。申し訳ありませんでした！」

「しかし、あの衣装は良かったと思います…京さんに似ています。どうやら機械の故障だったようだ。ゆうは観客に謝罪して、高橋女史は服装などの評価をしていた。

く落とされたあとく

「…高名。とりあえずその姿を壁紙にするので、ポーズをとってください」

「前が見えませんが、そして貴方は誰ですか？」

どうやら、何者かの仕業によって落とされたのは目に見えていたようだ…

「続いてエントリーナンバー5番！文月学園のバカ代表！吉井明久さんです！」

『え？アキ…ちゃん？』

「アキちゃんだ！」

どうやら、ここで初の女装お披露目だったようだ。

現れたのはチャイナドレスにみを包んだ明久の姿。中央に向かおうとしたら

「吉井くううん！」

久保がルパンダイブで明久に飛びついていくが

「塚原君」

「……僕も……狙い撃つ！」

どうやら中も退場権をもっていたらしく、久保目掛けて銃を撃った！

「ギャア！」

撃たれた久保は気絶。そして

「え？何がどうわああああ！」

明久は失格にされてしまい、地下へと落ちていった。

「おそらく木下さんと塚原くんは、久保君の威厳を守ろうとしたん

ですね」

…色んな意味で守られた威厳。

「最後に…審査員席に座っていた災害科学者・海谷陸さんです！」

「誰が災害だ！」

そう言つて、ステージに上がる陸。

浴衣にいつの間にか着替えていた陸は、しっかりと前を歩く。

「これは……！ 凄いですね。前々からあいそうと思つていました
たが」

ゆうが感嘆の声をあげ

「確かに海谷君はこのような衣装も似合いますね」

「……………パシャパシャパシャ！」

康太は指が干切れんほどのスピードでシャッターを押していた。

「さすがはマスターです」

マーナはふつうの表情で陸に言うが。

「…マーナ。あとで爆発させる」

どうやらお冠の様子でした。

「おつとわたりきりました…それでは！今回のコンテストを終了します！」

「また次回にお会いしましょう」

『次回なんてあるか！』と出場した男子が声を揃えて言った…

その後

「陸。やれ」
「ああ」

このコンテスト会場がバラバラに爆発してしまったのはまた後の話
し…

コラボ問題！俺たちと爆発と女装コンテスト（後書き）

…ヒヨウガ様すみません！脇役みたいになってしまっ…

キモヲタ様。GAU様。レフェル様。ヒヨウガ様。マロ様。あづま様！感想ありがとうございます！

…ここまでよく出来たな（泣）

舞「まあ、最初とはおおちがいだからね」

そっだよ…ここまでこれたのも皆さんのおかげ…だけど、週間ユークが1000も言った事がないのにここまでやる気になれたな〜
と思ったりもするわ！

草子「それはどうしようもないよ。だって作者が誤字とか多いんだもん」

…文才が欲しいんだヨオ！

劉「諦める」

orz

…まあ、こんな感じで来年も更新していきますので

これからもよろしく願います！

この小説を読んでもる皆様。よいお年を…

なお、特別企画として『笑ってはいけない文月学園!』に参加募集をします!

劉と高名以外は笑わせ役です!...お一人様二名ほど、それとお尻をたたかれても問題ない!という方は感想欄などで...

今回はレフェル様の『俺と彼女と召喚獣』の皆さんとのコラボの予定です!

コラボ問題：俺と初詣と巫女服と（前書き）

…あれ？一日過ぎてる…ああっ！こんばんは！

今回はレフェル様の『俺と彼女と召喚獣』のコラボ…新春初詣編となっております！

『…なんで期限守れてねえんだ！』とか言われないうちに頑張る所存です！

時間軸などはきにせずにどうぞ！

コラボ問題：俺と初詣と巫女服と

「おい終夜！早くこねえと置いてくぞ？」

「待てよ劉…早すぎるからな!？」

「少しは静かにしたらどうですか?…ここは神社なんですからね」

年が明けた後、劉と終夜。そして高名は年が明けた朝だった…三人は初詣のために神社に向かっていた所だった。

「そんな事知るかっつんだ。終夜が階段ダツシユで上ったから疲れたんだろ?体力は残ってそうだけだな…そんなんで島田は「もう大丈夫だ!」…島田の話になると、気が早いんだな」

「そんな急がなくても、神様は逃げやしませんから」

劉たちはそんな話をしながらお参りの順番を待っていた。

「お前ら、賽銭の準備は出来ているよな？」

「出来ています」

「ああ」

パン パン

三人一斉に手を会わせて礼をする。それぞれに小さな願いを秘めて。

(…今年こそ、文が帰ってきますように!とつとと帰って来い!)

(…今の生活を大事に出来ますように。この時間を…)

(今年こそは美波と…あああっ！)

本当に人それぞれの反応を示しながら静かに再び礼をする…

「終わりましたね。これからどうしますか？」

「なら、おみくじでも引きにいかないか？」

「それいいな、行こうぜ！」

その後三人でおみくじを引きにいった…その売り場では

「綾菜か、何でそこに？」

「バイトだよ。ほら…この巫女服似合うでしょ？」

そう言っつて、売り場の中で一回りした。確かに服は似合っていたが…

「……………(ドクドクドクドク)」

今にも血液不足に陥りそうな康太がそこに見えたが、三人からは見えなくて赤い床としか考えていなかった。

「それでは相沢さん。三人分お願いします」

「大吉を頼むぜ？」

「劉、大吉は呼び寄せるもんだぞ？」

くじを貰った結果は……

「おお、大吉だ！」

終夜は大吉。とても喜んでいた

「……大凶」

高名は大凶…終夜とは打って変わって落ち込んでいる。

「ちょっと待て」

「どうした、劉？」

劉が何かを疑問に感じたらしく、終夜に問い掛ける

「なんで…何でなにも書いてねえんだよ！運勢なしとかおかしいだろ！これは引きなおすべきだろうが！」

「劉、おみくじは一回だからこそ効果があるんだ」

「諦めなさい」

「…クソッ。何ていうか！これは明らかに相手のミスだろ！だからなんゴバア！」

そういつた途端にうめき声をあげて倒れていった。

「麻酔薬です。このまま相沢さんのバイトが終わるまで待ちましょう」

「そうだな…ってあれ、風子たちじゃないか？」

そう言っ指差した先には村野姉妹に舞。ありすとあかりもいた。

「やつほ〜！…あれ？劉はどうしたの」

「この匂い…睡眠薬？舞ちゃん、どうなの？」

「これは私の作った睡眠薬ですわ…」

こちらでは舞とあかりが危ない会話に話を咲かせていた。

「私にはこの関係の話はさっぱりですわ」

「そうだよ、風子ちゃん」

蚊帳の外にされていたお二人さん

「それでは…皆さんを僕の家にご招待します。…ついてきて『ええっ！？高名（小田くん）の家？』…そうですね。僕は一応印税生活ですからね『ええええっ！？』」

とりあえず高名の家に招待されるといふ事自体に驚いて、尚且つ印税生活というある意味夢のような事をしている…高名に対しての更なる驚きが出てきた。

「それではいきま…皆さん。どうしたのですか？」

「高名…おまえ、家なんて住んでいたのか？」

「止めてください！僕がダンボールハウスに住んでいるとも思っているのですか？それでは雨でおれますよ！」

「そこなの？突っ込む所そこなの！？」

今日もあかりも突っ込みはさえていた。

こうして、一行は高名の家へと向かっていった…

後編へっ！

コラボ問題：俺と初詣と巫女服と（後書き）

…はたして、高名の自宅とは!?

光闇雪様、レフェル様、ヒヨウガ様、GAU様、キモヲタ様、あづ
ま様、マロ様…感想ありがとうございます!

なんで前後編かは、蒼の事情ですのでお察しく下さい…

次回もおたのしみに!

コラボ問題…突撃！高名のマイホーム！（前書き）

…おはこんばんちは（何）蒼です。

前回の後編…高名の家は！？

コラボ問題…突撃！高名のマイホーム！

前回の あら すじ？

「僕は印税生活をしています」

それはただの自慢だ！

「…皆さん、何をとぼけているんですか？」

「嘘よ！小田君がこんな家に住んでいるなんて」

「そつだ！高名の家じゃないだろ！」

高名の家の前に到着はしたが、殆どが啞然としている上に舞と終夜はこれを高名の家と認めずに反論する。

「お二方が認めない理由もわかると思いますが…僕の家ですよ？」

そこは………

ただのボロアパートという名がふさわしい場所だった。

「……………ハッ！」

「やっとうですか。それでは入りますよ」

いきなり啞然としていたメンバーが復活し、高名はやれやれといった表情で部屋に入れる。

「そうよ…絶対に家の中は魔改造されているはずよ！」

「そうだそうだ！絶対に機械まみれだろ！」

「…君らは僕を何だと思っているのですか？」

『パソコンオタク』

「違います！僕はゲーオタです！」

「否定してもオタクじゃん！」

一同に否定はしたが、オタクと認めている高名だった…

そうして、十人近い集団で高名の家に入ったが……………

「神は死んだっ！」

「なんですか？ 僕が普通の家に住んでいたらいけないのですか？！」

部屋は1DKと学生が暮らすにはふさわしい部屋だった。

「普通だな」

「小田君にしては、普通だね」

「そうだね、…普通すぎて怪しいよ」

劉と綾菜とありすが言葉を述べたが、何か仕掛けがあると見て物色を始める。…すると、電気のスイッチについていた謎のボタンを見つめる。壁にカモフラージュしていたが、劉が見つけてしまった。

「高名…このボタン（ポチッ）ありす！ 何押してんだよ！」

「面白そうだったから…てへっ」

「うんうん。てへっなら許せる、……………訳ないでしょ！ 高名君なら自爆スイッチも作りかねないんだからね！」
やはりあかりはツッコミだった。

「…うんうん、あかりが突っ込むなら私は……………」

そして何かに燃えている舞もここにいた。

「…押ししましたね。まっ、いいですよ。いずれは向かうつもりでしたから」

ボタンを押したのを見た高名は、部屋にあったテレビのリモコンで

2

4

7

8

と、順番にボタンを押し始めた。

「何やっているのですこと？私に説明してくれませんか」

「姉さんはゲーム以外の機械系ダメでしょう…携帯も祿に使えないんだから」

…ここにきて意外な機械音痴を発見された風子だった！

「ゲームだけは平気って、ずいぶん都合がいいんだね」

少し疑問に感じてきたあります。そう言っている間に、テレビの前に謎の階段が現れた。

「さあ、入ってください…ここが僕のパーティールームです」

それぞれ地下に下りていったら、そこには門松や獅子舞など正月に使われるようなものが勢ぞろいしていて…おせち等が人数分置いてあった。

「このように僕が用意しました…草子さんや秋月がいれば問題なく食べ終わると思いますので…どうぞぞ」

「高名のもんなら容赦なく食ってやる!」

「高名くん、ありがとっ〜!」

「喜んで頂かせてもらいますわ」

「私が…ボケ…ふふふ……」

「おう、高名…頂くぜ?」

「待つて!誰も今の舞ちゃんに突っ込まないの!?!」

「そう考えるのはあかりだけだよ」

「…ハブられた。助けて〜こーちゃん」

「土屋君いないよ?」

こうして、ドンチャン騒ぎのパーティーになって何だか知らないが

またもやカラオケになったりもしたが……

「ああ、参加費はお一人様1000円となっています」

『騙されたっ！！！！』

こうして、金欠の劉とゲームに浪費していた草子は叫びをあげていったが……

「ところで、いつまで私は巫女服なの？」
まだ着替えていなかった綾菜はどうすればいいのかわからなくなってきた

コラボ問題：突撃！高名のマイホーム！（後書き）

…綾菜さん！影薄くてごめんなさい！そしてこんな変な感じですね！
ません！

GAU様、レフェル様、ヒョウガ様、マロ様、キモヲタ様、あづま様。感想ありがとうございます！

…次回！

「この薬は笑いなどの感情を促進する薬です。もちろん個人差はありますから」

政策指揮官：村野草子

制作：村野風子

協力者

藤川舞

佐伯時音

塚原中

橋桜花

神崎ゆう

豊岡操

文月学園一同

協力してくださる小説の皆様

ガキの いあへんで

スポンサー

召喚獣開発チーム

TV文月

ターゲット

五帝から

関戸劉

小田高名

マロ様より

宮永来牙

宮永絵梨

G A U様より

来島アキ

クリスティーナ^{ll}ウエストロード

あづま様より

保科望

白石沙耶

光闇雪様より

ゆうさん（坂本雄二女装Ver）

恭さん（根本恭二女装Ver）

キモヲタ様より

菊井慧汰

花川紅音

レフェル様より
桃宮あかり

鴉取透

ヒヨウガ様より

海棠直哉

マーナ

…総勢十六人！はつきり言つと自信なんて皆無ですがやっています
いと思います！

しつかりとやると一月かかるかも…

次回！お楽しみに

特別問題！第1問：顔合わせ（前書き）

…更新が遅くなつてすみません！

今回の話は『笑つてはいけない文月学園』となっております。尚、ガキの影響などを多大に受けておりますのでご了承ください。

…まだゲームは始まりませんが、どうぞ！

特別問題！第1問：顔合わせ

劉「おい。これはどういうこと？」

文月学園のAクラスに閉じ込められた16人…その中で最初に声をあげたのは関戸劉だった。

来牙「どうもこうもないだろ関戸。俺たちは閉じ込められたんだよ」

高名「…皆さん。ディスプレイに何か移っていますよ？」

クリス「そうだねい」

マーナ「皆さん、見てみましょう」

全員が目が、ディスプレイへ向かうと…

舞『え〜あ〜。おはよう諸君…ちよつと風子！こんなもの読むの！

？女王様気分でなんてよめないわよ！！！！』

草子『しっかりして！これもう放送されてるから』

全員『…………』

全員が啞然としながらディスプレイに写る舞たちを見ていた…数人

ほどは面白そうだからと考えていたらしいが…

舞『これから…』笑ってはいけない文月学園24時』を開始します
『！』

いきなりの宣言に

沙耶「え？何々？何が起こるの、望？」
望「…やってくれるね」

アキ「……（私は笑わないとしても、高名の笑う…）」
クリス「およよい？なんだか面白い事が始まりそうだよいい？」

慧汰「…とりあえず紅音。俺の手を離せ…今にも骨が砕けそうだ」
紅音「え？良いでしょ（ミシミシ）だって離すと慧汰が逃げそうだ
もん『ギヤアアアア！』…どうしたの？」

絵梨「来牙君。これってあれだよな？」

来牙「いつも正月にやっているあの企画だろうな」

直哉「えろう面白い事になつとるやないか」

マーナ「マスターが言ったのだったら、知っています」

ゆうさん「…どうして私が参加しているのかしら？」

恭さん「その前に、私たちの姿がこうなってる事に問題を抱かない
訳！？」

透「…ガキ使」

あかり「それ以上言っちゃダメ！版權とかに関わるから！」

正直、バカテスに版權もクソもともらないと思う蒼です（笑）

劉「んで？どんな事なんだ？」

高名「そうですね…説明をお願いします」

舞『え〜っと、この企画は文月学園の提供「提供とか言いから始めてよ！」…あかり。話は最後まで聞くべきよ？』

草子『えつとね、この学校で一日過ごしてもらっただけど…笑つちやったりするとお尻をハリセンでたたかれるんだ　ちなみにたたくのは…』

F「男子諸君は異端審問会が！」

C？「女性は異端者撲滅会がいきます」

劉「返り討ちにするか」

来牙「そうだな」

望「…一方的にたたかれるのは御免だよ」

舞『忠告するけど、反抗したらそこから24時間補習室で軟禁状態？になるからね』

あかり「どつちも地獄じゃん！」

舞『…とりあえず、そこにあるコップに入っている水を飲んでね。

それが参加確認のしるしだから…飲まなくても補習室

』

全員「もう強制でいいだろ（でしょ）！！」

そう言つて、全員が飲んでしまった…もう、戻れない。

舞『それには…全く笑いそうにない人。小田君、来牙君、望君、アキちゃん、…それと私怨でゆうさんと恭さん。あなたたちは多分笑いそうになかったのではんの少しだけ笑いやすくさせてもらいました。…といつても、沙耶ちゃんや劉くんほどではないから安心してください…0回だとゲームにならないから』

中『…九時に鉄人が来る……それまで……自己紹介』

そう言つて、ディスプレイに写つていた画面が消えて静かになった。

直哉「もうエエやる？そろそろ自己紹介や。ワイは海棠直哉^{かいどう}や。よろしゅうな」

マーナ「サポートプログラムのマーナです。マスターの近くから離れるのは久しぶりですが、がんばります〜！」

来牙「宮永来牙、趣味はゲームと漫画と剣術。以上だ」

絵梨「来牙君…私は宮永絵梨です。この学園の生徒じゃないけど参加するので宜しくお願いします」

クリス「クリスティーナウエストロードだよん 去年、家の事情で学校休んでたせいでダブっちゃいました よろしくねい」

アキ「……来島アキです。皆さんよろしく宜しくお願いします」

高名「Fクラスに入ってからよりはしつかりとした紹介ですね…僕は小田高名です。よろしくお願いします」

劉「関戸劉だ。まあよろしく」

望「保科望です。皆さん、宜しく」

沙耶「白石沙耶です！よろしくねっ」

慧汰「菊井慧汰だ。…「男の娘」です…って違う！紅音、何するんだ！」

紅音「面白そうだったから…花川紅音です。よろしくね？」

透「鴉取透だ…よろしくな」

あかり「桃宮あかりです…そこ！突っ込み役乙とか言わないで！」

ゆうさん「ゆうさん…夕季のメイクのせいで女みたいになってるわ。よろしく」

劉「…プッw」

恭さん「恭さんよ、Bクラス代表とは無関係だけどよろしく頼むわね？」

特別問題！第1問：顔合わせ（後書き）

…こんな始まりで大丈夫か？蒼です

レフェル様、キモヲタ様、マロ様、あづま様、GAU様。感想あり
がとつございます！

あづまさん…遭難しないように山ごもり頑張ってください。

今回は自己紹介と簡単な説明です。
薬を飲んだ人は

例：10回笑う 21回くらいですけど、もともと耐性ある人が多
そうなので…そこまで笑わすつもりもありませんのであしからず
汗）

そして…いよいよゲームスタートです！

次回…鉄人の罨。お楽しみに

第2問：鉄人の罫（前書き）

…間が長くなってすみません！それでは第二問！
ついに始まってしまっ…とても期待にこたえられるかは不安です。
しかしできるだけ暖かい目で見守ってください。

ではごっごー！

第2問：鉄人の畏

アキ「さて、これからどうなるのでしょうかね」

絵梨「そうだね、これから」

ガラガラッ！！

鉄人「チヨリーツス！！」

桜花「全員、アウトー」

特別企画、笑っていけない文月学園。第二問『鉄人の畏』

劉「チクシヨオオ！！卑怯だあれはあ！いてえっ！」

高名「…何たる不覚、ギヤアア！」（戦闘不能寸前）

クリス「に、西セツ？ ぶ、わっひゃっひゃひゃっ！？ チヨ、
チヨリ、チヨリって、あーた。あーひゃっひゃっひゃっ！？ あ
ぶしっ？！？」

アキ「…あれは、反則で。いたっ…うっう」

慧汰「あれは卑怯だ！いてえ、FFF団は俺の部下だろ？」

紅音「…ふっ。痛いよ〜慧汰」

来牙「…あれは笑うか驚くな。…痛たいな」

絵梨「あれは、あれはへんだって…いたいっ！」

沙耶「あはははっ！痛いよっ！」

望「…あの西村先生が、クツ！」

ゆうさん「て、鉄人が…痛いわっ！」

恭さん「おかしいわよ！痛いっ！」

マーナ「うゝ、痛いです」

直哉「面白いわ！これは凄いわ、痛いで！」

透「…あれは卑怯だな。痛っ」

あかり「待つてよ！あの人がそんな事…いたいつ！
さいごまで突っ込みをしようとしたあかりだった

鉄人「村野姉妹から話は聞いているな？これから始まるぞ？1限目はDVD鑑賞だ」

クリス「およよい？そんな事するのかい？」

直哉「そうやな。珍しゅうことするやないか」

鉄人「俺も内容は知らないチヨリース！」

桜花『劉君、アウト』

劉「まで！俺は笑って痛え！！」

高名「……………」

アキ「高名！大丈夫ですか？」

絵梨「小田君…こんなに弱かったなんて」

来牙「ソイツは道具とかが無いとダメだろうな…」

鉄人「お前ら！静かに知る！…それでは全員、プロジェクトタ を見てくれ」

そういわれて全員はDVDに向かってTVを見せた…

操「ようおまいら！今日も張り切って勉強だ！」

不良たち「OK！勉強は青春だ！」

安生「おー！、って私もう成人式終わってるよ？…その幻想をブチ殺す」

…ここで数人が笑いましたが最後までお楽しみください

安生「何で私が協力者になってないの！？…どうなのかしら？フフツ」

来牙？「おっしゃー！楽しんで行こうぜええ！！その後のカツ丼だぞー！！」

…

来牙「あれは翔だろ！どうなっているんだよ」

絵梨「来牙君はこんな事言わないよ！」

操「おい宮永！何言ってるんだ、お前後でタイキックだ！」

慧汰？「どうしたんだ？これからFFF団を肅清しに……」

慧汰「あれもおかしいだろ！絶対に秀吉だ……！」

透「絶対に問い詰めてもボロはでなさそうだがな」

操「もういい！慧汰、お前は旋風脚だ……さあっ！夢の保健体育だ……！」

不良「ウオオオオオオオオ……！たまんねええええ……！」

来牙？「行くぜ舞っ……！待ってるよ……！」

慧汰？「紅音……まってくれよ」

望？「僕はまだ……ここに……！」

劉「操デメエエエ！！そんな事とは縁遠いだろうが！」

慧汰「さて紅音！あれは秀吉が俺に化けて行つた罠だ！！気づけ！」

望「あれは、トシ。何てことを……」

桜花「劉君、あかりちゃん、絵梨ちゃん、恭さん、沙耶ちゃん、望君、透君、マーナさん、紅音さん。アウトー」

中「……来牙……タイキツク。……菊井……旋風脚」

笑つた男子「畜生つ！！ギヤアア！」

笑つた女子「嫌あああああ！！」

来牙「……菊井」

慧汰「……何も言つな。蹴る奴はアイツだろ」

ガラガラッ！！

操「僕は君たちを理解できるっ！！」

桜花「小田君、アキちゃん。アウトー」

高名「……ゴキッ。……」(放心状態)

アキ「…反則ですよ。最近のネタは…ううう高名」

操「止めるんだ…もう止めてくれ！ミールツ！」

桜花「クリス、ゆうさん、劉君、沙耶ちゃん。アウトー」

クリス「みさみさ…痛いよん！」

ゆうさん「蹴覇、そんなことするのね…痛いわっ！」

劉「操おお！いてえんだよ！！」

沙耶「劇場版！いたいよ…望」

操「さて…そろそろ辞世の句は詠んだか？」

…続く！！！！

終了まで 23 : 30 : 21 (開始前)
時間 : 分 : 秒

第2問：鉄人の罫（後書き）

PV 90 / 657アクセス

ユニーク 13 / 519人

なん…だと？（ー・）o ヨシヨシ

光闇雪様、GAU様、マロ様、キモヲタ様、レフェル様、ヒョウガ様。感想ありがとうございます！

…ご要望や苦情などもあれば受け付けますので。

少々怖いですけど『全然出番ない奴いるぞ！』や『ここでは笑わな
いぞ！』なんて苦情も、多くの方がご参加したので…一話一話で喋
る機会は少ないかもしれませんが、出来る限りは行っていきます。

725

それと、わからないネタとかこういったことをやってもらいたい。
という事も可能な限り受け付けますので…

キャラで1番大変なのはクリスマス…あの話し方は大変ですよ……

次回！『悪魔のDVD』！お楽しみに

第3問：操の助言 高名の護衛？（前書き）

おはこんばんちは！蒼です！放置してすみませんでした！

…さて操に蹴られる二人は！？ではどうぞ！

第3問：操の助言 高名の護衛？

操「痛みが増えていく…悲しいよ」

劉「お前のせいだ！」

操「悪いな…手加減したら俺の写真集が…行くぞ、来牙」

来牙「…結構来るな。けど痛みが残らないぞ？」

操「（…これでも手を抜いたんだ。俺も半分強制みたいで嫌だった

しな…）」

慧汰「や、やややめろ！あんな蹴り食らったら死ぬからな！？」

操「…劉」

劉「何だ？操…」

操「そこで死にかけている…小田高名。彼がこちら側の最後の希望だ…夜10時まで耐えてくれ…」

桜花「望君と沙耶ちゃん。アウトー」

望「明らかに狙っているだろ！主に作者的な意味で！」

沙耶「…望」

操「…『翡翠蹴法・旧型式…螺旋！』」

そう言つて慧汰の肩に手を置いて…そこを支点とし、右足を思いっきり振り回して蹴りを入れた後にその反動を用いて左足でも蹴っていった

慧汰「…動けねえ…」

操「すまない、一騎…僕はもう行く」

桜花「透くん、直哉くん。あうとー」

直哉「もうやめるんや!…痛っ!」

透「…卑怯だな。クソッ!」

来牙「…さすがにファ ナーネタが多くないか?」

絵梨「名前があれだからしょうがないよ。でもまだ…」

操「名づけて、操スペシャル!」

桜花「クリス、絵梨ちゃん、あかりちゃん、紅音ちゃん。アウト!」

あかり「スペシャルって死語…キヤアッ!」

クリス「あーひゃっひゃっひゃ!あぶしっ!」

紅音「…慧汰あ〜」

絵梨「…グラ ムそっくりだよ…痛いっ!」

操「…ハッ！俺は？…失礼するっ！（ガラガラピシャッ！）」

アキ「…あの様子ですと、何か薬を？」

劉・高名「舞さんですね（だな）」

マーナ「そこで意見がピッタリなるのも凄いですね〜」

望「その前に…小田。お前いつ起きた？」

透「本当だよ。いつ起きたんだ？」

高名「…どうしてでしょうか？なにか電波的なものが…」

来牙「…そんなこと、彼女の前と言う事で」

高名「10時以降までに僕が両の足で立っていれば、12時から
笑わせる人と叩かれる人を全員交代すると………」

劉「全員！高名を守れ！」

望「彼が最後の希望だ」

アキ「…高名は私が守ります！」

来牙「それは言う事だな。すまなかった」

クリス「たかたかを守る？それはアキびよんにお任せするねい」

高名以外「虚弱を守るんだ！そして俺（私）たちに逆襲を！」

高名「…すみません、話がよくわからないのですが？」

現在時刻：午前10時14分

第3問：操の助言 高名の護衛？（後書き）

…まずい付線を立ててしまった！

光闇雪様。マロ様。あづま様。GAU様。キモヲタ様。レフェル様。
ヒョウガ様。感想ありがとうございます！

…えゝこんな感じで一話一話が短くなりそうです。本当に暇な時間がほしい。

最後の高名の一言？ああ…彼が立ってれば逆転の立場も面白そうかと思っただけを立てました。これからどうなるかは各キャラ次第！？

次回もお楽しみに！

第4問：タイトル？なにそれおいしいの（前書き）

…結構、間隔あったのにすくないや…お久しぶりの蒼です！

第4問：タイトル？なにそれおいしいの

望「僕が…僕が守るんだあ！」

劉「自分で死亡フラグ言っでどっするんだよ！..！」

高名「すみません。大筋が読めなくて困っているのですが…！」

絵梨「小田君…気絶してたしね」

来牙「さすがは貧弱だな」

望「そうだね」

沙耶「高名君…」

クリス「たかたか…」

透「小田…」

あかり「全員元気出してよ！まだチャンスはあるんだからね！」

直哉「そない事いわれとうも……」

恭さん「自分でわかりもしないわけ？」

マーナ「うー。私もわかりません」

慧汰「気絶してたから分かるのかそれ以前に！」

紅音「とりあえず大丈夫なの？」

高名の足はすでに（なにもしていないが）棒のようになっていた

アキ「とりあえず状況を整理しましょう。高岡さんからのお話によりますと高名が10時までで生存「待つてください！そんなこと一定なかった気がします！」…覚えてるのであれば説明は不要ですか？」

高名「…ごめんなさいアキ…説明して助けてください」

直哉「高名はん…絶対に頭あがらん」

マーナ「ですよね」

ゆうさん「…私も、翔子には……」

来牙「まあとにかくお前には叩かれないうちにしないといけない。

そうなるだろ？」

あかり「そうだけど…え？ありす？」

Aクラス内部で話をしていたはずだったが、ありすが教室にいつの間にか入って来て机の引出しを…

ありす「チエストオーツ！！」

桜花「高名くん、アキ、直哉くん、マーナ。ゆうさん…アウト！」

高名「ひでぶ！」

アキ「…くっ」

直哉「チエストー！って…痛いわボケ！」

マーナ「…どうしてマスターが言ったのをそうぞうしてしまったのですか？」

ゆうさん「Fクラスでこんなことする人は明久と劉だけよっ！」

劉「テメエなぐんぞ！」

あかり「何やってるのよありす！もしかして舞ちゃんと一緒に？」

ありす「私はポケ同盟の1人よ？」

あかり「ありすを信じた私が馬鹿だったわよ！この環境で」

ありす「てへっ」

中「……宮永妹、クリス、関戸、鴉取、花川。アウト」

劉「このネタ前の正月編でもやったろおお！」

紅音「隠しボタン…ププツ…」

クリス「うひゃっひやはひゃ！てへっ って…あびゃっ！」

絵梨「…ラ○カちゃんみたいに言われても…きゃあっ」

透「…ここら辺りは製作者の悪意が…」

蒼「ランカアアアアアツ！！！大好きだああつあああ！！！」

…ノイズが入ってしまい申し訳ありません！

高名「…それで…具体的な解決案、ぷっ…」

アキ「高名！何をやって…ふぶっ」

ありす「高名人形」

ありすが引出しから取り出したのは高名の人形（製作：ムッツリ
―（二）だった…

草子「高名くん！アキちゃん！あうとだよっ」

望「…なあ、コレでちゃんと終わるのか？」

来牙「とりあえず諸悪の根源である藤川と福間を倒さない限りは何も始まらないな」

絵梨「とりあえず小田君…大丈夫なの？アキさんより体が動かなさそうなんだけど？」

それは誰にもわからない…

第4問：タイトル？なにそれおいしいの（後書き）

…蒼です。

皆さん、お待たせしてしまって申し訳ありませんでした！

小説の方は皆さんのを読ませて頂いておりますが…休んでる間にとっても量があつて早く追いつかねば（汗

といった状態です。こうして小説の投稿も両親のPCを使わないとネットに接続すら出来ない状態です…

けれども、更新はしていきますのでどうかよろしくお願いします！

マロ様、GAU様、あづま様、レフェル様、光闇雪様、ヒヨウガ様、キモヲタ様！感想ありがとうございます！

あづまさん…凄い羨ましい…あ、こっちの話なのでおきになさらずに！

次回…昼食！地獄の料理人登場！

お楽しみに！！

…そういえば、バカテスOVAまだ見てないや…早く見ないと

第5問…こんなときだからこそやるべきことをする！(前書き)

更新遅れてすみません！それに今回は「笑っては」要素が無い…

今回はのんびり？ですし少々短いですが…ではどござー！

第5問…こんなときだからこそやるべきことをする！

高名「やれやれ。舞さんは僕の人形を使って何をしたかったの
でし
ょっね？」

アキ「……じー」

高名「アキ？どうかしたのですか？」

アキ「その人形…くれませんか？」

高名「え？」

第五問！こんな時だからこそやるべきことをする！

boys&girl? side

劉「とりあえず昼食の時間だし、食堂でこれからのことを話したいんだけどよ…」

直哉「せやな。ワイらの行動なんてバレバレやろっし」

慧汰「腹が減っては戦は出来ぬ。だしな」

透「俺も賛成だ。こんな所に長居するくらいなら早く飯を食べたほうがいい」

来牙「賛成なんだが、とりあえずは参謀役の小田と…」

望「…そうだね。まずはあの二人を」

ゆづさん「ちょっと待ちなさいよ!girls?って!」

恭さん「…今の状況を考えたらそうもいえないわよ?」

クリス「あちしはアキぴょんに作戦を考えてもらったほうが良いと思うよん？」

マーナ「でも、作戦なんてあるんですか？」

絵梨「作戦以前に笑ったらダメだと思うんだけど……」

沙耶「笑わないなんて無理だよ、助けて望む」

紅音「…私は慧汰が無事ならいいんだけどね。クスツ……」

あかり「紅音ちゃん怖いわよ！…黒幕はもう舞ちゃんたちポケ同盟と…雷太くんだよね」

絵梨「頼みの二人って……」

高名「…アキ、熱でもあるのですか？」

アキ「大丈夫で……た、高名！？いきなり額に手を当てて……」

高名「あ、すみません……でも熱を確認したかったので……」

アキ「別に触りたければ良いですよ？」

高名「大丈夫です。本編では全くといって良いほどあえなかったの
でこのときくらい無茶をしても大丈夫ですよ」

他「（この二人…何やってるんだ!?!）」

慧汰「小田…何やってるといわんばかりに間接があああつ！紅音、
いきなり間接を極めるなあつ」

紅音「だって、あの二人見ていると妬けてくるからさ。私たちも」

慧汰「ぎゃあああああああ！」

絵梨「来牙君、私たちもあんな感じにしない？」

来牙「今異端審問会を敵に回したら無事に帰る保証は無いぞ？」

絵梨「そうだね…何であんな活動しているんだろつ」

望「このメンバーとなると、話題とかに飽きなさそうだね…」

沙耶「私も。でも望と一緒にだとさらに楽しいよ！」

望「沙耶。…ありがとう、俺も楽しいよ」

ゆうさん「やりたい放題ね（……ゆうさん……どこ？）今の言葉は幻聴ね。翔子がいるはず無いわ」

恭さん「（やっぱり女装趣味なのね）…友香の音が聞こえた気がするわ。どうしてかしら」

透「…直哉」

直哉「…桃宮はん」

あかり「もうこんな調子のほうが逆にわらやあな…噛んだ」

ゆう「マーナさん、関戸さん。アウトです」

マーナ「こんな所でかまないでくださいよ〜」

劉「あかりいいいい！痛いわゴルアア（ボスツ）」

FFF「ぎゃばらっ」

クリス「りゅんりゅん…容赦ないねい…」

高名「皆さん、昼食に…置いていきますよ？」

アキ「食事をとらないと笑いが我慢できないと思いますよ？」

皆「あなた（お前）達のせいよ（だ）！」

第5問：こんなときだからこそやるべきことをする！（後書き）

…
PV103 / 277アクセス

ユニーク15 / 345人

…ポカーン（。。。）

こんなに自分の小説を読んでくださる方が…皆さんありがとうございます！
います！

あづま様、光闇雪様、キモヲタ様、ヒヨウガ様、レフェル様、GA
U様、マロ様！毎回感想ありがとうございます！
……早く読み進めて感想を書きに行かねば。

今回はカップル？主体の話にしてみました…はい。皆さんのキ
ヤラが立ってるかどうか心配で怖いです…

地獄の料理人は何人いるのやら…

第6問：それぞれの必殺！？料理人（前書き）

更新遅くなってしまい申し訳ないです…。いきなりプロバイダを変更されて設定に悩まされていた蒼です。

食堂にいるのにも関わらず食事すらとっていない皆さんでしたが、そろそろ昼食を取ります。バカテスで食事といえば彼女ですが…。どうでしょうね（黒笑）

ではどうぞ！

第6問：それぞれの必殺！？料理人

明久「それでは皆さん！食事を配るのでお一人ずつおならびください」

秀吉「受け取りはあちらとなります」

透「お前らは何をしている！」

第六問！料理…それは命がけの戦い（謎

明久「皆さん、その順番で大丈夫でしょうか？」

慧汰「明久、お前何をたくらんでやがって間接があああっ！」

紅音「私は慧汰と一緒になら問題ないわよ？」

絵梨「私も来牙君となら大丈夫だよ？」

来牙「だそうだ？…明久、何を考えている」

アキ「私も問題ありません」

高名「僕もです」

劉「どうしてテメエとなんだよコラ！」
ゆうさん「それはこっちの台詞よ」

クリス「あちしはあかりんとだねい よろしくだよん」
あかり「よろしくね？クリスちゃん」

望「…毒が入ってないか心配だな」
沙耶「望が見てくれるから大丈夫だよ」

恭さん「何であなたとなの？」
マーナ「マスターが写真をとって来いといわれたので」

透「俺は直哉とか」
直哉「昼食のみやけど、よろしゅうな」

明久「それでは慧汰と花川さんどうぞ！」

そう言っ出てされたのは…

秀吉「今日の為に花川が…わざわざ朝早くから作ったお弁当です」

慧汰「嬉しいんだがちょっと待ってくれ」

紅音「どうしたの？」

慧汰「どうして…どうして卵焼きが赤色になる？」

紅音「愛を込めて唐辛子を入れたのよ」

中「……関戸、……クリス、……来牙。アウト」

バシイン！

劉「慧汰あああ！テメエなんて事言いやがる！」

来牙「どうして愛を込めるのに唐辛子を使う……」

クリス「ぐびゃあっ！」

ゆう「ゆうさん、アウトです」

ゆうさん「クリス！なんて叫びかたをするのよっ……！」

紅音「さっ。ゆっくり食べましょう（襟首を引き摺って運んでいる

……」

慧汰「あがががが、ふごごごごご！（首が絞まっている、死ぬわ！）

」

望「…最初からこれって、どれだけ酷いんだよ」

透「…俺の番なんて考えたくも無いな」

そうもいうが、地獄の蓋は待つてはくれないようだ。

秀吉「宮永兄妹にはおばあ様からお弁当を頂いております！」

来牙「今日は絵梨が作らなかつたんだな？」

絵梨「ごめんね来牙君。今日はおばあちゃんが早起きしていて多めに造っていたからちよっと貰っちゃった…」

中「……宮永姉妹。……福間から（屋上のカギ）」

明久「それぞれ午後の授業が始まるまではご自由にどうぞ。それぞれお二組に合った場所をご用意させていただきます」

絵梨「来牙君。いこっか」

来牙「そうだな…休みは短いから早めに行くか…」

明久「次の二人は……」

高名「吉井、どうかしたのですか？」

秀吉「ゆでたまご20個でございます」

舞「高名くん、アキちゃん。アウト！」

まだまだつづく蓋の開放であった…

第6問：それぞれの必殺！？料理人（後書き）

光闇雪様、GAU様、キモヲタ様、ヒヨウガ様、マロ様、レフェル様、あづま様。感想ありがとうございます。

…通知表を見られる 説教の毎日が続いていました…

PCも乙スぺなりに最近は安定してきているので更新スピードは遅くはなりませんが…安定？できると思います。

次回もお楽しみに！

第7問：鍋と村野姉妹と舞ちゃん（前書き）

皆様、長い間更新を停滞させてしまい申し訳ありませんでした。

…このくだりとなると、活動報告で書いたことと同じ感じになって
しまいそうなのでこの辺で…

今回は残りのメンバーの昼食と笑わせる側の会議だったりします。
完全に文書いていない状態だったので、皆様に満足していただける
か分かりませんが

第7問：鍋と村野姉妹と舞ちゃん

前回までのあらすじ

紅音「愛を込めて唐辛子を入れたのよ」

慧汰「あがががが、ふごごごごご！（首が絞まっている、死ぬわ！）」

彼らの恋は一直線であった

慧汰「全然違うだろうが！ここに愛を感じる奴がいたらすぐ俺の前に出て来い！」

ザッ（周囲にいたメンバーが慧汰の前に立つ）

慧汰「…俺なんて」

劉「めしだああああああ！！！！」

ゆうさん「うるさいわよ劉！静かにしてくれない？」

秀吉「え〜関戸劉と霧島「坂本よ」…霧島ゆうさん」だから勝手に

風子「わたくしは大変よろしいと思いますわ。皆さんが笑っていらつしゃって、とても楽しそうですわ」

草子「私は全然たのしそうだよー！私も混ざり…」

中「……それはダメ。……これは色んなキャラクターの交流や友好を深めるためのもの……俺たちは悪役でいい」

桜花「そうね…彼らが楽しむためにわざわざ村野姉妹に頼んだんだけど…極悪だね」

ゆう「まあ、私たちは私たちに出来る事をするのよ。…関戸君とゆうさんのは誤算だったけどね」

風子「さすがの私でも…アレは食べる気になれませんわ。草子も拒絶反応を出すものをどうやって食べるといふのです事!？」

草子「ちよつと風ねえ！私を野生児だつて言いたいの？」「そうよ…舞ちゃん〜ぎゆう〜…」

舞「…（私たちが勝手に行う事をあの学園長が許す筈はないし…でも、さらに言わせてみるとあの薬を作ったのは、私でもマイスターでもない…誰なのかしら？まあ村野姉妹の参加理由は別として）草子、ちよつと探ってきて欲しいものがあるんだけど？」

草子「なにとつてくるの？なんだろ？」

続く…のかな？

第7問：鍋と村野姉妹と舞ちゃん（後書き）

草子「そうごと!」

風子「ふうこの!」

村野姉妹「姉妹雑談部屋!」

風子「つていわれても全然わかりません事!」

草子「えっとね、皆様の小説で後書きとかに雑談みたいなのが入っていて面白そうだったから入れたらしいよっ!」

風子「…やれやれですわね。マロ様、GAU様、レフェル様、ヒヨウガ様、光闇雪様、あづま様、キモヲタ様。観想のお書き込み誠にありがとうございますこと」

草子「先週の活動報告へのコメントもありがとうねっ!とつても嬉しかったよ!」

風子「今回…話進んだと思います?」

草子「全然。というわけで今回のゲストは作者さんの蒼です」

蒼「あ…みなさん、更新のほう滞っていた上にこのような感じで申し訳ないです…自分でも何故か不完全燃焼なきがしていて」

風子「そうでしたらもっと時間を取れば良いと思いますわ」

草子「それはバイトに生徒会に部活に勉強に頑張っていないけど、蒼は頑張っているんだからさ」

蒼「おかしいな…自分のキャラクターから色々否定されている）、
、
」

村野姉妹「だって蒼だもん（ですもの）」

蒼「ひどいっ！」

風子「これ以上話していると、ggdggdになってしまいそうなので今回はここまでとさせていただきますわ」

草子「次回のゲストは劉君の予定です！それでは皆さん、また次回の更新でお会いしましょう！」

蒼「これからもよろしくお願いします」「orange」

第8問：やっぱり、どこかで節約しないとboy舞（前書き）

特別問題：第8問です！

…やっと夏休みだ。部活をあわせても午後の一部しか時間はないけど…あれ？もうすぐ連載開始から一年なのに……（滝汗）

クリス「お弁当？…普通のだよい…？」

あかり「よ、よかった…なにもツッコミどころがなくて」

秀吉「製作者は鉄人こと、西村教諭になっております」

中「…桃宮。…アウト」

あかり「痛っ…こんなギャップ、こんなギャップが…」

クリス「……」

こんなやり取りが行われている中、クリスは怪しく微笑んでいたという…

二人はお弁当をとり、Bクラスへと向かった…

会場であるAクラスは、少々引き出しの中身を細工するために昼食時には立ち入り禁止になるために他の場所で食事を取ってもらっている…例外としては、床に転がっているゆうさんと劉だけであった。

望「で、僕たちの料理は沙耶が作ったのか？」

沙耶「え？私は作ってないから……」

秀吉「保科さんと白石さんのは、保科さんの母親様から『愛のオムライス？』を預かって降ります」

そこには、1つの大きなオムライスに「沙耶ちゃん」と「望」の間にハートマークをケチャップで書いた外見だけならとてつもないボリュームと、ケチャップでかかれた文字が可愛らしさを残している？

望「…どう見ても四人前の量だよな？これって」

沙耶「いったただきまゝす」
望「そう言っている間に一人前分が消え去ったな……」

恭さん「次は私たち「恭さん・マーナさんの分は乾パンです」って
どういうことよっ!」

秀吉「えーどうやら、各々の材料費がとんでもなくかかったらしく
(主に鍋)どこかで削減をするために、プログラムのため…食べな
くても問題ないマーナさんたちがくじで決定いたしました!」

マーナ「私はもんだいなのですが、恭さんが……」
恭さん「問題大有りよ!そんな事言われてくべっ」

明久「少々嬉しすぎてはしゃいでしまったようですね」
恭さん「絶対、わざとよね…(キュポツ)きゃあああ!」

透「わざとだよな!絶対わざとだよな!」
直哉「あつはつは!面白いであんさん方!『直哉君、アウト』へぶ
しゅっ!…おお痛う。…それで、ワイらの食事はどないしたんか?」

秀吉「鴉取と海棠には、代わりに渡せと言われた紙があるのでそれ
をお渡しします!」

そう言つて…手渡された紙は……

(学園長) ババア長のセミナー写真だったらしく、それを見た二人は…午後の授業に参加できないくらい衰弱していたという…

〈昼食終了! 昼食終了!〉

舞「えーあー…じゃあ皆さん、昼食はご満足いただけましたか」

「はい」

「全然! ! ! ! !」

舞「…敬語疲れたわ。それじゃあ午後の授業「こっちの言い分は無視か!」に入るんだけど…鴉取くんと海棠くんは?」

劉「…物理的ショックを味わった、らしい…」

来牙「お前も十分味わったと思うんだが?」

劉「昔から食ってたから、耐性かもな…だけどあいつは犠牲に…」

ゆうさん」……………」

絵梨「ゆうさん、倒れちゃったね」

高名「それでは今のうちに、霧島さんに身柄を引き渡しましょうか」
慧汰「おいおい…渡すなら早めのほうがいいぞ？」

舞「まあいいわ。途中からでも参加できるしね…午後は教師全員が
来て召喚実習を行うわよ…勿論」

『こちら全員にフィードバックが入るようになっていいるから、気を
つけてね』

高名：5回（致命傷）

まだ少ない…？のかもしれないが彼にとっては重症

クリス：5回

案外笑っていたかと思えば5回。

アキ：5回

アニメ？関係で高名と共に笑ってしまいこの回数に。

来牙：2回

笑ったのは2回に抑えたが、遊佐によってタイキック一回。理不尽な

絵梨：4回

絵梨も笑ってはいたが、数は少なかった様子

ゆうさん：4回

4回ですんだのだが、姫路の鍋料理によって意識朦朧状態に

恭さん：2回

意外に笑ってはいなかったが、理不尽な要求により昼食が乾パンに

望：3回

さすがは望。『報告者』本編で悪役を演じていたからか笑わずにすんでいた

沙耶：4回

笑った回数が多いほうだが、彼女の性格からしたら少ないほうである

透：3回

…セミヌード事件被害者其の1。笑った回数少ないが…

あかり：4回

突っ込みの本能なのか。それともぼけへの執着心なのか？

マーナ：4回

プログラムでも、わらうんです！食事抜きという最大の被害者が
もしれない

直哉：2回

セミヌード事件被害者其の2。関西弁だから多く笑うかと思えばこ
の回数である

慧汰：1回

意外や意外。1番笑わなかったが唐辛子入りの卵焼きや全力全開の
旋風脚をくらったりといいキャラをされていて作者が助かっていた

紅音：3回

静かな彼女にも笑うところあり…後半戦はどう暴走するのか？

………続く

第8問・やっぱり、どこかで節約しないとboy舞（後書き）

草子「そうごと!」

風子「ふうこの!」

村野姉妹「姉妹雑談部屋!」

草子「何か二回目になっちゃったね」

風子「ええ。そうですね…今回のゲストは劉君ですわ」

劉「ああ。関戸劉だ…あの料理は死ぬってレベルじゃない…生きてるのが不思議に思えた」

草子「さ、さておきだよっ!とりあえず夏休み始まったんだから、更新速度も格段に上がるは「そんな事はないのですこと」…え?」

風子「連載を始めたのが夏休みですから…しかも水泳部というとても忙しい中に更新を開始したというのに…」

劉「そ、そうだな…いつの間にか他の作者様にも置いていかれるよな感じも…あつ。光闇雪様、GAU様、マロ様、キモヲタ様、レフェル様、ヒョウガ様…感想ありがとうなっ」

草子「他の作者様の小説は今週一週間を使って全て読ませてもらったから、近いうちに感想を書かせていただきに向かうよっ」

風子「まあ…とある彼女を放り出して、可愛いそつにさせている愚か者もいるわけですわ」

劉「まあそうだな。今回はここまでだ」

草子「次回は…へたれの小田君に来ていただきます」

風子「通常の感想に加えて、ゲストへの質問をお書きいただければ
…後書きを使ってその質問にお答えさせていただきますわ」

そ、それでは次回の更新もお楽しみに

第41問：強化合宿開始（第三卷開始）（前書き）

夏休みに入ったお陰で執筆時間が結構取れるようになってきたので、短くてもなるべく早く更新出来そうです！

という事で告知通りに強化合宿に入らせていただきます

第41問：強化合宿開始（第三巻開始）

「翔子」

「……隠し事なんてしていない」

「まだ何も言っていないぞ？」

「……誘導尋問は卑怯」

「今度誘導尋問の意味を辞書で調べて来い。んで、今背中に隠したものはなんだ？」

「……別に何も」

「翔子、手をつなごう」

「うん」

「よつと……ふむ、MP3プレーヤーか」

「……雄二、酷い……」

「機会オンチのお前がどうしてこんなものを……何が入ってるんだ？」

「……普通の音楽」

……ピッ 《そして翔子、卒業したら結婚しよう。愛している、翔子》

「……」

「……普通の音楽」

「これは削除して明日返すからな」

「……まだお父さんに聞かせていないのに酷い……。手もつないでくれないし……」

「お父さんってキサマ……これをネタに俺を脅迫する気か？」

「……そうじゃない。お父さんに聞かせて結婚の話を進めてもらうだけ」

「翔子、病院に行こう。今ならまだ2、3発シバいてもらえば治るかもしれない」

「……子供はまだできていないと思う」

「行くのは精神科だ！……ん？ポケットにも何か隠してないか？」

「……これは別に大したものじゃない」

「え、なにになに？『私と雄二の子供の名前リスト』か。……ちょっと待てやコラ」

「……お勧めは、最後に書いてある私達の名前を組み合わせたやつ
『『しょうこ』と『ゆうじ』で『しょうゆ』か。……なぜそこを組み合わせるんだ」

「……きつと味のある子に育つと思う」

「俺には捻くれ者に育つ未来しか見えてこない」

「……ちなみに、男の子だったら『こしょう』が良い」

「『『しょうゆ』って女の名前だったのか……」

side Akihisa

新学期になって既に二ヶ月が経過した。日没の時刻にはゆっくりとだがはつきりとした変化が見えてきたのを感じるこの時期に、程よい気温でよく眠れたせいも、僕はいつもより少し早い時間に投稿していた。

「む？今朝は早いのも明久」

「よっ。はいじゃねえか明久」

教室に足を踏み入れると、クラスメイトが声をかけてきた。片や小さな顔にクリクリと大きな瞳。喋り方は変わっているけど、誰もが認める絶世の美少女。もう片や綺麗な背中まで伸びる蒼色の髪に可愛らしい眼鏡をかけている外見だけであれば本当に静かな女の子の

「あ、明久！またワシを女子扱いしおつて！」

「…で、お前は何でそんな封筒なんて持っているんだ？」

最初に爺言葉？で返事をしたのは僕と同じクラスの木下秀吉。もう1人は…僕と同じクラスで、何も気兼ねなく話すことができる関戸劉だ。どっちも普通に見たら美少女なんだけどな…

劉が質問してきた、封筒って言うのは僕がこの学校に到着して下駄箱を見たら…中に入っていたんだよね。僕のことだから、さすがにラブレターなんて事は無さそうだし…脅迫状？考えすぎかな？うんそうだよな？誰かがいれ間違えたのなら、確認して入れなおしておかないと…異端審問会はメンバーじゃないからばれなきゃいいよね…

吉井明久様

あなたの秘密を握っています

「最悪じゃあーっ！っ！」

この声は校舎内全てに響き渡っていたらしい……

この施設内での温度は常に15〜20 に一定になっていた。カプセルのような一人が寝るのに丁度いいようなものが幾つも置いてあり、足に。腕に。頭に色々な装置などがつけられていてその全ての人たちに薬を打たれたような痕が残っていた。

ここにいる人間は子供から大人。また女性や男性と数多くの人が寝ていた。寝かされている。といったほうがいいのかもしいない。

僕様の弟だ…その程度出来ないと困るぞ？

さあ、お前も人体実験に付き合ってもらおうよ

誰かが消えても悲しむ必要はない。新しい人がまた来る

あのくるった人間を見る。アレはお前がやったんだ……

ナア、詠み手さんよお？

「…ハッ!? また夢。ですか…」

最近…と言っても、病院で色々と危険な宣告を受けてから変な夢を見るようになりましたね…人体実験をしている場面や、薬品投与。

そして僕の手で何かを……まあ夢ですからあまり着にすることは
ありませんか。深層意識の中で起きる現象ですし、未だに何故見る
のかも正確にはわかっていない物を信用する理由もないですからね。
そう心の中で思いながら、高名は携帯の電話帳から『妖怪：学園長』
の欄から電話をかけ始めた

「お久しぶりになりますかね？小田です」

『小田かい？いきなりどうしたんだい…復学の手続きはもう終わっ
ているんだから、早く学校に…おっと、明日から強化合宿だったね』
「それを言い忘れていたら明日、僕は普通に登校してしまっていま
したよ！」

実際は明日の合宿についての確認だけだった為、高名はすぐに電話
を切って作業に入っていた。

「シゲン、起きていますか？」

『ん…どうかしたのですか？高名？私は起きていますぞ』

そう言いながら出てきたのは高名をデフォルメして、髪色を黒に変
えたA I召喚獣のシゲンだった。服装は寝巻きであったがどのよう
な服装だったかは割愛しておく。

「ちよつと調べて欲しいんですよ。僕は明日からの強化合宿の準備
に取り掛からないといけませんので…『夢』といっても寝ていると
きに見る夢について調べておいて貰いたいです。大まかでいいの
でまとめておいて貰ってもいいですか？」

『了解しましたぞ。高名…』

「ええ、おみやげもしっかりと購入してきますので待っていてくださ
いね？」

そう言って…今日は学校に行く事を辞めて、明日のことについて考
えていた。

「やっと、やっと戻ってこれた…再び合える事を楽しみにしていま
したよ…アキ」

高名は大事な人との再会を待ち望んで、再び眠りについた……

side may

私が遅刻寸前で教室に飛び込んでいたら、タツチの差で鉄人が飛び込んできました…よかった。

なにやら吉井くんの顔色が明らかに悪そうだし、劉くんや秀吉くんも疲れたような目をしています…

「遅くなつてすまないな。強化合宿のしおりのおかげで手間取ってしまった。HRを始めるから席についてくれ」

鉄人28が言っているとおり、私たちは明日から四泊五日で強化合宿に向かう事になっています。勉強が目的なのですが、泊まるという事もあってクラスの皆もやる気が出てきています。

『女の子とお泊りグへ…』

『これを機に俺も彼女が…』

…違う方向で楽しみらしいですね。Fクラスらしいと言えばそうですが、限度を知ってもらいたいわ…ただでさえAクラスの人からも襲撃？を受けているって言うのに…

「さて、明日から始まる『学力強化合宿』だが、だいたいのは今配っている強化合宿のしおりに書いてあるので確認するように。まあ旅行に行くわけではないので勉強道具と着替えさえ用意すれば特に問題はないはずだが」

ん……こんな後で見ればいいわよね？…といってバッグの中に放り投げて、粒状の薬を確認。これって湿度とかで保管できる期限が変わったりしちゃうから大変なのよね…

「集合の時間と場所だけはくれぐれも間違えないように」

集合ですか…こっそり別行動で行く事にしましょうかな？マイスターもアメリカに戻ってしまいましたし…自費でアメリカと往復するってどれだけ資産があるのかは分かりませんがね

「特に他のクラスの集合場所と間違えるなよ。クラスごとでそれぞれ違うからな」

まあクラス間の差別はあるとしても

「いいか、他のクラスと違って我々Fクラスは現地集合だからな」

『『案内すらないのかよっ！？』』

悲しき現実にクラス一同が涙しました

第41問：強化合宿開始（第三巻開始）（後書き）

草子「そうごと!」

風子「ふうこの!」

村野姉妹「姉妹雑談部屋!」

草子「三度目の正直!いえーい!」

風子「そろそろ私を王女として迎えて頂ける作者様もいらっしゃるでしょうね」

高名「居ないので安心して下さい」

風子「手厳しいですわね…今回のゲストは『星の詠み手』小田高名さんですわ」

高名「こんにちは…で宜しいのでしょうか?小田高名です。最近読み始めていただいた作者様。僕は「たかな」です。こうめいではありませんよ?」

草子「うんうん。だけど彼女は泣かせては「な、何を言っているんですか!?僕が泣かせるわけ」ずっと放って置いたりすると大変だよー?」

高名「僕がへたれとして扱われていますね…」

風子「仕方がありません事…あづま様、GAU様、マロ様。ご感想ありがとうございますよ」

高名「次回のゲストは…舞さんですね。それでは今回も失礼させて

いただきます…」

草子「おもったんだけど、このコーナー。ちゃんと成り立ってない気がするよ?」

風子「言うてはいけませんわ草!」

一周年記念！クラスの始まり（前書き）

あれ…いつの間に一周年だ。あはは…そこまで作品進んでいないのに。

という訳で今回は「劉たちの一年生？」といった感じで進めさせていただきます。

簡潔に言つと7・5巻の美波が来たとき、劉たちは？といった感じですよ。入学当初の劉たちは、どうだったのでしょうか？（黒笑

ではごっごぞー！

一周年記念！クラスの始まり

高校の入学式。それは人それぞれだが色々な思いを胸に望むものであった。

スポーツや勉強。その他の生徒会活動などにも関わっていこうと思っ
ている生徒は多い筈である…しかし、その思いが別の方向に向い
ている生徒も居たのであった。

「…試験召喚システム。これなら正々堂々…」

「問題点の異常を修正。これより召喚獣プログラムの修復作業に移る」

「ここでならゲームもしながら…」

「嗚呼…さすがは大きな校舎ですこと。この私がわたくし巣立っていくには
ふさわしい学び舎ですわ」

「ここでなら学費も掛からない。時音の医療費も増やす必要もある
し…」

これは、五帝がFクラスに入る前の学年での物語…

一部キャラが第1問と大きくかけ離れていますのでご了承ください。主に高名とか高名とか高名とか（ry

「皆さん、文月学園にご入学おめでとうございます。私はこのクラスを担当を努めさせていただきます高橋洋子です…それでは皆さんの自己紹介自己紹介に移らせていただきますと思います。窓側の席の人からお願いします」

高橋女史は、そういうと隣に用意しておいた椅子に座って話を聞こうとした。順調に進んでいた自己紹介だったが…

「関戸劉だ。ケンカ上等戦争上等。だがルールは守らなきゃ意味ねえから…むにやむにや…zzz」

「関戸さんはどうやらすぐに寝る癖があるようですね…次の方、お願いします…あなたは、京さんの？」

「小田高名。よろしくしようとも思わないので覚えなくて貰って結構。むしろ関わらないでくれると嬉しいです」
ぴしゃり。と静かに淡々と言い放たれて教室が静かになった。

「お、小田さん…もう少ししっかりした紹介は「ないです」…そうですね」

少し暗い表情をしながらも高橋女史は

（あの京さんの息子であるとしたら…ゆっくりと直すしかありませんね。今どうこういったところで始まりませんから）

何か納得したかの表情で自己紹介を進めていった。

「やつほー 私は村野草子だよ。いえいつ…！よっろしくねー！

！」

「…双子の姉の村野風子ですわ。愚妹が迷惑をおかけいたしましたわ…一年間よろしくお願いいたしましたよ！」

この二人の紹介により、男学生徒が沸き立って険悪なムードが去っていった。すると草子が高橋女史にウイंकをして合図を送っていた。それにより少しながらも安堵の顔を見せていた。

「それと…このクラスには藤川舞さんがいらっしやいますが、体調不良のため本日は早退してしまいましたので、後日に自己紹介などはしてもらってください。これでLHRを終わります。礼」

高橋女史の礼によって本日の学校が終わった。先生が教室を出た途端、

「おい小田！あそこまでの言い方はないだろ！」

と劉が激哮して詰め寄った。それに対してあくまで平然の態度のまま言い返した。

「それがどうかしたのですか？僕には君達を相手にする理由が分かりません」

「ッ…テメエ！なんなんだよ孔明が！いきなりあんなこと言われるクラスの立場になって見やがれなんとも「思いません」…」

「第一、君が周りを気にかける必要もないと思えますが？劉…全くふざけた運命ですよ。まあ、僕は君を相手にする気も話そうとも微塵とも思ったりしませんから…どいてください。はつきり言わせていただきますと…このセ世界にいる全ての人が迷惑だと思っていますから…分かっただらどいてもらえるか？それとも、言葉すらわからないバカでしたか。バカ劉め」

「おいクソ野郎！いいいたいことだけいいやがって！お前はアレか？『最初は完全にツンツンしていながらも最終的にはデレが発生する』敵役ポジションのやつか？ああっ！？クソ高名がっ！」

これはほんの一部に過ぎなかった…他のクラスでも

「……塚原中。……スナイパー」

「私は橘桜花！下克上の世の中、…誰が頂点に立つか勝負よ！」

「神崎ゆうです。本を読む邪魔をしたら十六分割にいたしますので、楽しく過ごしましょうね？」

それぞれの学園生活が始まっていた…

高名「って、僕がとてもおかしいんですけど！？あそこまでアンチな設定だったんですか！？」

そつだな。君が冷静すぎるからな。それに…最初は一匹狼でもよかつたんだぞ？それともアレか？彼女がいる前で初期設定のロリコンをみせつk「それだけは止めて下さい」…だろ？だったら諦めるんだな

劉「それはともかく短くないか？」

確かに短いな。でもこれからやる事あって色々と限界があつたんだよ！高名と劉の最初が書ければよかつたんだって！女性陣の出会いも書く予定だからさ！…来年

風子「遅くありません事！？」

まあいいだろ。村野姉妹と舞の出会いを書いたら結構黒い話や大いにネタバレを含んでしまう。だからこそその処置だ。

舞「何はともあれ、これで一周年か…すっごく早い気がするんだけど？」

草子「本編だと二月程度しか経過していないからね」

劉「まあそうだけど、こうして呼んでくださる読者や感想を下さる人がいるから続けたんだよな」

高名「これからも、五帝の皆さんと作者共々よろしくお願いいたしますね」

草子「……ありやりや、見つかつちやつたか。しょうがないな……ちよつとしたヒントをあげるよ。劉君と高名君。二人ともすつごく仲が悪そうに見えたでしょ？それに一年間であんなおかしかった高名君が変わると思う？……本文にはなかったヒントを残していくから、考えてみてねっ！ここでのヒントは『高名の召喚獣プログラム開発』と『劉の文月学園への志望動機』この二つだよ。最初のは分かりやすいけど、後の劉君は今までのものじゃあ語られていない事もあるから難しいかな？……どうしてライバルなのかも考えてみると

いいかもね…それじゃあ、また次回で会おうねっ「！」

第42問：騒動。そして帰還

…目がさめた。はつきり言って気持ちのいい目覚めではない感じだったが…

「やあ劉。起きたのかい？」

「ああ、明久　コイツは一体？」

目がさめてすぐに、俺は状況確認するように頭を切り替えた。

目隠しをさせられて、正座を強制させる石畳：おまけには手をご丁寧に縛られているときた。こんなものを何のためにするのかも考えつつ。

「さて吉井。覚悟は出来てるでしょうねえ…？」

「吉井君。盗撮はいけないことなんですよ？」

「待て翔子！俺は覗きなんてギヤアアアアアアアアアアアアアアアアアア！」

「……浮気は許さない」

「……俺なら、見つかる真似はしないっ……」

やれやれ、耳障りな声は以前から変わっていないよう

〈回想〉

電車内にて、そろそろ昼食の時間になったFクラスのメンバーがそれぞれ食事をはじめようと思った所…

「皆さん、もし良かったら私のお弁当…少し食べませんか？」

化学兵器が襲来してくるのであった。その間に

(……………雄二に全て食わせる)

(…瑞希め。また何か入れたな?)

(……………どうやって明久と劉に食わせるべきか…)

(……………雄二、援護する…)

この思考が完結するまで約1.5秒…

「悪いな姫路、俺は昼食用でメロンパンを」

「おっと、手と足が滑ってしまった」

バサッ (劉の手からメロンパンが離れる)

グシャッ! (メロンパンが足に踏み潰される)

ぼたぼた… (メロンパンに醤油が垂れていく…)

「おっと…これじゃあ食えないな。可愛そうに」

わざとらしい笑みを浮かべながら、劉のほうを向く。

「ああ、食べ物は粗末にしちゃいけないから」
「……………俺が食っておく（ひよいつ）」
そう言っつてメロンパンを口に入れる…万事休すか。こうなりやつ！
「姫路、頂くぞ…モグモグモググロッパア！！」

回想終わり

「……………劉、中学時代の「よし、アイツの写真二十枚だ」…オ
ーケー」
よし、康太はアイツの写真を売却することで手を打った…後は
「……………上等じゃねえか」
雄二を成敗…と思ったが、怒気を含めたその声に劉も怒りを納めて
聞いてみた。
「雄二？やるつてなんをするんだ？」
「どうせここまでされたんだ。本当にやってやるうじゃねえか」
何かに火がついたみたいだけどな…
正直今の状況、俺は冷
めている。

どうせFクラスだからって決め付けてあいつ等がやってきたことだ。そこまで否定できる材料もない俺たちには、否定はするけどどうせ信用はしてもらえねえ…

「とりあえず。俺はパスだ…ちょっと顔洗ってくるわ」

「待ってくれ劉、話を聞くだけでも」無理だ。今回ばかりはさすがにどうでもいい」…ああ、そうかい！勝手にしてくれ」

雄二の静止も聞かないで、俺はさっさと外に向かっていった…

「劉がいなくなると戦力が…いや、そこは久保や塚原にも援軍を…」

卯月高原にて

「……………さて、どうするか」

部屋を出て、ホテルの外で俺はこの合宿期間内で明久達の脅迫犯を探す。…一独りで>…<。

こんな事考えたやつと同一犯なのは確かなんだけどよ……………足音？

劉は、後ろから近づいてくる足音に気づき声を掛ける。

「誰だ？こんな時間に出てきてよ」

「……………やれやれ、せつかく帰ってきたと思っただら僕はやっぱりの除け者なのでしょうか？」

その声

「しかし、先ほどから君は何かを考えていましたが…また事件でも起こしたのですね…」

その髪色

「……………おせえよ。最強の貧弱野郎が」

「これでも急いだほうです。文句を言われる筋合いはありませんが…
… ただいま、劉」

俺が今まで悩んでいた事も、こいつだったら絶対に乗り越えられる。
そう思っていたやつ

「うつせ。…お帰りだ。—高名>・・く
かつての級友が帰ってきたのであった。」

第42問：騒動。そして帰還（後書き）

蒼「orz。」

草子「私たち女性陣の出番が無かったよ……」

風子「仕方ありません事。蒼の文章力が足りないせいですわ。マ口様、GAU様、あづま様、大和様。ご感想感謝いたしますわ」

草子「更新が遅れた理由はこの後活動報告に書くらしいよ……私たちの出番いつなのかな（ヒソヒソ）」

草子「今回は高名君が帰ってきたお話と、……ゆうじくんが何かに目覚めたんだね」

風子「吉井さんたちは毎度瑞希の……瑞希もいいこですのに……」

蒼「高名君がせっかく帰ってきたんだから、もっと感動的な帰り方もあったけど……そんなシリアスやってるから高名が主役だって言われるんだ！すこし自重しろコラ！」

草子「さて、次回は……」

「……僕も、手伝うよ」

「わたくしもですわ！」

「私は楽しそうなほうにつくっ！」

「……高名？」

「……こちら側からのアクセスを完全に拒否された……？僕が……解読、出来ない？」

第？問予告っ！

風子「草子！これは最後のほうの予告ですわ！」

草子「えっ！あわわわ時間があ…それでは皆さん、またお会いしましょっ！」

第43問 復活しどろろ（前書き）

投稿させて頂きました、どうぞよろしくお願いいたします

第43問 復活〜しどろ〜

「…このような事を頼んでしまい、すみません…はい、この合宿場のフィールドに歪みを見つけたので修正していただきたいのです…本来なら、僕がやるべきなのですが…ええ、全て終わったら僕と行っていただきたいところが、即答ですか。ありがとうございます…ではお願いしますよ?」

……

s y d e m a y

合宿一日目。宿舎に着いて説明を受けた後、私と村野姉妹は部屋でのんびりしています。

本来、この部屋に居る桜花ちゃんとゆうちゃんはそれぞれC、Dクラスで何かを遣っているようですが…

「暇ね」

「暇ですわね」

「暇だよ〜」

と言わんばかりに暇を持って余している。草子に至ってはゲーム類を全て没収されてしまい、やる事が見つからなくなっていた。風子も何所からか持ち込んできた豪華そうな椅子に座ってのんびりしていた。

「じゃあ、代表の部屋に行かない？多分何か持っていそうだしね」
「…遊ぶもの！？行くっー！」

「まあ、一私>わたくし<の暇を潰させるのもいいことですね」
そうして、私たちは代表の部屋に向かったのだが…

「……あ、藤川」

「………何しにきた」

いきなり怒りの目を向けてくる土屋君と、きよんとした感じで私たちを見てきた『執行委員』の塚原君。私たちには何かをした覚えは無い。

「どうしたの？よしいくん遊ぼうよ」

「王である私を中に入れないなんて…なんて無礼者ですよ！？」

「お前からこそ話を聞かないで暴力に向かう時点で無礼者に決まっているだろ！」

私たちと代表達の話が噛み合っていない？どういうことかしら…

「まあいいですわ。坂本さん…ずっと部屋に籠りつきりでしたので話していただけませんか？」

「私も、何も知らないから少し聞きたい事があるんだけど…」

そういつたら、以外にも代表が部屋に上げてくれて話をしてくれた。その話しには私は女子達への怒りと

男子への軽蔑も思った。

ね

「…そこは見逃せつて、俺も正直呆れてるけど 仕返しには全力をもって相手するだろ？ だったら人数が多いほうがいいじゃねえか。頼むぜ、相棒！」

「分かりましたよ、相棒…君が着いて来ればの話ですけどね」「なんだと？ このクソ高名の分際で言うようになったじゃねえか！」「やはりバカ劉はバカ劉のままですね。というよりも、以前より酷くなっている気がします？」

「ありがたいことだろ？ だってよ…遠慮なくお前を殴れるんだからなあ！ 高名ああああああ！！！」

「おわつと！ 危ないですね…僕も、こうやって話せる相手がいて嬉しくもありますよ！」

s i d e f u k o

坂本さんの話をお聞きしましたが、…彼らも嘘をついているわけではなく、そして証拠がないのにも関わらず犯人扱いですか…

「坂本さん、その犯人探し…私も手伝わせて頂いて構いませんこと？」

「いいのか？ お前らまで何か言われる…」
…いちいち確認しないで良いわよ！

「構いませんわ！臣下が困りになつているときに何も出来なくて何が王ですの！？私とて無下に出来る内容ではありませんこと！」

「私も参加するよ、のぞきとか興味ないけど…犯人とは、少しお話したいからね」

「村野姉妹…感謝する。藤川、おまえは？」

しかし私は、そのとき少しばかり後悔いたしました。

「……ないで」

舞さんの妹は

「アンタ達男がそんな考えするからっ！！時音は！ああなつたのよ……！」

何者かに襲われて、精神的ショックでああやって寝込んでいますの…

第43問 復活しどろろ（後書き）

いかがでしたか？

久々の劉と高名の会話

そして二つにかれる五帝女性陣…

あづま様、レフェル様、GAU様、ヒョウガ様、光闇雪様、マロ様。
ご感想ありがとうございます。

個人的には五帝も対立させてFクラスメンバーとも戦わせて見たく
こうなりました。原作キャラが影にならないように動かしていく予
定です…舞が動くので彼女達も…どうでしょうね。

次回の更新もお楽しみに

第44問：葛藤くまいく（前書き）

更新させて頂きました、よろしくお願いいたします！

第44問：葛藤くまい

こうして、女子の風呂への覗き行為を決意し…風呂へと足を進めるメンバーたち。

「さつて、雄二くん。女子の後半組の入浴時間はあと四十分だから、行くなから早く行こうよ」

「…そう、ですわね。道を開いていただければ私も向かいますわ」

「…そうか、了解した。行くぞ皆」

「」「」「……（コクリ）」「」「」

「……私は、どうしたら良いの…最低な事を……」

第44問：葛藤くまい

syde Akihisa

3階の部屋から飛び出して、そのまま階段に向かった所で明久達は、

目の前に待ち伏せして立っているような一人の先生を見つけた。

「君たち、止まりなさい！」

覗きに向かう途中、前方から鋭い声が聞こえてきた！まさか気づかれたのかっ！？

「坂本さん、教師の召喚獣は……」

「ああ、物理干渉ができて点数が高い。誰かが止めないといけないな」

そつなんだ… 僕が観察処分者を選ばれる前は雑用も自分たちでしていたのかな？でもこつちには勉強が何故か得意な村野さん（妹）がいるんだ！

彼らは自信に満ちた顔で先を進もうとした…。

「……あはは」

「村野妹… 足止めを頼めるか……」

「……う、うん」

返事をする草子は、少し弱弱しそうに… しかし止める意思は有るかのようにゆったりと話した。しかし、この話し方はいつもの明るい草子からは考えもしなかったことであった。

「時に草子よ。お主の化学の点数は何点だったのじゃ？」

「確か後一点で……」

草子に対してFクラスは、勉強面では絶大なる信頼を寄せている。これは明久だけでなく、他のメンバーも文句無しに期待をしていたが…

「 無得点になる所だったよ」

その信頼が数十秒で揺らいできてしまった。

畜生！これじゃあどうやって戦えばいいんだ！

「先に言っておれ！ここはワシと雄二で足止めするのじゃ」

「村野妹は主戦力だ、彼女と…明久を入り口まで必ず連れて行くんだ（バンツ！）…何だ？」

雄二が力のある発言をして、先に続く道へ向かったとき、僕達の前を一発の弾丸が通り過ぎた。

それはわずかにしか認識できなかったが…弾が出て来た方向には、壁しかない。

その方向から一通の弾が、雄二の召喚獣の頭を突き抜けた！

いくら点差があり、召喚獣だろうと人間と同じ急所。頭部や心臓などを攻撃されたら点差などなく戦死扱いされてしまう。

距離もあり、銃を使う。…このような使い手は雄二が学園の知る人物の中でも一人しかいなかった。

「クソツ！こんな弾丸を正確に、そして出来るやつは一人しかいないよ！」

雄二が悔しがるかのように吐き捨てた台詞を聞いて、壁の向こう側で静かにスナイパーとして待機していた彼は静かに微笑んでいた…

〈男子大浴場側の廊下〉

『助かったよ塚原君。生徒には当たらないように召喚獣だけを狙いつつ援護してくれ』

「……了解」

そう言い放った口元近くまで伸びている黒髪が特徴の少年、塚原中は静かに召喚獣の銃身をずらしつつ弾薬を補給し始めた。

今で弾を三発発射した。装弾数は点数によって左右されるようだが、最高でも三発らしい。

【右に二十度修正。後は下に十度おろして。】
銃を通信で言われたようにむきなおさせる。そうして放った一発は誰かの召喚獣に当り、戦死した事を伝えられる。

「……執行委員は、一人じゃない！」

「……塚原の腕輪は、物理干渉を無視して召喚獣を狙える」
そうか……逆に召喚獣はデータの一種でもあるから、障害物を貫通したり出来ればそれは狙い放題おまけに、前から三人の影が見えてきた。

ムツツリーニが説明したとおりであった。彼の腕輪『貫通』は、召喚フィールド内であればいかなる物理干渉も受けずに銃を発射する。アサシンとスナイパーのどちらでも使用する事が可能であろう。

「落ち着け！まだ俺の召喚獣がやられただけ……やってくれたぜ」
苦虫を噛むかのようにして、雄二は静かに前にいた少女に対して言う。

「……遅かったわね。皆」

「やつほ〜 ムツツリーニ君？」

そこにいたのは、保健体育のナンバー1、3である舞と愛子。それに保健体育教師の大島先生が待ち構えていた。

「土屋、まさかここまでのやつだったとはな」

舞さん、工藤さんに保体の大島先生と学園が誇る？保健体育のトップ3が揃い踏みしていた。

いくら土屋でもこの三人を相手するのは楽ではない。

「まずいのじゃ雄二、ムツツリー二もすぐにやられそうなのじゃ……」
まさに窮地。

しかしこの動きに全く動じず、静かに動いていた風子さんが

「……全員、退却ですわ」

事実上の敗北宣言を出した。

退却。と宣言した風子は……悔しそうな顔をしていたが、この戦力差では勝てないと納得してしまったのである。

「どうしてだ村野！こいつらを倒していけばその先は「まだ分からないのですの！？それでもクラス代表でしょ？」だけこのままじゃ！」

「……落ち着きなさい、坂本雄二！貴方はクラス全体の命を預かるような立場にあるのですわよ！負けなら潔く認めて、再戦にむけて改めて準備するのが優先ですわ。……どの道、ここを超えても鉄人先生がいらっしゃるでしょ？」

「……先に鉄人を発見」

風子さんの一喝に対して、ムツツリー二が返事をする。やっぱりラスボスは鉄人啊……

この人数では確かに圧倒的に足りない。それに鉄人を押さえ込むことの出来る人が明久だけの現状で、このままでは全滅もありえるか

らであった。

「…すまない、冷静になれば考えられる事だった。戦争の禁止期間も合宿中には無い、今回は引き上げ」

「そうは行くと思っただか？未遂でも立派な犯罪のひとつだ。反省文を十枚書くまで部屋に帰ることを禁止させてもらうか」

そこにはいい笑顔の鉄人が仁王立ちしていた。ばかなっ…ここまで凄く距離があつたはずなのにっ！

「さあ、遠慮は要らないぞ？」

s y d e m a y

…やっぱり。行動に起こしたわね。

私が止められないから、実力行使で止めるしかないの。でもせめて言い過ぎたことを謝りたい…

「……藤川、落ち着く、今は執行委員のリーダー」

「分かってるわ、中君…私は執行委員として…皆が覗きに来たら止めるわ。すこし不安がぬぐえたよ。ありがとう」

「……困る」

舞を心配するかのように、中は落ち込んだそぶりを見せながら召喚獣を戻す。

「さて、こうなった以上は明日も来るかも知れないから、桜花ちゃんとうちちゃんをよんで作戦会議をするわよ」

そうよ、私は五帝の一員でもあつて執行委員の一人…だからこそどちらかが正しいか。それが分かる、だから正しい方につく…けど

「…少し、無理しちゃったわね」

「……！？藤川！」

S y d e R y u

所変わって、俺たちの部屋。この部屋には俺と高名、そしてもう一人……

「……zzzzzz」

俺以上に寝る、謎に満ち溢れた人物。上梨かみなしがいた……まあいいものと考えてるから問題は無いさ。

「高名、覗き組みは？大方鉄人にも止められたんだろ？」

高名は、空間上に投影された五つのキーボードをせわしく動かしながらも、劉の質問に答える。

「ええ、それに執行委員……舞さんと塚原に止められましたね」

「舞が執行委員側についたか……こりゃ、学年全体での大抗争になりかねねえぞ？」

女子側に舞、塚原、神崎に橘……野郎サイドにはFクラス達、村野姉妹。そんな中俺たち二人で向かっていったら……

「三途の川が見えるな」

「見えますね。……ああ、助っ人なら二人ほど確保できましたよ？ただ最終日以外は力を借りられなさそうですね」

「ああ、それで十分だ。雄二達もそこまでバカじゃないし、これか

らの行動も女王様がいるから間違いないよ」

一瞬、女王様と聞こえた瞬間。高名は指を動かすのをやめて劉に聞いた。

「劉、風子さんはもしや……」

「ああ、なんていやぁ良いかわからねえけど……どこかの組織に混ざっていた気がする……」

s y d e ????

「首尾はどうだ？オパール……オパール？また眠っているのか……定期報告の時間くらい起きていて欲しいのだけだな」

『落ち着いたらクオーツ。オパールもアンタなんかの話を聞きたくないってのもあると思うわよ？……んで、エメラル、彼はどうなの？』

「トパズ、君も話を聞けないらしいね……全く、エメラルも拳聖以外の事だったら簡単に行動してくれるのにな？」

「……劉には手をださないで。貴方達が彼に触れないで」

『あれれ？実験動物がいきなり何を言ってるのかしら？』

「劉に手を出すなって言ってるのよ！このクソドリル、アイツは関

「係ないでしょ!?!」

「レディを怒らせないものだぞ、トパーズ…それで、私たちにお話を聞かせていただけるのですか?」

「因果の戦姫、…文さん?」

第44問：葛藤くまいく（後書き）

マロ様、あづま様、GAU様、ヒョウガ様、光闇雪様、レフェル様。
感想ありがとうございます！

最後の少しは、この巻の内容には関係ありませんが、後々のフラグ
になります。この場面で彼女をだした事にはいずれお分かりに…

第45問：疑問〜こうかい〜（前書き）

：ようやくリアル事情から開放された。

生徒会の任期も終わっても、家での執筆時間の低さは変わらない…

orz

いつそネカフエで一度籠って執筆してみようかな？

それでは45問をどうぞ！

第45問：疑問〜こうかい〜

文月学園の二年生が合宿を始めて二日目。高原に合宿所があるためか、早起きして散歩に出かける者や朝日を浴びて都会等とは違った風景や気分を味わうものもいるはずだ。

しかし、その中でも一部の生徒達は最悪の目覚めをした者達もいると言う。

「…何て朝ですの。」

黄緑色の髪を頭の上から静かにどかしてムクリと起き上がる。時計の針はまだ早朝の午前五時をさしていたが、これが彼女
村野
風子の基本的な起床時間であった。

風子は、同室の生徒達を起こさずに洗面所に向かい顔を洗う。

「…私^{わたくし}は、もう…あの頃には戻れませんわ」

楽しかった中学生の思い出がかすかに甦ってくる…

『風子さん、人をまとめるのが苦手なんですネ』

『うっ、…うるさいわね！私に^{わたし}だって出来ない事くらい有るわよ』

『風ねえ…がんばれっ』

『がんばれっ。じゃ無いわよ草！あなたもしっかり授業くらいは受けなさいよね！？』

『フツツ…姉妹喧嘩もいいですけど、周りに恥ずかしくない程度にしてくださいね？』

『…はい』

三人とも笑っていた日常。

それが、崩れ去った後に自分を悔やんだ。友人一人すら救ってやれないことに

再開したときは、嬉しかったけど…変わっていた友人に対して何も出来ない自分を嫌った。

「もう、戻りたくない…私がどうにか…」

第四十五問：過去～あやまち～

合宿所に来て一日目。劉は少なからず悩みを持っていた。

「…どうしてこうも、ここまでトラブルが乱発するかな？」

「この学園自体に、トラブルと縁遠い所があれば教えてもらいたい
ものです」

俺が少しヤケ気味に話した独り言にたいして、高名があざ笑うかの
ように返してくる。…ああ、これが日常なんだな。

「朝食の時の視線が痛そうだったな。舞、あれでも無理してそう
だからな」

劉は、現在AクラスとFクラスの合同自習につかう教室にいない舞
の事を心配しながら話していた。

「舞さんでしたら問題ないでしょう。彼女、ああみえても強いです
からね」

「どうしてお前がそんな事分かるんだ？というツツコミを凄く入れ
たいんだが！？」

高名の情報源は一体どうなってやがる。

「まあ…これで情報収集がやり易くなったことには違いありません。
ですが、警戒は強まるでしょうね」

「ああ、でも雄二達はこれから女性側につくんじゃないか？」

「どうしてそう言いきれるのですか？」

「……スपीー…zzz」

劉と高名が寝ている布団の隣で、今も気持ちよさそうに寝ている上

梨を放置しつつ、二人は話しを進めていく。

「村野姉妹がいるんだぞ？あいつらに防衛させつつ女子の確認させりゃいいことくらい分かるだろ。俺だって覗きだから反対したんだ」「それでしたら…どうして昨日の時点で坂本に言わなかったのですか？」

高名は疑問を俺にぶつけてきた…。どうしてか？そんなの勿論

「 奴に助言するのは、霧島との婚約プランだけだ」

「君は彼をどこまで地獄に落としたいのですか！」

他人の不幸は蜜の味。ではなく劉にとっては雄二の不幸が蜜の味であつたようだ。

「んでも…舞、落ち込みすぎだな。」

「舞さんも、そうなる事が分かつていたのに…周囲のことを優先してクラスに対抗し「ちげえよ。そんなんじゃない」…劉？」

「別にそう考えるのは常識だろ。けど俺らなら数日たつたらゆるしちまう…自分に対してなんかあんだろ。それとも…俺たちから離れている間にどんな感じで過してきたのか、忘れたのか？」

劉の問いに、高名は劉に顔を向けることなく、答えた。

「…そう、でしたよね？ありがとうございます……」

n o s i d e

合同での自習をしている中、風子は一段落ついた勉強を止めてクラス代表である雄二の元へと向かった。

「坂本さん、少し…宜しくて？」

「俺もよろしくしたいところ…なんだけどな」
「……雄二、一緒に勉強」

そう、雄二の自他共に認める？Aクラス代表である霧島翔子が、雄二の隣で手を繋ぎながら勉強しているのであった。勿論

「異端審問会を鉄人が消え次第行う」

「クラス代表の癖に…俺たちを裏切りやがって!!」
「アンガー！フンヌー！」

クラスの『異端審問会』を奮い立たせるカンフル剤になっているようだ。

「霧島さん、私は坂本さん個人ではなく『Fクラス代表』に話がありますの。それでも異論はありますか？」

「……私を見ていられる範囲なら」

「さて翔子。それは俺がお前の監視内から出られないということじゃないか？」

「……何か問題、ある？」

「ないですわね」

「村野姉、お前はどっちの味方なんだ!？」

微妙に笑いながら、雄二と翔子の会話に入る。

「それじゃあ、坂本さんを借りて行きますわ」

「……あんまり、近づかないで」

「その程度は承知ですの。いきますわよ」

風子は雄二を少し離れた場所…鉄人と翔子が見える範囲内から話をした

「いきなりなんだったんだ？用事って…」

「ようやくここまでもって来れましたわ。…私^{わたし}が高名君の代わりと

「…いてて、翔子のヤロー本気でやりやがって…」
翔子が元の席に戻った後、少しだけいたそうな名残を残して雄二は再び風子との話へ切り返す。

「ともかく、他のクラスの協力は必要不可欠ですが…まずは「劉だな」そうですね。吉井さんと共に召喚大会の優勝コンビとして前線で動いていただければ…後押しされて参加する方も増える事でしょう…」

「悪いな、俺は…参加できないって言った方がいいのか？」

「君でしたら、すぐにでも参加すると言うと思いましたが…僕のカンも外れてしまいましたか」

side fuko

私は合宿の自由時間を使って、坂本さんと今後の事を話していました。

どうやって劉さんをこちらに引きずり込もうと想着っていましたか…その時間こえてきた声で、私は目を疑いました。

片方は劉さんだと分かりました…もう片方の声は…忘れるはずがありませんわ。

しかしその姿を見たときに違和感を感じせざるを得ませんでした…

少し、高名さんの声が高くなっていった事に。

これに気がついていけば、もう少し早くこの事件を解決に導く事も出来たかもしれない。

第45問：疑問〜こうかい〜（後書き）

舞「終わったわね」

蒼「正直、更新遅すぎて申し訳ないくらいだよっ！」

草子「でも、風ねえどうしたんだろ…？おなかすいたのかな？」

劉「んなわきやねえだろ。お前じゃないんだし…いつも更新してるときに感想ありがとな、全く一月感想書きにいけないで申し訳ない」

草子「そこらへんは作者のへたれスペックだからねー」

作者「否定できません。今回は原作に近い流れになりそうかな？そこから二日目の特攻（爆）」

舞「（爆）って何よ！失敗するような感じ満々じゃない！！すこしは成功って言う希望をもたせてあげないの！？」

作者「君たち執行委員が防衛してる時点で最低Cクラスの師団を連れてこないと無理だろうな。中と舞と桜花がAクラスレベルの上に、それぞれの苦手科目を補えるゆうががいる。保健体育だけで挑むなんて10巻のムツツリー二をつれてくる必要があるぞ？」

草子「いいもん！次回の更新もまってるね！今年もよろしく！」

中「……今年も、……打ち抜く」

ゆう「ことしも駄執行委員のメンバーを宜しく願います」

桜花「ちよっとゆう！？アンタの紹介酷くないの！？」

舞「相変わらずの突っ込み役ね…今年も宜しく、診察は安く見るわ

よ
「

操「んまー宜しく頼むわ。本編合流いつになるんだろつか…」

風子「…宜しくね。私の臣下の誘いだったら待ってるから」

高名「これだと僕も巻き込まれているのでしょうか？…これからも宜しく願いますね」

劉「今年は…あいつに会えるかな。宜しく頼むな！」

新年だから少しは羽目を外してみましようかb y高名

劉「いつも五帝を読んでくれてサンキューな。今回の物語はいつもと時系列が違って正月として過させてもらうぜ？それと会話中心になっちまうから、そういつたのが苦手な奴もバックしてくれよ。ここは本編と関係ないから問題ないしな…っとこれでいいのか、作者？」

蒼「おっけーおっけー。それでは始まります！」

それぞれの正月の過ごし方

く劉、中、操の場合く

劉「おらおらあ！そのガードがあいてるぞっ！！」

操「なんだと？ならこれならどうだ！」

劉「クソツ…カウンターかよ。だがなあっ！」

劉「くそっ…ストフリの力を舐めるなよおおおおお！！」
操「トランザム！」

劉「もう撃たせない…だれもきらせはしないんだ！！」
操「まさしく愛だっ！……！」

中「…そのなのとおり、狙い撃つ……！」

劉「中つ、援護頼む！」

操「おいっ、こっちのレッドフレーム倒されているだど…？ならばあっ！切り捨て…御免ッ！！！」

ガンムで熱い？戦いを繰り広げていた…

操「やっぱり高名のセラヴィーがいねえと動き回れないな」

劉「アイツがいたらこっちの勝ち目がねえよ」

中「……デユナメスとケルディム…これ以外は無理」

操「そうだな、…グラハム・エーカー、マスラオ改めスサノオ！」

劉「キラ・ヤマト、ストライクフリーダム！」

中「デユナメス、ロックオン・ストラトス」

三人「おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおっっ、勝負！！！！！」

（高名、？の場合）

高名自宅にて…

高名「…毎度迷惑をかけてすみません…部屋が片付け終わってないのにも関わらず呼んでしまうなんて…」

？「いいんですよ高名。ここは私の研究室でもあるんですから…早く終わらせて電気街に向かいますしょう？」

高名「そうですね…パソコンのパーツやゲームの福袋…考えただけでも胸が踊りますね。でも今は…」

？「どうかしましたか？」

高名「いつもありがとうございます。こうして二人でいられる時間くらい楽しく過しましょうね…アキ」

アキ「わかりました。それでは十分甘えさせてもらいますよ？本日のエスコートも宜しくお願いします」

高名「…わかりました／＼／＼それではゆっくりのんびりと片づけをしていきましょう。　　夜空に星が瞬くように、溶けたところは離れない」

アキ「例えこの手が離れても　ふたりがそれを忘れぬ限り……。

わかりました、わたしもゆっくり片付けますね」

これは、とある二人の今までにない嬉しさを帯びたお正月

片づけが終わり、福袋を買いに向かったが売り切れてしまっていたのはまた別の話……

（草子、風子の場合）

草子「風ねえ〜調子はどう?」

風子「問題ありませんわ。女王として『臣下の立場にたち行動するのは大事な事ですの。私がどのような方針を出したとしてもこういつた経験を生かすのは大事な事になりますわ』」

このときの服装は草子は黄色の振袖。風子は神社でのバイトのために巫女服である。ちなみにちゃんとはいている。

風子「…なんででしょうか?とても不快な言葉を聞いた気がしますわ」

草子「いいじゃんよー、それでいつ終わるの?」

風子「後1時間ですわ。もう少しゆっくりしてくださいましてよ」

草子「そうだね…へへっ。お母さん、私たちのことみてくれるかなー?」

風子「できればその話はしたくないんだけどね…そうね、きっと楽しんで海外で飛んでるんじゃないかしら?」

これは、普段のとある双子姉妹の会話…

〜舞の場合〜

舞「はあ…はあ…ありえない、正月までストーキングしてくるなん

て……今度本気で突き放そうかしら……うん、ごめんね？あけましておめでとう時音……私も学校とかで来れる日も少ないけどいれる限りはこっちにくるからね。だから……ちよつと頑張つて起きれるようにしておいてよ？大好きなハンバーグも作つてあげたいから……うぐっ……ぜったい、ぜったい。だよ。うっ、おきて……ま、まっつてね……なにもしてあげられなくて、ごめんね……」

妹と共に過した正月。それは彼女が一日中ともにいられた唯一の間であつた。

舞「……ごめんね？布団汚しちゃつたから、先生を呼んで替えてもらうから……また来るね。時音」

時音「……ま、いちゃ、……ん？」

これは、正月に起きたとある少女の奇跡であつた

おしまい

新年だから少しは羽目を外してみましようかb y高名(後書き)

ゆう「私の出番がなかったことに酷く納得がいきません」

桜花「そうよ！どうして私の分がなかったのよ！常識的にも礼儀正しい私が出てないのはおかしいと思うわ！」

作者「ゆうは変わらない一日を。桜花は海外の同系統グループへの挨拶周りでしたから書くのもどうかって…風子は毎年神社のアルバイトをしています。去年も少し書いていました…」

ゆう「たしかに桜花ちゃんはお金持ちのご令嬢ですが、それは私の出番を妨害　　」
「…久保君の写真で手を撃とうじゃないか」
「してもしかたないですね。承りました」

桜花「あっさり買収されてるわよゆう！たしかにあんなマフィアっぽい話を現実化するのも大変だけどさ！！」

作者「…ふうつ。それでは次回もお楽しみに　感想を下さった皆様方、ありがとうございます。その原動力でこれからも頑張っていきますね！」

桜花「勝手に締めるなっ！！！！」

ゲストキャラ：バカと雲雀と召喚獣より来島アキさん

G A U様、この場にてお礼を申し上げます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9112m/>

バカとテストと召喚獣 5帝の学園生活

2012年1月2日10時49分発行